九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

平成２４年度

全 学 教 育 科 目
履修の手引き

－日程，授業概要等－

基 幹 教 育 院

なぜ専門分野以外の科目を履修しなければならないのか

「専門分野を決めて大学に入学したのに，専門分野とは関係がないような科目まで履修させられるのは納得が行かない。」あるいは，「大学では好きな科目だけを勉強すればよいと思っていたのに，嫌いな分野の科目まで勉強させられるのは不満だ。」といった意見がよく聞かれます。

しかし，社会は，皆さんが好きな科目だけを勉強して卒業することを期待していません。

本学は「九州大学教育憲章」で，様々な分野において指導的な役割を果たしうる人間性，社会性，国際性，専門性に秀でた人材を育成することを社会に約束しています。さらに，この約束を実現するための具体的方策として卒業要件及びカリキュラムを定め，そのもとで教育を実施しています。

本学では，各学部の卒業要件において専門分野以外の一定の科目の学習を義務付けています。これは，**専門分野を学習しただけでは，人間性，社会性，国際性，専門性に秀でた能力を備えるべき本学の卒業者とみなすわけにはいかない**ということを表しており，同時に，様々な分野において指導的な役割を果たしうる人材にとって，専門分野以外の教養教育科目等の学習が必要であるという本学の姿勢を示しています。

専門分野についてのしっかりとした深い理解とともに，広い分野についての関心と理解がなければ，適確な判断ができず，指導的な役割を果たすことは困難なのです。学問はますます相互の連関を広げていますし，社会ではそうした連関のもとで用いられるようになっています。文系，理系という区別も困難になっていますし，むしろそうしたこだわりを持たないことが望ましくなっています。

もちろん，指定された科目だけを学習するといった受身の態度は好ましくありません。そのため，学生の主体的な学習を促進するよう一定の枠の中から科目を選択して履修するシステムも設けられていますし，また，十分な自習を含めた集中的な科目学習を期待して，学期当たりの履修量を制限するシステムも設けられています。

これからの皆さんには，必要単位を揃えるためだけの学習ではなく，学習効果を自ら確認しながら，充実した科目履修をすることが強く期待されています。

― 目　次 ―

全学教育 学年暦 …… 1
全学教育科目の履修登録・試験・成績スケジュール …… 2
全学教育 授業日程 …… 3

Ⅰ．全学教育の授業概要等

1．教養教育科目

1-a．共通コア科目 …… 5
1-b．コアセミナー …… 16
文系コア科目，理系コア科目，少人数セミナー，総合科目 目次 …… 22
1-c．文系コア科目 …… 27
1-d．理系コア科目 …… 41
1-e．少人数セミナー …… 55
1-f．総合科目 …… 60
1-g．言語文化科目
言語文化基礎科目
英　語 …… 66
ドイツ語 …… 69
フランス語 …… 71
中 国 語 …… 73
ロシア語 …… 75
韓 国 語 …… 77
スペイン語 …… 79
日 本 語 …… 81
言語文化自由選択科目 …… 83
言語文化古典語科目 …… 90
外国語検定試験による単位認定について … 91
放送大学授業科目による初修外国語の再履修について …… 94
1-h．健康・スポーツ科学科目…… 95

2．文系基礎科目 …… 104

3．理系基礎科目
共通基礎科目 …… 107
個別基礎科目 …… 114

4．情報処理科目 …… 118

Ⅱ．学習をより深めるために（各学習プログラム等の紹介） ……120

チャレンジ２１
西部地区五大学連携開講授業科目
夏季集中講義 in 早稲田大学
JTW，ATW
九州大学/ﾛﾊﾞｰﾄ･ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ･ｾﾝﾀｰ（QREC）提供科目
EU 研究ディプロマプログラム
ネットアカデミー２
交換留学
日韓海峡圏カレッジ

Ⅲ．履修についてのQ＆A ……123

伊都地区センターゾーン
教室等配置図 …… 巻末

『全学教育科目履修の手引き』に掲載の授業概要とあわせて，
「シラバス」で各授業の具体的な情報を確認し,何をどのように学ぶかを理解するようにしてください。

シラバス　http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/905/

平成２４年度 全学教育 学年暦

行　　事	期　　日	備　　考
前期開始	４月１日(日)	
春季休業	４月１日(日)～４月８日(日)	九州大学学部通則第６条第１項の規定による休業日
学生定期健康診断	４月２日(月)，４月３日(火)，４月６日(金)	１年生(全員)の実施日
	４月10日(火)，４月11日(水) ４月13日(金)，４月17日(火)，４月19日(木)	２年生(全員)の実施日
入学式	４月４日(水)	
新入生オリエンテーション	４月４日(水)，４月５日(木)，４月７日(土)	
前期授業開始	４月９日(月)	
本学記念日	５月11日(金)	
創立百周年記念関連行事	５月12日(土)～５月14日(月)	
創立百周年記念休業日	５月14日(月)	九州大学学部通則第６条第２項の規定による休業日
前期授業終了	７月27日(金)	
前期定期試験	７月30日(月)～８月３日(金)	
前期定期試験に係る追試験等	８月６日(月)～８月10日(金)	
夏季休業	８月11日(土)～９月30日(日)	九州大学学部通則第６条第１項の規定による休業日
前期終了	９月30日(日)	
後期開始	10月１日(月)	
後期授業開始	10月１日(月)	
体育祭	10月６日(土)	
九大祭	11月23日(金)，11月26日(月)	九州大学学部通則第６条第２項の規定による休業日
冬季休業	12月26日(水)～１月６日(日)	九州大学学部通則第６条第１項の規定による休業日
冬季休業後の授業開始	１月７日(月)	
大学入試センター試験	１月19日(土)，20日(日)	
後期授業終了	２月１日(金)	
後期定期試験	２月４日(月)～２月８日(金)	
後期定期試験に係る追試験等	２月12日(火)～２月18日(月)	
一般入試（前期日程）	２月25日(月)，26日(火)	
一般入試（後期日程）	３月12日(火)	
学位記授与式	３月26日(火)	
後期終了	３月31日(日)	

（注）　九大祭については，休業日を表示したもので，期間を示すものではない。

全学教育科目の履修登録・試験・成績スケジュール（予定）

【学期開始前】	後期開始前　9月下旬 前期開始前　4月上旬	履修計画	各自で修得単位を確認。 掲示で履修上の注意事項を確認。 時間割で開講科目の確認。 シラバスで授業内容を理解。
【第1週目】	前期　4月9日(月)～4月13日(金) 後期　10月1日(月)～10月5日(金)	受講許可を受ける	授業担当教員に受講許可を受ける。教員の指示により「聴講届」を提出する。
【第2週目】	前期　4月16日(月)～4月20日(金) 後期　10月9日(火)～10月15日(月)	履修登録	学生用Ｗｅｂシステムで履修登録（期間厳守）。
		期間外の履修登録不可。	
【第4週目】	前期　5月7日(月)～5月11日(金) 後期　10月22日(月)～10月26日(金)	履修確認・修正	学生用Ｗｅｂシステムで履修登録内容を確認し，変更があれば学生用Ｗｅｂシステムで修正。
		期間外の履修変更不可。	
【第6週目】	前期　5月21日(月)～5月25日(金) 後期　11月5日(月)～11月9日(金)	最終確認	履修登録内容を確認し，変更があれば窓口に申請。
		履修登録確定。これ以後の変更は原則不可。	
【第7週目】	前期　5月28日(月)～6月1日(金) 後期　11月12日(月)～11月16日(金)	履修中止	履修中止する科目（選択科目又は選択必修科目に限る）があれば，窓口に申請。
		教場試験	定期試験が行われず授業中の告知により実施される場合がある。 試験日・実施場所を正しく把握。
	前期　7月下旬 後期　1月下旬	定期試験時間割配付	配布時期・配付場所は掲示で案内。 試験教室は各試験日の３日前に掲示。
【第16週目】	前期　7月30日(月)～8月3日(金) 後期　2月4日(月)～2月8日(金)	定期試験	掲示で受験上の注意事項，実施教室を確認して受験。
【第17週目】	前期　8月6日(月)～8月10日(金) 後期　2月12日(火)～2月18日(月)	追試験・再調査	定期試験の追試験は，病気や忌引により受験できなかった場合に申請により受験可能。 学習到達度再調査は教員の判断により必要に応じて実施。その対象者等は掲示で通知。
	前期　8月下旬～9月上旬 後期　2月下旬～3月上旬	成績確認	随時，学生用Ｗｅｂシステムで成績確認。 成績評価の問い合わせは，期間内のみ。

※１　日程は変更される場合がありますので，公用掲示板の掲示を必ず確認してください。
※２　各事項の詳細は，『全学教育科目履修要項』と公用掲示板の掲示を参照してください。
※３　専攻教育科目の履修登録・試験等については，各学部（学科）の指示に従ってください。

平成２４年度【前期】　全学教育　授業日程

週	月	火	水	木	金	土	日	備　　考
								4. 1(日)～4.8(日)　春季休業 4. 2(月)～4.19(木)　健康診断 〔うち１年生該当日 4. 2(月), 4. 3(火), 4. 6(金) ２年生該当日 4.10(火), 4.11(水), 4.13(金) 4.17(火), 4.19(木)〕
							4月 1	
	2	3	入学式 4	5	6	7	8	4. 4(水) 入学式 4. 4(水), 5(木), 7(土) 新入生オリエンテーション 4. 6(金) 大学院入学式 4. 7(土) 既修得単位認定試験
1	授業開始 9	10	11	12	13	14	15	**4.9(月) 前期授業開始**
2	16	17	18	19	20	21	22	
3	23	24	25	26	27	28	29	
4	30	5月 月曜分 1	2	3	4	5	6	**5.1(火)は月曜日の授業を行う**
5	7	8	9	10	11	12	13	5.11(金) 本学記念日（授業は行う） 5.12(土)～5.14（月）創立百周年記念関連行事
6	14	15	16	17	18	19	20	**5.14(月) 創立百周年記念休業日**
7	21	22	23	24	25	26	27	
8	28	29	30	31	6月 1	2	3	
9	4	5	6	7	8	9	10	
10	11	12	13	14	15	16	17	
11	18	19	20	21	22	23	24	
12	25	26	27	28	29	30	7月 1	
13	2	3	4	5	6	7	8	
14	9	10	11	12	13	14	15	
15	16	17	月曜分 18	19	20	21	22	**7.18(水)は月曜日の授業を行う**
16	23	24	25	26	27	28	29	7. 27(金) 前期授業終了
17	30	31	8月 1	2	3	4	5	7. 30(月)～8. 3(金) 前期定期試験
18	6	7	8	9	10	11	12	8. 6(月)～8.10(金) 追試験・再調査期間
計	17	17	17	17	17			

※専攻教育科目の授業日程については，各学部（学科）の指示に従ってください。

平成２４年度【後期】　全学教育　授業日程

週	月	火	水	木	金	土	日	備　　考
1	10月 授業開始 1	2	3	4	5	6	7	10. 1(月) 後期授業開始 10. 6(土) 体育祭
2	8	9	１０	１１	１２	１３	１４	
3	１５	１６	１７	１８	１９	２０	２１	
4	２２	２３	２４	２５	２６	２７	２８	
5	２９	３０	３１	11月 1	2	3	4	
6	5	6	7	8	9	１０	１１	
7	１２	１３	１４	１５	１６	１７	１８	
8	１９	２０	２１	２２	２３	２４	２５	11.23(金)～11.26(月) 九大祭 11.26(月) 九大祭のため休業
9	２６	２７	月曜分 ２８	２９	３０	12月 1	2	**11.28(水)は月曜日の授業を行う**
１０	3	4	5	6	7	8	9	
１１	１０	１１	１２	１３	１４	１５	１６	
１２	１７	１８	１９	２０	２１	２２	２３	
１３	２４	25	２６	２７	２８	２９	３０	12.26(水)～1. 6(日) 冬季休業 **12.25(火) 授業は行わない**
１４	３１	1月 1	2	3	4	5	6	
１５	7	8	9	１０	１１	１２	１３	
１６	１４	月曜分 １５	１６	金曜分 １７	１８	１９	２０	**1.15(火)は月曜日の授業を行う** **1.17(木)は金曜日の授業を行う**
１７	２１	２２	２３	２４	２５	２６	２７	**1.18(金) センター試験準備 授業は行わない** 1.19(土),20(日) センター試験
１８	２８	２９	３０	３１	2月 1	2	3	2. 1(金) 後期授業終了
１９	4	5	6	7	8	9	１０	2. 4(月)～2.8(金) 後期定期試験
２０	１１	１２	１３	１４	１５	１６	１７	2.12(火)～2.18(月) 追試験・再調査期間
２１	１８							
計	１７	１７	１７	１７	１７			

定期試験期間　　追試験・再調査期間

他の曜日の授業を振り替えて行う日

土曜・日曜・祝日及び本学が定める休業日　　その他，休講とする日

※専攻教育科目の授業日程については，各学部（学科）の指示に従ってください。

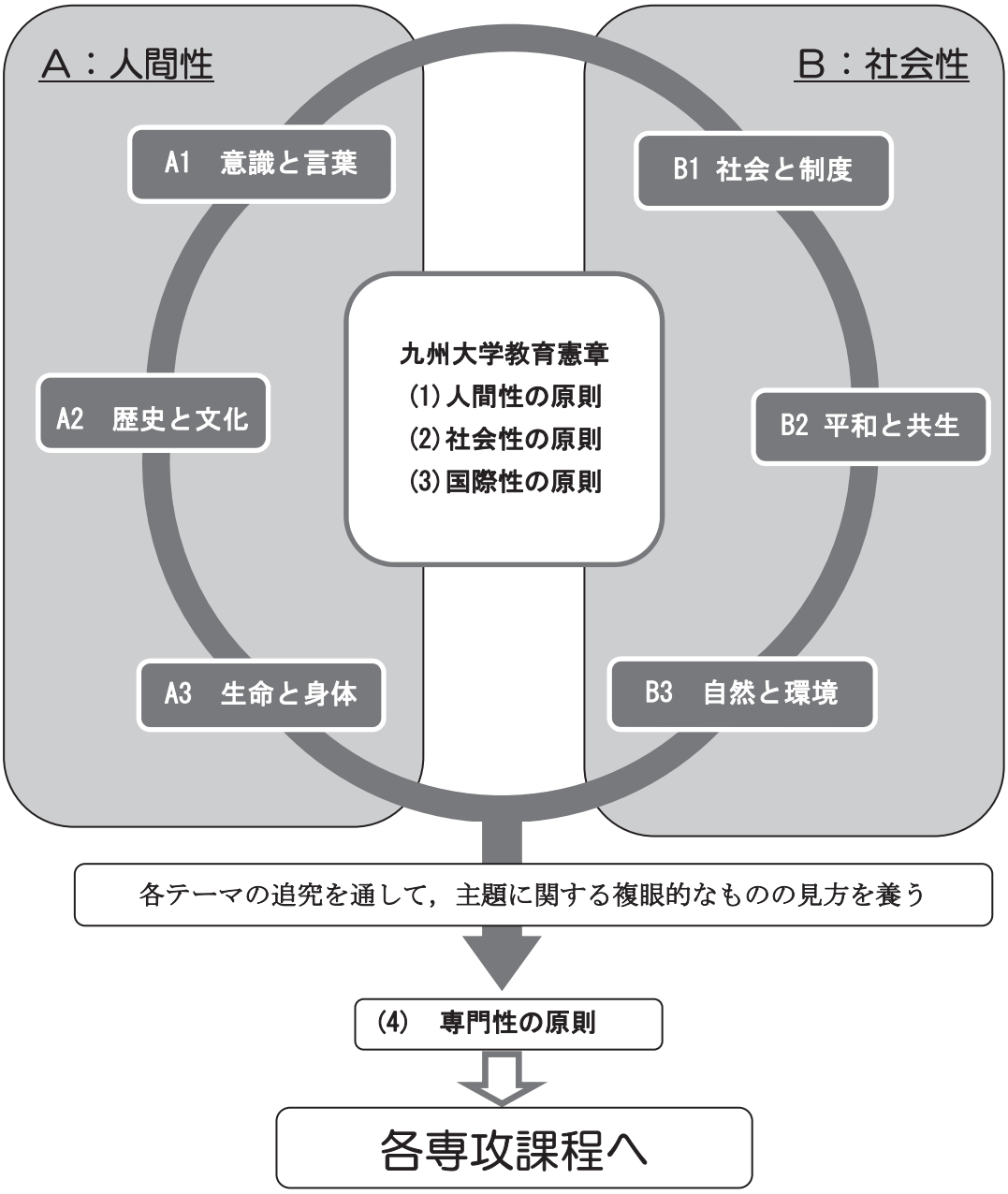
Ⅰ．全学教育の授業概要等

1．教養教育科目

1-a．共通コア科目

共通コア科目は，九州大学が教育憲章に掲げる「人間性の原則」(The Principle of Humanity)，「社会性の原則」(The Principle of Social Responsibility)ならびに「国際性の原則」(The Principle of Global Citizenship)に基づいて，**九州大学の全学生に必須と考えられる教養の中核（コア）を初年時の学生に教授する**ものです。**その目的は，文化や社会，自然の中にある人間存在の成り立ちを基本から考察し，人間の尊厳や自由の価値についての理解を深め，現代の社会的・国際的課題について考えることを通じて，爾後の市民的生活の基盤となる教養を養うこと**です。

共通コア科目は，A：**人間性**(Humanity)，B：**社会性**(Social and Global Responsibility)の二科目から成ります。それぞれの主題について三つのテーマ群を設定し，それぞれのテーマの追究を通して，主題に関する複眼的なものの見方を養います。



共通コア科目履修方法等

（1）履修登録の方法

『人間性』,『社会性』ともに指定されたグループで履修することとなります。

なお，指定グループ及び講義室は，各学期の始まる前に公用掲示板（センター１号館横）に掲示しますので， 各自指定グループ等を確認し，授業時間割と照合のうえ履修登録を行ってください。

（2）授業の進め方

【『人間性』(受講クラス:S1－6～14の1グループ)を例とした場合】

各グループ３名の教員がテーマ（「意識と言葉」，「歴史と文化」，「生命と身体」）ごとに各４回ずつ計１２回の授業を行います。ただし，第１・第３タームの最終週はレポート作成期間とします。

授業週	第１週	第２～第６週 （第１ターム）	第７～第１０週 （第２ターム）	第１１～第１５週 （第３ターム）
授業内容等	履修ガイダンス	意識と言葉	歴史と文化	生命と身体
担当教員	新島教員	新島教員	吉田教員	丸山教員

（3）評価方法

ターム毎に，出席とレポートで評価します。ただし欠席１回あたり１０点減点とします。

（4）単位認定

① ３テーマ全てに合格してはじめて科目の単位が認定されます。不合格のテーマが一つでもあった場合は，当該科目の単位は認定されません。

② 初めて履修して不合格となった場合は，不合格となったテーマのみ次学期（初履修の次の学期）に再履修し，そこで合格を得て，３つのテーマの合格が揃ってはじめて科目の単位が認定されます。

③ ②の再履修においても不合格となった場合や②の再履修をしなかった場合は，最初に合格していたテーマの合格は取り消されます。次々学期以降は一つの学期で３テーマ全てを再履修し,合格しなければなりません。

『人間性』を例とした場合

① 「意識と言葉」，「歴史と文化」，「生命と身体」の３つのテーマ全てに合格しなければなりません。

受講学期	意識と言葉	歴史と文化	生命と身体		「人間性」の合否判定
当該学期	合　格	合　格	合　格	→	合　格

② 当該学期（初めて履修した学期）に「意識と言葉」と「歴史と文化」が不合格になった場合は，その次の学期に「意識と言葉」と「歴史と文化」を履修し，２テーマとも合格すれば『人間性』の単位が与えられます。

受講学期	意識と言葉	歴史と文化	生命と身体		「人間性」の合否判定
当該学期	**不合格**	**不合格**	合　格	→	**不合格**
↓					
次 学 期	合　格	合　格		→	合　格

③ 当該学期（初めて履修した学期）に「意識と言葉」が不合格で，次学期も不合格の場合や再履修しなかった場合，次々学期以降に「意識と言葉」，「歴史と文化」，「生命と身体」の全てのテーマを一つの学期で再履修し，全てに合格しなければなりません。

受講学期	意識と言葉	歴史と文化	生命と身体		「人間性」の合否判定
当該学期	**不合格**	合　格	合　格	→	**不合格**
↓					
次 学 期	**不合格**			→	**不合格**
↓					
次々学期以降	一つの学期で３テーマ全てを再履修し３テーマ全て合格			→	合　格
	一つの学期で３テーマ全てを再履修し１テーマでも不合格			→	**不合格**

※ 共通コア科目の再履修は指定されたグループで受講しなければなりません。そのグループ割は，学期開始時に掲示により案内します。

『 人間性 』　各グループのテーマ実施順と担当教員

【 前 期 】

		第２～第6週 （第１ターム）	第７～第１０週 （第２ターム）	第１１～第15週 （第３ターム）	授業概要 掲載ﾍﾟｰｼﾞ
受講クラス	ﾃｰﾏ／ｸﾞﾙｰﾌﾟ	意識と言葉	歴史と文化	生命と身体	
Ｓ１－　６～１４	１グループ	新島　教員	吉田　教員	丸山　教員	９
	２グループ	松本　教員	溝口　教員	高柳　教員	１０
	３グループ	根井　教員	中橋　教員	杉山　教員	１０
受講クラス	ﾃｰﾏ／ｸﾞﾙｰﾌﾟ	歴史と文化	生命と身体	意識と言葉	
Ｓ１－１５～２３	１グループ	吉田　教員	丸山　教員	新島　教員	９
	２グループ	溝口　教員	高柳　教員	松本　教員	１０
	３グループ	中橋　教員	杉山　教員	根井　教員	１０
受講クラス	ﾃｰﾏ／ｸﾞﾙｰﾌﾟ	生命と身体	意識と言葉	歴史と文化	
Ｓ１－２４～３３	１グループ	丸山　教員	新島　教員	吉田　教員	９
	２グループ	高柳　教員	松本　教員	溝口　教員	１０
	３グループ	杉山　教員	根井　教員	中橋　教員	１０

【 後 期 】

		第２～第６週 （第１ターム）	第７～第１０週 （第２ターム）	第11～第15週 （第３ターム）	授業概要 掲載ﾍﾟｰｼﾞ
受講クラス	ﾃｰﾏ／ｸﾞﾙｰﾌﾟ	意識と言葉	歴史と文化	生命と身体	
Ｌ１－　１～　８	１グループ	圓谷　教員	溝口　教員	山本　教員	１１
	２グループ	鏑木　教員	ｵｰｶﾞｽﾃｨﾝ教員	高柳　教員	１１
	３グループ	波潟　教員	中野　教員	丸山　教員	１１
受講クラス	ﾃｰﾏ／ｸﾞﾙｰﾌﾟ	歴史と文化	生命と身体	意識と言葉	
Ｌ１－　９～１３ Ｓ１－　３～　５	１グループ	溝口　教員	山本　教員	圓谷　教員	１１
	２グループ	ｵｰｶﾞｽﾃｨﾝ教員	高柳　教員	鏑木　教員	１１
	３グループ	中野　教員	丸山　教員	波潟　教員	１１
受講クラス	ﾃｰﾏ／ｸﾞﾙｰﾌﾟ	生命と身体	意識と言葉	歴史と文化	
Ｓ１－　１～　２ Ｓ１－３４～３７ ２１世紀プログラム	１グループ	山本　教員	圓谷　教員	溝口　教員	１１
	２グループ	高柳　教員	鏑木　教員	ｵｰｶﾞｽﾃｨﾝ教員	１１
	３グループ	丸山　教員	波潟　教員	中野　教員	１１

『 社会性 』　各グループのテーマ実施順と担当教員

【 前 期 】

		第２～第６週（第１ターム）	第７～第１０週（第２ターム）	第１１～第15週（第３ターム）	授業概要掲載ﾍﾟｰｼﾞ
受講クラス	ｸﾞﾙｰﾌﾟ／ﾃｰﾏ	社会と制度	平和と共生	自然と環境	
Ｓ１－　６～１４	１グループ	古谷　教員	施　　教員	横山　教員	１２
	２グループ	關　　教員	三隅　教員	石田　教員	１３
	３グループ	小湊　教員	松井　教員	阿部(芳)教員	１３
受講クラス	ｸﾞﾙｰﾌﾟ／ﾃｰﾏ	平和と共生	自然と環境	社会と制度	
Ｓ１－１５～２３	１グループ	施　　教員	横山　教員	古谷　教員	１２
	２グループ	三隅　教員	石田　教員	關　　教員	１３
	３グループ	松井　教員	阿部(芳)教員	小湊　教員	１３
受講クラス	ｸﾞﾙｰﾌﾟ／ﾃｰﾏ	自然と環境	社会と制度	平和と共生	
Ｓ１－２４～３３	１グループ	横山　教員	古谷　教員	施　　教員	１２
	２グループ	石田　教員	關　　教員	三隅　教員	１３
	３グループ	阿部(芳)教員	小湊　教員	松井　教員	１３

【 後 期 】

		第２～第６週（第１ターム）	第７～第１０週（第２ターム）	第１１～第１５週（第３ターム）	授業概要掲載ﾍﾟｰｼﾞ
受講クラス	ｸﾞﾙｰﾌﾟ／ﾃｰﾏ	社会と制度	平和と共生	自然と環境	
Ｌ１－　１～　８	１グループ	佐藤　教員	施　　教員	石田　教員	１４
	２グループ	阿部(康)教員	松井　教員	吉村　教員	１４
	３グループ	小津　教員	直野　教員	阿部(芳)教員	１５
受講クラス	ｸﾞﾙｰﾌﾟ／ﾃｰﾏ	平和と共生	自然と環境	社会と制度	
Ｌ１－　９～１３ Ｓ１－　３～　５	１グループ	施　　教員	石田　教員	佐藤　教員	１４
	２グループ	松井　教員	吉村　教員	阿部(康)教員	１４
	３グループ	直野　教員	阿部(芳)教員	小津　教員	１５
受講クラス	ｸﾞﾙｰﾌﾟ／ﾃｰﾏ	自然と環境	社会と制度	平和と共生	
Ｓ１－　１～　２ Ｓ１－３４～３７ ２１世紀プログラム	１グループ	石田　教員	佐藤　教員	施　　教員	１４
	２グループ	吉村　教員	阿部(康)教員	松井　教員	１４
	３グループ	阿部(芳)教員	小津　教員	直野　教員	１５

Ａ：人　　間　　性【２単位】

教育憲章の三原則において前提とされている人間的価値への理解を深めるため，人間とは一体何なのかという基本問題を　１．意識と言葉，２．歴史と文化，３．生命と身体　の三つの視点から考察します。１では，人間世界の基本的構成要素である意識や言葉に関する考察を通して，人格的存在としての人間についての理解を深めることを目指します。２では，人間の共通世界を構成する歴史と文化に関する考察を通して，歴史的・文化的存在としての人間についての理解を深めることを目指します。３では，身体的存在としての人間に関する最近の研究成果を概観し，人間理解をめぐる今日の問題状況を考察します。

◇A1：意識と言葉

人間が人間を理解するということは，何をどのように理解することでしょうか。「意識と言葉」では，人間が人間を理解するための最も基本的な手段である言葉と意識について，「思想」，「心」，「言語」などの観点から考察することで，人間の世界を成り立たせる文化や人格的存在としての人間についての理解を深めることを目指します。

◇A2：歴史と文化

人間は社会的動物です。このため，生物としての普遍的諸性質を除くと，「人間性」は本来的に多様なものです。「歴史と文化」では，人間性を多様なものとするメカニズムについて時間的変異＝「歴史」と空間的変異＝「文化」の観点から説明します。さらに，そのようなメカニズムに関する認識を，現代社会に生きてゆく上でどのように生かせるかについても考えてみます。

◇A3：生命と身体

近年の科学の発展は，生命のメカニズムを次々と解明していく一方で，人間とは何かについての反省を迫り，科学技術の意味についても新たな問いを投げかけています。本講義では，生命や身体に関する科学的な見方とそれにまつわる実践的問題を担当教員の専門性に即して解説し，人間存在や人間性をめぐる諸問題についてより深い理解を目指します。

グループ別授業概要

【 前 期 】　**授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。**

１グループ

テーマ	担 当 教 員	授　業　概　要	備　考 （参考文献）
意識と言葉	新 島 龍 美	人間が「理性的動物」として特徴付けられるとき，その「理性的」の原義は「ロゴスを持つ」ということであった。そして「ロゴス」とは，基本的には，「ことば・言語」を意味した。即ち，人間は，「ロゴス・ことばを持つ」ものとして，他のものから自覚的に区別されるものであった。それでは，「ことばを持つ」とはいかなることであるのか。本講義は，「ことばを持っている」とはどのようなことであり，「意識を持っている」とはどのようなことであるのか，そして両者の間の関係はどのようなものであるのかといった問題について，出来る限り基礎的な考察を試みるものである。受講者は上記の主題について自分で思考する積極的な姿勢が求められる。	※＜受講上の注意＞ 1. 講義開始時刻前に着席，携帯電源OFF 2. 私語・途中退席厳禁；出席取消／履修登録抹消の場合あり 3. 配付資料は毎回持参；再配布なし。 参考文献は時間中に指示する。
歴史と文化	吉 田 昌 彦	本講義においては，歴史と文化との関係について概観したのちに，グローバル化の進展のなか，今日，自明視されなくなった「民族文化」「国民文化」の問題について取り上げることとする。その際，Nation（国家・民族）・Nationalism の形成に関する政治学，社会学，歴史学の諸説を紹介するともに日本や東アジアにおける Nation（国家・民族）・Nationalism について具体的に考えていくこととする。	参考文献は必要に応じて講義中に紹介する。
生命と身体	丸 山 マ サ 美	医療は，人間的側面，特に人間の価値の問題が深く関わる。医療は，『価値』を学ぶ事を通じた人間的医療の実践である事から，そのための人材育成には，臨床能力（Clinical competence）すなわち，理性能力と感性能力が必要となる。本講義においては，理性能力を向上するためのMedical Humanities 教育：医療倫理学の視点から，“医療の中の人間性(Humanism in Medicine)”“人間的医療（Humanized Medicine)”の価値について考究する事を目的とする。 参考文献：1. 丸山マサ美「医療 倫理学(第 2 版)2009 年」（中央法規） 2. Tom L.Beauchamp & James F.Childress,立木教夫・足立智孝監訳,「Principle of Biomedical Ethics ,2009」（麗澤 大学出版会） 3.TOM L.BEACHAMP & JAMES F.“CHILDRESS,PRINCIPLES OF BIOMEDICAL ETHICS FIFTH EDITION,2001”(Oxford University Press)	

2グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
意識と言葉	松本常彦	読むという行為一般の特性について検討を加え，読みの次元の問題を踏まえた上で，「余白」を読むということの可能性について考える。具体的には，文学テクストにおける「余白」の機能について実作に即して考察する。	外山滋比古『外山滋比古著作集』（みすず書房）
歴史と文化	溝口孝司	今を生きるということと，歴史との関わりについて，様々な歴史の「描き方」の学びを通じて考える。人間の共通世界を構成する歴史と文化に関する考察を通して，歴史的・文化的存在としての人間について考え，ものの見方や考え方を学ぶ。	
生命と身体	高柳茂美	近代科学の発達により，現代生活は著しく便利になった。しかし，生活習慣病やストレス疾患が増加し，健康に関わる様々な問題が取りざたされるようになっている。本講義では，現代における健康の問題とそれらを捉えるさまざまな視点について講義する。具体的には，まず，近代科学の発達とともに，ヒトは何を得て何を失ってきたか，また，「健康」という概念をどのように捉えていくのか，さらには心と身体の関係性について講義していく。	

3グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
意識と言葉	根井豊	近代の始まりとともに，自然科学が展開し，政治形態も変化し，人間の意識のあり方も変容してきた。この講義では，近代的な意識のあり方とそれを基盤とした近代的な知識の構築の仕方を，代表的な哲学者の考え方を紹介しながら進めていく。主な内容は次の３点である。（1）デカルトの方法的懐疑と合理主義。（2）ヒュームの経験主義と因果律批判。（3）カントのア・プリオリな総合判断。	講義のなかで言及される書物を，講義を聞いて自分で読む力をつけてほしい。
歴史と文化	中橋孝博	我々がここに生きているのは，もちろん先祖がいたからです。全ての人は地球の生命の起源にまで至る「命」の連鎖の果てに，今，ここに生きています。日本人の起源論や人種差別などに関する議論の歴史を通じて，自分自身の，ひいては自分を取り巻く人々の由来，歴史について考えてみる。	
生命と身体	杉山佳生	人間が生きていることの意味，人間の唯一の出力器官とも言われている「身体」の果たす役割，人間を含む動物の本質である「動く」ということの意義などについて，人間の身体活動・運動行動を総合的に扱う科学である行動科学，認知科学，運動科学等における理論や事例を取り上げながら，学際的・多角的に論じ，人間存在や人間性に対する理解を深めます。	

【 後 期 】　**授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。**

1グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
意識と言葉	圓谷裕二	西洋近代哲学はフランスの哲学者デカルトから始まりますが，彼は根本原理を「意識」に見定めました。自然事象，社会事象，人間の感情や意志など，あらゆる対象は，それが人間と関わるものである限り，それら対象を「意識」することなしにはあり得ない，とデカルトは考えました。しかしながら，意識の外部とか，自己意識以外の他人の意識などの難問に近代哲学は直面し，現代哲学は意識のみならず，世界の問題や他者の問題などをも視野に収めるために「言語論的転回」を遂げました。意識と言葉との関係は，近代と現代の関係でもあります。	
歴史と文化	溝口孝司	今を生きるということと，歴史との関わりについて，様々な歴史の「描き方」の学びを通じて考える。人間の共通世界を構成する歴史と文化に関する考察を通して，歴史的・文化的存在としての人間について考え，ものの見方や考え方を学ぶ。	
生命と身体	山本教人	「生命科学」,「医学」の著しい発展に支えられ，我々はこれまで経験したことのない「健康」な時代をいま生きています。しかしながら，寿命の伸長や心身の機能に不全がないことがイコール「幸せな生活」を必ずしも意味しないことは，メディアで報じられている種々の社会問題などをみても明らかです。このような認識をふまえ本講義では，「スポーツと健康」の関係を「生きがい」や「生活の質」の観点からとらえ直し，現代社会におけるスポーツの意味についてより深く理解することを目指します。	

2グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
意識と言葉	鏑木政彦	私たちはどのような世界の中を生きているのでしょうか。ここで言う世界とは，アメリカや中国，国連やＩＭＦ，グローバル企業や国際的な NGO などが活動する舞台としての「世界」ではなく，私たちが経験し生きている世界，喜んだり，悲しんだり，恐怖したり，希望を抱いたりする「世界」のことです。本講義は，後者の経験の「世界」がどのような構造で成り立っているのかを，シンボルという観点から考えていきます。この考察を通して，私たちの意識の成り立ちや言葉の働きをより深く理解し，人間に対する理解を深めることを目指します。	
歴史と文化	オーガスティン, M.	この講義はグローバリゼーションの歴史を探求するものである。グローバル化と呼ばれる現象は，大航海時代から深化した世界規模の経済的，社会的変容にとどまらず，人や物の流れに伴う文化的変容をもたらせている。そのため，新たな学問領域であるグローバル・ヒストリーの観点から人間性について考える。	
生命と身体	高柳茂美	近代科学の発達により，現代生活は著しく便利になった。しかし，生活習慣病やストレス疾患が増加し，健康に関わる様々な問題が取りざたされるようになっている。本講義では，現代における健康の問題とそれらを捉えるさまざまな視点について講義する。具体的には，まず，近代科学の発達とともに，ヒトは何を得て何を失ってきたか，また，「健康」という概念をどのように捉えていくのか，さらには心と身体の関係性について講義していく。	

3グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
意識と言葉	波潟　剛	読むという行為をさまざまな次元（主としては文学作品）から考え，わたしたちは日ごろ言葉をどのように読んでいるのかについて，あらためて考える機会としたい。	
歴史と文化	中野　等	人間性の一環として，歴史と文化というテーマに関して授業をすすめる。具体的には人間が「歴史」を認識することにどういう意味があるのか？について考える。－＋その際，たとえば西欧と東アジアなど背景となる文化の違いがそれぞれの歴史認識にどういった差異をもたらすのか，歴史叙述の基礎となる史料とはどういう性格のものなのか，等についてふれていきたい。	
生命と身体	丸山マサ美	医療は，人間的側面，特に人間の価値の問題が深く関わる。医療は，『価値』を学ぶ事を通じた人間的医療の実践である事から，そのための人材育成には，臨床能力（Clinical competence）すなわち，理性能力と感性能力が必要となる。本講義においては，理性能力を向上するための Medical Humanities 教育：医療倫理学の視点から，“医療の中の人間性(Humanism in Medicine)”“人間的医療（Humanized Medicine）”の価値について考究する事を目的とする。 参考文献：1．丸山マサ美「医療倫理学(第２版)2009年」（中央法規） 2. Tom L.Beauchamp & James F.Childress,立木教夫・足立智孝監訳,「Principle of Biomedical Ethics ,2009」（麗澤大学出版会） 3.TOM L.BEACHAMP & JAMES F.“CHILDRESS,PRINCIPLES OF BIOMEDICAL ETHICS FIFTH EDITION,2001”(Oxford University Press)	

B：社　　会　　性【2単位】

教育憲章の三原則に共通する人間の社会性への理解を深めるため，社会と人間との関わりを　1．社会と制度，2．平和と共生，3．自然と環境　の三つの視点から考察します。1では，人間が社会を作り，社会が人間を作るという人間と社会の関係性を，現代人が現に今生きている近代的な諸制度にそくして考察します。2では，現在，人間的諸価値が維持されるために喫緊の課題となっている平和と共生というテーマに関して，具体的な問題状況を概観し，解決の方向性を考察します。3では，人間の諸活動と環境破壊の関係について，具体的事例に基づいて科学的に精確に理解し，問題解決の方向性を展望します。

◇B１：社会と制度

人間が社会を作り，社会が人間を作ります。家族，企業，市場といった諸制度，さらに国家といった社会の在りようや集団は，一人一人の人間とその相互関係から構築されています。しかしその中に生きる人間もまた集団の中において自己を構築しています。このような人間と社会の相互規定性・相互構築性を社会と制度という観点から追究し，その原理や具体的作用について説明をします。

◇B２：平和と共生

信条や文化を異にする個人や集団が，争いなく豊かに共存し，相互に学び合える世界を作り上げるには，いかなる理念や制度が必要でしょうか。本講義は，「平和と共生」の問いに対してこれまで提示されてきた代表的解答のいくつかを説明し，現代世界のただ中でこの問いを自分の頭で考えていくことができるようになることを目指します。

◇B３：自然と環境

現代の文明社会が直面している環境問題の具体例を取り上げ，環境問題がなぜ引き起こされることになったのか，現代の自然科学はそれをどのように定量的に理解したのか，その理解に基づいてどのような未来が予測され，それに対する対策はどのようになされているのかについて説明します。それによって環境問題について事実に基づいた展望を得ることを目指します。

グループ別授業概要

【 前 期 】　**授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。**

1グループ

テーマ	担当教員	授　業　概　要	備　考（参考文献）
社会と制度	古谷嘉章	人間は他の人々との関係のなかで，人格をかたちづくり，日々の生活を営み，人生をおくります。つまり一定の共同性のなかではじめて，生物学的個体としてだけでなく，社会的な存在である人間として生きることになるわけです。それは，自覚的に加入する集団や意識的に構築した制度のようなかたちをとるとは限りません。むしろ普段は気にも留めない自明のものとみえるような共同性のほうが，より重要な役割をはたしているとも言えるのです。そうした点について，主として文化人類学的観点から考えてみたいと思います。	
平和と共生	施　光恒	現代日本の状況を念頭に置き，「平和と共生」を考えるために必要な概念や考え方を学ぶ。現在の日本では，「共生」をめぐる議論は一面的なものに陥りがちである。この授業では，現在，一般に喧伝されている「共生」のイメージの代表的代替案を知ることを通じて，自由民主主義の観点に基づき「共生」を多角的に捉えられるようになることを目標とする。また政治的経済的観点から，世界の現状の中における日本の特性，進むべき針路，いわゆるアジア諸国との関係なども考えてみたい。詳細は，ネット上のシラバスで示すのでそちらを参照してほしい。 テキストではなく，あくまで参考文献ですが，授業の基本的観点に近いものとして下記をあげておきます。 施光恒「ボーダーレス世界を疑う――「国作り」という観点の再評価」(中野剛志編『成長なき時代の「国家」を構想する』ナカニシヤ出版，2010 年，所収)	新聞各紙はもちろん，インターネットの各種ＨＰ，ブログ，掲示板なども閲覧し，情報を多角的に集め吟味する習慣を身に付け，現代の政治問題，社会問題に興味を持ってください。
自然と環境	横山拓史	地球環境問題のうち，化学物質による地球規模の汚染と地球温暖化問題を取り上げる。人工化学物質が地球の隅々まで瞬く間に輸送される原理，食物連鎖の頂点に位置する哺乳動物への有毒化学物質の蓄積と将来予測，先進国が恩恵にあずかってきたフロンが一旦環境に放出されるとどのような影響をもたらすのか，氷柱科学が明らかにする人類の環境汚染史，過去の二酸化炭素濃度と地球温暖化との関係，温室効果のメカニズム，初期地球において海洋が大量の二酸化炭素を吸収したことなどを解説し，深層流による海洋のかき混ぜ効果を基に「海洋は二酸化炭素による地球温暖化問題を解決できるか？」を化学平衡論と化学反応速度論の立場から検証し，環境問題をどのように議論すべきかを考えてみる。	環境問題に関する本を自主的に読んでほしい。 渡辺正訳『地球環境化学入門』（シュプリンガーフェアラーク東京）

2グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
社会と制度	關　一敏	世界の宗教を中心に人間と社会について考える。	参考文献は講義中に指示する。
平和と共生	三隅一百	社会の秩序は，私たちの共同行為の営みの上に成り立っています。その共同行為は，ときには離反・対立しながら，そしてときにはその対立を越えて協調・連帯しながら，一定の秩序を形づくります。このように平和秩序や紛争秩序に関わる共同行為の仕組みを読み解いていきます。具体的には，国民国家秩序のベースとなる個人と人権の問題，社会的専制と権威主義，協力関係の合理性条件，グローバリゼーションが引き起こす摩擦問題などを考察し，私たちがグローバル社会の一員として平和と共生に関わるときに考えておくべきことを議論します。	
自然と環境	石田清隆	まずはじめに，地球環境破局のサインを報告してもらい，つぎにそれらの地球環境問題に取り組む社会や個人の環境倫理の構築に向けて考察論議します。とりわけ温室効果ガスとくに二酸化炭素濃度の上昇による地球温暖化問題は極めて緊急かつ深刻な問題です。そこで，地球温暖化の原理的側面，二酸化炭素とその主要なリザーバーである海水の物理・化学的特性（物性），次に地球表層における二酸化炭素（炭素）と水の循環を調べて，最後に二酸化炭素の排出削減について考察します。IPCC の環境評価報告の内容も検討します。	

3グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
社会と制度	小湊卓夫	経済の動きは私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしています。その中でも物価の変動や雇用の変動（失業）は，社会に与える影響のみならず，個人の生活や生き方にも影響します。また近年，若年層の雇用は大きな社会問題ともなっています。この授業では，そのような経済活動の変化がどのようにして引き起こされ，また具体的にどのような影響を及ぼすのか，そしてその対策はどのようになされるのかを中心に考える授業を行います。	毎回授業で資料を配布します。
平和と共生	松井康浩	「平和」は，一般には戦争の対語としてイメージされる。しかし，ノーベル平和賞の受賞者（団体）のリストをみると，「平和」が多様な意味で用いられていることがわかる。平和が多義的であれば，平和に取り組むアクターも各種各様のものとなろう。本講義では，国際社会における平和と共生をテーマとし，平和の多義性を起点におきながら，多様なアクター，特に国際連合やＮＧＯなどによる平和活動を検討する。加えて，比較的新しい学問分野である国際倫理学の視点から「平和と共生」にアプローチを試みる。	
自然と環境	阿部芳久	輸送手段の発達もあり，近年，海外から日本に持ち込まれ，定着する生物が増えている。その中には，日本の生態系や農林水産業，人の健康に悪影響を及ぼす生物も存在する。これら外来生物の悪影響は深刻な社会問題である。そこで，本講義では外来生物の問題を中心課題として取り上げ，講述する。	

【 後 期 】 **授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。**

1グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
社会と制度	佐藤廉也	世の中には，「こうであったら良いのに」という状態から遠くかけ離れた，社会と個人，あるいは個人間の深刻な問題が数多く存在します。その典型が環境問題や，その他さまざまな資源をめぐる問題です。これらの多くは，異なる個人どうし，あるいは個人と社会全体の利益が異なり，葛藤が生じることによって発生し，「社会的ジレンマ」として知られています。本講義では，このような個人と社会の葛藤に焦点をあて，どのような制度のもとで社会がうまく保たれ，あるいは崩壊するのかを考察したいと思います。	
平和と共生	施光恒	現代日本の状況を念頭に置き，「平和と共生」を考えるために必要な概念や考え方を学ぶ。現在の日本では，「共生」をめぐる議論は一面的なものに陥りがちである。この授業では，現在，一般に喧伝されている「共生」のイメージの代表的代替案を知ることを通じて，自由民主主義の観点に基づき「共生」を多角的に捉えられるようになることを目標とする。また政治的経済的観点から，世界の現状の中における日本の特性，進むべき針路，いわゆるアジア諸国との関係なども考えてみたい。詳細は，ネット上のシラバスで示すのでそちらを参照してほしい。 テキストではなく，あくまで参考文献ですが，授業の基本的観点に近いものとして下記をあげておきます。 施光恒「ボーダーレス世界を疑う――「国作り」という観点の再評価」（中野剛志編『成長なき時代の「国家」を構想する』ナカニシヤ出版，2010年，所収）	新聞各紙はもちろん，インターネットの各種ＨＰ，ブログ，掲示板なども閲覧し，情報を多角的に集め吟味する習慣を身に付け，現代の政治問題，社会問題に興味を持ってください。
自然と環境	石田清隆	まずはじめに，地球環境破局のサインを報告してもらい，つぎにそれらの地球環境問題に取り組む社会や個人の環境倫理の構築に向けて考察論議します。とりわけ温室効果ガスとくに二酸化炭素濃度の上昇による地球温暖化問題は極めて緊急かつ深刻な問題です。そこで，地球温暖化の原理的側面，二酸化炭素とその主要なリザーバーである海水の物理・化学的特性（物性），次に地球表層における二酸化炭素（炭素）と水の循環を調べて，最後に二酸化炭素の排出削減について考察します。IPCCの環境評価報告の内容も検討します。	

2グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
社会と制度	阿部康久	異なる社会・制度のなかで生活する人々の考え方や行動様式を見ることで，受講者の皆さんに何らかの示唆や知見になり得る話をしていければと考えます。最初の授業において，全学教育の授業の意味と課題について担当者自身の見解を述べた上で，２回目以降は，担当者自身が勉強している中国の社会を話題として取り上げます。具体的には，大学生活と就職活動，雇用環境と人材育成，一人っ子政策と家族のあり方，等について話をしていきます。また，日本の事例と比較しながら，その共通点や相違点を理解してもらいたいと思います。	
平和と共生	松井康浩	「平和」は，一般には戦争の対語としてイメージされる。しかし，ノーベル平和賞の受賞者（団体）のリストをみると，「平和」が多様な意味で用いられていることがわかる。平和が多義的であれば，平和に取り組むアクターも各種各様のものとなろう。本講義では，国際社会における平和と共生をテーマとし，平和の多義性を起点におきながら，多様なアクター，特に国際連合やＮＧＯなどによる平和活動を検討する。加えて，比較的新しい学問分野である国際倫理学の視点から「平和と共生」にアプローチを試みる。	
自然と環境	吉村和久	現代の文明社会が直面している環境問題について４回にわたって講義を行います。まず，環境システムの複雑さについて森林を例にとって解説します。ついで，フロンによるオゾン層破壊と大気中の二酸化炭素濃度増加に伴う地球温暖化を具体例として取り上げ，現在の文明社会により環境問題がなぜ引き起こされることになったのか，現代自然科学がそれをどのように定量的に理解したのか，その理解に基づいてどのような未来が予測され，それに対する対策はどのようになされているのか，以上の項目に焦点をしぼり解説します。	テキスト：毎回プリントを配布する。

3グループ

テーマ	担当教員	授業概要	備考（参考文献）
社会と制度	小津稚加子	本講義では，日本の「会社」の発展を中心的な題材として取り扱いながら，「社会」を構成する会社「制度」について理解を深めます。具体的には，株式会社の成り立ちと仕組み，会社は誰のものか，に焦点を当てて考えていきます。海外の制度と比較しながら，日本との共通点や相違点を理解します。続いて，「会社」と社会の関係を写す財務諸表（会計報告書）を読めるようになるために基本的かつ必要な概念と考え方を解説します。最後に，会社の「社会報告」を取り上げて，従業員の労働環境や環境問題への取り組みを学習します。	参考文献：講義中に紹介します。
平和と共生	直野章子	一年前に東北・関東地方を襲った大震災によって，多くの人の「生」は，変わり果ててしまいました。九州で生き学ぶ私たちに，大震災を生き残った人たちの喪失と悲痛に対して，何かできることはあるのでしょうか。その答えを見つけることは容易ではありません。しかし，過去に大災害や戦争を体験した人たちが，どのような喪失と悲痛の中を生きたのか，そして，何によって〈心の傷〉が深くなったり，癒されたりしたのかを知ることで，その糸口を探ってみたいと思います。	
自然と環境	阿部芳久	輸送手段の発達もあり，近年，海外から日本に持ち込まれ，定着する生物が増えている。その中には，日本の生態系や農林水産業，人の健康に悪影響を及ぼす生物も存在する。これら外来生物の悪影響は深刻な社会問題である。そこで，本講義では外来生物の問題を中心課題として取り上げ，講述する。	

1-b．コアセミナー【２単位】授業概要等

コアセミナーは，各学部ごとに箱崎・病院・大橋・伊都・筑紫地区において開講されます。

◎印はオーガナイザー

学部	担当教員	授　業　概　要	開講学期（曜日時限）	備　考（テキスト）
文学部	坂上康俊（世話役）	文学部は，哲学・歴史学・文学・人間科学の４コースと多様な専門分野より成り，これらが有機的に結びついた集合体として人文学科を形成している。コアセミナーでは文学部のこのような特性を活かし，各コースから選出された４名の教員が少人数のクラスを指導する。授業の目的は，教員とともに発掘したテーマについて，多角的な視点から調査・分析・思索し，発表する力を学生たちに修得させることにある。特に文学部では，高年次教育の過程で内外の古今東西にわたる文献や資料を渉猟する能力が求められるため，その入門編となるコアセミナーでは，最も信頼性と学術性の高い辞書や参考文献などの利用方法を学生に習熟させる。 なお，クラス分けは，学生番号順に約１６名程度に振り分ける予定で，後日発表する。 ・第Ⅰクラス（月３）：◎安立清史，倉田　剛，辻田淳一郎，高野泰志 ・第Ⅱクラス（月４）：◎安立清史，倉田　剛，辻田淳一郎，高野泰志 ・第Ⅲクラス（月３）：◎吉原雅子，神寶秀夫，竹村則行，飯嶋秀治 ・第Ⅳクラス（月４）：◎吉原雅子，神寶秀夫，竹村則行，飯嶋秀治 ・第Ⅴクラス（月３）：◎片岡　啓，濱田耕策，小黒康正，上山あゆみ ・第Ⅵクラス（月４）：◎片岡　啓，濱田耕策，小黒康正，上山あゆみ ・第Ⅶクラス（月３）：◎山内昭人，京谷啓徳，西岡宣明，高木彰彦 ・第Ⅷクラス（月４）：◎山内昭人，京谷啓徳，西岡宣明，高木彰彦 ・第Ⅸクラス（月３）：◎坂上康俊，東口　豊，吉井亮雄，光藤宏行 ・第Ⅹクラス（月４）：◎坂上康俊，東口　豊，吉井亮雄，光藤宏行 （◎印の教員はクラス長）	前期（月３・４）	文学部の学問の雰囲気に慣れ親しむことが第一です。各自の主体的な参加が前提となるので，積極的なディスカッションを期待します。 テキスト：授業中に配布・指示することがある。
教育学部	◎岡　幸江 八尾坂　修 吉本圭一 遠矢浩一 佐々木玲仁 橋彌和秀	【教育学部基礎セミナー】 教育学部には，教育学系・教育心理学系の２つの系があり，教育に関わる諸問題について，それぞれの学問的立場から，重層的に学んでいく。コアセミナーにおいては，これらの学問を探究して行くに当たって必要な基礎的知識を習得すると同時に，問題発見の方法，問題探求の仕方，ディスカッションの仕方，プレゼンテーションの方法など，多面的に学んでいく。全員を６つのグループに分け，教育学系３名，教育心理学系３名の教員がそれぞれのグループを担当する。なお，前半・後半で教員は他系の教員と交代する。グループ別活動を通して，上記目的を相互的かつ主体的に習得することを目標とする。	前期（月３）	
法学部	直江眞一 渡辺徹也 嶋田暁文 香山高広 上田竹志 土井政和 豊崎七絵 寺本振透 韓　相熙 出水　薫 木村俊道	大学時代の４年間は人生の中で最も能力が伸びていく時期の一つです。そのために是非必要なのが，入学直後の段階で，法律学・政治学の勉強の仕方を身につけることです。法学部のコアセミナーは，少人数でのゼミ形式の中で，具体的には以下の４点にわたる勉強の「フォーム」を体得することを目的としています。 (1) 情報の集め方について学ぶこと (2) 情報の分析の仕方について学ぶこと (3) 議論の方法について学ぶこと (4) 自分の意見を説得的に文章にまとめる技術について学ぶこと なお，法学部では例年１０余クラスのセミナーを開講していますが，希望クラスの選択にあたっては，法学部ホームページのオンラインシラバスで各クラスのテーマや内容等の詳細を参照してください。	前期（金４）	
経済学部（経済・経営学科）	川波洋一	【経済学を学ぶために】 大学に入学し，これから全学教育，専攻教育を受けていくために，４年間の履修計画をデザインしてもらうことにする。その際，経済学の履修ガイドブックを参考にする。これについては，自らの履修計画を５分程度で発表してもらうこととする。そのうえで，新書程度の内容の経済学に係る書物を読み，皆で討論することとする。また，各自分担を設けて発表も行うこととする。そのなかで，経済学的なものの見方や考え方に触れることになるであろう。	前期（木２） テキスト：「経済学部履修ガイドブック」（入学時に配布される）。 市販の書物については，授業中に通知する。	積極的に発言する態度を尊重することとする。
	石田　修	【現代世界経済をとらえる】 世界経済を理解する入門です。ここでは，世界貿易，国際投資，国際金融と国際収支，国際通貨体制，貧困問題，各国経済論といった世界経済論で学ぶ伝統的項目に加え，グローバリゼーションのとらえ方，環境問題，資源・食料問題，人の移動問題などホットなテーマを扱います。テキストを利用し，世界経済の構造と現状を理解することができるようにします。同時に，世界経済における日本経済の位置づけを考えます。	前期（木２）	石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえる Ver.5』（東洋経済新報社）
	深川博史	【現代世界を読み解く】 現代世界を読み解くために，社会科学の古典を輪読する予定である。時代を経て読み継がれる古典には，その書物が現代に語りかけてくる何かがある。本講義では，混迷する現代世界をみる眼を養うことを目的として，２０世紀初頭に書かれた古典を輪読し，その著者が如何にして，同時代の世界を把握しようと格闘したか，その軌跡を追う。その著者が，当時の世界を如何に読み解いたかを，知ることによって，現代に生きる私たちは，今の世界をみるための眼を養うことができる。	前期（木２）	テキスト：開講時に指示する。
	鷲崎俊太郎	【ボードゲームの理論：「モノポリー」の経済学】 モノポリーを通じて，経済学の理論的枠組を意識するとともに，経済学の入門書の講読を通じてそれを体系的に把握できることを目標とする。モノポリーは，大恐慌時代にアメリカで誕生したボードゲームである。商品化以前は，経済学の教授や大学院生が税金の理論を説明するために考案した代物であった。そのせいか，資本主義をモデルとしつつも，市場の失敗をふんだんに取り入れたゲームとして名高い。履修者には，このルールを正確に把握し，勝者となるべき戦略を形成すると同時に，その背景にある経済学的要素を理解することを期待したい。	前期（木２） テキスト：（1）A.アクセルロッド（大地舜訳）『モノポリーで学ぶお金持ちの法則』（ダイヤモンド社），（2）J.E.スティグリッツ（藪下史郎ほか訳）『入門経済学』第３版（東洋経済新報社）	欠席の場合は，事前に担当者へ連絡すること。

	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
経済学部（経済・経営学科）	北澤　満	【日本経済の現在・過去・未来】 初学者向けのテキストを用いて，日本経済の現状について認識し，その歴史的な経緯を理解することで，今後経済学を学んでいく上での基礎を固めることを目的とする。対象を狭く限定せず，広い視野で問題を捉える能力を養っていく。授業の進行は，テキスト，および参考文献の購読と，グループ報告を中心とするが，ほかに①文献の検索・収集（図書館の利用方法），②効果的なレジュメの作成，プレゼンテーションの方法，③レポートの作成方法，など，大学生として当然備えるべき諸技術の習得にも努める。	前期（木２）	速水健朗『ラーメンと愛国』（講談社現代新書）ほか
	田北廣道	【２１世紀の世界経済と環境問題】 ２０１２年度に期限を迎える「京都議定書」以降のルール作りをめぐって国際的な議論が盛んに闘わされている。元来，気候変動枠組み条約の第二条は，持続可能な経済への移行を目標に掲げていたが，資源・エネルギー浪費型の経済システムを修正する動きは見えてこない。その意味から経済学の責任は大きい。本セミナーでは，地球環境問題に関わる文献・資料を講読する。	前期（木２）	予定していたテキストが品切れなので，追って知らせる。新書版を予定している。
	久原正治	【グローバリゼーションと日本経済，経営】 グローバリゼーションの中での日本の経済と経営の将来について考える。	前期（木２）	久原正治『日本の若者を世界に通用する人材に』(学文社，2009)
	遠藤雄二	【日本の経済と会社について考える】 日本経済と会社の過去・現在・未来について考えていきます。文献をよく読んだ上でセミナーに参加し，報告者が報告したのち，意見交換していきます。司会も学生が行い，学生中心に運営します。また，学生同士が仲良くなるための行事も企画し，バーベキューなどを行います。勉強する内容は，以下のものです。①日本の高度経済成長，②経済大国と豊かさ，③長期不況，④人間のための経済と会社，⑤学生時代に何をゲットするか？勉強が楽しくなり，学問の面白さが分かるセミナーを創っていきます。	前期（木２）	橋本寿朗著『戦後の日本経済』（岩波新書），神野直彦著『人間回復の経済学』（岩波新書）など
経済学部（経済工学科）	佐伯親良	【計量分析のための第一歩】 経済の諸問題を計量的に分析するための方法的基礎について，初歩から取り組むことを目的とする。このために，問題の設定からレポートの書き方についてはじめに取り組むことにし，次いで，TeX の利用の方法について学ぶ。実際に計量分析を行うためには，何らかの分析ツールになじむことが必要不可欠であることから，ここでは，Rats の初歩について演習を行うものとする。最終的に参加学生の各自の関心に従って，問題の設定をおこない，分析した結果をレポートすることとする。尚，Rats は米国 Estima 社の分析ツールである。	前期（木２）	テキスト：授業で示す。
	木成勇介	【経済学入門】 この講義では，新聞やテレビで毎日報道されている経済に関するニュースの中から，受講生自身が最も興味を持つニュースを選択し，そのニュースについて徹底的に調べ，その内容を他の受講生に紹介してもらいます。テーマの選択，調査，分析，報告，全員参加の討論，教員による補足説明を通して，「大学で学ぶこと」を体感してもらいます。	前期（木２）	
	浦川邦夫	【やさしい統計入門】 コアセミナーでは，主に統計学の基礎について学ぶ。主要なテキストとして田栗正章他(2007)『やさしい統計入門―視聴率調査から多変量解析まで』（講談社）を使用する。同書は，主要な統計手法（平均の検定，適合度検定，独立性の検定，回帰分析，主成分分析）の考え方や原理を，日常生活で出会う問題に応用しながら議論を展開しているので，このコアセミナーの授業を通じて，様々なデータから有用な情報を取り出すための判断能力・分析能力をぜひ養っていただきたい。	前期（木２）	田栗正章他(2007)『やさしい統計入門―視聴率調査から多変量解析まで』（講談社）
	内田交謹	【日本経済と経済学の基礎知識】 これから経済学を学んでいく最初のステップとして，この授業では，現実の日本経済で何が起きているかを知るとともに，経済現象を考察する道具としての経済学の特徴についてゼミ形式で議論します。高度経済成長からバブルの発生・崩壊，そしてデフレに至る経済状況の変化，日本的な企業経営のあり方，構造改革と規制緩和，少子・高齢化が経済に与える影響など，現実の日本経済には，重要かつ面白いトピックが多数あります。ただ人の話を聞くだけでなく，自分で調べ，人に分かりやすく説明するというプロセスを経ることで，日本経済の構造と経済学の特徴について，多面的に理解することが目標です。	前期（木２）	報告者は初学者でも分かるような説明が要求されます。他の参加者は，積極的な質問・意見表明が要求されます。
	小野廣隆	【問題解決学：オペレーションズ・リサーチ入門】 オペレーションズ・リサーチ（OR）とは数学的・統計的モデルにおける「問題」に対して最適な「解」を決定する手法群で，経営学・経済学においてもその手法は広く利用されています。本コアセミナーでは，オペレーションズ・リサーチの入門書を輪講することにより，在庫管理，日程計画，ゲーム理論，数理計画といったオペレーションズ・リサーチにおける基本的な問題についてその概要を知ることを目的とします。各回，決められた担当者（グループ）が全員の前で解説をし，また参加者が担当者に適宜質問をする形ですすめます。	前期（木２）	テキストをあらかじめ入手しておくこと。 テキスト：松井泰子，根本俊男，宇野毅明『入門オペレーションズ・リサーチ』（東海大学出版会）

Ⅰ．授業概要等：教養教育科目（コアセミナー）

	担当教員	授　業　概　要	開講学期（曜日時限）	備　考（テキスト）
理学部	◎中西　秀 武田信一 若狭智嗣 池田大輔 川越清以	【物理学コアセミナー】 いくつかの課題を題材にして，物理学を学んでゆくうえでの基本的な技術，すなわち発表，討論，レポートの書き方，専門英語，資料の調べ方などを修得するための演習を行う。クラスを４～５のグループに分け，４～５人の教員が交代して担当する。	前期(火３)	
	原田賢介 横山拓史 秋山　良 徳永　信 大場正昭 荒殿　誠	【化学序説】 化学科入学後に学ぶ「化学」にどのような専門分野があるのか，それらがどのように発展してきたか，現在どのような最先端研究が展開され，今後どのような発展性が期待されているか，等を概説する。これからの学習に，積極的に問題意識を持って取り組むための導入的な授業であり，自ら学ぶ前向きな姿勢の喚起，課題探求意識の啓発と，それらの道標となる方法論の紹介等を行う。化学科の前期特別談話会における研究紹介への参加と質疑･討論，および九重研修旅行での相互交流や意見交換も本コアセミナーの一環である。	前期(火３・４)	九重研修旅行，前期特別談話会は，本講義の一環であり単位の認定に必要となる。必ず参加すること。やむを得ない事情が有る場合は，事前に申し出ること テキスト：特に使用しない。必要な資料は授業で適宜配布する。
	◎町田正博 リュウフイシン 吉川顕正 廣岡俊彦 池田　剛 宮本知治 坂井　卓 奈良岡　浩 北島富美雄 上原誠一郎	【地球惑星科学への第一歩】 初歩的な地球惑星科学に関する課題に対して，文献調査や簡単な実験などによって情報・データを収集して問題解決を図る。この作業では，教員の指導に頼るのではなく，自らが課題探求・問題解決に挑む姿勢を養ってほしい。得られた結果をグループ及びクラス全体の討論会で発表し，レポートとして提出する。授業は１２名程度のグループに分かれて行い，各グループは前・後半で２つの課題の探求・解決に挑む。セミナーの第１・２回目に，インターネットによる情報検索方法とプレゼンテーション・レポート作成の一般技法を学ぶ。	前期(火１)	
	佐伯　修 他５名	【数学基礎セミナー】 大学の数学では，高校の数学には出てこなかった程度の厳密な論証や，そのための精密な表現方法が必要になります。この段差を埋め，高校数学から大学数学への円滑な橋渡しをするのがこの授業の目的です。内容的には，数学上の言葉づかいや記号法，集合と論理，写像，同値関係，濃度，数列の収束や関数の連続性などの概念を学びます。なお，この授業は理学部数学科専攻教育科目「数学基礎」と連携して行われます。「数学基礎」で学んだ事柄を「数学基礎セミナー」でじっくり演習し，自分のものにします。	前期(火３)	テキストは担当教員から指示があります。
	◎石原　健 釣本敏樹 巌佐　庸	【生物学コアセミナーA，B，C】 本コアセミナーは，生物学科の新入生を対象に，学生番号順に３クラスに均等に分割し，生物科学部門に在籍する教員全員が分担して担当する。大学での学習意欲を向上させることを第一の目標として，研究するうえで必須となる「読む，書く，発表，討論」の基礎能力を身につける。具体的には，担当教員の専門分野の材料を用いて，図書館や学内ネットワークを利用した科学文献の検索方法，日本語による講義レポートや実験レポートの作成法，実験データの口頭発表，研究討論について学ぶ。	前期(火３)	セミナーでの討論等に積極的に発言・参加すること。 テキスト：グループ毎に，最初の回に指示がある。
医学部（医学科・生命科学科）	◎康　東天 神野尚三 目野　主税 續　輝久 住本英樹 大木研一 笹栗俊之 小坂俊夫 飛松省三 小田義直 岩城　徹 吉田眞一 栁　雄介 小野悦郎 古野純典 清原　裕 池田典昭 橋爪　誠 片野光男 近藤久雄 諸橋憲一郎 吉田素文	【医学科及び生命科学科担当教員によるチュートリアル】 医学科及び生命科学科の学生担任教員との初顔合わせの意味を含み，医学を学ぶ上で必要となる，最新の知識を獲得し，整理して発表し質疑応答を行うスキル，およびこれらをグループで分担遂行するスキルを習得する。第１日目は，オリエンテーションの後に４～５名のグループに分かれ，担任教員が準備した「身近な医学的問い」に対する調査・発表の作業計画を立て，調査を開始する。第２～４日目は，調査結果の吟味，再調査，整理と発表の準備を行う。第５日目は全学生および各担任教員の前で調査結果を発表し，質疑応答を行う。最後に自己評価とプログラム評価を行う。担任教員は作業と各学生の参加状況について助言および観察評価を行う。	前期（木１～４）	

学部	担当教員	授　業　概　要	開講学期（曜日時限）	備　考（テキスト）
医学部（保健学科）	小野ミツ	【健康科学入門】 大学生活を円滑に過ごせることを目的として，医系地区での学生生活のルールや図書館の利用方法を学び，情報発信する能力を培う。	前期（木４）	
	◎平田秀紀 小段謙一	【放射線医学概論】 現在の医療に欠くべからざる放射線について，その歴史から臨床応用までを概説する。放射線の種類やその物理効果や生物学的影響について述べる。診断学分野への応用や核医学への利用，さらに近年増加しつつあるがん治療における放射線の利用について言及する。	前期（木４）	私語禁止，飲食禁止，ケータイメール禁止，違反者は即刻退出。
	◎永淵正法 外園栄作	【臨床検査概論】 本科目では，学習上必要な情報へのアクセスおよびそれらの活用方法を習得するとともに，各専門科目の概要を理解し，学部教育課程での学習の基盤を確立することを目的とする。具体的には，教育用情報システム，大学図書館等の活用方法を説明する。また，専門科目の担当教員が，それぞれの科目の概要について解説する。さらに，九大病院検査室において臨床検査の実際を見学する。（第１回　教育用情報システムの利用の仕方，　第２回 大学図書館活用セミナー ，第３－１３回 各教員の担当科目概要および研究内容説明，　第１４回 九大病院検査室見学 ）	前期（木４）	
歯学部	◎吉浦一紀 前田勝正 赤峰昭文 寺田善博 古谷野潔 中村誠司 森　悦秀 髙橋一郎 野中和明	【臨床歯学】 九州大学病院の小児歯科，矯正歯科，歯内治療科，歯周病科，咬合補綴科，義歯補綴科，顎口腔外科，顔面口腔外科，口腔画像診断科等の各専門診療科で行われている歯科診療の内容を概説し，歯学生としてのモチベーションを強化する。さらに，これらの診療科で行われている最先端の診療内容を紹介し，大学病院としての役割および地域歯科医療との連携についても学ぶ。	前期（木５）	
薬学部	大戸茂弘 ◎小柳　悟	【体内時計のはたらきと創薬・薬物治療】 睡眠・覚醒やホルモン分泌など，私たちの身体機能には約２４時間を一周期するリズミカルな変動が認められます。脳には，この２４時間周期のリズムを調節する体内時計が存在し，時計として働く遺伝子も発見されています。体内時計のはたらきによって，病気の起こりやすさも時間によって異なります。また，薬の効き方や副作用なども服用する時刻により変化します。本セミナーでは，身体機能にリズムが生じる仕組みを理解し，その機構に基づいて薬をいつ飲むべきかなど，科学的な理論に基づいた薬物治療および創薬への応用について考えていきます。	前期（火４・５）	
	津田　誠	【痛みを科学する】 私たちが普段生活している中で一度は体験したことのある「痛み」という感覚は，身体に加わる有害な刺激から回避するために不可欠な情報である。しかし一方で，末期癌や糖尿病など様々な疾患で発症する痛みは，慢性化し，患者のＱＯＬを極度に蝕むだけでなく，病気の治療やその人の人格すら変えてしまう厄介なものだ。この「悪い痛み」は鎮痛薬が効きにくい点で非常に問題であり，痛みの制圧が現代医療において克服すべき重要な課題となっている。本セミナーでは，痛みの仕組みを神経科学的に理解し，問題となっている病的な痛みに関する研究の現状と将来について討論する。	前期（火４・５）	
	黒瀬　等	【代替医療について】 代替医療とは，現代の西洋医学からでは説明がつかないメカニズムで効果を示し，通常医療の代わりに用いられる治療法を呼んでいる。これには，中国医学（中薬療法や鍼灸など），インド医学，免疫療法（リンパ球療法など），薬効食品・健康食品，ハーブ療法，アロマセラピー，ビタミン療法など多くのものが含まれている。本セミナーは代替医療について調べたことを発表・討議することを通して代替医療の現状について理解することを目的とする。	前期（火４・５）	
	片山　勉	【ＤＮＡ複製研究とその応用】 遺伝子操作とか遺伝子工学などと呼ばれるバイオテクノロジーは，生命メカニズムの解明，病因解析，医薬品を含む有用産物の生産，薬効解析などに幅広く使われている。実は，高度なバイオテクノロジーでも天然の生物がもつ「酵素」がもとになって成立している。基礎的な DNA 複製メカニズムの研究などによってそのような酵素が発見され解析されてきた。がんを含む疾病にも DNA 複製遺伝子が重要であることもわかってきた。DNA 複製の基礎的な研究過程について調査，考察し，研究のあり方や意義，可能性を考えたい。	前期（火４・５）	
	山田健一	【活性酸素と病気】 活性酸素をはじめとする活性種は，生理機能の調節などを介して我々の生命活動の様々なプロセスにおいて，重要な役割を果たしている。しかし，物理的・化学的な外部要因，老化・遺伝的な要因などの内部要因で，これらの活性種が過剰になると，生活習慣病やがんなどの疾患に繋がっていくことが明らかになりつつある。そこで，本セミナーでは，活性酸素関連疾患のメカニズム，治療薬などの現状や将来について調査研究を行い議論する。	前期（火４・５）	

	担当教員	授　業　概　要	開講学期（曜日時限）	備　考（テキスト）
薬学部	末宗　洋	【薬害】 薬害について多様な側面より調査・考察し，その理解を深めることを目的とする。観点としては薬害の科学的側面・社会的側面，過去の薬害，現在の薬害，将来起こるかもしれない薬害，薬害の本質，薬害被害者の声，創薬研究者の立場・医療従事者の立場・行政の立場から薬害等が考えられる。これらの観点を各自が分担して深めて行く。さらに薬害の予防等についても討論し，最終的にグループ全体としてのレポートを作成する。担当者も含め，皆と共に薬害について学んで行きたい。	前期 （火４・５）	
	古賀　登	【有機分子に見るナノの世界】 私たちが目にしたり，手にしたりするもの全てが分子でつくられている。最近よくナノテクノロジーやナノ微粒子など“ナノ“という言葉を耳にするが，有機分子の多くは，固有の形を持ち，1 ー数ナノメーター（nm）の大きさを持っている。これら分子が集合化することにより新たな性質を持つ集合体（数 100nm~μm）が生成する。これらナノサイズの分子や集合体を理解すれば，いろんな新しい機能を生み出すことが可能になってくる。本セミナーでは，ナノサイズと新たな機能をキーワードに，ナノサイズ集合体の機能を題材に討論する。	前期 （火４・５）	積極的に討論に参加し，最後まで受講すること。
	森元　聡	【大麻成分に関する最近の話題について】 大麻は繊維植物のアサの葉や未熟果穂を乾燥したもので，幻覚作用などの特異な向精神作用を有することから，本邦でもその乱用が大きな社会問題となっている薬物の一つである。本講義では，大麻に関する正確な知識や獲得するとともに，大麻成分に関する研究動向を理解することを目的とする。併せて，論文作成能力，プレゼンテーション能力，実験遂行能力などを向上させることにも重点を置く。このため，授業では文献検索，簡単な実験（可能であるのなら），論文作成，プレゼンテーションなどを課す予定である。	前期 （火４・５）	
	小野眞弓	【創薬に向けたがんの浸潤・転移のメカニズムの解明】 がんによる死亡率は多くの疾病の中，圧倒的に高くなっている。がんの治療薬の開発のためには，がんの発症から浸潤・転移のメカニズムを明らかにすることは重要である。この授業では現在までに明らかになっている“がんとは何か”また，がんの浸潤・転移のメカニズムを理解する。また，がん特異性に発現している分子とそのシグナル伝達経路及びその分子を標的にした治療薬について理解を深めることを目的とする。	前期 （火４・５）	
工学部	建築学科全教員 代表 志賀　勉	【建築学基礎演習】 建築学を学ぶための入門科目であり，建築学科の教員がそれぞれの専門分野に関する基礎的な演習や実習を行い，建築学の枠組みと基礎知識を習得する。授業は，初回に総合ガイダンスを行った後，まちづくり実習（ワークショップ・タウンウォッチング：３回），建築実測実習（建築物の平面・立面の実測と清書：５回），環境設備実習（建築環境・設備に関する施設見学：２回），構造実習（建築構造に関する演習・見学等：３回）を順次行う。	前期 （火３・４）	教科書は特に指定しない。授業中に資料配布や参考図書の紹介を適宜行う。
	電気情報工学科各教員 代表 中村大輔	【電気情報工学入門】 研究室において学生自らが主体となって調査・研究を行うことで電気情報技術の研究開発に必要な基礎的能力を養う。教員，学生との交流をとおして電気情報に関連する最先端の研究活動に触れることで，今後の勉学への動機付けを得る。	前期（火４）	
	物質科学工学科各教員 代表 安田琢麿	【創造工学演習】 １つの解しかない問題を解く教育から，未知の問題に対して学生一人一人が自分の頭で考え，新しい自分自身の解を見いだす教育を行う。具体的には，５人程度の少人数のグループに分かれ，教員の密接な指導を受けながら，学生自身が主体となって問題解決のために，調査・実験などを行い，得られた結果を発表する。講義のテーマは教員が設定するが，解答は用意しておらず，学生自身の自由な発案，実験および調査等により課題を発展させてゆく。これにより学生の情報収集能力，問題解決の意欲と能力，コミュニケーション能力などを高める。	前期 （金４・５）	
	地球環境工学科全教員 代表 佐川康貴	【地球環境工学演習】 地球環境工学科を構成する建設都市・船舶海洋システム・地球システムの３コースの全教員がそれぞれの専門分野に関連するテーマを提示し，地球環境工学に関する研究調査およびプレゼンテーションをグループ形式で行う。	前期 （金３・４）	
	エネルギー科学科全教員 代表 河江達也	【エネルギー科学科コアセミナー】 エネルギー科学科担当の各研究室（伊都地区，筑紫地区）において，各教員の指導のもと，量子理工学基礎，物質工学基礎，エネルギー工学基礎の各基礎分野を学ぶ。また，それをもとにした創造量子工学，創造物質工学，創造エネルギー工学の各発展分野の研究内容に触れる。それらの講義，実習等を通して文献の調べ方，レポートの書き方といった基本を習得し，さらに，具体的な問題，課題などについて発表・討論の行い方などを学ぶ。	前期（月３）	

学部	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 （曜日時限）	備　　考 （テキスト）
工学部	機械航空工学科各教員 代表 未　　定	【工学入門】 工学の基礎を理解するための実践を含む導入教育を行う。機械航空工学科各教員が提供するテーマの中から一つを選び，それを担当する教員と相談しながらテーマの課題解決を行う。また，その成果および考察をレポートにまとめるとともに，口頭発表し討議する。	前期 （月４・５）	
芸術工学部	（環境） 近藤加代子 （工業） 未定 （画像） 石井達郎 （音響） 鮫島俊哉 （芸情） 鶴野玲治	【芸術工学とそのためのリテラシー】 本授業では，芸術工学部とは何かについて全体的な概念を理解し，芸術工学部における学習への適応を促進し，学習意欲を継続して維持するためのリテラシーについて学びます。芸術工学とは何かについて学ぶために，研究院長が学部について，各学科長が学科の教育・研究内容について３０分ずつ，２コマで説明します。次に図書館の利用方法などを含めて様々な情報の検索方法を１コマで説明します。残り１２回で，芸術工学の視点から「読む，書く，調べる，発表する，討論する」等の，芸術工学に固有の学問を進めていく上で必要な基礎的な能力を学びます。	前期（金５）	
農学部	農学研究院 教員32名 代表 未　　定	農学部における学習への適応を促進し，学習意欲を向上させるため，「読む，書く，発表する，討論する」等の学問を進めていく上での基礎的な能力を育成する。そのため，担当教員の得意な素材を用いて，文献の調べ方，日本語によるレポートの書き方，発表及び討論のやり方等を向上させる。 ①施設見学（２回）②授業のガイダンス（１回）③自己テーマの探索（２回）④資料，文献の調べ方（２回）⑤レポートの書き方（３回）⑥発表会（３回）⑦討論及び相互評価（２回）	前期（木４）	
21世紀プログラム	副島雄児	【なにをどのように学ぶべきか】 ２１世紀プログラム学生は，大学の４年間に“なに”を学び，それを“どのように”学ぶのかを自らの志と意欲をもって問いかけていかなければならない。このセミナーでは学生が持つべき基礎体力ともいえる，学問・研究に対する見方，考え方，表し方，また，それらを修正し改善へ向けて行くためのコミュニケーションのあり方，すなわち“学問・研究に臨む態度”の修得を目的とする。セミナーは３部で構成し，1）２１世紀プログラムで学ぶことの意味について，2）学問・研究の態度について，3）コミュニケーションの重要性について，それぞれ体験的に理解を深める。	前期（木３）	

文系コア科目，理系コア科目，少人数セミナー，総合科目 目次

○文系コア，理系コア科目，少人数セミナー，総合科目は，下記の各曜日時限において様々な科目が開講されています。27ページ以降に授業概要を記載していますので授業を選択する際の参考にしてください。

○記載の開講曜日時限は，授業開始後に変更になる場合があります。その場合は，掲示でお知らせしますので注意してください。

○１年生は時間割の所属クラスの枠に記載されている科目の中から選択して履修してください。２年生以上は１年生用時間割掲載の文系コア科目，理系コア科目，少人数セミナー，総合科目も履修することができます。

○受講希望者多数で授業実施に支障が生じる場合は，受講制限をすることがあります。

【 前 期 】

曜日時限	区　　分	授業科目名	副　　題	担 当 教 員	掲載ﾍﾟｰｼﾞ
月　曜 ２時限	文 系 コ ア 科 目	**古典の世界**	とりかへばや物語の世界	辛　島　正　雄	２９
		法学	実践的法律入門	ヴルブカ，Ｓ．	３７
		社会学	情報社会論	杉 山 あ か し	３９
	理 系 コ ア 科 目	**数学Ⅲ**	社会における数学の活用	落　合　啓　之	４４
		地球科学Ⅲ	地球科学の最前線	小 山 内 康 人	５０
		情報科学Ⅲ	サイバーサイドプログラミング論	松　永　裕　介	５３
月　曜 ４時限	文 系 コ ア 科 目	**哲学**	共生のための哲学入門	鏑　木　政　彦	２７
		文学	日本近代小説を読む	松　本　常　彦	２９
		先史学	先史学	田　中　良　之	３１
		人文地理学	地域構造と地域計画	山　下　　潤	３４
		心理学	人間関係の科学	福　留　留　美	３６
		社会学	ナショナリズム論	直　野　章　子	３９
	理 系 コ ア 科 目	**生物科学Ⅱ**	基礎酵素学	植　田　　正	４１
		数学Ⅱ	Google の PageRank と線形代数	石　井　　豊	４３
		物理学Ⅱ	強さの物理入門	古　君　　修	４５
		地球科学Ⅲ	地球の肖像	青　木　義　和	５０
		情報科学Ⅱ	高度プログラミング演習	来　嶋　秀　治	５２
月　曜 ５時限	文 系 コ ア 科 目	**思想史**	インド仏教思想史	岡　野　　潔	２８
		教育学	教育と社会	荒 牧 草 平	３５
		法学	紛争管理入門	入 江 秀 晃	３８
		日本国憲法	立憲主義と民主主義	植　木　　淳	３８
	理 系 コ ア 科 目	**化学Ⅱ**	化学とシンメトリー	園 田 高 明	４７
	少 人 数 セ ミ ナ ー	**少人数セミナー**	五感で学ぶ化学実験	大 橋 弘 範	５５
		少人数セミナー	生命（いのち）と繋がりのアート/創造の現場から	片 山 雅 史	５６
		少人数セミナー	人と人をつなぐ技法	小 湊 卓 夫	５６
		少人数セミナー	大学では教えてくれない大学生のための大切なコト	佐 藤 剛 史	５６
		少人数セミナー	糸島で学ぶ“命のあり方・尊さと食の連関”	中　野　　豊	５８
		少人数セミナー	いのちの授業	比 良 松 道 一	５８
火　曜 １時限	文 系 コ ア 科 目	**思想史**	西洋思想史入門	鏑　木　政　彦	２８
		人文地理学	地域構造と地域計画	山　下　　潤	３４
		経済学	経済学基礎／中国経済入門	堀　井　伸　浩	４０
	理 系 コ ア 科 目	**物理学Ⅱ**	カオスとフラクタル	本　庄　春　雄	４５
		地球科学Ⅱ	地球の構造と諸現象	中　野　伸　彦	４９
		図形科学Ⅰ	図形表現	大　月　彩　香	５１
		健康科学Ⅲ	アスリートの食事を科学する	斉　藤　篤　司	５４

授業概要とあわせて，「シラバス」で各授業の詳細情報を確認して授業に臨んでください。
シラバス　http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/

曜日時限	区　　分	授業科目名	副　　題	担当教員	掲載ﾍﾟｰｼﾞ
火曜4時限	文系コア科目	**思想史**	近代日本史におけるジェンダー	ゲルマー，Ａ．	２８
		歴史と社会	倭人の考古学	田中良之	３２
		心理学	知覚と動作の心理学	長野　剛	３６
		政治学	シティズンシップ教育	蓮見二郎	３７
		経済学	日本経済史入門	宮地英敏	４０
	理系コア科目	**生物科学Ⅲ**	動物生態学と環境	河内俊英	４２
		化学Ⅱ	身近な界面とコロイドの化学	瀧上隆智	４７
		図形科学Ⅰ	図形表現	大月彩香	５１
		健康科学Ⅰ	精神医学入門	一宮　厚	５４
火曜5時限	文系コア科目	**科学史**	近代科学の成立とその問題点	高橋憲一	２８
		歴史の認識	史料の世界と歴史認識	高野信治	３１
		文化人類学	文化人類学的視点とは何か	太田好信	３３
		教育学	多文化教育入門	スカリー悦子	３５
		日本国憲法	日本国憲法を読み解こう	徳永達哉	３８
	少人数セミナー	**少人数セミナー**	原子核と放射線応用のいま	池田伸夫	５５
		少人数セミナー	健康と社会	川本利恵子	５６
		少人数セミナー	英国へ行こう！	鈴木右文	５７
		少人数セミナー	薬・毒をめぐる話	野田百美	５８
		少人数セミナー	伝えることの真髄--プレゼンテーションを例に--	林　篤裕	５８
		少人数セミナー	文系学生のためのサイエンスラボ ～ワクワク実験！ ドキドキ体感！科学の世界～	山田秀人	５９
水曜3時限	理系コア科目	**生物科学Ⅰ**	環境と植物	上野　修	４１
		数学Ⅰ	古代ギリシャの作図問題	辻井正人	４３
		物理学Ⅰ	波動とセンシングの物理	水野大介	４５
		地球科学Ⅰ	地球惑星科学の発展と歴史	清川昌一	４９
水曜5時限	理系コア科目	**情報科学Ⅰ**	ネット時代の情報センス	南　俊朗	５２
	総合科目	**伊都キャンパスを科学するⅠ（計画・環境編）**		坂井　猛	６０
		糸島の水と土と緑		原田昌佳	６０
		映画の世界		鈴木右文	６０
		海外留学用ＩＥＬＴＳ講座		徳見道夫	６０
		環境科学概論		西山浩司	６０
		グリーンケミストリー		成田吉徳	６１
		社会連携活動論		小湊卓夫	６１
		女性学・男性学		野々村淑子	６１
		大学とはなにか―ともに考える―		折田悦郎	６１
		トランスボーダー時代の東アジア市民社会論		松原孝俊	６２
		日本事情		高松　里	６２
		遥かなる宇宙への誘い		藤原智子	６２
木曜1時限	文系コア科目	**歴史と社会**	日本をめぐる国際関係	益尾知佐子	３２
		文化人類学	文化人類学的視点とは何か	太田好信	３３
		心理学	学生期の心理的課題	吉良安之	３６
		政治学	政治学概論と中東政治	山尾　大	３７
		経済学	経営分析入門	丸田起大	４０
	理系コア科目	**生物科学Ⅱ**	ゲノムから疾患の理解へ	續　輝久	４１
		化学Ⅲ	量子化学演習	原田賢介	４８
		健康科学Ⅰ	健康と運動のリテラシー	林　直亨	５４

授業概要とあわせて，「シラバス」で各授業の詳細情報を確認して授業に臨んでください。

シラバス　http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/

曜日時限	区　　分	授業科目名	副　　題	担当教員	掲載ﾍﾟｰｼﾞ
木　曜 ４時限	文系コア科目	**哲学**	知識の理論	新　島　龍　美	２７
		文学	中原中也とフランス文学	西　野　常　夫	３０
	理系コア科目	**生物科学Ⅱ**	基礎分子生物学	前　田　勝　正	４２
		数学Ⅱ	常微分方程式の基礎と応用	小　磯　深　幸	４３
		物理学Ⅰ	相対性理論と不確定性原理への入門	河　合　　伸	４５
		化学Ⅲ	気体の地球化学	北　　逸　郎	４８
		地球科学Ⅱ	化石から地球の歴史を見る	松　隈　明　彦	４９
木　曜 ５時限	文系コア科目	**芸術**	西洋美術史・美学概論	東　口　　豊	３０
		歴史の認識	戦後東アジア国際関係史	益尾知佐子	３１
		教育学	実践の視点から教育を問い直す	田　上　　哲	３５
	少人数セミナー	**少人数セミナー**	言語政治学	郭　　俊　海	５５
		少人数セミナー	有機分子に見るナノの世界	古　賀　　登	５６
		少人数セミナー	日本語教育入門	小　山　　悟	５６
		少人数セミナー	科学英語入門　植物の保全と進化に関するトピックスを題材に	シュミット，A．E．	５７
		少人数セミナー	伊都国廃棄物資源化実習	清　野　聡　子	５７
		少人数セミナー	現地から考える歴史・地名から考える歴史	服　部　英　雄	５８
		少人数セミナー	グローバル社会における法と政治	フェニック，M.	５８
金　曜 １時限	文系コア科目	**哲学**	現代社会の哲学的諸問題	根　井　　豊	２７
		芸術	音楽と視覚表現	中　村　滋　延	３０
		先史学	人類の起源と進化	中　橋　孝　博	３１
		人文地理学	環境・人類・地域	佐　藤　廉　也	３４
		社会学	集団過程の社会学	三　隅　一　百	３９
	理系コア科目	**物理学Ⅲ**	光と原子核から宇宙まで	橋　本　正　章	４６
		地球科学Ⅲ	地球環境と鉱物	桑　原　義　博	５０
		図形科学Ⅱ	コンピューター図形表現	大　月　彩　香	５１
金　曜 ５時限	文系コア科目	**古典の世界**	古典日本語と韻文形式	高　山　倫　明	２９
		古典の世界	中国古典の世界	竹　村　則　行	２９
		文学	スタンダールの『赤と黒』を読む	髙　木　信　宏	３０
		心理学	心理学	箱　田　裕　司	３６
		法学	非法学部生向け法学入門	田　中　孝　男	３８
	少人数セミナー	**少人数セミナー**	対話の中の学び　未来を創る科学リテラシー	小島健太郎	５６
		少人数セミナー	レーザー光科学の基礎と体験	財　津　慎　一	５６
		少人数セミナー	現代物理学概要	篠　崎　文　重	５７
		少人数セミナー	持続的農業生産の理論と実践	望　月　俊　宏	５９
集中講義	総　合　科　目	**糸島農村留学**		岡　安　崇　史	６０
		九州地区国立大学間合宿共同授業		小　湊　卓　夫	６０
		タイの言語と文化		太　田　一　昭	６２
		東アジア社会の共通課題は何か？		松　原　孝　俊	６２
		フィールド科学研究入門		古　賀　信　也	６３
		放射線とは何だろうか？		續　　輝　久	６３
	総　合　科　目 （ＱＲＥＣ提供科目）	**アントレプレナーシップ入門**（※１）		五十嵐伸吾	６４
		アイデア・ラボⅠ（※１）		五十嵐伸吾	６４
		アントレプレナーシップ・マネジメントⅠ		山田仁一郎	６４
		アントレプレナーシップ・マネジメントⅡ		未　　定	６４
		テクノロジー・マーケティングⅠ		朱　　穎	６４
		テクノロジー・マーケティングⅡ		五十嵐伸吾	６４
		ハイテク・アントレナーシップ（※２）		五十嵐伸吾	６４

（※１）：水曜５・６時限開講　（※２）：金曜６・７時限開講

授業概要とあわせて，「シラバス」で各授業の詳細情報を確認して授業に臨んでください。
シラバス　http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/

【後期】

曜日時限	区　分	授業科目名	副　題	担当教員	掲載ﾍﾟｰｼﾞ
月曜 4時限	文系コア科目	**文学**	昭和３０年代の表象	波潟　剛	３０
		歴史の認識	東アジアと歴史認識	中野　等	３１
		文化人類学	現代文化論	古谷嘉章	３３
		政治学	政治の技法	岡﨑晴輝	３７
	理系コア科目	**化学Ⅰ**	分析化学入門	今任稔彦	４７
		地球科学Ⅱ	化石から地球の歴史を見る	松隈明彦	４９
		図形科学Ⅲ	デザインと図	竹之内和樹	５１
		健康科学Ⅱ	健康科学概論	永野　純	５４
月曜 5時限	文系コア科目	**科学史**	近代科学の成立とその問題点	高橋憲一	２８
		人文地理学	「都市」を考える	遠城明雄	３４
		日本国憲法	立憲主義と民主主義	植木　淳	３８
		社会学	健康と社会	川本利恵子	３９
	理系コア科目	**生物科学Ⅱ**	基礎細胞生物学ならびにヒト生物学	中西　博	４２
		情報科学Ⅲ	サーバサイドプログラミング論	天野浩文	５３
	少人数セミナー	**少人数セミナー**	食肉加工の理論と実践から食への理解を深めよう	池内義秀	５５
		少人数セミナー	思春期・青年期の生と性における発達課題とその援助-Who am I?-	野口ゆかり	５８
火曜 4時限	文系コア科目	**哲学**	知識の理論	新島龍美	２７
		歴史と社会	倭人の考古学	田中良之	３２
		心理学	異文化理解の心理学	高松　里	３６
	理系コア科目	**数学Ⅱ**	アーベルの人生とその数学	高瀬正仁	４３
		化学Ⅱ	環境の基礎化学	冨板　崇	４８
		地球科学Ⅲ	地球の肖像	青木義和	５０
火曜 5時限	文系コア科目	**思想史**	近代日本史におけるジェンダー	ゲルマー，A.	２８
		文化人類学	現代文化論	古谷嘉章	３３
		日本国憲法	日本国憲法を読み解こう	徳永達哉	３８
		経済学	日本の財政を考える	八木信一	４０
	少人数セミナー	**少人数セミナー**	化学の視点からみたシトクロムP450の生物化学	荻島　正	５５
		少人数セミナー	文系だって科学する!!(2012)	鎌滝晋礼	５６
		少人数セミナー	大学では教えてくれない大学生のための大切なコト	佐藤剛史	５６
		少人数セミナー	グローバル化の是非と日本の針路	施　光恒	５７
		少人数セミナー	納得できる物理学	副島雄児	５８
		少人数セミナー	微生物学入門	藤野泰寛	５９
		少人数セミナー	多文化関係論―多文化共生とコミュニケーション―	松永典子	５９
		少人数セミナー	簡単な計算で学ぶ天文学	山岡　均	５９
		少人数セミナー	化学の見かた－実験から考える身のまわりの化学－	山田秀人	５９
水曜 5時限	理系コア科目	**情報科学Ⅰ**	ネット時代の情報センス	南　俊朗	５２
	総合科目	**映画を通じて見るアジアと日本**		志水俊広	６０
		事実・意味・価値を捉え伝える－ＮＨＫ福岡放送局との連携授業		淵田吉男	６１
		性と社会のつきあい方		三隅一百	６１
		日本事情－福岡の地域社会と文化		白土　悟	６２
		ネオ・ノマド論		阿尾安泰	６２
		東アジアの地域統合論		松原孝俊	６２
		病気と社会と文化		山本和彦	６３
		水の科学		横山拓史	６３
		リスクサイエンス		下東康幸	６３

授業概要とあわせて，「シラバス」で各授業の詳細情報を確認して授業に臨んでください。
シラバス　http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/

曜日時限	区　　分	授業科目名	副　　題	担当教員	掲載ﾍﾟｰｼﾞ
木曜1時限	文系コア科目	**哲　学**	現代社会の哲学的諸問題	根井　豊	27
		芸　術	現代アートへの招待	石川幸二	30
		歴史と社会	アジア太平洋のなかのアメリカ	オーガスティン，M.	32
		人文地理学	環境・人類・地域	佐藤廉也	34
		心理学	学生期の心理的課題	山下親子	36
		経済学	行動経済学入門	木成勇介	40
	理系コア科目	**生物科学Ⅱ**	細胞から見た生命	田村茂彦	42
		数学Ⅲ	情報数学序論	権　寧魯	44
		物理学Ⅱ	カオスとフラクタル	本庄春雄	45
		地球科学Ⅱ	宇宙と星と地球の進化	石田清隆	49
		図形科学Ⅰ	図形表現A	志賀　勉	51
木曜5時限	文系コア科目	**古典の世界**	桐壺の巻を読む	辛島正雄	29
		法　学	紛争管理入門	入江秀晃	38
	少人数セミナー	**少人数セミナー**	鉱物結晶学入門	石田清隆	55
		少人数セミナー	星のソムリエになろう！―星空案内人資格認定講座―	藤原智子	59
金曜1時限	文系コア科目	**文　学**	中原中也とフランス文学	西野常夫	30
		歴史の認識	日本人の形成史	中橋孝博	31
		人文地理学	都市と地域の見方	阿部康久	34
		政治学	政治学概論と中東政治	山尾　大	37
		社会学	科学技術論	吉岡　斉	39
	理系コア科目	**生物科学Ⅰ**	環境・生活と病気	康　東天	41
		物理学Ⅲ	光と原子核から宇宙まで	橋本正章	46
		化学Ⅰ	身の回りの化学	末永正彦	47
		情報科学Ⅱ	高度プログラミング演習	久住憲嗣	52
		健康科学Ⅱ	運動とスポーツの心理学	杉山佳生	54
金曜5時限	文系コア科目	**芸　術**	ヴィジュアル･コミュニケーション･デザイン入門	米村典子	30
		先史学	東アジア先史学	宮本一夫	31
		教育学	生涯学習とキャリア形成	小湊卓夫	35
	理系コア科目	**物理学Ⅰ**	力学現象にふれる	巨海玄道	45
	少人数セミナー	**少人数セミナー**	歴史言語学：―日本語の起源・形成論を一例として―	板橋義三	55
		少人数セミナー	九州大学の歴史	折田悦郎	55
		少人数セミナー	中国の社会と留学交流	白土　悟	57
集中講義	総合科目（※1）	**九大インターンシップ**		小湊卓夫	61
		現地で学ぶタイの言語と文化		岡崎智己	61
		体験的農業生産学入門		望月俊宏	62
		フィールド科学研究入門		古賀信也	63
		分子の科学		奥村泰志	63
	総合科目（QREC提供科目）	**ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・プログラム**		谷川　徹	65
		アントレプレナーシップ・セミナーⅠ（※2）		未　定	65
		アントレプレナーシップ・セミナーⅡ（※2）		未　定	65
		アントレプレナーシップ機会認知（※3）		五十嵐伸吾	65
		アントレプレナーシップ・オーガニゼーション		黒木正樹	65
		アイデア・ラボⅡ（※3）		五十嵐伸吾	65
		ニュービジネス・クリエーション		五十嵐伸吾	65

（※1）：夏季休業期間（9月）に実施
（※2）：金曜5・6時限開講　（※3）：水曜5・6時限開講

授業概要とあわせて，「シラバス」で各授業の詳細情報を確認して授業に臨んでください。
シラバス　http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/

1－c．文系コア科目授業概要等

【哲学と思想】

人類の理性的営みとはそもそも何であるのだろうか。そこにはどのような特徴があるのだろうか。古代より哲学者，思想家とよばれる人たちが取り組み発展させてきた「知」そのもの，またそれを成り立たせてきた社会的・歴史的条件を知ることにより，私たちは人間理性の有する偉大さとその脆弱さを教えられます。そして，そのような理性的営みの特質を理解しておくことは，大学において学問を学ぼうとするみなさんにとっても極めて重大な課題でありましょう。「哲学と思想」の諸科目は多様な観点からこの問題にアプローチします。問題の問い方は――例えば，理性の働きについて理解を深めること，理性の成果と考えられる哲学や科学の歴史性を理解すること，このような営みをする人間とは何かを考えること，等々 ―― 多様ですが，それらはいずれも，大学で学問を学ぶもの全てに関わる問題と言ってよいでしょう。

哲　学　【2単位】

人間はロゴス（言葉・理性・原理）をもつ動物です。人間は理性を用いて人生をよりよく（より快適に，より安全に，より豊かに等々）生きるためにさまざまな知識を積み上げますが，それらは言うならば人生を生きるための道具としての知識です。しかし，人間のロゴスの根源的遂行とは，そのような手段には還元されることのない知を愛する営みにこそあり，それをギリシア人は「哲学(philosophia)」とよびました。人間がロゴスをもつ動物であるならば，ロゴスの根源的遂行としての哲学とは，単なる抽象的な原理の学問ではなく，人間そのものの究明です。それは，決して手段に還元されることのない，その意味では全く無用の，役に立たない営みですが，しかしこのような営みによってのみ人間は，自明な世界を再考し，深く人間を理解するようになってきたのも事実なのです。手段となる知のみがもてはやされる現代だからこそ，哲学の声に耳を傾けることがさらに重要となっているのではないでしょうか。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 （曜日時限）	備　　考 （テキスト）
共生のための哲学入門	鏑木政彦	皆さんは高校で，世界史や日本史，政治経済や倫理を学んできたと思います。これらは，専門的な学問を学ぶための基礎知識であると同時に，わたしたちがこの世界を生きるための「共生の実践」のための道具です。共生の実践のためには，必ずしも「真理」は必要ありません。共通の「みなし」が確立されれば，衝突しないで済むからです。本講義は，高校で学ぶ歴史や政治，また宗教という「共生の実践」のための道具について，そこにどのような「みなし」があるのかを共に考えながら，真の共生の探究を試みるものです。	前期（月４）	
知識の理論	新島龍美	「知る」とは何か。本講義は，この問いをめぐって，出来るだけ基礎的な考察を試みるものである。取り扱われる可能性のある主題は，懐疑主義，信念，真理，正当化，合理性，ゲティア問題，条件説，基礎づけ主義，斉合説，内在主義と外在主義，知識の諸形態（知覚，記憶，帰納）など。受講者は，上記の主題について，自分で思考する積極的な姿勢が求められる。	前期（木４） 後期（火４）	履修条件：九州大学ＨＰに掲載のシラバスにアクセスし，この授業科目のシラバスをプリントアウトして第一回目の授業時に持参すること。 テキスト：必要な資料は授業中に指示する。
現代社会の哲学的諸問題	根井　豊	人間の行為は，自然の出来事とは異なり，その善悪や正・不正が問われる。また未来の行為に関しても，自然法則に基づく予測とは異なり，「～すべきである」とか「～してはならない」等々の義務や規範が問題となる。そのような善悪や正・不正の規定根拠，また義務や規範の成立根拠を考察していく。これらの問題を個人的レベルから科学技術を媒介とした人間の集団的・累積的な行為のレベルにわたって考察し，現代社会が直面している哲学的・倫理的諸問題を提示していく。なお，本科目は「EUディプロマプログラム」の入門科目に該当します。	前期（金１） 後期（木１）	参考文献として， ①加藤尚武『現代倫理学入門』（講談社） ②黒田亘『行為と規範』（勁草書房） ③ハンス・ヨナ『責任という原理』（東信堂） ④ハンナ・アレント『人間の条件』（ちくま書房）

思想史 【２単位】

私たちは，自分は自分の考えや価値観を持って生活していると思っています。それらは，私たちを取り巻く社会から強く影響を受けていますが，しかし，この単純な事実も，深く自覚するということになると，そう容易いことではありません。例えば，現代社会の成立の契機となった市民社会の成立において重要な役割を果たした宗教思想や政治思想の歴史的転換をみてみると，現代市民社会の基本的な価値観として私たちが当然だと思っていたものが，実は思っていたのとはかなり違った考えに由来すること，時には全く反対の動機から起こったものであることを知ることができます。普段私たちは，そうしたことを知ることもなく生活をしていますが，一旦このような思想の由来を知ると，それを通して私たち自身のいままで無自覚であった思想や思い込みを自覚するようになります。自分はこうだと思う思い込みを抜け出て深く自分を理解するためには，このような思想史の視点が不可欠なのです。思想史は，社会思想史や政治思想史，宗教思想史など多様なテーマを話題としますが，共通するのは，このような歴史における思想の理解を通して，現代を生きる人間を深く理解しようとすることです。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
インド仏教思想史	岡野　潔	インド仏教は西紀前５世紀に誕生し，後13世紀にインド本国では滅んだが，その1800年の間，インド仏教は絶えず変化しつづけた。本講では，インド仏教の重要な文献を読み，インド仏教が経た四つの時期（原始仏教・部派仏教・大乗仏教・密教）を理解する。仏教文献は無数にあるが，特に仏伝文献，ジャータカ文献，宇宙論文献，初期大乗経典，密教経典に焦点をあてて説明を行う。	前期（月５）	テキスト：毎回の授業に資料を配付する。
西洋思想史入門	鏑木政彦	明治維新以来，日本は西洋の文物を受容し，近代化につとめてきました。西洋のものの考え方や世界のとらえ方は，今では私たち日本人にとっても不可欠のものとなっています。本講義では，このような西洋思想の考え方の特質を，まずは西洋思想の土台をなす古代ギリシア思想とキリスト教から学び，さらに西洋の近代的な思考法を代表的な哲学者に即して学びます。受講にあたっては，事前にＷｅｂシラバスにて授業内容や成績評価方法を確認してください。なお，本科目は「ＥＵディプロマプログラム」の入門科目に該当します。	前期（火１）	
近代日本史におけるジェンダー	ゲルマー，A.	私たちが自身について語るあらゆる言葉の背後には歴史があります。“自然”なカテゴリーのように見える為，不可変なものとして考えられがちな「男」，「女」といった言葉にすら歴史はあります。「男」や「女」，そして男女関係は，異なった時代や文化や地位において異なった姿や意味を表しています。ジェンダーという科学カテゴリーを用いて，そういった関係を社会的関係や権力構造として把握し，分析できます。つまり，ジェンダーは現象を分類する手段として理解されています。それは固有的性質の客観的な記述ではなく，社会的に了解された識別システムなのです。この講義では，日本の近代思想史におけるジェンダーに関わる議論を検討します。	前期（火４） 後期（火５）	

科学史 【２単位】

読んだとおり，「科学の歴史」を研究する分野です。通常は自然科学を対象とし，それがどの様に形成されてきたかを明らかにすることを通して，「（自然）科学とは何だろうか」を考察します。科学の意味を広義にとり，自然を統一的に理解する営みと理解すれば，科学史のカバーする範囲は，時代的には古代文明の発生から現代まで，地理的にはヨーロッパに限定はされず中国・インド・イスラーム等の活動も含むことになります。各時代と諸文明圏での科学的営為を知ることにより，現代の私たちが当然と思っている事柄 ── 例えば，自然法則が存在しそれは数学的に書ける，実験を行なう，科学者が研究活動をする，占星術は非科学だ，等々 ── へ新たな目が開かれるでしょう。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
近代科学の成立とその問題点	高橋憲一	「科学とは何だろうか」という問いに対して，科学の歴史を学ぶことから答えを探る。現代のような科学時代にあっては当たり前と思われている事柄――例えば，自然法則が存在しそれは数学的に書ける，実験を必須のものとして行なう，科学者が研究活動をする――も，ある特定の時代と地域において形成されたのです。それは，17世紀のヨーロッパでした。「科学革命の時代」と称されるこのときに，現代の科学観と自然観の基本的枠組みが作られたのです。その具体的な経過を学ぶことで，科学へ新たな目が開かれることを期待しています。	前期（火５） 後期（月５）	理科系の知識は特に必要とはしない。

【文学と芸術】

人間は古来，様々な文学作品や芸術作品を制作してきました。それは，人間が生存の中で経験する様々な感覚や感情，想念を形あるものに表現し，定着させたいという衝動を持っているからです。こうしたやむにやまれぬ衝動に動かされて，人間は時間と労力を投入し，腹の足しになるわけではない営みに没頭しました。これが初期の文学や芸術の創造の契機であったと思われます。こうして作られた文学や芸術作品は，それに接する者の心に美的快感や喜び，崇高の念などを生み出すようになり，やがて経済的価値を帯びるようにさえなりました。芸術創造や芸術鑑賞は，人間の精神衛生にとって必要であるだけでなく，社会的・経済的にも重要なものとなったわけです。「文学と芸術」の授業では，こうした文学や芸術が創造される過程や，それが鑑賞者の心に及ぼす印象の様相，影響力などについて，美学的・歴史的・社会的などといった様々な側面から考察することを目的とします。こうした考察は，結局，人間とはどういう生き物なのか，という大問題を考える上で，大いに役立つはずです。

古典の世界 【２単位】

あらゆる芸術作品には，それらを誕生せしめた諸条件 －地域性・時代性・社会性等－ が反映しています。したがって，国が異なり，時代が移り，社会が変われば，そうした芸術作品を理解することは，次第に困難となるはずです。にもかかわらず，すぐれた芸術作品は，しばしば，そのような制約をものともせず，国境を越え，時代を超え，社会・文化の違いを超えて，人々に感銘を与え続けてきました。そして，そのような芸術作品が，畏敬の念をこめて，古典と称されるのです。よって，古典の世界に触れるとは，時空を超えて生き続ける芸術作品の秘奥に迫ることにほかならないのです。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
とりかへばや物語の世界	辛島正雄	名前に聞き覚えはあるが，古文の教科書には載っていない，そんな古典を読んでみよう。『とりかへばや物語』は，かつて明治時代の碩学によって，「醜穢読むに堪えない」「嘔吐を催すのみ」と酷評された作品である。しかし，それほどまでに忌避された作品とは一体どのようなものであるのか，逆に興味が湧くというものではないか。この授業では，入門書を用いて，触れてはいけない（？）物語の世界を愉しむことにしたい。	前期（月２）	鈴木裕子編『角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックス日本の古典 とりかへばや物語』（角川学芸出版）
古典日本語と韻文形式	高山倫明	万葉集から近代短歌にいたるまでの韻文を対象に，主として「字余り」現象の観察を通じて，日本語のリズムと韻文形式について考察する。	前期（金５）	テキスト：資料を配付する。
中国古典の世界	◎竹村則行 柴田篤	中国のみならず日本やアジア，そして世界に大きな影響を与え続けてきた中国文明。悠久の三千年の蓄積を経て，国境や人種を越え，現代においても有用な中国古典がいくつも存在する。これらは人類共通の文化遺産である。この授業では，それらのうち，中国哲学や中国文学の名著名作を取り上げて吟味し考察する。中国哲学では，『論語』や『荘子』といった古典文献を取り上げ，古代中国人の思想について考察する（担当：柴田）。中国文学では，「長恨歌」や李清照，『紅楼夢』といった作品・人物を紹介し，中国文化の特性について考える（担当：竹村）。	前期（金５）	テキスト：毎時間，プリントによる。
桐壺の巻を読む	辛島正雄	誰もが知っている世界の古典『源氏物語』の最初の巻，「桐壺」を読んでみよう。ただし，この授業では，影印本を用い，くずし字で書かれたテキストで読んでゆく。活字本が登場する以前の，前近代の古典のありようも追体験してみよう。	後期（木５）	山岸徳平校注『青表紙本源氏物語 桐壺』（新典社）

文　学【２単位】

文学は，様々な芸術の中でも，知性の関与する度合いが高い芸術です。例えば，「音楽には国境がない」，などといわれるように，音楽を楽しむには，その国の言語や歴史を知らなくても大きな障害にはなりません。ところが文学作品を味わうには，まずその文字が読めなければ話になりませんし，童話は別として，作品に描かれる事柄の歴史的背景など，知識が多ければ多いほど，作品の理解度は高まります。虚心に作品と向かい合うことも大事ですが，作家の方は念入りに準備をしてその作品を書いたはずであり，読者の方もそれ相応の勉強が必要です。大学でわざわざテキストとして読むような作品の場合はなおさらです。「文学」の授業では，文学作品を研究するとはどういうことか，どのような手順が必要か，といったような事柄についても理解が深まるような読書の仕方を学んでゆきたいと考えています。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
日本近代小説を読む	松本常彦	日本の代表的な短篇小説を読解する。具体的には，国木田独歩，志賀直哉，芥川龍之介，太宰治などの代表的短篇について，作品の同時代性という観点から読解する。テキスト・資料は印刷したものを配布する。	前期（月４）	テキスト：授業中にプリントを配布

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
中原中也とフランス文学	西野常夫	比較文学的研究の一例として，日本の詩人，中原中也（1930～37年）が作品を生み出していく上で，外国文学とくに１９世紀後半のフランス象徴派に属するボードレールやランボーの影響をどのように受けているか，という点について考察します。その背景として，日本近代詩の形成に重要な役目を果たした明治期における西詩の邦訳（「新体詩抄」，「於母影」，「海潮音」）や，中原が詩を書き始める以前に山口の新聞に投稿・掲載していた短歌などにも触れます。	前期（木４） 後期（金１）	教科書は使いません。授業中に使う文献，資料はすべてプリントで配布します。
スタンダールの『赤と黒』を読む	髙木信宏	本講義では，１９世紀フランスの作家スタンダールによる長編小説『赤と黒』をとりあげ，同時代の歴史的背景や社会思潮を踏まえつつ，この作品の成立と魅力について解説する。小説家自身のパーソナリティがどのように創作に結びついているのか，また作品の有する現代的な価値とは何か，といった観点から，フランス近代小説としての諸特徴を考察し，さらにはジャーナリズムを積極的かつ戦略的に活用した創作方法について概説する。	前期（金５）	『赤と黒』をゴールデンウィーク明けまでに読了すること。 受講生数が多すぎる場合，受講者の制限を行う。その場合，初回の授業の出席者を優先する。 テキスト：スタンダール著『赤と黒』（どの出版社のものでも可）
昭和３０年代の表象	波潟　剛	本講義では，文学を通して昭和３０年代ブームについて考えます。近年，昭和期のなかでもとくに昭和３０年代について見直されていますが，現代の視点から５０年前の事柄がどのように描かれているでしょうか。また，なぜ３０年代がブームの対象となったのでしょうか。こうした問題設定をもとに現代の文学や映画などを読み解く一方で，同時代の文脈を参照することによって，受講者各自が自分なりに「昭和」の文学や文化を理解する場としていきます。	後期（月４）	受講希望者は初回のガイダンスに出席すること。

芸　術【2単位】

芸術というと皆さんは，美術や音楽，あるいは演劇や映画など，様々なジャンルを思い浮かべることと思いますが，これらの芸術はいずれも，私たちが精神的に豊かな生活を営んでいくうえで欠かすことのできないものであるといえます。また芸術は，私たちを取り巻く都市や建築，あるいは各種デザインというかたちで，日常生活の中にも浸透しています。さらに，価値観の多様化した今日では，「芸術」という概念自体が，既存の枠組みだけでは捉えることのできない広がりを有するようになってきていることも事実です。本講義ではこのような状況をふまえ，芸術とは何なのか，芸術はどのように作り出されるのか，芸術にはどのような役割があるのかといった問題について，様々な観点から考えていきます。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
西洋美術史・美学概論	◎東口　豊 京谷啓徳	本講義は文学部美学美術史講座に所属する二教員による，リレー講義形式の藝術学概論である。一般的に藝術は「感じるもの」あるいは「楽しめれば良い」と思われがちである。しかし，藝術作品も人間の精神的営為の産物である以上，様々な意図や背景となる状況を深く探求することが可能であり，その為には一定の学問的手続きが必要になる。本講義では京谷啓徳准教授がイタリア・ルネサンスを中心とする西洋美術を，東口豊准教授が美学やその他の藝術ジャンルを素材としつつ，藝術研究の基礎とその成果を概観することにする。	前期（木５）	受講希望者が講義室の人数を大幅に超過する場合，学籍番号の下一桁で受講制限を掛ける場合がある。
音楽と視覚表現	◎中村滋延 矢向正人 西田紘子	本講義は，芸術工学部音響設計学科の３人の教員によるリレー講義である。音楽は音を用いた芸術であるが，聴覚のみならず視覚にも結びついて発達してきた。音楽の記録のために音の視覚化の方法が進歩し，視覚化を伴うことにより新たな音楽表現が可能になった。聴覚と視覚には相乗効果もある。作曲家でメディアアーティストである中村は，視覚との結びつきによる新たな音楽表現の可能性を探る。西田は，視覚化を含めた音楽への多角的なアクセス方法について述べる。矢向は，日本の伝統芸能にみる音楽と身体表現との関連について概観する。	前期（金１）	（参考図書） 中村滋延『現代音楽×メディアアート』（九州大学出版会）
現代アートへの招待	石川幸二	現代アートについて無関心だったり，敬遠しがちな一般的な学生に対して，現代アートに関する疑問をプロジェクターによる作品鑑賞をとおして，解説し理解させる。現代アートを理解しつつその鑑賞方法（読み方）を学ぶ。絵画，彫刻，写真，インスタレーションなど多岐にわたる作品を鑑賞しつつ，毎回何を学んだのか自己確認をするために出席表の感想欄に感想や疑問を書く。	後期（木１）	現代アート（芸術）に関する書物を読んでおくこと。
ヴィジュアル･コミュニケーション･デザイン入門	◎米村典子 山下由己男 佐藤　優	この授業では，芸術工学部画像設計学科の教員３名が，各自の専門分野について講義します。米村（美術史）は，芸術作品を主題内容ではなく，素材と鑑賞環境およびその歴史という観点から検討します。山下（視覚光学）は，色彩を見る仕組みや色の見えの性質，私達の生活における色彩の利用の仕方に基づいて，芸術や伝統文化の中での色彩について解説します．さらに，佐藤（視覚デザイン）は，自分が望むことを的確に相手に伝えるコミュニケーションの技術としてデザインをとらえ，気持ちを形にする基本を，いくつかの例を通して学びます。	後期（金５）	適宜資料を配付する。

【歴史と文化】

歴史を理解するということは，ある立場から過去に起こった出来事を整理し，説明することと言い換えることができます。この「ある立場」はしばしばわれわれ自身が慣れ親しんだものの見方・考え方に影響されます。しかし，過去において，現在と同じようなものの見方・考え方に基づいて，人々が行動していたとは必ずしもいえません。過去の人々は，ことなる価値観に基づく異なる行動の様式をもっていた場合が多いと考えられます。だとすると，歴史を理解するということには，異文化の理解と，それを通じて自らが慣れ親しんだものの見方・考え方を捉え直す営みともいえることになります。本講義では，このような観点から，歴史と自文化・異文化のかかわりあいについて考えることにします。

先史学 【２単位】

古く文字の無い時代の歴史を追究する先史学では，遺跡から出土する様々な遺物はもとより，現代諸集団の生活・文化情報，あるいは最新の理化学的な手法による古環境，遺伝子に関する分析など，多様なアプローチによる多彩な情報を駆使した総合的な取り組みが要求される。ここでは，その歴史を刻んできた人間自身に焦点を当てて，はるか更新世の昔に遡る日本人の長い道程をたどる。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
先史学	田中良之	「歴史」とは本来文献記録の残されたものを指したが，近代以降は文献学以外の様々な分野が「歴史」へと参入した。文献記録のない社会を考察する学問として「先史学」が登場した。それは日本においては考古学と同一視されることが多く，また考古学の実態が先史学にきわめて近くなっていることも事実であるが，本来の先史学は「総合科学」である。それは，いかなる手続きや思考法でなりたっているのか？物質化した資料である土器や石器だけではなく，いかなる資料と方法で「文献のない歴史」へと迫っているのか？ この講義では，先史学という学問がどのようにして分析し，思考した上で「歴史」へと至るのか，基礎的な分析法や思考法を検討しながら，「物質から歴史を認識すること」の意義を述べることにしたい。	前期（月４）	
人類の起源と進化	中橋孝博	ヒトはいつごろ，どこで生まれ，どのような進化の道を歩んで来たのか。なぜ我々はこのような姿形で今ここに存在しているのか。今や700万年に及ぶとされる人類の誕生から現代人に至るまでの道のりを，世界各地で発見された化石や石器などの遺物情報，あるいは近年の遺伝子分析の結果などをもとに，これまでどのような議論がかわされ，現在どのような解答が得られているのか，今なお謎に満ちた人類の進化を考察する。	前期（金１）	
東アジア先史学	宮本一夫	東アジアの諸地域で地域社会がどのようにして生まれ，農耕や牧畜などの生業を異にしながら，どのように異なった地域社会へと変化していくのか，さらにどのようにしてそれぞれの地域社会が古代国家へと変質していくのかを講義する。また，それらの地域社会が決して孤立しているわけではなく，交流しながら互いに進化していく過程を述べる。	後期（金５）	宮本一夫『中国の歴史01 神話から歴史へ』（講談社）

歴史の認識 【２単位】

歴史とは何か？歴史はだれによって，どのように書かれ／語られ，どのように／何のために享受／消費されてゆくのだろうか？これらについて考えることを通じ，歴史とのよりよい「つきあい方」について考える。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
史料の世界と歴史認識	高野信治	歴史の認識とは，過去の事象を検証して史実を確定するということ，さらには私たちが生きる現代の時代性と価値観を相対化することなどにもつながる，知的な営為である。ただし，私たちはタイムマシンで過去を見聞する技術を有しておらず，その営為を支えるものは，文字史料などの様々な史料である。すなわち，その営為には，残された史料を通して，事実としての歴史を，叙述（認識）された歴史として知る，という段階が想定される。ここでは近世期の日本社会を対象にして，史料の世界にわけいり，その時代性を認識する営為に触れてみたい。	前期（火５）	特定のテキストは使用せず，授業中にレジュメを配布。
戦後東アジア国際関係史	益尾知佐子	中国は第二次世界大戦以降，国際政治において最も重要なプレーヤーのひとつであり続けてきた。この授業では，映像資料等を活用しながら，中国をめぐる東アジアの国際政治史（第二次世界大戦以降）を講義する。受講者には日本の立場とは違った角度から国際政治を観察する視点を養ってほしい。	前期（木５）	
東アジアと歴史認識	中野　等	「日本史」を中心とした東アジアの歴史過程をふまえ，具体的史実がそれぞれの国や時代でどのように教授・教育されていたのかを検証する。その際，史実認識の前提となる社会的背景にも留意したい。その上で，こうした歴史像の再構成や歴史教育が歴史認識の形成に果たした役割ついて考えていきたい。	後期（月４）	講義に際して適宜プリントを配布します。
日本人の形成史	中橋孝博	現在の日本列島に住む日本人はどのような歴史を経て形成されたのか。島国である以上，その形成史を問うことは大陸や周辺域との人の交流史を問うことでもある。足かけ３世紀にも及ぶ日本人の起源論争を振り返りながら，旧石器時代人や縄文人，あるいは縄文人から弥生人への移行問題など，いまも多くの謎を秘めた日本人の形成史を考えていく。	後期（金１）	

歴史と社会【２単位】

今日の社会を構成するさまざまな制度や仕組は，歴史の流れを通じて出現し，変化してきた。また，それらの制度や仕組みは，歴史を振り返ることを通じて維持され，また変化してゆく。また，どのように歴史を振り返るのかによって，今日の社会を生きる我々の社会との関わり方もきまってくる。本講義では，以上を念頭に置きながら，歴史と社会との関わりと，その望ましいあり方について考えることにする。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
倭人の考古学	田 中 良 之	日本人」の形成過程を歴史的にみていくことを通して，実際の歴史過程とそれが現代においてどのように「語られ」ているかをみて，歴史の「実像」と現代における「解釈」や「価値」との関係を検討する。 われわれがこんにち日常的に「日本人」と読んでいる集団は，もちろん日本という国家と不可分の関係にある。しかし，これが国家＝日本の成立以前の段階では，どのような人類／社会集団であり，どのような過程を経て形成されたのだろうか？この講義では，人類集団としての倭人／日本人を自然人類学の成果を検討しながら論じるとともに，社会集団としての倭人／日本人の形成過程を考古学の成果によって明らかにし，倭人／日本人の形成過程と倭／日本の形成過程の関係を考える。そして，その歴史過程がこんにちどのように「語られ」る傾向にあるかを検討して，歴史に対する態度を再考する。	前期（火４） 後期（火４）	
日本をめぐる国際関係	益尾知佐子	この授業では，特に2000年代の国際関係の動きを踏まえながら，日本の対外政策をめぐる諸問題について考えていく。分析にあたっては，経済的な側面も考慮するが，政治・安全保障問題を中心として捉えていく。	前期（木１）	簑原俊洋編『ゼロ年代 日本の重大論点―外交・安全保障で読み解く』（柏書房，2011年）
アジア太平洋のなかのアメリカ	オーガスティン, M.	この授業はアジア太平洋地域におけるアメリカ合衆国の歴史を探求するものである。米国史に対する理解を深める為には，旧来の西洋中心主義の歴史観から離脱し，環太平洋的な視点からアジアとアメリカの関係を見直す必要がある。特に十九世紀半ばから進んだ合衆国の西方拡張に焦点を当てる事によって，初めてアメリカが経済的・軍事的に世界大国に上昇した過程が明らかになる。	後期（木１）	

【地域と文化】

世界を見渡すとき，人間生活の営みは驚くほど多様です。それら多様な人間の営みをどのように理解すればいいのか，という疑問に答えるための視点もまた多様です。たとえば，社会組織や経済体系，ときには宗教や芸術などを，環境・地理的条件へ適応という概念を根底にすえて考察することが可能です。また，それらは，社会生活を営む人間が「世界はこうある」という前提のもとにつくりだした結果とも受け取れます。近年，生物多様性や言語多様性が危機に直面しているという警告を耳にした人も多いはずです。わたしたちがいま生活している世界も，急速に画一化されているように見える一方で，「文化的な違い」を再認識させられるニュースが世界の各地から日々届いています。科目群「地域と文化」は，単一の視点から把握することが難しい現代社会において，多様な地域と文化について理解を深めるために有効な諸科目 ―― とくに，人文地理学と文化人類学 ―― から成り立っています。

文化人類学 【２単位】

文化人類学は，欧米の近代社会にとっての他者である「未開社会」を研究する学問として，１９世紀後半に制度化された学問です。具体的には，植民地状況にあった諸民族や近代国家に組み込まれた世界各地の先住民族など，世界史の動向から取り残されたかの印象を与える人びとを研究対象にしてきました。文化人類学者は，長期間にわたり現地に滞在し，現地語の習得をとおして，現地の人びとの視点から，それらの人びとの生活を理解しようとしたのです。この不可能にもみえる努力の結果を，好事家の仕事や植民地主義の産物にすぎないとみなすことは適当ではないでしょう。なぜなら，文化人類学の成果は，ただ百科事典の項目を埋めつくす知識を提供したのではなかったからです。文化人類学は「未開社会」を内在的視点から理解しようとする過程をとおして，われわれが生きる近代社会の自明性を問い直す批判的作業もおこなったのです。つまり，未開社会についての研究は，近代社会を相対化する，という理解には不可欠な自己反省的視点をも同時に提供するのです。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
文化人類学的視点とは何か	太田好信	文化人類学の歴史を振り返ることから始め，最終的にはこの学問特有の視点――あるいは，思考の方法――を体得してもらうことを目指す。それはいったいどのような視点なのか，どのような歴史との呼応関係から生まれたのか，という疑問に答える。最終的には，現代日本社会においてそのような視点を身につけることに意味はあるのか，という学問の社会的意義に関する問いに答える。	前期（火５） 前期（木１）	受講にあたっては，世界に関心をもつことと同時に，自分の慣れしたしんだ世界を自明視しない心構えが必要である。 テキスト：太田好信・浜本満（編）『メイキング文化人類学』（世界思想社，2005年）
現代文化論	古谷嘉章	「文化」についての有力な語りである「国民国家」と「近代化」の語りを批判的に検討しつつ，現代社会において「文化」がもたされている意味，もちうる意味について，主として文化人類学とカルチュラル・スタディーズを理論的参照枠組みとして考察する。前半ではアンダーソンの『想像の共同体』に依拠しつつ，国民国家というモデルの下で「国民文化」という全体性が構築されるプロセスが，後半では，資本主義的近代化とグローバリゼーションの下でのさまざまなかたちの「文化」再編のプロセスが焦点となるだろう。	後期（月４） 後期（火５）	遅刻せず，静粛かつ真摯に受講すること。

人文地理学 【２単位】

地理学は，人間と空間の双方に着目して地球上の様々な現象を探求する学問です。大きく分けて地理学は，地表面上で営まれる人間の政治，経済，社会，文化的な活動に注目するか，地球上で展開される気象・気候現象や地形的な変化などの自然現象に焦点を絞るかによって二分されます。後者のような自然現象を扱う学問分野が自然地理学であり，前者のような人間の活動を扱う学問分野が人文地理学です。本科目は，人文地理学の基礎的な理論と事例を紹介し，地表面上における人間の営みの読み解き方を身につけることを目的とします。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
地域構造と地域計画	山下　潤	人文地理学は，地域で営まれる人間の経済，社会，文化，政治，歴史等の活動に着目し，このような地理的事象と，それらによって形成される地域構造を取り扱う。さらに人文地理学には，その実践科学としての側面として，これらの地域構造を基礎として策定・実践される地域政策の分野も含まれる。本科目は，地域の構造を解明する学問である人文地理学の基礎的な理論と，これら理論に基づく地域政策を，事例を交えて紹介し，地域の理論と実践を学ぶことを目的とする。	前期（月４） 前期（火１）	真摯な態度で受講されたい。授業中の私語・携帯使用厳禁。 テキスト：宮川泰夫・山下潤編著『日本・アジアにおける地域の構造と計画』（古今書院）
環境・人類・地域	佐藤廉也	人類の歴史は，世界の多様な環境への適応の歴史であるといえます。熱帯から寒帯，また海洋へと，人類は生業技術を開発することによってあらゆる環境に適応し，その技術を文化として子孫へ継承しつつ居住圏を広げてきました。本講義では，人間と環境との関わりを研究する学問としての人文地理学の研究課題を，アフリカや中国の地域研究を主な事例としながら，森林利用，環境問題，人口史，食文化といった題材について紹介し，地域性とそれを超えた普遍的な人間性を理解する方法を学びます。	前期（金１） 後期（木１）	人間に対する旺盛な好奇心を持つ学生の受講を希望します。
「都市」を考える	遠城明雄	１９世紀以降，世界は「都市化」の時代を迎えたといえるでしょう。人，もの，情報，金，エネルギーなどの流れが集中することによって，これまでは異なる規模の都市が世界各地に誕生するようになりました。この授業では，19世紀から現在にいたる都市空間・社会の変遷について考えたいと思います。	後期（月５）	
都市と地域の見方	阿部康久	インナーシティや都市再開発，人口移動，地域分化，郊外化，中山間地域の過疎化と「地域おこし」といった都市と地域に関わる諸現象や，グローバル化の進展に伴って私たちが住む地域がどのように変容しつつあるかという点（工業を中心とした産業の立地動向の変化，身近な地域の国際化，消費生活のグローバル化等）を見ながら，都市や地域といったものをどのように分析・理解していけば良いのかを考えてもらいます。また，学外にてインナーシティ地域や商店街，都市再開発の様子などを見学する機会も設けたいと思います。	後期（金１）	学外見学会は土日祝日等にも実施するので，できるだけ参加して下さい。

【教育と心理】

私たちは他者や社会と関わりながら，また学校や地域・家庭での教育という営みを通して，自己を形成していく。人間が学んでいく過程での「教育」のさまざまな現象について考える教育学，そして環境と関わる主体をもった人間の「心」について考える心理学の科目群である。

教育学 【2単位】

人間は生まれてから大人になる過程で家庭や地域や学校で教育というものを受けるし，大人になってからも死ぬまで人間は学び続ける。人間が変化する存在である限りそこには教育という営みが介在している。この講義では人間が「学ぶ」,「育つ」ということについて多角的に考えてみたい。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
教育と社会	荒 牧 草 平	教育現象を多角的にとらえるには，個々の人間の行為や認識について理解するとともに，それらをとりまく種々の要因（教育環境）による複雑な作用について社会学的に理解することが役立つ。この授業では，①教育社会学を中心とした関連する諸学問の知見をベースに，人間の行為や認識，集団・組織・社会構造・制度および社会的な相互作用に関する基礎的な理論的知識を得るとともに，②それらの知識と様々な統計資料や社会調査データの分析結果から得た実証的知見を総合して，具体的な教育現象を多角的に把握することを試みる。	前期（月５）	必要な資料は随時配付する。
多文化教育入門	スカリー悦子	グローバル化の今日，世界主義の現実，コミュニケーションスキル，英語習得の必要性がどんどん日本にも押し寄せている。世界主義の中では，世界と経済競争，文化間の誤解，偏見，差別などの課題が多い。我々日本人の多くは語学習得不足で国際化に遅れをとり，将来の経済問題の要因の一つとされている。母国の歴史文化を理解し，言語(英語)習得をし，他文化理解をして，その上で現地での直接異文化に触れ，初めて有効な相互文化理解が可能となる。本クラスは国際主義，世界主義，多文化主義の基本概念を学び，異文化の意味を理解する。社会心理学面からコミュニケーションプロセスの現実問題を挙げ，概論を基に講義を進める。異文化に触れるとき国内，海外異文化体験に大いに役立つと思われる。	前期（火５）	英語練習の場も提供したい。日本語のみならず是非英語で議論に挑戦してほしい。留学生も歓迎です。 テキスト：クラスで発表する。
実践の視点から教育を問い直す	田 上　　哲	我々は誰しもが教育を経験している。教育学は教育という営みを問う学問である。いろいろな領域やレベルで教育を問うことが可能であるが，本講義では，各学校段階の教育現場で実際に展開されている教育実践を中心に，その教育実践の基底をなす思想や原理，実践をとりまく環境や諸条件に焦点を当てる。具体的には，教育学全般を取り扱ったテキストを主たる資料として，受講生自身の教育経験のふり返りも交えて，教育実践レベルから教育の目的，教育の内容・方法，教育の制度・システム等を読み解き，問いなおすことを試みる。	前期（木５）	グループワークを実施するので，グループでの話し合いやシェアリングへの受講生への積極的な参加 を望む。 テキスト：仙波克也・有吉英樹・織田成和編著『教育学概 論』（コレール社） また，授業で適宜資料も配付する。
生涯学習とキャリア形成	小 湊 卓 夫	1960年代半ば以降，人生の中で常に学び続ける生涯学習という観点が強調されるようになってきた。社会人になっても，自身の今後のキャリア（職業のみならず個々人の生き方全般）を考え，自発的に学び続けることが多くなってきている。それに合わせて，大学をはじめとした教育機関による教育機会の提供は広がりを持つようになってきた。そこでこの授業では，生涯学習が必要とされる社会背景の理解とともに，自身の今後をどのように展望するのかという観点から，講義と演習を行う。	後期（金５）	各回の授業で資料を配付します。

心理学 【２単位】

主体としての人間の，環境や事象との関わり，また自己に起きてくる経験やそのメカニズムについて考えていく。身近な人間関係や学生生活を振り返りながら，受講学生自身の学生期の心理的課題について理解を深めることもねらいとする。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 （曜日時限）	備　　考 （テキスト）
人間関係の科学	福 留 留 美	対人関係のさまざまな局面についての理解を深めるために，心理学における知見を紹介する講義と，グループで交流を行う体験学習の２本立てで構成する。先ず対人関係の基盤となる自身の自己認知と他者認知の特徴を捉え，自分自身との付き合い方と他者と交わる際の視点を提供する。さらに学生期に関連したテーマについて，普段付き合うチャンスの少ない他学部生と face to face で対話を重ねることで，自己開示や交流への抵抗感を和らげることを目的とする。	前期（月４）	グループワークを中心とした授業を行う。
知覚と動作の心理学	長 野　　剛	心理学は心の理学として誕生して間もない学問領域です。心については，哲学が思弁的に問うてきています。また，理学としての研究方法を物の理学である物理学から借りて誕生しました。この講義の主題となる「知覚」と「動作」（心と身体の関係）は，哲学においても，そして物理学が人間の行為を問う場合においても基本的な関心事です。今日的な心理学的知見を紹介し，特に，コンピュータ（情報処理）が進歩し脳科学の成果が適用されるようになったこの時代ならではの「心とは，身体とは，何か？」という問いに，私たちの体験と五感を拠りどころにして取り組みます。	前期（火４）	講義のテーマにそって，参考文献を紹介します。
学生期の心理的課題	吉 良 安 之	大学生として過ごす期間（学生期）には，修学面だけでなく生活面や対人関係面においても，さまざまな変化が起こる。本授業の担当教員は学生生活・修学相談室の常任相談員（カウンセラー）であり，その経験にもとづいて入学期，中間期，卒業期に学生がどのような課題に向き合うのかを論じる。高校から大学への移行にあたっての喪失と適応課題，同性や異性との対人関係の課題，修学意欲や進路選択の課題，アイデンティティ形成の課題などのテーマを扱う。受講学生が自分自身の課題について考える機会も提供したい。	前期（木１）	自分自身の課題について考える機会も作ります。そのつもりで受講して下さい。 必要に応じて授業時間にプリント等を配布する。
心理学	箱 田 裕 司	心理学とは何か，常識とどのように異なるのか？　このことを理解してもらうために，科学的心理学が成立する過程について理解し，認知心理学の視点から現代心理学の全体像について概説する。心の科学としての心理学が成立するまでの歴史，心理学が用いる研究方法，心理学についての複数のアプローチ，心理学の主要領域について概説し，最後に最近の心理学の動向について紹介する。人の行動を心理学的視点から考えることが可能になることを期待している。必要に応じて，ビデオ教材やコンピュータによるデモを交えながら進めていく。数回のミニレポートを実施する。	前期（金５）	箱田裕司他著『認知心理学』（有斐閣）
異文化理解の心理学	高 松　　里	「異文化は理解できないから異文化である」ということが基本的な出発点である。講師は留学生センターのカウンセラー（臨床心理士）である。この授業では，カルチャーショックなどを扱うが，「異文化」とは必ずしも「外国の文化」を指すわけではない。実際には，国内でも，この授業の受講者間でも，自分とは「異質なもの」がたくさんある。様々な心理学的トピックスを取り上げ，「異質さ」とどのようにつきあい受け入れていくのか，あるいは受け入れることなどできないのか，受講者全員で考える参加型授業（仮想大討論会）を行う。	後期（火４）	留学生の受講も歓迎する。難しい日本語（若者言葉等）には解説を加える。毎年，定員240名を超える受講希望者があるため，受講制限を加える可能性が高い。参加型授業なので出席を重視する。 テキスト：「留学生超入門」（入学式後に新入生全員に配布）等
学生期の心理的課題	山 下 親 子	学生生活・修学相談室の相談員による授業である。この授業では，受講生が，①学生生活において出会う可能性のある危機的状況についての知識を習得すること，②そうした状況に直面した際に対応しうる資源について考え，学ぶこと，を目標としている。授業は次のように展開する。まず，学生生活において危機に陥りやすい時期やその時期に抱えやすい「問題」について講義を行う。また，講義の内容を体験的に理解し，学修目標の②について考える手がかりを提供するために，自己理解や自己表現のためのグループワークを数回行う。	後期（木１）	グループワークを数回行うので，そのような活動に積極的に参加してみようという意欲のある学生の参加が望ましい。また，大学生の心理について学ぶ授業であり，一般にイメージされる「心理学」の講義とは内容が異なることを理解したうえで受講すること。 テキスト：特に定めない。適宜，参考図書を紹介する。

【政治と法】

社会的存在である人間は，相互に自らを拘束する約束事や決定を生み出すことによって，一定の安定した生活を実現し，維持しようとしてきました。広く言えば，そのような決定のための制度や過程が政治であり，また社会生活維持のために人間が設けてきた規範が法です。このような政治と法は，時代や社会（国家・地域）に応じて異なるものであり，人間の歴史の中で今日に至るまでそれぞれ特徴的な展開を見せてきました。この科目では，国際・国内社会の両方を視野に入れ，政治及び法の制度・機能の特質を学習します。その際，主権国家だけでなく，地域や国際組織などが果たす役割や可能性についても，具体的な例を挙げながらわかりやすく解説を行っていきます。

政治学 【２単位】

この科目では，現代社会における政治の特質や機能を学習することで，広く社会と人間について考えていくための基礎を提供します。グローバル化やボーダレス化の進展により，政治学において中心的役割を担っていた主権国家や，主権国家からなる国際社会は大きく変容しています。これらの変化は私たちの生活とどのように関連しているのでしょうか？私たちはこれからどのように社会とかかわっていけばいいのでしょうか？現代社会における「政治」とは，従来私たちが考えていた「政治」と同じなのでしょうか？これらの問題を，思想，制度，歴史などに焦点を当てつつ，できるだけ具体的な事例を通して解説していきます。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
シティズンシップ教育	蓮 見 二 郎	この授業の目標は，一人の市民として政治参加を行うのに必要な知識・技能・価値観――すなわち，政治的リテラシー――を高めることにある。具体的には，政治に参加するにあたってどのような知識や技能が必要なのか，市民はどのような権利と責任を持つのか，自分たちの力で政治や社会を変えるにはどうしたらよいのか，などの諸問題に関わっている。本授業ではワークショップ形式による演習によって，受講者諸君の自分たち自身の問題としてこれらのテーマに取り組んでいく予定である。	前期（火４）	受講者には積極的な参加を要望します。
政治学概論と中東政治	山 尾　　大	現代世界には，様々な政治の在り方がみられる。西洋諸国の政治と途上国のそれは，多くの側面で異なる性格を持っている。こうした現実を踏まえ，この授業では，前半で，西洋諸国の政治のありようを前提として構築されてきた政治学の理論を概観する。こうした前提をもとに，後半では，西洋諸国とは異なる政治システムを持つ途上国の政治を，中東諸国の事例を中心に講義する。	前期（木１） 後期（金１）	久米郁夫他編『政治学』（有斐閣）（必要に応じて使用します。事前準備，および購入は不要。）
政治の技法	岡 﨑 晴 輝	現代日本政治は，明治以来の官僚主導の政治（国家統治）から市民主導の政治（市民自治）へと大転換を遂げつつあります。市民は政治の客体ではなく，政治の主体になりつつあるのです。こうしたなか，市民一人ひとりには，市民自治の主体にふさわしい，政治的に成熟した思考や技術を身につけることが求められているように思います。この授業では，現代日本に生きる市民一人ひとりに求められるであろう政治的な思考や技術について学んでいく予定です。	後期（月４）	丸山眞男『丸山眞男セレクション』平凡社（平凡社ライブラリー）

法　学 【２単位】

２００１年６月に司法制度改革審議会が意見書を内閣に提出して以来，審議会の意見書に盛り込まれた内容は，法曹人口の増加，法科大学院制度の導入，裁判員制度の導入など，着々と実現されつつある。これらは，広く，それまで必ずしも市民にとって身近に感じられなかった「法」と，「市民」の距離を近づけようという動きであると位置付けることもできる。いまや，法は，我々にとって，「他人事」にはできない事柄なのである。この講義では，そのような「法」について，法の非専門家にとってもわかりやすい解説を行うことを目指す。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
実践的法律入門	ヴルブカ・シュテファン パーウェルス・ルーベン	This course encourages students of all faculties to get some basic understanding of the law and law-related topics, while at the same time offering students a chance to improve on their English vocabulary and communication skills. It will cover very basic fields of law to enable students to get a first impression of what the law is, how it influences daily life, and how it interacts with the students' own field of interest.	前期（月２）	授業は主に英語で行います。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
紛争管理入門	入江秀晃	もめごとが起きたとき，直接交渉したり，法律相談をしたり，調停をしたり，裁判をします。このような様々な手続の選択の中で，人々は紛争とつきあっているわけですが，そのような活動総体を理論的に捉えようとする学問が紛争管理論です。法学と題する講義としては偏った内容であること，期末に4000字のレポートを課すこと，出席をとること，授業中に参加者に様々なワークを要求する（面倒な授業である）ことなどに納得した上で履修いただければ幸いです。法学部生の履修も認めますが，内容は他学部向けです。	前期（月５） 後期（木５）	１回目にガイダンスを行いますので，必ず出席して下さい。
非法学部生向け法学入門	田中孝男	本講義は，法学部以外の学生諸兄に対し，日本における法制度を中心にして，法学の意義と基本的な考え方を身につけていただくための初歩的な，ないし入門的な事項を提供するものである。法学は，人類史上，もっとも古くから存する学問の一つであり，その全貌を１５回ほどの講義で明らかにすることは，到底叶わない。ここでは，法の意味や法的な考え方，さらには，日本における法制度の体系やその基本的な内容を説明し，諸兄の学ぶ学問分野との相対的な差異等を認識していただければと考えている。	前期（金５）	中山竜一『ヒューマニティーズ法学』(岩波書店，2009年) 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門（第４版)』(有斐閣，2005年)

日本国憲法　【２単位】

戦後６０年のあいだ，日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について，ここ数年，その改正も含めて様々な議論が展開されている。文系・理系を問わず，これからの日本社会を背負っていく九大生にとって，いま憲法について学んでおくことは極めて重要な課題の一つであるだろう。この講義では，日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
立憲主義と民主主義	植木　淳	日本国憲法における「人権尊重主義」「民主主義」「平和主義」を学ぶことによって，主権者たる市民として，国や社会の在り方を考えるうえでの手がかりとすることを目的とする。	前期（月５） 後期（月５）	大隈義和他編『憲法学へのいざない（第２版)』(青林書院・2012年)
日本国憲法を読み解こう	徳永達哉	日本国憲法に対する基本的な理解を深めることを本講義の目的とする。講義は３つの領域からなる。第１は，日本国憲法の歴史的源流であり，第２は，日本国憲法の構造と機能であり，第３は，日本国憲法と社会生活との関わりである。この法の社会生活との関わりでは国際的な関係も含む。これら日本国憲法の公理は，条文なかに体現されていることから条文の逐条解説が講義の中心に据えられる。	前期（火５） 後期（火５）	手島孝，安藤高行編『憲法新教科書』(法律文化社)

【経済と社会】

モノの生産・流通・消費の仕組みと，人びとの行動や集団形成の仕組みとは，不可分に関わり合いながら，時代と地域に応じた人間生活のあり方を基礎づけてきました。とりわけ１９世紀以降の資本主義経済を軸としたその変容は，グローバル化する現代日本の経済・社会を理解し，その将来を見通すために，重要な意味をもっています。この科目群ではとくに近現代の世界と日本を念頭におきながら，経済と社会を中心とした現代社会の構造と変動を学び，絶え間なく変化する経済・社会現象のなかに法則性を見いだす思考能力や，隠れた排除や対立の仕組みを察知できる複眼的な視野を養うことを目標にします。また，経済・社会のグローバルな問題状況と自らの生活との関わりを理解する共感能力を養うとともに，自らの専攻する学問との関わりを考察する能力を養うことを目標とします。

社会学 【２単位】

社会は，人びとの行動，人と人との関係，それらが折り重なった集団・組織活動によって成り立っています。それらが集積して社会が成り立ち，動き，一方で個人を拘束していく，そのメカニズムはどうなっているのでしょうか。また，そこに込められた人びとの思念や感情が集積して，言説や記憶として個人を離れ，また包み込んでいく，そのメカニズムはどうなっているのでしょうか。こうした視点からみるとき，当たり前の日常や，常識として疑わなかった事柄が，違った姿を表してくるはずです。この授業では，できるだけ近現代日本の社会状況に関する具体的な素材を取り上げながら，こうした社会学的視点を講義します。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
情報社会論	杉山あかし	社会学の視点から現在進展している社会の情報化を分析する。人間社会のどういった側面が新たなコミュニケーション・テクノロジーによって変動していくと考えられるのかを検討する一方，情報化を推進する社会的契機についても検討していく。産業化，消費社会化といった社会変動を推進した社会的メカニズムについて再考察を加え，情報化が要請される社会的背景と，今後の社会変動の方向性について検討する。	前期（月２）	
ナショナリズム論	直野章子	「ナショナリズム」という言葉は，日常的に使用される一方，学術的に定義することが最も難しい概念の一つだと言われます。「国民主義」「国家主義」「民族主義」といった，それぞれ違う意味の言葉に訳されることからもわかるように，「ナショナリズム」は一つの定義を持つ概念ではないのです。本講義は，ナショナリズムという概念の多義性を踏まえつつ，１）社会学における主要なナショナリズム論を概観し，２）教科書，記念碑，映画，スポーツなど，具体的な文化の場におけるナショナリズムの生成や働きについて考察していきます。	前期（月４）	グループ・プロジェクトの課題を出しますので，責任を持って共同作業に取り組むことが必要となります。 テキストは講義のなかで随時紹介していきます。
集団過程の社会学	三隅一百	社会はさまざまな社会関係，集団，社会ネットワークによって構成され，それらのダイナミズムによって動いています。そのように社会の構造と変動のコアになる集団過程の基本的な仕組みを読み解きます。この謎解きは社会的役割，社会的ジレンマ，社会関係資本など，いくつかの重要な社会学理論に私たちを導きます。簡単な数学を用いたモデル分析を活用しますが，特段の数学的予備知識は必要ありません。集団過程の理論と方法を学ぶことで，文理を問わず多くの学生諸君に社会学のおもしろさ，そして社会の奥深さを体感してほしいと思います。	前期（金１）	
健康と社会	川本利恵子	社会の中で生活している人間の健康に焦点をあて，社会生活の仕組みや成り立ちが人間の健康に影響を及ぼしているか，本講義では考えていきます。まず，人間の誕生と生涯発達，特に性と健康について検討します。人間は誕生とともに社会の中で生活していきますが，そのライフサイクルにおける家族の健康と社会生活の中で重要な保健医療福祉についても考えていきます。さらに発展させ，地域社会における健康問題についても論じます。	後期（月５）	適宜教材を指示する。
科学技術論	吉岡　斉	２０１１年3月１１日，東日本大震災が勃発し，それによって東京電力福島第一原子力発電所において，史上最悪クラスの過酷事故が発生した。その影響は甚大であり，しかも時間的にも空間的にも，非常に広い範囲に及んでいる。この授業の目的は，この福島原発事故の全体像を理解し，またこの事故の世界と日本の原子力発電事業にとっての意味を，理解することである。そのためには自然科学，社会科学，および歴史についての幅広い知識が欠かせない。そうした基礎的な知識を身につけながら，福島原発事故にアプローチする。	後期（金１）	高校で物理学を履修しなかった学生でも，理解できるよう配慮する。 テキストは指定しない。参考書は授業中に随時紹介する。

経済学 【２単位】

新興市場諸国を巻き込んだグローバル化の進展や情報通信技術（ＩＣＴ）革命により，世界や日本の経済や経営は，大きな変貌を被りつつあります。そうした現代の経済や経営について，理論・歴史・制度・政策などの多様な切り口から考えます。一見複雑で，捉えどころなく見える現代社会の諸現象も，経済学や経営学のごく簡単なツールを身につけてアプローチするだけで，それまでとは全く別の見方ができるようになるかも知れません。そうした経済学的思考の世界に受講生を誘います。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
経済学基礎／中国経済入門	堀 井 伸 浩	履修対象の学生は必ずしも経済学を専攻しないことを踏まえ，経済学の基本的な視点を軸に構成し，良き社会人として生きていくために「役立つ経済学」を習得してもらえるような内容としたい。既に経済学を履修した学生には繰り返しになってしまうかもしれないが，理論的な内容よりも現実への適応を重視した説明をするため，意外と新しい知見と感じることがあるかもしれない。経済学の基本的視点の説明と中国の実態分析とを組み合わせて説明することで実践的に経済学の理解を促す。また中国経済論の導入的な分析も盛り込む。	前期（火１）	
日本経済史入門	宮 地 英 敏	バブル経済崩壊後の長期不況に苦しむ日本経済を前にして，我々はいかにこの国の経済が力強く成長してきたのかを忘れてしまっている。幕末開港からバブル経済までの日本経済を簡単に見渡すことにより，もう一度，日本がどのようにして経済成長を実現し，その中でどのような問題を克服してきたのかを確認することとしよう。高校レベルの日本史の知識があることを前提に授業は行うが，歴史の記憶を要求するような事はしない。近現代日本の歴史の流れを，大まかに理解して貰いたい。	前期（火４）	武田晴人『日本経済の事件簿（新版）』（日本経済評論社）
経営分析入門	丸 田 起 大	経営分析の基礎を学びましょう。会社の「通信簿」である損益計算書や貸借対照表の仕組みと読み方を理解し，業界をリードする有名企業，不祥事を起こした企業，あなたが就職したいあこがれの企業，などの経営状態や競争戦略を読み解くことできるようになります。講義を受けながら，新聞を読んだり，ニュースを観るのが楽しくなりますよ。	前期（木１）	政岡光宏編著『初めて学ぶ財務諸表分析』（同文舘）
日本の財政を考える	八 木 信 一	この授業では，現在日本が抱える財政問題を素材にしながら，「政府のお財布」を対象とした経済学である財政学を学ぶことができる。財政学は「政府のお財布」を対象とするため，取っ付きにくさを感じるかもしれない。しかし，年金，国の借金，税，および地方分権といったこの授業で取り上げるテーマは，受講者の現在と将来に関わるものばかりである。この授業を通して，財政学が取り扱う事柄の身近さを感じてもらうこと，そしてそれによって生み出された関心や興味を，学問としての財政学にくぐらせることを，受講者ができるようにしたい。	後期（火５）	グループ・ディスカッションを取り入れた授業にするので，通常よりも厳しい履修制限をかける予定である。また，受講者には第１回の授業から，九州大学Ｗｅｂ学習システムでの授業資料の入手を求める。 授業でテキストは使用しないが，開講までに読んでおいてほしい文献として，神野直彦（2007）『財政のしくみがわかる本』岩波書店（岩波ジュニア新書566）を紹介しておく。
行動経済学入門	木 成 勇 介	経済学はこれまで，「人間は合理的である」と仮定することで，人々の様々な行動を数学的に記述し，現実の経済・社会現象を説明することに成功してきた。しかし，近年の研究で，人間は経済学が仮定してきたほどには合理的ではないことが明らかとなり，現在ではその乖離に関する研究が盛んである。この講義では，人間はそれほど合理的ではないと考え，人間の心理や感情，非合理的な側面が経済活動に与える影響を研究している行動経済学を学ぶ。	後期（木１）	多田洋介「行動経済学入門」（日本経済新聞社）

1-d．理系コア科目授業概要等

【生物科学】

現代の生物科学の進展を様々な分野にわたって概説する。各講義ごとに生物科学のどの分野にどのように重点を置くかが異なる。分子生物学・細胞生物学等を中心としたミクロな分野での生物科学の進展を重点的に解説する講義，集団生物や進化や生態といったマクロな分野での進展を重点的に解説する講義，動物・植物・昆虫・人類といった生物科学の対象としているものを絞り込んでの講義などを行う。生物資源・環境・保全・バイオテクノロジー・生命倫理などの現代生物科学が私たちの社会と深く関わる問題に関連するような講義も行う。

生物科学Ⅰ【2単位】

現代の生物科学の広範な進展をふまえわかりやすく解説する。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
環境と植物	◎上野　修 望月俊宏 尾崎行生 西本悦子 比良松道一	現在，環境問題に対する社会の関心が高まっているが，その中で植物の環境負荷軽減に果たす役割が注目されている。このような観点から，本授業では植物と環境との相互作用に重点を置きながら，植物に特有なエネルギー変換と代謝系，植物に対する光，温度，水分等の環境要因の作用とその反作用，環境変化に対する植物の遺伝学的および形態学的応答と適応，植物の植生変化および地理的分布と環境条件との関係，植物の生育環境の最適化等について複数の教員が分担して講義を行う。	前期（水３）	
環境・生活と病気	◎康　東天 内海　健 神吉智丈 栁　雄介 大野真治 小田義直 相島慎一郎 小野悦万 藤本佳徹 岩城　 吉田眞一 藤井　潤	私たちの体の正常な生理機能が，遺伝的あるいは環境的要因（化学物質，病原体，放射線など）によって侵されることにより様々な病気が発生します。病気の発生メカニズムについて総論的な説明をしたあと，癌，感染症，免疫疾患，神経疾患など個別的な病気と老化について一緒に考えていきます。	後期（金１）	医学部(医学科，生命科学科，保健学科)の学生は受講しないこと。

生物科学Ⅱ【2単位】

現代の生物科学における，分子生物学，細胞生物学等のミクロな分野の基礎を概説し,遺伝子操作等を中心とした応用分野への理解を深める。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
基礎酵素学	◎植田　正 阿部義人	酵素は生体で化学反応を促進する蛋白質である。まず，酵素がどのような仕組みで化学反応を促進させているかについてわかりやすく解説する。また，生体内では多数の酵素が整然と働くことにより，生命活動が維持されている。そこで，細胞内で多数存在する酵素が目的の化合物をいかに見分けているかを解説し，蛋白質の分子認識論まで話を展開する。さらに，蛋白質が関わる医薬品の話題も提供する。	前期（月４）	高校で化学Ⅱを履修していないという前提で講義を行うので，一部，化学Ⅱの履修者は高校の授業内容と重複するかもしれない。しかし，大学の教養科目として，高校より掘り下げた内容を教授する。
ゲノムから疾患の理解へ	◎續　輝久 中津可道 井原健二	遺伝子・ＤＮＡを中心とした分子生物学的な知識の基礎について解説し，最近のバイオテクノロジー，とりわけ医学・医療方面での応用についての理解を深めることを目的に編成しています。基礎的な内容として，１．ＤＮＡと染色体，２．ＤＮＡの複製と修復，３．ＤＮＡからタンパク質へ（細胞がゲノムを読み取るしくみ），４．遺伝子発現の調節，５．遺伝子と細胞の操作，を講義し（指定教科書の第５章～第８章，第１０章に相当），さらに「遺伝子と疾患　１・２」として「癌（第２０章）」「遺伝子診断／治療」の臨床系の話題を提供します。	前期（木１）	中村桂子・松原謙一監訳『Essential 細胞生物学 原著第3版』南江堂 (978-4-524-26214-4) 2011年発行。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
基礎分子生物学	◎前田勝正 坂井英隆 赤峰昭文	本授業では，科学の本質や生物学とはどんな学問であるのかを概説するとともに生物の基本構造である細胞に焦点をあてて細胞の形態，活動するためのエネルギー，さまざまな活動を担うタンパク質，多細胞生物のしくみとその発生，個体を守る免疫のシステム，個体としてのまとまり及び生物の進化と多様性について講義する。本授業では，学生の皆さんに巧妙に作られた生命現象を分かりやすく且つおもしろく講義する事で細胞生物学に大いに興味を持って頂きたいと願っている。	前期（木４）	和田　勝『生物学・細胞生物学』（羊土社，2001年第２版）
基礎細胞生物学ならびにヒト生物学	◎中西　博 塩田　進 久木田敏夫	動物細胞の基本的な構造と機能を理解し，細胞増殖・分化，組織形成・再生，生体感染防御ならびにクスリに対する生体反応の仕組みを概説する。	後期（月５）	
細胞から見た生命	◎田村茂彦 本庄雅則 藤木幸夫 島崎研一郎	地球上で生命活動を営む動物や植物の基本的な機能はすべて細胞という単位で担われている。この細胞の営みを核酸，タンパク質といった構成分子の形や働きをもとにして解説する。本講義の前半部分では，植物に固有な細胞器官で地球上の生命活動の基盤となる葉緑体の働きを，光の受容から光合成炭酸固定に至るまでの一連の過程を概説する。後半部分では，特に動物細胞における細胞内小器官の形成とこれらが細胞機能を担うシステムについて概説し，その障害に起因した疾患や遺伝子操作など最新の実験手法についても身近なトピックスを交えながら解説する。	後期（木１）	

生物科学Ⅲ【２単位】

現代の生物科学における，集団生物，生態，進化などのマクロな分野の進展を概説し，環境・保全などの応用分野への理解を深める。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
動物生態学と環境	河内俊英	地球上の生物多様性の価値がようやく認識され，その保護がはじめられた。生物多様性は人類にとっても重要なものでありその理由について考えてみたい。野生動物の個体数変動や生態，他の生物との相互関係を知ることは重要である。「食うものと食われるもの」の関係をみると実は相互に依存し合っており，弱肉強食という一方的な関係ではないことがわかる。人口爆発や食料問題を考えるときに，他の動植物の存在を無視しては解決できない。人間のことを知るには，動物のことを知る必要があると考える。またヒトの食べるものは全て生物そのものであることを認識して欲しい。 この講義では，動物の数の変動や相互関係，競争関係，共存のメカニズムなどを扱う。さらに環境汚染や環境破壊が野生動物に与えている影響が，将来ヒトにとって問題がないのかということも考えてみたい。	前期（火４）	毎回出席をとり，その都度講義について簡単な質問や感想を提出してもらいます。 テキスト：河内俊英『生き物の科学と環境の科学』（共立出版）

【数　学】

現代社会では数学がいろいろな場面で働いている。高度な科学技術を支える数学から日常生活での数学的なものの考え方まで様々である。この科目では以下の３つの分野で各教員が数学の働きが見えるように講義をする。

数学Ⅰ【２単位】
（経済学部を除く文系対象科目。理系の学生(※経済学部学生を含む)は，この科目を履修できません。）

文系の学生にとっても高度な数学を利用する機会が増している。将来そのような場面で，高校数学以上の数学の基礎を学んでおくことは助けになる。この科目では数学を基礎から学びたい学生に線形代数と微分積分学を講義する。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
古代ギリシャの作図問題	辻 井 正 人	「定規とコンパスで与えられた角の３等分を作図せよ。」というのは有名な古代ギリシャの３大作図問題の一つである。講義ではこのような作図問題をモチーフにして，関連する数学の話題を取り上げる。前半は正五角形の作図のような具体的な作図問題について実際に図を描いて考えることにする。実は，古代ギリシャの３大作図問題はいずれも2000年の試行錯誤を経て「作図できない」ということが証明される。後半では少々難しいが「不可能」の証明がどのようにできるかについて解説する。	前期（水３）	定規とコンパス，および作図用の上質紙を数枚用意すること。

数学Ⅱ【２単位】

数学の特徴は，証明による厳密な議論の展開にある。この講義では数学の厳密な理論がどのように展開されるのか，具体例を使って紹介する。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
Google の PageRank と線形代数	石 井　豊	インターネットでの検索エンジンの中でいま最も人気が高いのは Google（グーグル）であろう。Google が成功した最大の要因は，無用なウェブサイトを自動的に排除する検索結果の的確さにある。この検索アルゴリズムに用いられるのが，ウェブサイトの重要度を表す PageRank（ページランク）と呼ばれる指標だ。この指標の値が高いほどそのウェブサイトは検索結果の上位に表示される可能性が高くなり，ビジネスなどの面で大きなアドバンテージとなる。実はこの PageRank のアイデアは（理工系の大学１年生なら誰もが学ぶ）線形代数と呼ばれる数学を少し応用しただけなのである。この講義では，PageRank の概要とその計算アルゴリズムを解説し，あわせてその理解に必要な線形代数の基本事項について説明する。	前期（月４）	線形代数の知識は仮定しないので，意欲ある文系の学生の聴講も歓迎する。簡単なプログラミングが出来るとなお良いが，これも必須ではない。
常微分方程式の基礎と応用	小 磯 深 幸	微分方程式とは未知関数とその導関数の関係を式で表したものであり，自然界のさまざまな現象を記述し解明する手段として利用されている。本授業では，一変数関数の微分方程式である常微分方程式の基礎理論，解法，及び，常微分方程式によっていろいろな（数学的，物理的，社会的）現象がどのように記述されるかについて解説する。さらに，常微分方程式が応用される重要な分野のうちから変分法（無限次元空間上の極値問題）をとりあげ，力学や幾何学に関連する例を用いることにより，その基本的方法を解説する。	前期（木４）	教科書，参考書については講義時に指示する。
アーベルの人生とその数学	高 瀬 正 仁	アーベルは１９世紀はじめのノルウェーの数学者です。ドイツの数学者ガウスやフランスの数学者コーシーの影響を受けて，代数方程式論，楕円関数論，アーベル関数論，実解析の領域で大きく寄与し，近代数学の根底を確立した数学者のひとりになりましたが，貧しい生活が続き，社会的地位も得られないまま，満２６歳で病気で亡くなりました。薄幸の天才です。当時のヨーロッパの政治的状勢とノルウェーの位置を背景にして数学者アーベルの人生と数学を語り，学問研究ということの姿を語りたいと思います。	後期（火４）	講義を聴けば必ず理解できますが，適切な参考書はありませんから聴講しないとわからなくなります。必ず出席し，講師との質疑応答に積極的に参加することを期待します。 テキストはありませんが，ときどき印刷物を配布します。

数学Ⅲ【２単位】

数学は長い時間をかけて現在の形をつくってきた。しかも今でも新しい発見がある。そのような数学は，「文化としての数学」，「自然科学とかかわりのある数学」，「コンピュータ・サイエンスと関わりのある数学」といった様相を持っている。それらのなかから話題を選んで講義をする。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 （曜日時限）	備　　考 （テキスト）
社会における数学の活用	落 合 啓 之	数学は古代から学芸，文化，技術の秘宝と認識されており，その重要性は変わらない。また，台風の進路などの天気予報，原子力発電の内部のような見えない場所の計測，携帯電話の通信などの暗号セキュリティや高速化，株価，債券，為替の価格変動の記述，ＭＲＩ やX線検査のような医療診断などでも使われており，それぞれ，微分方程式論，整数論，確率論，積分方程式論など，１年次に学習した微分積分学や線形代数学の直接の延長線上にあるものである。この科目では，微分積分学と線形代数学の延長線上に広がる数学の世界の一端を紹介する。	前期（月２）	
情報数学序論	権　寧 魯	情報数学の基礎概念には，数学の抽象的・代数的概念に基づくものが多い。この講義では整数論，集合論，グラフ理論等に関する数学分野の初歩的，基本的概念や性質を中心に学ぶ。これらは情報数学の基礎概念としてプログラムの理論を考察する際に必須である。整数の基本的性質，ユークリッドの互除法のような素朴で興味の持てる内容から始め，数学的概念から情報数理の基礎的概念に自然に移行できる形で，具体例を挙げながら進める。論理的・整合的に考える基礎学力を養う。	後期（木１）	教科書，参考文献は講義時に述べる。

【物理学】

Ⅰ,Ⅱ,Ⅲで人文科学系，自然科学系学生を対象に物理学としての自然の捉え方，現象の観測や解析から普遍的に成立する法則の帰結等を学ぶ。コースによっては個別的，又は，階層的に理解する。

物理学Ⅰ【２単位】(文系対象科目。理系の学生は，この科目を履修できません。)

物理学概論

文系学生を対象として開講する。現代社会は科学・技術の知識なくしてはすまない。物理学は古代ギリシャからの歴史がある。自然科学に必要な論理性，方法論を物理現象の理解を通じて学ぶことは充分社会科学にも生かされる。講義での数学表現は必要最低限とし，身のまわりの自然現象，即ち，力と運動，電気と磁気，光・熱，エネルギー等の概念を理解する。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
波動とセンシングの物理	水野大介	私たちの生活は自然科学がもたらした成果と引き起こした問題に密接に関わっています。個々の事例について得られる情報は様々ですが，それらを正しく理解するためには，１）身近な現象に関わる物理学の基礎的な概念を理解すること，２）先人がどのようにそうした理解にたどり着いたのか紆余曲折の歴史も知っておくこと，が重要です。本講義では，光や超音波といった身近な波動現象を例にとり，その普遍的な性質や物理的な取り扱い方法を，歴史的な経過もたどりながら解説します。さらに，これらの波動現象が，イメージングやセンシング，信号の伝送といった現代の科学技術にいかにして生かされているかを説明します。スライドや動画を用いることで，視覚的・直感的に理解できる授業を目指します。	前期（水３）	テキスト購入の必要はないが，授業の準備に用いた参考文献を授業で紹介する。
相対性理論と不確定性原理への入門	河合　伸	現代物理学の大きな成果である相対性理論と不確定性原理について入門的な説明をおこなう。文系学生を対象としているので，豊富な数式を使い「数式だらけ」の丁寧な講義をおこなう。	前期（木４）	
力学現象にふれる	巨海玄道	物理学の中で最も基礎をなすものは力学である。その理由は，力学は体系として整っていることと物理学あるいは自然科学の普遍的な理解をするうえで最も基礎的な思考過程を含んでいることである。本講義では日常で経験する現象を考えることで力学の原理がどこに生かされているかを学んでいく。初めに基本的なことを学んだ後，以下のことを考えていく予定である。ただし講義は演示実験が多く，一緒に実験をしながら考えていく双方向性を持った講義となる。 １）数学的予備 ２）静力学・・・釣り合いと力のモーメント ３）運動する物体の力学 ・速度と加速度 ・変位と時間 ４）演習	後期（金５）	予備知識は必要ないが四則演算と柔軟な思考ができる人及び物理学に誤った先入観のない人。 テキスト：巨海玄道ら『万人の基礎物理学』(学術図書出版)

物理学Ⅱ【２単位】

物理学入門

主として，理系学生を対象として開講する。物理学の考え方は他の自然科学を学ぶ上でも重要である。数学は高校程度とし，力学，電磁気，熱・波動現象等全般的な現象の理解を目的とする。項目によっては最先端物理学を学び，現状を理解する。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
強さの物理入門	古君　修	固体材料の強さと破壊をテーマとして取り上げ，それらのミクロ，マクロ的支配因子を，格子欠陥と破面形成の観点から概説する。前半では結晶性材料の成り立ち(結晶構造，欠陥)と強さ，破壊の関係についてミクロ的観点から講義する。後半では，破壊現象を破面の形成からフラクタルの概念を入れてマクロ的観点で見ていく。なお，フラクタルの基礎については，下記の教科書を用いて講義する。本講義の目的は，1. 物質の成り立ち，2. 結晶性材料の変形と強度，格子欠陥，3. 固体材料の破壊とフラクタル，4. その他演習，を通して材料強度研究の基礎を知ることである。	前期（月４）	松下 貢『フラクタルの物理(Ⅰ)』(裳華房)
カオスとフラクタル	本庄春雄	１年時で学ぶ古典力学の教えるところによれば，ボールなどの運動はニュートンの運動方程式という微分方程式で表され，初期条件を入れてそれを解くと将来の位置や速度が判ることになっている。ところが，運動がカオスであればこの将来予測が原理的に不可能になる。このカオス運動は計算機の発達でその解明がなされた。一方，全体と部分が入れ子構造というフラクタルは雲，山，河川など自然界に多く見られるが，カオスと密接な関係にある。講義では，このカオスとフラクタルの初歩について学ぶ。	前期（火１） 後期（木１）	熱意のある学生のみ受講。毎回，質疑応答，小テストを行う。

物理学Ⅲ【２単位】

現代の物理学

この講義では物質を通じて，自然は「素粒子から宇宙まで」さまざまなスケールで出現する。講義ではこの「自然の階層性」理解を目的とする。まずミクロの世界に注目し，物質の性質やその起源を理解するために量子力学の基礎を理解する。さらに構成要素が多数集合した場合のマクロの世界の法則を学び，現代物理学を展望する。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 （曜日時限）	備　　考 （テキスト）
光と原子核から宇宙まで	◎橋本正章 渡部行男 木村康之 川越清以	授業は「光，原子核，宇宙」について４人の教員が以下のように講義する。 （渡部）ミクロの物理　－光と電子：電磁波としての光からみることから出発して量子力学の基礎的考え方を説明する。 （木村）光でみる，はかる，あやつる：光のさまざまな性質の応用について説明する。 （橋本）宇宙物理：宇宙創成から宇宙初期までのの物理的考え方。宇宙で最初に生まれた天体と星形成と銀河分布。星の進化。ブラックホール，中性子星の構造。超新星爆発と元素の起源，太陽系の起源。 （川越）素粒子実験：物質の究極の構成要素である素粒子について，実験の立場から説明する。また，素粒子と宇宙の関係についても説明する。	前期（金１） 後期（金１）	出席と授業で提示する課題の探究を重視する。

【化　学】

現代社会において，我々は種々の化学製品に囲まれその恩恵に与っている。一方，産業などの人間活動により様々な有害汚染物質を環境に放出し，環境問題が起こっている。エネルギー問題も脱石油社会と水素エネルギー社会の構築が構想されており重要な問題になりつつある。このように，我々は常に身の回りや環境の化学物質に注意を払う必要がある。そのような背景から，文系，理系を問わず，化学的知識や化学的なものの見方を教養として身につけておくことは安全・安心な社会の構築のために不可欠である。

化学Ⅰ【２単位】(文系対象科目。理系の学生は，この科目を履修できません。)

まず，必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後，身の回りの化学製品，化学的事象や環境問題を取り上げ，それらに対する化学的な理解の方法を解説する。
[到達目標：化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになる]

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
分析化学入門	今 任 稔 彦	地球温暖化やオゾン層の破壊など，地球規模の環境問題が世界中で取り上げられています。大気中に放出される窒素酸化物や硫黄酸化物が酸性雨として森林を枯らすなどの被害をもたらしています。また，食品中に残留する農薬の被害についても社会不安をもたらしました。物質の量，濃度やその状態を測定する「分析化学」は，これらの原因を明らかにするために，大きな役割を果たしています。私たちの健康や病気の診断をするのも「分析化学」によっています。この講義では，環境分野，食品分野，臨床分野などで活躍している分析法を紹介します。	後期（月４）	
身の回りの化学	末 永 正 彦	身の回りには色々な化学物質や化学反応があり，私たちの生活を支えたり潤したりしています。ときとしてニュース等で話題になることもありますが，正しく理解したり議論するためには化学についての基礎知識が必要です。そこでこの講義では，文系の人にも化学に興味をもってもらえるように，身の回りにあるいろいろな物質や現象を題材とし，その背景にある化学について平易に解説していく予定です。	後期（金１）	身の回りにある物質や現象を見つめ直すきっかけとして下さい。

化学Ⅱ【２単位】

化学の基本概念に基づいて，物質の構造，性質や反応をどのように理解するかを講義する。化学の基礎を学んだ学生や化学に興味のある学生向けの科目である。
[到達目標：化学の基本概念に基づいて，物質の構造，性質や反応性を理解できるようになる]

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
化学とシンメトリー	園 田 高 明	化学研究においては，原子・分子の基本概念や，物質の構造と物理化学的性質や反応性との間の相関関係を理解する際に，シンメトリー（対称性）という幾何学上の概念が重要な役割を果たす。自然界におけるシンメトリーを理解することは，サイエンスとアートの関係，あるいは，科学における芸術性(art of science)について思いを巡らすことにもつながる。この講義では，化学研究における種々のシンメトリー概念について学ぶと同時に，いくつかの特別講演を聴講することによって，化学とシンメトリーの関係について理解を深めることを目的とする。	前期（月５）	化学に興味を持つ一般学生を対象とします。 テキストは使用しません。随時講義資料と参考書を紹介します。
身近な界面とコロイドの化学	瀧 上 隆 智	マヨネーズなどの食品，ファウンデーションなどの化粧品からドラッグデリバリーシステムなどの医薬品に至るまで，私達の身の回りには界面やコロイドを応用したもので満ち溢れている。本科目ではそれらの基礎となる界面とコロイドの性質を，界面張力，吸着，濡れなどをキーワードに解説する。	前期（火４）	適宜，プリントを配布する。 参考書として，北原文雄著『界面・コロイド化学の基礎』(講談社サイエンティフィック)，池田勝一著『コロイド化学』(裳華房) を挙げる。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
環境の基礎化学	冨板　崇	様々な環境問題が，子孫に大きな負の遺産になるのではないか。地球温暖化や水資源の不足から「２１世紀半ばに，何らかの問題が発生するのでは」と環境分野の研究者から警告が出されている。暴風雨，旱魃などの気象災害は，貧困や厄病，農業の疲弊，飢餓や紛争に発展し，発展途上国の弱者が真っ先に犠牲者となる。再生可能なエネルギーの開発や政策として議論されてはいるが，国や地域で環境問題の認識や対応に温度差があり，その実際を知ることが，「宇宙船，地球号」を存続させる最初の手順になるだろう。	後期（火４）	インターネット（英語版）が読解できることが望ましい。即日ミニレポートや討論のまとめ，プレゼンなどの課題があり，受講生間で互いの意欲向上が図られます。 テキスト：石弘之『地球環境報告』(岩波新書（新赤版)）， 石弘之『地球環境報告Ⅱ』(岩波新書（新赤版))

化学Ⅲ【２単位】

たとえば無機化学，有機化学，生命化学，物理化学，分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支える分野の化学を化学の基本原理に基づいて概観する。
[到達目標：新しい領域の化学を開拓する道筋を学ぶとともに，社会における化学の役割を理解する]

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
量子化学演習	原田賢介	量子化学は化学のあらゆる分野の基礎として極めて重要であるが，高校で学んだ物理とは全く違う数学的手法を用いるため，初心者には学ぶときの抵抗が大きい教科である。理解を深める良い方法は，適切な演習問題およびパソコンを用いた演習により体で覚える，目で見て覚えることである。この講義では演習問題およびパソコンを用いた演習により量子力学および量子化学の一段進んだ理解を目指す。	前期（木１）	Windowsのノートパソコンを所有していることが望ましい 。
気体の地球化学	北　逸郎	地球には大気に加えて様々な気体が存在する。あるものは温泉ガスや火山ガスおよび土壌ガスとして地表上に現れ，地熱資源の成因や噴火・地震現象に関する重要な情報を与えてくれる。また，あるものは地殻内部や海底に天然ガス資源として存在し，地球に優しいエネルギー資源として注目されている。このような地球深部気体の放出現象や気体資源の生成プロセスを地球内部での元素の移動・循環現象の一環として捉える化学的手法を講義する。さらに，大気環境の現状および古地球の寒冷化と温暖化および現在の温暖化現象について，地球化学的な立場から議論する。	前期（木４）	テキスト：特になし。授業の資料で理解に必要な教科書や論文を紹介する。

【地球科学】

地球は太陽系の誕生と共に生まれ，生命と共に進化してきました。現在の地球を構成する物質と環境は，固体地球と大気・海洋及び生命の４６億年にわたる相互作用によって形成されてきました。人類は地球と生命の進化の過程でつくられた，化石燃料をはじめとするエネルギー資源や鉄・石灰石などの金属・非金属資源を利用して，現在の文明を築き上げてきました。またダムや灌漑用水施設を整備し，農地面積を拡大することによって食料を増産し，爆発する人口を支えてきました。一方，地震や火山の噴火，気象異常や気候の変動などによる自然災害を最小限に軽減するため，それらを発生させている地球のシステムとメカニズムの解明に取り組んできました。このように人類は，地球上の自然を開発し利用することで，発展してきました。ところが今や地球の人口は６０億人を突破し，人類の営為は地球環境に影響を与える最大の因子となっています。地球環境を今以上に悪化させることなく，自然災害を最小限に防ぎながら人類が持続的に発展していくためには，まず第１に地球とそのシステムについての理解と知識が不可欠です。

このような２１世紀初頭の地球と人類の状況を踏まえ，この科目では，私達が生まれ生活している惑星「地球」に関する基礎的知識の修得と，「地球システム」についての理解を目指します。基本的には以下の３つの分野に分けて，複数の教員が各自の専門領域を踏まえながら複数のテーマについて講義します。

地球科学Ⅰ【２単位】(文系対象科目。理系の学生は，この科目を履修できません。)

文系の学生を対象に，地球の成り立ちと地球表層で発生する地球科学的諸現象について，基礎的知識を得ることを目的とする。ことに人間の生活に関係する地球環境と自然災害，エネルギーに関連する問題を通して，地球についての理解を深める。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
地球惑星科学の発展と歴史	清 川 昌 一 他	地球惑星科学の最近の発展と歴史について講義する。地球惑星科学は，日常的な時間から４６億年という地球の歴史にいたる幅広い時間スケールと，分子スケールから太陽系までの幅広い空間スケールをカバーすることが一つの特徴である。さらに，数学・物理学・化学・生物学・地質学といった多様な学問分野を基礎とすることも一つの特徴である。本講義では，具体的な最近の発展や歴史を参照しながら，地震・津波・火山などの自然災害も含めた現代社会で発生している問題を考える。また，それらの理解のための科学的基礎として地球惑星科学を位置づけ，その多様な側面と視点を学習する。	前期（水３）	

地球科学Ⅱ【２単位】

理系・文系の学生を対象に，地球を構成する物質とその循環，及び岩石圏-大気圏-水圏-生物圏の相互作用が生み出す，地球のシステムとその変動に関する基礎知識の修得を目的とする。また，地球環境と資源の問題について，地球科学的視点から理解を深める。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 (曜日時限)	備　　考 (テキスト)
地球の構造と諸現象	中 野 伸 彦	地球の基本構造や運動メカニズムを解説した後，それに基づく過去から現在までの地球における諸現象について講義する。また，岩石や鉱物などの最も身近な地球科学試料について，その基礎的知識の習得を目指し解説する。	前期（火１）	
化石から地球の歴史を見る	松 隈 明 彦	地球４６億年の歴史の中で，およそ３８億年前に生命が誕生し，何度かの大発展と絶滅を繰り返しながら，生物は現在の高い多様性にいたっている。化石はこれまで，化石を含む地層のできた時代や環境を知る手掛かりとして取り扱われることが多かったが，この講義では，化石を地質時代の生物として取り扱い，地球の歴史を化石を通して学ぶ。なぜアンモナイトは絶滅し，イカは繁栄しているのか。地球上の生物の過去を知り，未来を予測するために，地質学・生物学の基礎的知識を学び，それらに基づいて生物進化を考える態度を身につける。	前期（木４） 後期（月４）	できるだけ一般地質学や集団生物学を受講することが望ましい。 教科書は使用せず，適宜プリントを配布する。
宇宙と星と地球の進化	石 田 清 隆	137億年前のビッグバンによる宇宙の開闢から現在までの宇宙史・地球史を繙いていきます。主要なテーマは，ビッグバンによる水素・ヘリウムの生成，銀河の世界と宇宙の大規模構造，恒星の進化と重元素の合成，太陽系の形成と地球の進化，地球の成層構造とプレートテクトニクス，大気・海洋の形成と生命の発生，地球環境の変遷と生物の進化，地球環境と資源問題。	後期（木１）	プリント配布

地球科学Ⅲ【２単位】

固体地球科学，大気海洋科学，地球・生命進化史，惑星・宇宙科学に関する最近の進歩やホットな話題と問題について体系的に解説する。また地球規模で問題になっている環境やエネルギー，自然災害について，対象や分野を絞って具体的な事例研究を通して理解を深める。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 （曜日時限）	備　　考 （テキスト）
地球科学の最前線	小山内康人	固体地球科学，地球・生命進化史，惑星科学等の地球科学に関する最近の進歩やホットな話題と問題について，体系的に解説する。また，地球規模の環境問題や日々繰り返される大規模自然災害についても，具体的な事例研究を通して解説する。	前期（月２）	出席を重視する。板書を多用する。
地球の肖像	青 木 義 和	地球は本当に丸いのか？地球の中身はどうなっているのか？なぜ山は高く海は深いのか？１年は本当に365日？１日は本当に２４時間？など，地球に関する素朴な疑問を解きほぐしつつ，まず地球の全体像を浮き彫りにする。次に地表や地球内部で見られる，一見複雑そうに見えるダイナミックな現象は意外と簡単な仕組みから成り立っていることを説明し，プレートテクトニクスからプルームテクトニクスへと新しく概念を転換することによって，地球に対する認識の仕方がガラリと変わりつつある現状を紹介する。	前期（月４） 後期（火４）	
地球環境と鉱物	桑 原 義 博	太陽光度が低かった頃の初期地球から太陽がより輝いている現在まで，なぜ地球は生命が生きていける適度な温度を保つことができたのでしょうか？この地球の温度調節機構には鉱物が深く関わっていると考えられています。一方で，鉱物には，過去の気候・環境変動に関する情報を記録しているものがあります。この講義では，鉱物が深く関わっている地球の温度調節機構に対して提唱されている仮説や，鉱物が持つ情報から古気候・古環境変動の復元に取り組んだ研究例を簡単に紹介しながら，地球がたどってきた気候・環境の変動を観ていきます。	前期（金１）	随時，資料プリントを配ります。

【図形科学】

図や図形には，目に見える三次元の物体や空間から実際には形をもたない物事の関係性にいたるまで，つながり・ひろがりをもつ対象を簡潔・正確に表現できる特性があり，工学・芸術などの専門分野だけでなく，ホームページ，機器のカタログ・使用説明書，地図，組織図をはじめとして日常生活でも幅広く利用されている。本科目では，講義や演習を通して，図形表現の基礎を身につけるとともに，図・図形のさまざまな活用例を通して，表現の特性・利点に関する理解を深める。

図形科学Ⅰ【２単位】

図学や製図関連科目の受講機会がない学生を対象に，図形表現法の歴史的経緯や基本規則・作図手順など，図形に関する基礎知識を修得すると共に，図を用いた社会での活用事例について紹介する。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
図形表現	大月彩香	情報を伝達する手段のひとつとして「図」を用いた表現法がある。本授業では，紙などの二次元メディアにおける図形表現を対象に基本となる概念と手法に関する講義と演習を通じ，図を用いたコミュニケーション能力の基礎を養う。具体的には，(1)図形表現の諸形式，(2)立体の平面表現，(3)関係性の図的表現，(4)図と文字のレイアウト表現，をサブテーマとする講義と演習を行う。	前期（火１） 前期（火４）	図学や製図関連科目の受講機会がない学生を対象とする。必要な資料は印刷して配布する。受講希望者が教室の収容人員を超過した場合は選抜試験を行うので，受講希望者は初回授業に必ず出席すること。
図形表現Ａ	志賀　勉	他者に情報を伝達する手段のひとつに「図」を用いた表現がある。本授業では，紙などの二次元媒体における図形表現に関する基本概念と基礎手法に関する講義と演習を通じ，図を用いたコミュニケーション能力の基礎を養う。具体的には，(1)図形表現の諸形式，(2)立体の平面表現，(3)関係性の図的表現，(4)図と文字のレイアウト表現，をサブテーマとする講義と演習を行う。	後期（木１）	図学や製図関連科目の受講機会がない学生を対象とする。必要な資料は印刷して配布する。受講希望者が教室の収容人員を超過した場合は選抜試験を行うので，受講希望者は初回授業に必ず出席すること。

図形科学Ⅱ【２単位】

私たちの豊かな生活は，さまざまな人工物に支えられている。それらの人工物の創造（設計・製作）の過程では，多種・多様の図が利用されている。本科目では，物体・空間の図的表現法を概説するとともに，図形作成（または，作図）演習を通して，表現の規則・手順やその特性・利用に関する理解を深める。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
コンピューター図形表現	大月彩香	人は自然界で暮らしながらその経験から平面であるにもかかわらず，そこに立体あるいは空間をイメージする。したがって，単なる形状から浮遊したイメージなどを論理的に作り出す事ができる。同様に，水や金属そして炎などもしかりである。本授業では，画像処理によるロゴ制作を通してこれらの現象を実体験する事によりその事象を感覚的に理解するとともに，その手法を学びウェブ等のコンピュータメディアを利用した情報発信において役立てることができるだろう。	前期（金１）	１時限の授業ですから，特に遅刻をしないこと。授業開始前に受講準備をすませておくこと。

図形科学Ⅲ【２単位】

人間が暮らしている環境は自ら整えていく必要性が高まっている。これらの環境を実現するために多くの図が利用されている。本授業では教員の専門的立場から話題を提供することにより環境等に対する理解を深める。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
デザインと図	竹之内和樹	人工物のデザインは，形がもつ数理や工学や文化などの複数の側面を効果的に統合する行為です。その中では，形の特性からイメージを発展させ，図によりアイデアを可視化して記録・伝達する作業が繰返されます。本講義は，機能のデザインの観点から，立体の図表現，空間の解析，図の応用利用に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。前半では，立体とその投影や展開について講義に演習も加えて理解を深めます。後半では，３次元ＣＡＤ，３次元プリンタの使用によるラピッドプロトタイピングについて，技術の進展，利用の現状を紹介します。	後期（月４）	テキスト：資料を配付する。

【情報科学】

基礎的な情報処理技術を学んだ者で，特に情報に関心の高い学生を対象に，コンピュータプログラミングとその応用や情報科学の基礎倫理等の情報科学の基礎について講義を行う。

情報科学Ⅰ【２単位】

情報化社会を生き抜くための基礎知識を身につけることを目標としています。情報セキュリティ，情報倫理，情報の取捨選択・有効活用などは理科系・文科系の区別なく極めて重要な知識・能力である。このような情報科学の基礎に関する講義を行う。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
ネット時代の情報センス	南　俊朗	みなさんは，情報化社会を生き抜く自信がありますか？新しい時代には新しい知識や仕事が必要です。情報セキュリティの知識が足りずコンピュータ・ウィルスに感染し，友達にも感染させたりしていませんか？情報を効果的に収集し，理解し，それをまとめ，他の人に伝える十分なスキルはありますか？これらは情報化社会で仕事をする社会人として必須の常識・常能力です。本講義では演習と講義を通じて，これからの情報化社会をサバイバルするための「意識・知識・見識・スキル」を情報センスとして実践的に身につけてもらうことを目指します。	前期（水５） 後期（水５）	いくつかのテーマに関しては他の講師が担当する「オムニバススタイル」で授業されます。毎回宿題を出題し，学生に発表してもらうスタイルを基本としていますので，主体的に授業に関わる姿勢が最も重要です。

情報科学Ⅱ【２単位】

Ｃ言語を用いたプログラミング演習を通じ，手続き型プログラミングの概念とソフトウェア作成技法などについて講義と演習を行う。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
高度プログラミング演習	来嶋秀治	Ｃ言語の基礎から応用までを演習をしながら身につけていく。	前期（月４）	標準テキストにて演習する。
高度プログラミング演習	久住憲嗣	Ｃ言語を用いたプログラミングを学ぶことを通して，手続き型プログラミングの概念，および，ソフトウェア作成技法について学ぶことを目的とする。具体的には，基礎的な文法要素である，変数，式，制御構造，関数，ポインタについて講義する．さらに，文法だけではなくＣ言語を用いたプログラミングの作法について講義する。	後期（金１）	

情報科学Ⅲ【２単位】

ブラウザを通して利用する情報システムに触れる機会が多くなってきている。そのような情報システムの仕組や開発方法，セキュリティなどに関して，演習を交えて講義する。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 （曜日時限）	備　　考 （テキスト）
サーバサイドプログラミング論	松 永 裕 介	私たちが情報処理システムを利用する際のインタフェースとしてインターネットブラウザは広く使われるようになってきました。このような情報処理システムをユーザ側から見ると，ユーザインタフェース部（ブラウザ），情報処理部，データ格納部（データベース）に分けることができます。本講義では，ブラウザとデータベースの中間に位置する情報処理部分およびブラウザ・データベースとのインタフェース部分のプログラミングを通して情報処理システムへの理解を深めます。具体的には，情報を管理し，検索ならびに加工を行いウェブページとしてユーザに提示する部分のプログラミングを行います。データベースシステムの構成と利用方法ならびにこのようなシステムにおけるセキュリティに関する諸問題に関しても併せて学習します。これらの要素技術について学習した後，設定したテーマに沿った作品（情報処理システム）を各自で製作します。	前期（月２）	情報処理演習で行われているプログラミング内容を理解していること。
サーバサイドプログラミング論	天 野 浩 文	私たちが情報処理システムを利用する際のインタフェースとしてインターネットブラウザは広く使われるようになってきました。このような情報処理システムをユーザ側から見ると，ユーザインタフェース部（ブラウザ），情報処理部，データ格納部（データベース）に分けることができます。本講義では，ブラウザとデータベースの中間に位置する情報処理部分およびブラウザ・データベースとのインタフェース部分のプログラミングを通して情報処理システムへの理解を深めます。具体的には，情報を管理し，検索ならびに加工を行いウェブページとしてユーザに提示する部分のプログラミングを行います。データベースシステムの構成と利用方法ならびにこのようなシステムにおけるセキュリティに関する諸問題に関しても併せて学習します。これらの要素技術について学習した後，設定したテーマに沿った作品（情報処理システム）を各自で製作します。	後期（月５）	情報処理演習で行われているプログラミング内容を理解していること。

【健康科学】

私達が生きていくための基盤となる健康と，その健康の維持・増進に重要な役割を果たしている身体活動，運動，スポーツ行動および体力の意義について，多様な視点から学際的に考察し，科学的理解を深めます。

健康科学Ⅰ【２単位】

「健康」は，知的活動や文化創造も含めた，あらゆる人間行動の基盤となるものです。その「健康」を，様々な観点から科学します。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
精神医学入門	一宮　厚	社会生活を円滑に送るべく我々は自らの意志と責任で行動しなければなりませんが，そのためにはまず精神的に健康でなければなりません。本講では，ストレス関連障害，うつ病と自殺，ストレス対策，対人関係の病理，精神作用物質，さまざまな精神疾患，脳と精神障害，加齢と精神障害，精神科的治療，精神医療，精神的健康さの考え方などの精神医学的話題をとりあげます。精神医学に関する入門的な講義を通じて精神的な健康さについて理解を深め，健康的に生きるために有効な対策を講じることが出来るようになることをめざします。	前期（火４）	受講の希望者が多い場合には，受講制限を実施します。その場合，初回の講義への出席者からのみ受講許可者を選抜します（初回に出席していない者は受講許可を受けられないことになります）。
健康と運動のリテラシー	林　直亨	この運動で沢山のエネルギーを消費できます，この減量法は効果的，など，本当かと首を傾げたくなるような健康・運動に関連した文句を目にすることが多くあります。本授業では，これらの真偽を判断するために必要となる，健康や運動に関する話題を，運動生理学の観点から取り扱います。自分の健康・体力を維持・向上るための知識として，健康や運動に関する基礎知識を習得することを目指します。	前期（木１）	希望者が多い場合は，受講制限を実施します。

健康科学Ⅱ【２単位】

こころと運動・スポーツとの関係，ならびに医学・臨床心理学の立場からみた健康問題について探求します。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
健康科学概論	永野　純他	九州大学健康科学センターの教員が，誰にでも起きうる心身の疾患などの健康上の諸問題を取り上げ，学生自身の健康の維持増進と学生の身近な人たちへの啓発を目的とした講義を行います。自分自身の生活習慣を見直すことから始め，さらに医学や臨床心理学・健康科学などを教養として広く学び，健康に関する正しい見識と良好な生活習慣を身に付けることを目指します。また，周囲の身近な人々に対しても健康に関する適切な助言ができることも，学習の目標とします。	後期（月４）	条件ではありませんが，医学的知識に触れる機会が少ない学生を主な対象と考えています。例年，受講希望者多数のため，初回授業時にレポート等を課し，その評価に基づいて受講者数を制限しています。初回授業には必ず出席してください。
運動とスポーツの心理学	杉山佳生	運動やスポーツは，私たちのクオリティ・オブ・ライフの向上に，どのように役立つのでしょうか。また，スポーツの試合などで実力を発揮するためには，どうすればよいのでしょうか。運動・スポーツ心理学は，このような問題に対するいくつかの答えを提供します。本授業では，運動やスポーツと私たちの心理面との関係に関する科学理論や研究知見を紹介するとともに，より健康的な生活を送る際に，あるいは実力発揮のために有効な心理社会的スキル（ライフスキルやメンタルスキル）の習得を目指した実習を行います。	後期（金１）	

健康科学Ⅲ【２単位】

アスリートの運動能力やパフォーマンスの向上に対し，運動・スポーツ科学がどのように貢献しているのかを概説します。

副　　題	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期（曜日時限）	備　　考（テキスト）
アスリートの食事を科学する	斉藤篤司	アスリートのパフォーマンス発揮に対する食事の役割は非常に大きい。身体をつくる，動かす，調整する栄養素はすべてが食事から得られる。しかし，アスリートの食事に対する知識や関心は低い上に，一部の機能を高めるかのようなサプリメント等の情報が混乱をもたらしている。本講義ではアスリートに限らず，運動やスポーツを行う上での食事に関する知識を効果・安全性・合法性・倫理的等の見地から裏付けられた研究結果をもとに紹介しつつ，食事について論じる。	前期（火１）	

1-e．少人数セミナー【２単位】授業概要等（教員名５０音順記載）

※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

	担当教員		授業概要	開講学期（曜日時限）	備考（テキスト）
少人数セミナー	い	◎池内義秀 下條雅敬 中野豊	**【副題：食肉加工の理論と実践から食への理解を深めよう】** この少人数セミナーでは食肉の加工に関する理論を学び，さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行います。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など，日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び，現在の我々の食に対する理解を深めていきます。	後期（月５）	加工施設の大きさと作業の安全性の面から，受講者は15名以下とします。希望者が超過した場合は15名以下になるように選考を行います。
		◎池田伸夫 石橋健二 魚住裕介 前畑京介 伊豫本直子 渡辺幸信	**【副題：原子核と放射線応用のいま】** 原子核や素粒子の世界はいま，どこまでわかっているのであろうか。いまどのように応用されているのであろうか。原子核や素粒子，放射線といったミクロの世界を理解するために必要とされる基礎事項を学んだ後，原子核や素粒子の反応，星の進化と元素の誕生，ニュートリノの謎など原子核研究の発展を垣間見つつ，環境，加速器と放射線計測の最先端技術，放射線の医学・産業利用，原子核エネルギーのこれから，未来のエネルギーなどについて，問題点を整理し，これからの課題を示す。また，これからの研究のあり方について議論を行いたい。	前期（火５）	
		石田清隆	**【副題：鉱物結晶学入門】** 現在約４千種の鉱物が自然から産するが，そのほとんどは結晶質で元素が規則正しく配列したものである。それら鉱物のうち，主要なものの結晶形態や産状を観察し，比重や硬度などを総合して肉眼鑑定を行う。次に，偏光顕微鏡観察および結晶構造データの解釈を行い，鉱物のもつ性質・特徴・対称性などを演習で理解する。特に，雲母の結晶構造は，四面体層のリングをプロットして詳細に検討する。	後期（木５）	
		板橋義三	**【副題：歴史言語学：―日本語の起源・形成論を一例として―】** 歴史言語学（言語の変化）の基礎を，テキストに沿って講義と演習を交え，習得することを第一目的とし，言語の変化，特に音声の変化，文法の変化，言語変化の社会背景，祖語の推定，言語の発達形式など具体的に見て行く。章ごとに輪講形式で発表してもらう。その後，従来議論されてきた日本語の起源論や形成論に関する著書・論文等を時系列で見て行くが，必要に応じて解説する。時系列で見て行く際，議論する著書や論文を輪講形式で発表してもらうとともに，コメントや質問などもしてもらいながら，様々な日本語の起源論，形成論の信憑性に迫っていく。	後期（金５）	テキスト：池上二良編『言語の変化』（大修館書店，1979）
	お	大橋弘範 藤野泰寛	**【副題：五感で学ぶ化学実験】** 高校で化学は習ったけど，受験勉強ばかりで化学実験をあまりしたことがない，化学は何となく苦手で面白さを感じない，興味はあるけれど高校化学の内容をほとんど覚えていない…。そんな人がたくさんいると思います。化学は本来とても面白い学問領域です。それは，化学が他の学問にはあまりない，モノをつくるということができる学問だからです。この授業では五感に訴えるような化学実験を通して，みなさんに化学の楽しさを理解してもらうとともに，高校までに習った化学の内容を復習しつつ，大学で学習する化学の内容へと橋渡しすることを目的としています。授業は講義1時間＋実験1時間の２週に渡って一つのテーマを完結し，全期間を通して化学の大まかな内容を概観できるようにします。基礎的な内容から扱うため，化学が苦手な人の受講を歓迎します。	前期（月５）	化学の専門知識は必要ありません。文系・理系問わず，積極的に授業に参加できることを最低条件とします。 受講者が２０人前後を超える場合は受講制限を行います。 テキストは指定しません。適宜プリントを配布します。
		荻島正	**【副題：化学の視点からみたシトクロムP450の生物科学】** シトクロムP450は，植物や昆虫における生長と両者間の捕食や防御，花の色や食用植物の味，体内での薬の分解，ステロイドなどの生理活性物質の合成など，生物種をこえ，また人間と生物との関係にも深く関わる酵素である。この酵素の構造的特徴や生理機能の多様性から，関連分野は物理学から医学，さらには農学や食品科学など多岐に渡っている。そこで本セミナーでは，あくまで基礎知識習得に徹しながらも，１）シトクロムP450と専門分野との接点を見いだすこと，得た基礎知識をもとに２）他分野との相互議論をすることを目指す。	後期（火５）	生物学か化学の基礎があることが望ましいが必須ではない。化学という冠があるが，あくまで化学物質が中心になるというだけで，難しい化学はやらない。 テキスト：武森重樹『生命をあやつるP450』（学会出版センター，ISBN978-4-7622-3065-3）
		折田悦郎	**【副題：九州大学の歴史】** 九州大学は1911年（明治44）に設置された九州帝国大学から始まりました。そしてその九州帝国大学は，1903年（明治36）創設の京都帝国大学福岡医科大学を直接の前身としています。最初から「帝国大学」として創設されたもので，この点が九州大学の大きな特徴となっています。わが国の高等教育制度史を踏まえながら，私たちの学ぶ九州大学の歴史について考えてみます。	後期（金５）	
	か	郭俊海	**【副題：言語政治学】** このコースでは，シンガポールを例として，多民族社会における言語・文化・アイデンティティの問題を取り上げ，バイリンガル教育や言語政策に関する基本的な知識を学ぶことを目的とする。具体的には，バイリンガル教育とはなにか，バイリンガルと言語習得，母国語と第二言語，国語と公用語，言語態度と言語衝突，言語取り替え（language shift），言語計画と言語政策，言語の標準化とアイデンティティなどを網羅する。授業では，英語と日本語の文献を読む。	前期（木５）	英語と日本語の文献が読めること。 テキスト：奥村みさ・郭俊海・江田優子ペギー著『多民族社会の言語政治学―英語をモノにしたシンガポール人のゆらぐアイデンティティ』（ひつじ書房），John Edwards (1994) Multilingualism. Penguin Books.

		担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）	備考（テキスト）
少人数セミナー	か	片山雅史	**【副題：生命（いのち）と繋がりのアート/創造の現場から】** 現代アートの現場を体験し，創造／表現することについて考えます。彫刻や絵画だけではなくアートの現場では様々なことが起こっています。展覧会を見学したり，芸術祭やアートワークショップに参加することで，新たな体験を促すとともに生命（いのち）や繋がりについて考えてみましょう。	前期（月５） より変則的な時間組みになります。また，教室以外での実習形式の作業が中心となります。	初回以外は授業内容やアートイベントなどの都合により
		鎌滝晋礼	**【副題：文系だって科学する!!(2012)】** 文系出身で自然現象に興味があるけど，よくわからない，とっつきにくい，数式・記号がわからない，という学生の為の体験型科学入門。近年はテレビドラマで天才科学者が難事件を解いていく時代である。科学的考え方や経験と知識は文系理系問わず生活の中と学生達の将来で必要になる。セミナーは，静電気を作ったり，プチサンダーを作ったり，夕日の不思議など生活に身近にあるものにスポットを当て，簡単で楽しめる実験を通して科学を学ぶ。科学に対して，知ってはいるけど，経験したことがないという学生に向けて行う小ゼミである。	後期（火５）	高校で物理を未履修の学生を対象とします。 テキスト：資料を適宜配布します。
		川本利恵子	**【副題：健康と社会】** 社会の一員として他者と協働，協調するとともに，自律した行動ができるための基盤となる知識を提供する。特に，健康に関する話題や健康を取り巻く社会の仕組みなどを題材に検討する。このセミナーは，社会の発展に関与できる力を育成することを目的とする。	前期（火５）	
	こ	古賀　登	**【副題：有機分子に見るナノの世界】** 私たちが目にしたり，手にしたりするもの全てが分子でつくられている。最近よくナノテクノロジーやナノ微粒子など“ナノ“という言葉を耳にするが，有機分子の多くは，固有の形を持ち，１～数ナノメーター（nm）の大きさを持っている。これら分子が集合化することにより新たな性質を持つ集合体（数100nm ～ μm）が生成する。これらナノサイズの分子や集合体を理解すれば，いろんな新しい機能を生み出すことが可能になってくる。本セミナーでは，ナノサイズと新たな機能をキーワードに，ナノサイズ集合体の機能を題材に討論する。	前期（木５）	積極的に討論に参加し，最後まで受講すること。
		小島健太郎 山田秀人	**【副題：対話の中の学び　未来を創る科学リテラシー】** 生涯にわたり科学とうまく付き合っていく能力は，現代を生きる私たち万人にとって不可欠なものと言えます。このセミナーでは，現代社会に見いだされる様々な問題・課題をめぐり，その科学的側面について，学生・教員が共に熟考し，討議を重ねていきます。その学びの中で，未来を担う私たちに必要な科学リテラシーとは何であるかについて理解を深めるとともに，科学リテラシーを身につけていきます。	前期（金５） 科学に苦手意識を持つ受講希望者を歓迎します。また，セミナー内で実施するグループ学習や討議への能動的な取り組みができる受講生を望みます。 必要に応じて授業内で参考図書を示します。	文系・理系・学年等の受講対象は特に限定しません。
		小湊卓夫	**【副題：人と人をつなぐ技法】** この授業では，ビジネスや社会活動，教育，体験学習等の分野で，多様な人々が会議やワークショップ（共同作業）等で相互に意見を出して議論・協働しあう場を促進する手法である「ファシリテーション」を扱います。その基礎を講義や演習（ワークショップ）を通じて体系的に学び，相互作用が生まれる場を実際に体感することに主眼を置きます。また，書籍では感じきれない場の空気，他者の目からのフィードバックから日頃の会議等での自身の姿に気づくことで学びを高め，効率性を求めつつも「人がわざわざ集まる意味」を実践的に考察します。	前期（月５） テキスト：堀公俊・加藤彰・加留部貴行『チーム・ビルディング－人と人をつなぐ技法』（日本経済新聞社）	ワークショップを中心とした体験型授業なので出席を重視します。
		小山　悟	**【副題：日本語教育入門】** 近年，日本も本格的な多文化共生の時代に入り，日常生活のあちらこちらで外国人と接する機会が格段に増えました。地域の公民館などでは定住外国人のための日本語教室が開かれるようになり，みなさんの中にも「そのような場で日本語を教えてみたい」「同年代の留学生と language exchange をしてみたい」と思っている人が少なくないのではないでしょうか。このゼミは，そんな人たちのために，普段何気なく使っている日本語を外国語として捉え直し，その教え方を考えると同時に，自分自身の外国語学習を振り返る場にしたいと思います。	前期（木５）	参考文献は適宜紹介します。
	さ	財津慎一	**【副題：レーザー光科学の基礎と体験】** 物理・化学・生物学・工学等，あらゆる科学の分野で広く利用される“光”の不思議な性質を学習する。干渉・回折・屈折等，光がもたらす固有の現象に関する原理を深く理解するために，教室での聴講のみでなく，実験室で実際にレーザー光を用いた実験を体験する。	前期（金５）	教室による講義に加えて，実験室（ウエスト３号館）による実験作業を実施する。
		佐藤剛史	**【副題：大学では教えてくれない大学生のための大切なコト】** 生まれるってどういうコト？生むってどういうコト？食べるってどういうコト？はたらくってどういうこと？ボランティアするってどういうコト？などなど。大学では教えてくれない大学生にとって必要なこと，大学生のうちにしておくべきこと，大学生にしかできないことを一緒に考えます。このセミナーでは，レクチャー，ディスカッションとフィールドワークを交えて展開します。こうしたプロセスを通じて，人の生き方に関わる多面的な意識・知識・技能を養い，さらには，コミュニケーション能力やマネジメント能力のスキルアップを図ります。	前期（月５） 後期（火５）	

	担当教員		授業概要	開講学期（曜日時限）	備考（テキスト）
少人数セミナー	し	篠崎文重	**【副題：現代物理学概要】** 現代物理学は２０世紀以降に大きく発展し，それ以前の古典物理学で理解できる日常経験と大きく異なる。しかし，技術の発展した今日，身の周りにあふれる多く電子機器の機構を考える上で，現代物理学の大きな柱である量子力学抜きには理解できない。本セミナーでは「マクロからミクロへ」を主題に，量子論の基礎を学び，物質の構造，および相転移をミクロな立場から理解する。	前期（金５）	長岡洋介『基礎物理学シリーズ現代物理学』（東京教学社）
		シュミット，A. E	**【副題：Selected topics in plant conservation and evolution / Use of English in science 】** The seminar will cover two separate topics. The first topic is concerned with selected issues in plant genetic conservation and evolution. Among others, this part will include presentations of research on wild relatives of cultivated crop plants and trees, and plant speciation. During the class students are expected to discuss contents of each presentation as well as make presentations of their own. The exact content of this seminar is decided based on students` personal preferences. The second topic is concerned with improving English language listening and conversation skills and with principles of writing scientific reports and papers in English. During class students are expected to actively participate in the practical exercises which among others include listening to live English conversation and songs and oral descriptions of situations. Textbooks are not required. **【副題：科学英語入門　植物の保全と進化に関するトピックスを題材に】** この少人数セミナーには２つの目的があります。１番目は，植物の遺伝的多様性保全と進化に関する問題，特に，栽培植物・樹木に近縁な野生植物と植物の種分化について学ぶことにあります。それらに関する研究についての受講生によるプレゼンテーション（紹介）も含まれます。受講生には，自分のプレゼンテーションを行うだけではなく，各プレゼンテーションに対して積極的に討論することを期待します。実際のセミナーの内容・やり方については受講生の希望に基づいて決めます。２番目は，英語のリスニングや会話のスキルの上達と英語で科学レポートや論文を書く基礎を身につけることです。	前期（木５）	受講生には，ライブでの英会話や歌，状況を口頭で説明すること（もちろん英語で）などの実践的な練習に積極的に参加することを期待しています。 教科書は使いません。
		白土悟	**【副題：中国の社会と留学交流】** 世界各国は先進文明学習と相互理解のために留学交流を実施してきた。今後もそれは続けられるであろうし，２１世紀に入ってからその規模は拡大し続けている。近現代の中国も西洋・日本・ロシアから科学・思想・制度その他を懸命に学習してきた。本セミナーでは，清朝末から現代までの中国の留学交流の歴史と社会発展について学習することにしたい。	後期（金５）	プリントを配布する。 参考文献：さねとう・けいしゅう『中国人日本留学史』(1960年)，白土悟『現代中国の留学政策』(2011年) など。
	す	鈴木右文	**【副題：英国へ行こう！】** 英国に実際に訪問した場合の見聞がより充実したものになることを目的とし，担当教員による講義と，受講者による発表により授業を構成する。複数回の発表回数を確保するため，受講者数は１２名に限定するので，授業初回にそれ以上の希望者が集まった場合は，アンケートにより受講制限を実施する。少人数なのでそれなりの負担を伴う。成績は出席状況，発表，簡単なレポートにより行う。授業での話題は，歴史，地誌，文化，観光など広く扱うつもりである。	前期（火５）	受講者数を制限するので，受講希望者は授業初回に遅刻することなく入室しておくこと。出席を特に重要視するので全回出席のつもりで臨んで欲しい。
	せ	施光恒	**【副題：グローバル化の是非と日本の針路】** 現代は，グローバル化，ボーダーレス化が声高に叫ばれる時代である。だが世界的に生じているデフレ不況や格差社会化，頻発する暴動やデモ，各地で緊張する国際関係，疲弊する地域社会などの現象をみれば，グローバル化，ボーダーレス化の進展が本当に望ましいかどうかは非常に疑わしい。この授業では，幅広い観点からその是非を考察し，また日本のナショナル・アイデンティティや進むべき針路について議論していきたい。主に政治経済学的観点から議論するが，文化や教育，マスコミなどの問題も扱う。担当教員の講義３５％，クラス全体でのディスカッション４０％，受講者による発表２５％程度という構成で授業を進めていくつもりである。	後期（火５）	テキストとして新書程度の本２，３冊を各自で準備してもらいます。購入しても図書館で借りても可。予備知識は特に必要ありません。話好きの学生歓迎，だが沈思黙考タイプも歓迎。ともに天下国家を考え論じましょう。 テキスト：中野剛志，柴山桂太『グローバル恐慌の真相』(集英社新書)，トッド『自由貿易は，民主主義を滅ぼす』(藤原書店)，梅棹忠夫『文明の生態史観』(中公文庫)，三橋貴明『マスゴミ崩壊』(扶桑社)。変更の場合あり。詳細はＷｅｂ上のシラバスで。
		清野聡子	**【副題：伊都国廃棄物資源化実習】** 伊都キャンパスとその周辺には，貝塚，古代製鉄跡など古代から人間生活と廃棄物処分問題が存在していました。学内の竹林や猪，糸島半島の牡蠣殻，長浜海岸の打ち上げ海藻，ため池の魚，瑞梅寺ダムの堆積土砂など，リサイクルすれば自然資源として有効活用できる素材がたくさんあります。現在，技術・コストの壁を超えるべく，多分野での試行錯誤が行われています。授業は現地での実習や見学を中心とし，学内外の技術者，ボランティア，地域住民，行政との協働で行います。未来の技術開発や危機管理にも役立つかもしれません。	前期（木５）	伊都キャンパス内，周辺地域での現場実習が多い内容である。現場主義，フィールドワーク指向の学生大歓迎。

		担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）	備考（テキスト）
少人数セミナー	そ	副島雄児 他３名	**【副題：納得できる物理学】** 実体験として自然科学の面白さや魅力に触れてみたい文系学部学生を対象として開講する。日常的で身近な３つの物理現象を実験テーマに取り上げ，各テーマについて，１）実験テーマについての基礎事項と予測される結果を調査学習，２）実験の実行および結果の分析，３）実験結果の発表と討論，を行う。５名程度のグループを編成して，一連の研究活動として体験型のセミナーに参加し，最終的に各グループ独自の実験テーマを考案，準備，実施，結果発表を行うことによって，自発的な科学探求活動を経験する。	後期（火５）	
	な	◎中野　豊 知足美加子	**【副題：糸島で学ぶ“命のあり方・尊さと食の連関”】** 人間は生活する風土によって様々な食文化を有している。家畜は人間に様々な食料を提供し，人間が生活できる範囲を広げることに貢献してきた。セミナーの前半では，地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び，命のあり方に向き合って，未来につづく社会デザインを共に探るため，「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では，家畜と人間の関わりを学び，加工・調理を実践して，人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	前期（月５）	土曜もしくは日曜に授業を行うことがあります。
	の	野口ゆかり	**【副題：思春期・青年期の生と性における発達課題とその援助−Who am I?−】** 思春期・青年期の生と性の健康における発達課題とその援助について考察します。少人数の利点をいかして，積極的にグループディスカッションできる機会を多く設けます。「Who am I ?」をキーワードに，過去-現在-未来の自分を見つめる機会をもつこと，課題についてはグループで情報収集・文献検索・文献の吟味・シナリオ作成・発表をします。同年代の仲間と情報と理論と感情を共有し考えていくことをとおして考察を深めていきます。援助については，実践的スキルとしてピアカウンセリングについて学び演習します。	後期（月５）	高村寿子編著『ピアカウンセリング・マニュアル』（小学館）ほか プリント配布
		野田百美	**【副題：薬・毒をめぐる話】** 薬と毒が歴史の中でどのような役割を持ってきたかについての理解を深める。講義形式およびセミナー形式とする。セミナー形式では，学生による発表および質疑応答からなる。	前期（火５）	山崎幹夫『薬の話』（中央公論新社（新書）） 山崎幹夫『毒の話』（中央公論新社（新書））
	は	服部英雄	**【副題：現地から考える歴史・地名から考える歴史】** 歴史は資料（史料）にもとづき構成される。史料の中心は文献である。しかしそれ以外にも過去の人間が残した痕跡はすべて資料になる。現地の景観や遺跡，地名，民俗などから歴史を考えることができる。このゼミでは現地を歩くことを主眼にしたい。田染田植え（大分県国東）や，自転車による柑子岳登山，今津見学を考えている。６月後半には唐津市を中心とする現地調査によってお年寄りからの聞き取りも計画している。土日の調査があるから部活動で参加できない学生は受講できない。自転車は生協のレンタルを借りる予定。	前期（木５）	積極的で主体的な学生の受講を希望します。 テキスト：『地名のたのしみ』（角川文庫）
		林　篤裕	**【副題：伝えることの真髄―プレゼンテーションを例に―】** 人に物事を説明しようとするとき，どのような点に考慮すれば良いのであろうか。説明したい事柄を理解しておくことは当然だが，それ以外にどの様な点を考慮すべきなのか。本講義はプレゼンテーションを例に「伝えること」の本質に迫ってみようと考えている。大学生活に限らず，広く社会では人と意見交換をする。自分の意見や伝えたい情報を理解してもらおうと言葉を発するが，誤解なく完全に相手に伝わっているのであろうか。伝えることの背景にまで踏み込んで参加者同士で「伝えること」や「考えること」を一緒に考察してみる。	前期（火５）	「考えること」が好きな学生に受講してほしいと思います。 用意した資料を配布します。
	ひ	比良松道一	**【副題：いのちの授業】** 「医は食に，食は農に，農は自然に学ぶ」を理念とし，ワークショップや体験型実習・企画をとおして「いのち」とは何かを改めて考える。地域社会における実際の福祉，食育，農業，環境保全活動を２ー３回体験し，その上で，我が国における成人病の低年齢化，食料自給率低下，農林漁業の衰退，生物多様性減少，地球温暖化といった具体的な問題をテーマとして，受講生の異なる考え方や意見を共有しながら，様々な社会問題に対する自己の考え方を整理していく。これにより「いのち」について考えを深め，"Think globally, act locally.″を実践する力を身に付けていく。	前期（月５）	土日を利用したフィールドワークに参加できることが受講条件です。 テキスト：適宜指示します。
	ふ	フェニック，M. ヴルブカ，S. ユルチス，P.	**【副題：グローバル社会における法と政治】** 本講義は，学部教育の国際化を目的として法学部・法学府が推進する科目であり，法学府，国際コース LL.M.（法学）ならびに CSPA（政治学）（http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programsinenglish/）への進学を目指す法学部の学生に，国際社会における法学および政治学の役割について英語で講義するものであるが，同時に，他学部の学生にとっても，法学・政治学の基礎を学びつつ英語能力を向上させる機会を提供する。学部を問わず，学生の皆さんには，九州大学教育憲章第５条（http://www.kyushu-u.ac.jp/university/charter/education-j.php）に掲げる「秀でた国際性を有する人材」となるための，第一歩を本講義で踏み出していただきたい。	前期（木５）	

		担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）	備考（テキスト）
少人数セミナー	ふ	藤野泰寛 土居克実	**【副題：微生物学入門】** 太古から人類は微生物を利用し，ビールやワイン，味噌，醤油などの発酵食品を製造してきた。また一方で微生物が原因となる伝染病に苦しめられてきた。顕微鏡が発明され，目に見えない“微生物”を見ることができるようになってから「微生物学」が発展し，現在でも微生物は生物化学において重要な研究対象となっている。本講義では微生物学の基礎から最先端の研究までを，随時実験やフィールドワークを織り交ぜながら概説していく予定である。	後期（火５）	一部授業を休日に振り替え，フィールドワークなどに充てる予定である。日程は開講後に相談するが，これらの活動に積極的に参加できることが望ましい。 参考書は授業で随時紹介する。
		藤原智子	**【副題：星のソムリエになろう！―星空案内人資格認定講座―】** 「星を見るのが好き」という人は多いが，その星の名前や星座を知っていたら，星空を見上げるのがもっと楽しくなる。この授業では星座の起源や伝説，星信仰などの天文学の文化的な面や，太陽系や銀河系の天体とその特性，宇宙の構造などの科学的な面を学び，星座の見つけ方や望遠鏡の使い方などの実技も行う。「星空案内人®(星のソムリエ®)※山形大学の登録商標」は，星空案内に必要な知識や技術を身に付けた人に与えられる資格である。本科目を受講し，認定試験に合格すれば，準案内人資格を取得することができる。	後期（木５）	実技科目は木曜6限(18:30～20:00)に行う。５限と連続で参加できることを受講の条件とする。資格取得を目指す学生は，総合科目「遥かなる宇宙への誘い」（前期開講）を受講しておくことが望ましい。 テキスト：柴田晋平ほか著『星空案内人になろう！』（技術評論社）
	ま	松永典子	**【副題：多文化関係論―多文化共生とコミュニケーション―】** 地球規模で考えていかなければならない問題が山積している現代，個人個人が国境を越えた立場で物事を考え，お互いに連携していくべき場面が増えてきています。つまり，個人が自分自身の立場や考えを「異なる他者」に的確に発信し，その情報を共有できる能力が確実に求められてきていると言えます。このゼミではまず自分自身と向き合うところから始め，「異なる他者」と向き合うため，個々人の情報発信能力の向上を目指します。具体的にはディベート，インタビュー，アンケート調査等の活動に加え，スピーチ，レポート，レジュメ，小論文等の課題に取り組んでいきます。ゼミに積極的に参加することで「多文化共生」の時代に生きる姿勢とコミュニケーション・スキルを磨いていきましょう。	後期（火５）	留学生・日本人学生双方の受講を歓迎します。 テキスト：山本富美子編著，文科系留学生・日本人学生のための一般教養書『国境を越えて[本文編]』（新曜社）
	も	◎望月俊宏 尾崎行生 中野豊 酒井かおり	**【副題：持続的農業生産の理論と実践】** 地球環境の悪化が懸念される中，温暖化防止対策としてのバイオエタノール生産によって食糧供給が圧迫されるなど，農業を取り巻く環境は激変している。さらには東日本大震災による農耕地の被害や福島第一原発の事故による農産物の放射能汚染問題，ＴＰＰ参加による農業への影響など，我が国の農業は危機的な状況にあると言える。本講座では，農学部附属農場での見学・体験，持続的な生産を目指す農家グループとの交流や生産現場における体験学習，小売店・直営店などの見学を通して，農業の現状と課題について考察する。	前期（金５）	通常の講義時間を土・日あるいは夏休み中等に振り替えて授業を行うことがあるため，これらに参加可能な人。
	や	山岡均	**【副題：簡単な計算で学ぶ天文学】** 簡単な計算（ほとんどは四則演算）や作図を通じて，天文学・天体物理学の概念に親しみ，インタラクティブに学習することを目指す。先人がどのようにして自然法則を見いだしてきたのか，手を動かして学ぶことで，自然法則が単に教科書に書いてあるものではないことを感じ取ってほしい。取り扱うテーマは，宇宙速度，人工衛星や惑星の軌道，天体の距離測定，星のエネルギー源，宇宙論などを予定しているが，要望があれば考慮する。各時間内に小レポートを課し，授業中の質疑応答と合わせて評価する。	後期（火５）	
		◎山田秀人 淵田吉男 土井道生 藤原智子 小島健太郎 鎌滝晋礼	**【副題：文系学生のためのサイエンスラボ ～ワクワク実験！ ドキドキ体感！科学の世界～】** 「高校で学んだ理科(物理学，化学，生物科学，地学)って何だったんだろう？」，「科学なんてよくわからないし関係ない。」そんな風に思った事はありませんか？このセミナーでは，私たちの身のまわりにある様々な自然現象（光，大気，水，生命，電気，音など）についての簡単な実験や観察を通じて，自然科学の「不思議？」・「なぜ？」を体感し，その疑問について科学的に考えていきます。理科各科目の専門的知識を持っていない事を前提に高等学校の内容から学習を進め，自然科学の基礎的な考え方や知識を学ぶ事を目標にします。	前期（火５）	実験の経験や専門的な知識は問いません。積極的に実験やセミナーに参加できる文系学生を望みます。 テキストは特に指定しません。必要に応じ，資料を配布します。
		山田秀人	**【副題：化学の見かた－実験から考える身のまわりの化学－】** 「化学」と聞いて何を考えますか？－難しい？関係ない？しかし，私たちの生活は，知らない間に化学で満たされています。例えば，氷は固体なのにどうして水に浮くのでしょうか？このセミナーでは，私たちの身のまわりにある様々な化学現象や化学物質についての簡単な実験や観察を通じて，「当たり前」で普段気がついていない事や疑問に思った事をセミナーに参加する全員で化学的に考えていきます。高校で化学をしっかりと学んでいない事を前提にできる限り基本的な内容から学習を進め，化学の基礎的な考え方や知識を学ぶ事を目標にします。	後期（火５）	実験の経験や専門的な知識は問いません。積極的に実験やセミナーに参加できる文系学生を望みます。 テキストは特に指定しません。必要に応じ，資料を配布します。

1－f．総合科目【2単位】授業概要等（科目名50音順記載）

※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。　　◎印はオーガナイザー

	授業科目名	担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）	備考（テキスト）
い	伊都キャンパスを科学するⅠ（計画・環境編）	◎坂井　猛 今泉勝己 佐藤　優 矢原徹一 佐々木一成 佐藤剛史 折田悦郎 近藤昭夫 薛　孝夫 鶴崎直樹 丸居　篤 横田雅紀 山本智之	伊都キャンパスにおける環境と計画を主題に，建設を巡る様々な課題をどのように解決したかをわかりやすく解説するとともに，新しいキャンパス像に関する理解を深める。世界の大学キャンパスおよび九州大学のキャンパス史，自然環境の調査，学生や教職員と市民の参画，学術研究都市構想，マスタープラン，施設建設とマネジメントなど，プロジェクトに関与する教員がリレー形式で授業を担当する。	前期（水５）	新キャンパス計画推進室編『これからのキャンパスデザイン』（九州大学出版会）
	糸島農村留学	◎岡安崇史 丸居　篤	農林水産業は我々人間の生活に必要不可欠なものであるが，我が国ではこれらの産業の衰退が問題となっている。伊都キャンパス周辺の糸島地域も例外ではなく，様々な課題を抱えている。本講義では，農林水産業の現場での実習を通して，その現状や課題を学び，自らその改善策を思考する能力を習得する。	前期 集中講義 および土・日曜日開催の実習（計４日間）で行う。土・日曜日の出席が不可能な場合には受講することはできない。	本講義は，ガイダンス，中間・最終報告（計３日間）
	糸島の水と土と緑	◎原田昌佳 平松和昭 大槻恭一 北野雅治 飯田　弘 東　孝寛 岡安崇史 丸居　篤 弓削こずえ 森　裕樹	糸島の農業農村環境を教材にして，水・土・緑が環境資源としていかに人の生活や農業の基盤を支えているのかを学び，その理解を通じて環境保全の大切さ，さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。複数の農学系教員に加えて糸島地域の就農者を講師として迎え，オムニバス形式で授業を進める。本講義は糸島を対象に農業農村環境問題の基礎的知識の習得を目指すものであるが，このような知識は学部に関係なく，将来さまざまな場面で直面する農業農村環境問題と向き合う上で必要となるので，幅広い学部学生の受講を望む。	前期（水５）	
え	映画の世界	◎鈴木右文 志水俊広	映画を単なる娯楽としてではなく，分析的に鑑賞する姿勢を身につけることを目的とし，実際に数本の映画作品を全編を通してしっかりと鑑賞した後，教員による解説に基づいて作品についての考察をしてもらう。今回取り上げる作品は，シラバスを公開する時点までに決定して公開するが，邦画を多めにし，中国や米国の作品を織り交ぜる予定。映画館代わりにするつもりの受講はお断りする。また上映途中での入退室は遠慮していただく。	前期（水５）	
	映画を通じて見るアジアと日本	◎志水俊広 前田秀一郎	東アジア（中国，韓国，北朝鮮など）の映像作品の作られた時代背景，歴史，生活，文化などを予習し，映像作品を鑑賞する。その後，作品の中に隠されたメッセージなどについて考える。さらには，現代におけるアジアと日本の関係について，基礎的に学ぶとともに，そこに存在する諸問題を考える。映像作品の具体的な解説は，主に前田秀一郎講師が担当する。	後期（水５）	
か	海外留学用ＩＥＬＴＳ講座	徳見道夫	海外留学に必要な標準化テストではTOEFL　iBTが有名であるが，最近ではIELTSも注目されている。IELTSはイギリス留学の際に重視されるが，今では多くのアメリカの大学もこの試験点数を参考としている。特に注目すべき点は，IELTSが九州大学英語教育の方法と目的に合致している点である。この試験には，リスニング，リーディング，ライティング，スピーキングがあり，九州大学の言語文化基礎科目(英語)の授業内容・効果を総合的に判断するには最適の試験である。この講座の目的は多くの学生が海外留学の具体的な方策を得て貰うことである。	前期（水５）	
	環境科学概論	◎西山浩司 平松和昭 大槻恭一 大嶋雄治 伊藤久徳 矢原徹一 島岡隆行 島谷幸宏 出光一哉 広城吉成 久場隆広 糸井龍一	現在，地球規模，そして，我々の身の回りで多様な環境問題が存在する。この科目では，気候変動，エネルギー，ヒートアイランド，世界と日本の水循環，河川環境，里山の水環境，土壌及び水質の汚染，廃棄物，森林及び海洋の環境と生態系，生物多様性などのテーマで，学内の１０数名の専門家による入門的な講義（文系理系いずれにも対応）を実施する。受講者は，各々の環境問題に対して，どのような解決策・軽減策があるのか学ぶ。この講義では，受講者にレポートの提出を求め，自らの考え方を構築する習慣をつけるとともに文章作成能力を向上させることを教育目標とする。	前期（水５）	資料は各教員が当日配布する。
き	九州地区国立大学間合宿共同授業	◎小湊卓夫 小島健太郎 山田秀人	寝食を共にしながら大学間の交流を図る授業として，３６回を数える伝統のある合宿授業です。特に，大学で何をどのように学ぶかについて，各自の体験を踏まえ，また専攻領域を越えて討議します。本年度は，九州大学の他に，琉球大学，長崎大学，佐賀大学，福岡教育大学などが参加します。今回のメインテーマは『教養とは？』です。Ｗｅｂ上の掲示板を用いた事前学修を通して合宿での学生フォーラムに備えます。この授業の大きな目標は，履修者それぞれが大学での多様な学びを自らに統合する核（コア）を見いだすことにあります。	前期 集中講義 4月中旬に伊都キャンパスの掲示によって案内。合宿は夏季休業中の３泊４日。受講者は合宿前の事前学習及び合宿に必ず参加することが単位取得の要件となります。なお，交通費，宿泊費，飲食費など全てを含んで１万円程度（未定）の参加費が必要。	履修者(14名)の募集については，４

	授業科目名	担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）	備考（テキスト）
き	九大インターンシップ	小湊卓夫	学生時代に実社会で必要とされる知識・技能・態度を学ぶことは重要です。それは「どの職業にも，講義ではなく，実際の仕事場でしか学べないものがある。実務を経験することによって培われた判断が（大学で学んだ）理論を補う」という効果が期待されるからです。そこで，私たちの学舎である九州大学の実際の職業現場を，インターンシップの場として開放します。大学運営や活動の中身に触れることで，大学で学んだ内容を社会と結びつけるとともに，今後の自身のキャリアを考える機会として提供します。	後期 集中講義	このインターンシップは夏期休暇中の９月に，２週間実施する予定です。なお，インターンシップに入る前に事前講習会を受ける必要があります。詳細は後日お知らせします。
く	グリーンケミストリー	◎成田吉徳 高原　淳 吉澤一成 割石博之 後藤雅宏 神谷典穂 大塚英幸 伊藤芳雄 徳永　信 石田玉青 藤田敏之	現在の文明は膨大なエネルギーと資源消費による資源の枯渇と，生産や生活からの廃棄物の増大が深刻な問題となり，持続的な人類の繁栄に陰を落としている。今後，省資源化，有害廃棄物の低減・無害化，生産方法の革新からエネルギー利用の効率化と環境対応など，持続的発展に重点を置いた社会の取り組み（‘グリーンケミストリー’と呼ぶ）が重要となる。本講義においては化学，生化学の基礎から最先端の工学的応用および環境経済の立場に至る幅広い視点より，現在の到達点，課題，将来の目標について理解を深めることを目標に講義する。	前期（水５）	テキストは特に定めない。各教員の配布するレジメに基づき講義。 参考書：彌園生誠・村橋俊一編『グリーンケミストリー』（講談社サイエンティフィック刊）
け	現地で学ぶタイの言語と文化	岡﨑智己	九州大学とマヒドン大学（タイ）では教育交流プログラムを実施している。本授業はそのプログラムの一環として，マヒドン大学へ2週間の短期留学（夏季休業中）をし，講義と文化体験活動によってタイ語及びタイ文化を身に付けることを目的としている。また，現地ではマヒドン大学の学生との交流を通じてタイ文化への理解を深める。本授業で現地派遣される学生は，「タイの言語と文化」を事前に受講することが必要となる。	夏季集中講義	授業はマヒドン大学（タイ）において行う。
し	事実・意味・価値を捉え伝える－ＮＨＫ福岡放送局との連携授業	◎淵田吉男 高森智嗣 他	この科目はＮＨＫ福岡放送局との連携授業です。「事実・意味・価値を捉え伝える」プロとして活躍されている方々をお招きして，放送を取り巻く様々な現状についてお話し頂きます。 多様な通信手段が劇的に普及する現在，メディアと視聴者はどのように変化しているのか。放送局は，どういう視点で何を捉え，視聴者に何を伝えようとしているのか。公共放送の最新情報をもとに積極的に意見交換することを通して，皆さんが学生生活において日常的に行っている「事実・意味・価値を捉え伝える」ことを一緒に考えていきたいと思います。	後期（水５）	昨年度までに「事実を捉え伝える－ＮＨＫ福岡放送局との連携授業」を修得済みの場合は履修できません。
	社会連携活動論	◎小湊卓夫 他	大学生活では通常の授業やサークル活動のみならず，実際の社会に出てボランティアやインターンシップを行う機会があります。それは学生生活のみならず社会に出てからも大きな影響をもたらします。そこで本授業では，この授業では，ゲストスピーカーを迎え，ボランティアやインターンシップに対する基本的な観点や実践例を通して，社会連携活動と自身の生き方について考えることにします。なおこの授業の修了者が，一定の要件を満たしたボランティアやインターンシップ活動を行った場合，高年次教養の単位として認定されます。	前期（水５）	
	女性学・男性学	◎野々村淑子 遠藤雄二 平田伸子 稲葉美由紀 谷口秀子 星乃治彦 田中陽子 坂岡庸子 富永桂子	本講義は，本学における男女共同参画推進のための取組みとして開講され，両性がよりよく共生しうる社会を担うために，既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場，学びの場，また私生活における問題，そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史，逆に男性の生き方の問題，さらに文化や表現と性差，あるいは，性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療，保健，福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など，様々な視角から性差の問題をとらえる。	前期（水５）	
せ	性と社会のつきあい方	◎三隅一百 野々村淑子 富永桂子 岩城和代 原　健一 相本倫子	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら，この社会をつくっています。生活のあらゆる場面で性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり，しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に，避けがたく私たちに迫ります。この問題はジェンダーとして議論されてきました。この科目では，文芸，メディア，社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や，職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら，よりよい性と社会のつきあい方，その中でのよりよい職業・社会生活を探ります。（「女性学・男性学Ｂ」の既履修者は受講できません。）	後期（水５）	
た	大学とはなにか―ともに考える―	◎折田悦郎 吉岡　斉 三輪宗弘 小湊卓夫 白土　悟 上瀧恵里子 藤岡健太郎 井上美香子 山野善郎	現在，東京大学・京都大学等の旧帝国大学系の大学や，早稲田大学・慶應大学・同志社大学といった伝統的私立大学では，いわゆる「自校史」教育として，各々，各大学歴史の授業が開講されています。実は，このような試みは，国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり，約13年の歴史を持っています。法人化を迎えた国立大学は，常に自らの歴史を振り返り，有るべき姿を模索し続ける必要があります。当科目はこのような視点に立ち，九州大学の歴史と大学を巡るいくつかの問題について考えます。九州大学は，1911年に設置された九州帝国大学から始まりましたが，その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり，更に，明治初期の福岡医学校まで遡ります。百二十五年を超える伝統のある大学です。わが国の高等教育制度を踏まえながら，私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて考えます。	前期（水５）	新谷恭明・折田悦郎編『大学とはなにか　―九州大学に学ぶ人々へ―』（海鳥社）

	授業科目名	担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）	備考（テキスト）
た	体験的農業生産学入門	◎望月俊宏 尾崎行生 中野　豊 酒井かおり	本講座では，作物（イネおよび園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に，その基盤となる理論，農業生産と環境（保全）との関係や食物の安全性などについて学習する。９月下旬に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において，２泊３日の宿泊集中実習・講義を実施する。	後期 集中講義	
	タイの言語と文化	◎太田一昭	タイ語の基礎とタイの文化を学ぶ。第１日と第２日はタイ語の基本事項を学習する。第３日から，タイ語の学習と並行して，タイの文化についての講義を行う。適宜役割練習を行い，小テストを実施する。最終日の第5日にレポートの作成と口頭発表を行う。到達目標は次のとおりである。(1) タイ語の文字・発音記号を書くことができる。(2) タイ語の発音ができる。(3) タイ語の基本的な文法構造を理解し，初歩的な会話と読解ができる。(4) タイの文化に関するさまざまなトピックに関して理解することができる。	前期 集中講義	授業は，タイの講師が行う。
と	トランスボーダー時代の東アジア市民社会論	◎松原孝俊 岩渕秀樹	少子高齢化に伴う国内市場の縮小，東アジアをはじめとする新興国の中間所得層拡大などにより，海外に進出する企業が増加している。それにともない，海外マーケットで活躍できる能力が求められている。 日中韓は歴史認識・領土問題等で複雑な軋轢があり，こうした根本的な問題に切り込みながら，東アジアの市民社会の実現に貢献できる人材も必要である。そこで，先端科学を研究する九州大学の講師に加えて，通常の講義では聴講できない各分野のトップランナー（企業経営者，外交官など）を招聘し，国際社会で活躍する実践方法について講義していただく。人文・社会・自然科学を横断する複合的な視点から，東アジアの共通課題を浮き彫りにしていく。	前期（水５）	【日韓海峡圏カレッジ】（122ページ参照）
に	日本事情	高松　里	この授業は留学生のために開講されるが，異文化に興味がある日本の学生にもぜひ参加して欲しい。以前から「留学生と日本の学生は友達になりにくい」という話はよく聞く。それは出会うチャンスがないこと，一緒に何かをする時間や場所がないこと，などが原因であると指摘されている。この授業では，コミュニケーションゲームなどを用いて，留学生と日本の学生が直接話をし，お互いに学んでいく。楽しく役に立つ授業になる予定である。言語は原則として日本語を用いる。留学生は全員受講可能だが，日本の学生については例年人数制限がある。	前期（水５）	『留学生と友達になりたい日本人学生のための留学生超入門2012年版』（入学式後のオリエンテーションで配布予定）を使用する。その他，必要に応じてコピーを配布。
	日本事情－福岡の地域社会と文化	白土　悟	日本の文化と社会について，主に福岡の歴史，宗教，年中行事など身近な事象を通じて，理解を深めることを目的とする。日本語の文献を読むとともに，実際の情況を見るために市内散策を行う。留学生にとっては専門的日本語を習得する機会になるだろう。日本人学生にとっては留学生の日本や日本人の行動についての疑問に答えることができるようになることを目指してほしい。	後期（水５）	テキスト：プリント配布
ね	ネオ・ノマド論	◎阿尾安泰 佐藤正則 佐藤典子 嶋田洋一郎 福元圭太	複数の教員がそれぞれの視点から，第２次世界大戦以降展開してきた急速な発展を遂げてきた現代思想，現代言語文化がもつ問題点を考察する。その際に各教員が専門とする国であるドイツ，フランス，ロシアの文化的基盤への問い返し作業を行いながら，日本の現状の分析そして今後の展望を試みる。	後期（水５）	テキストは，授業時に各担当教員が指示。
は	遥かなる宇宙への誘い	◎藤原智子 花田俊也 吉川　真	太古の昔から，人類は頭上に広がる果てしない宇宙を見つめてきた。人々は宇宙にどのような想いを馳せてきたのか，宇宙を知るためにどんな挑戦をし，注意深く観察した星空から何を理解してきたのか。この授業では太陽系天体，恒星や銀河など，宇宙に浮かぶ様々な天体の姿を紹介，そこで起こっている現象を最新の研究成果と併せて科学的に解説するだけではなく，星座や神話，人類の宇宙観などの文化的内容，観測機器や宇宙開発(ロケットや人工衛星・探査機)等の技術的内容についても触れ，「天文学」をキーワードに幅広い内容を扱う。	前期（水５） 毎年受講定員(120名)を大幅に超える希望者があるため，初回ガイダンス時に選抜を行っている。受講が叶わない可能性もあることを，あらかじめ了解のこと。	受講希望者はシラバスを必ず読んでおくこと。
ひ	東アジア社会の共通課題は何か？	松原孝俊	九州大学と釜山大学校を行き来し，約２週間，釜山大生とともに東アジアの共通課題が何かを講義（理論）とインターンシップ（実践）を通じて学ぶ。２１世紀は経済・政治・環境問題など，国境の枠を超えて検討すべき問題が山積している。ＦＴＡ，地域統合，地方分権，東アジアの特区構想，メディカル・ツアー，自然エネルギー開発など，九州大学と釜山大学校が誇る最先端の知識を講義する。本科目を通じて，日韓共通課題の解決に従事し，幅広い教養，国際感覚に富んだアジアのリーダーとなる人材を養成するとともに，天災などによる人道危機・環境汚染等に立ち向かう「人間の安全保障」を具現化できる「強い人材」を実現できればと思う。	夏季集中講義	【日韓海峡圏カレッジ】（122ページ参照）
	東アジアの地域統合論	松原孝俊	２１世紀の東アジアに関する主要テーマは，トランスナショナルな市民社会の実現と越境する環境問題にあるといえる。特に東日本大震災では，原発問題や救援体制など一国では解決できない問題が噴出した。九州で同様の事態が起これば，環境汚染は韓国・中国へ越境する。こうした問題を解決する上で，地域統合は喫緊の課題である。しかし，東アジアは教科書問題・領土問題等で複雑な軋轢があり，地域統合は容易でない。まずは歴史認識といった根本的な問題に切り込みながら，環境問題・地域統合など，新たな市民意識を形成していく一歩をこの講義から踏み出していきたい。	後期（水５）	【日韓海峡圏カレッジ】（122ページ参照）

	授業科目名	担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）	備考（テキスト）
ひ	病気と社会と文化	山本和彦	コレラやハンセン病，結核，炭疽など，古い時代からヒトと関わりが深く，社会や文化や歴史に大きな影響を与えてきた病気，エイズやプリオン病，心の病，薬物依存症など，現代のヒトを脅かし，現代の社会や文化に大きな影響を与えつつある病気を取り上げて，これらの病気の概念と，病気とヒトの格闘の歴史を講義し，病気と社会と文化の関わりについて論じる。これを通じて，医学・医療・福祉などについて，幅広い視野を獲得することを目的とする。	後期（水５）	
ふ	フィールド科学研究入門	◎古賀信也 笠原玉青 榎木勉 智和正明 大賀祥治 内海泰弘 久米篤 田代直明 菱拓雄 及川信 吉国通庸 鬼倉徳雄 後藤貴文 吉田茂二郎	野外における講義・実習を通じて，人間や生物と環境との関わりについて学びます。 前期開講： ①里山プログラム（福岡演習林）：里山の森林・環境と人間活動，②山岳森林生態プログラム（宮崎演習林）：山岳地の森林の成り立ちや構造，③アクアフィールドプログラム（津屋崎水産実験所）：人間活動と海洋環境の繋がり，④体験的家畜生産生態学プログラム（久住高原農場）：環境保全型で安全な牛肉の生産システム。 後期開講： ⑤北海道プログラム（北海道演習林）：自然と人間の関わりを通じた景観形成，⑥屋久島プログラム（屋久島）：屋久島の多様な自然と人間活動。	前期 集中講義 後期 集中講義	
	分子の科学	奥村泰志	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を，３日間の集中講義形式で紹介します。１日目は，二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ９０分ずつ分かりやすく講義します。２日目と３日目は，受講した学生が実際に研究室に入り，先端設備に触れて動かし，先端分子科学の発展の内容を体験的に学びます。本授業には，無機化学から有機化学まで様々な専門を有する約１０の研究室が参加するので，学生はその中から興味を持った一つの研究室を選び実験を行うことができます。	後期 集中講義	『分子の科学2012年度実験指導書（オリジナル）』を作成し配布予定
ほ	放射線とは何だろうか？	◎續輝久 豊福不可依 佐々木雅之 塩山善之 神谷研二 甲斐倫明 工藤和彦 百島則幸 古市正人	身近なところに存在する「放射線」並びに「放射性同位元素」等に対する理解からスタートし，主として医科学系の応用に重点をおいて講義を構成します。これまであまり学ぶ機会がなく，このまま社会に出て以降も主にマスメディアからの受身的な「放射線に対する理解」を基に色々なことを判断することになるのではないでしょうか。平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災に伴う，東京電力福島第一原子力発電所からの放射線・放射性物質の大量放出・拡散により，福島県はもとより広い地域の住民の方達の不安が増しています。今後，如何にして「放射線」並びに「放射性同位元素」と向き合うのか等を含めて考える契機となるように，話題提供をしたいと思います。	前期 集中講義	テキストは指定せず，資料を配布する。ビデオ教材も使用する。講義の終盤には「自然放射線の測定」等の実習を含む。参考図書等についての詳細は，「シラバス」に掲載する。 参考図書：舘野之男『放射線と健康』（岩波新書），大西正夫『放射線医療』（中公新書）
み	水の科学	◎横山拓史 石橋純一郎 梅林泰宏 広城吉成 吉村和久	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から水について講義する。それぞれの講義内容は，(1)地球における水の起源と大気・海洋の進化，(2)地球表層での天然水の化学，(3)陸上及び海底の温泉や地熱系において熱水が循環するしくみ，(4)身近な地下水環境，(5)水環境と水資源，(6)水の基礎化学	後期（水５）	適時，プリントを配布する。
り	リスクサイエンス	◎下東康幸 野瀬健 松島綾美	高度な科学文明の恩恵を最大限に享受する現代社会において，化学物質，ウイルス，細菌，蛋白質，アレルゲン，動物毒，植物毒，微量金属元素，重金属元素，放射性元素などさまざまな要因がヒトを含む動物一般に，多種多様な有害なリスク要因となり，生命の安全性や生活の安心・安全性のみならず，地球環境生態系を脅かしている。この総合科目では，こうした天然リスク，毒性，内分泌撹乱，テロ，兵器等を含めた総合的な「リスク」について科学（サイエンス）の立場から概括することを目標とする。リスク評価（アセスメント），リスクコミュニケーション，リスクマネジメントなどについて，最新の科学的学問大系および取組みを概説し，共に考える。	後期（水５）	プリント配付

総合科目（ＱＲＥＣ提供科目）【２単位】授業概要等

※「QREC」は九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センターの略称です。(121ページ参照)

授業科目名	担当教員	授　業　概　要	開講学期 （曜日時限） 開講地区	備　考 （テキスト）
アントレプレナーシップ入門	五十嵐伸吾 高田　仁	アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し，変化に対応し，変化を機会として活用する」ことである（Drucker,1993）。起業機会を発見あるいは創造し，それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では，このプロセスに沿いながら，起業機会の発見やアイデア創出，具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて，ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	前期前半 （水５・６） 伊都地区 箱崎地区 大橋地区	【QREC提供科目】 ティナ・シーリグ『20歳のときに知っておきたかったこと』（阪急コミュニケーションズ）， 田路則子・露木恵美子『ハイテク・スタートアップの経営戦略』（東洋経済新報社）， ウィリアム・バイグレイブ/アンドリュー・ザカリキス『アントレプレナーシップ』（日経ＢＰ社）
アイデア・ラボⅠ	五十嵐伸吾	多くのアイデアの中から，精査，選択の過程を経て実際に実行できるものは１つだけ。そうであれば，最初の段階で出来るだけ多くを創出できなければ，期待する成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら，発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で，収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで，一人よりもより良いアイデアを発想するためには，どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。	前期後半 （水５・６） 伊都地区 箱崎地区 大橋地区	【QREC提供科目】 ティナ・シーリグ『20歳のときに知っておきたかったこと』（阪急コミュニケーションズ）， ジェーン・フルトン・スリー，IDEO「考えなしの行動」（太田出版）， 星野匡「発想法入門」（日経文庫；日本経済新聞社）
アントレプレナーシップ・マネジメントⅠ	山田仁一郎	アントレプレナーシップの視点から，基本的な経営学の概念，特に製品開発，組織論，戦略論を学ぶ。毎回，基本的な概念の提示とともにケースメソッドに基づく討議を行う。グループワークに基づく，事前のケース分析などの予習を踏まえ，授業中は全体の議論で理解を深めていく。	前期 集中講義 箱崎地区	【QREC提供科目】 ザカリキス『アントレプレナーシップ』（日経ＢＰ社）
アントレプレナーシップ・マネジメントⅡ	未　定	アントレプレナーシップの視点から，基本的な経営学の概念，特にファイナンス（資金調達）及びオーガニゼーション（組織論）を学ぶ。毎回，基本的な概念の提示とともに VTR 教材やケースメソッドに基づく討議を行う。「ファイナンス」では，新製品開発や事業の拡大には資金が必要となる。その資金を調達する市場の構造や調達の方法を選択することで最適な資金調達方法が選択可能となる。「オーガニゼーション」は一人ひとりの個人活動が相互作用して作られる組織のダイナミクスを対象としている。リーダーシップ，モチベーション，コーチングなど組織のダイナミクスを適切に引き出すことによって初めて巨大な組織の力を発揮することが可能となる。	前期 集中講義 箱崎地区	【QREC提供科目】
テクノロジー・マーケティングⅠ	朱　穎	技術革新のスピードが目覚しく，企業間競争が激化している中，企業はいかに研究開発投資に見合う収益を実現していくかは重要な課題である。画期的な新製品は単に顧客ニーズのみに基づいて生み出されるものではなく，技術力をテコにした価値創造を必要としている。本講義は経営学の観点からイノベーション・マネジメントおよび市場創造の基礎知識を紹介し，「技術と市場」の基礎フレームワークを学んで行く。	前期 （土３・４） 箱崎地区	【QREC提供科目】 ジェフリー・ムーア『キャズム』（翔泳社，2002）
テクノロジー・マーケティングⅡ	五十嵐伸吾 ジェフェリー・シュナック	高性能な製品が売れるとは限らない。市場に受け入れられる性能，価格等を適切にバランスさせて初めて売れる商品となる。本講座では，「テクノロジー・マーケティングⅠ」でマーケティングの基礎を習得していることを前提としてマネジメント・ゲームを使用することで，履修者は企業経営者の立場から製品開発，販路の選択，価格の決定，人事配置，広告・調査等を実際にゲームの中で意思決定することで体験的に製品開発を含めたマーケティングを学ぶ。	前期 集中講義 箱崎地区	【QREC提供科目】 フィリップ・コトラー『コトラーのマーケティング・コンセプト』（東洋経済新報社），石井淳哉・廣田章光『１からのマーケティング』（碩学舎；第３版）
ハイテク・アントレナーシップ	五十嵐伸吾	QREC 科目の実践編の一つ。これまで学んだ起業機会の認知，その起業機会を活用するためのアイデア創出，潜在市場の分析，ビジネスモデルの検討，事業化のための戦略の立案，実際の組織の立ち上げなどを全体化，統合化を行う。特に本科目では技術を基礎とする技術シードに焦点を集め，知的財産権(IP)やトレードシークレットなどを駆使し，大手を中心とする競合相手に対して競争の主導権を握りながらどのような事業を立ち上げてるかを演習形式で学習する。	前期 （金６・７） 18:50～22:00 箱崎地区	【QREC提供科目】 田路則子・露木恵美子『ハイテク・スタートアップの経営戦略』（東洋経済新報社）， ウィリアム・バイグレイブ/アンドリュー・ザカリキス『アントレプレナシップ』（日経ＢＰ社）

。

授業科目名	担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 （曜日時限） 開講地区	備　　考 （テキスト）
ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・プログラム	谷川　徹	起業家精神，移民文化，国際的ハイテクビジネスのメッカ，シリコンバレーにおいて１週間，現地で活躍する起業関係者，NPO主宰者，米国で働く研究者やエンジニア等，多彩な方達を講師に迎え，またスタンフォード大学等の学生や留学生等とも交流，更には典型的な米国企業等(実績：Google等）も訪問するプログラムです。日本と全く異なる異文化の地で様々な人たちと交流し，自らの生き方と比較することにより自らのキャリア形成を考え，新たなことにチャレンジする意欲・意識を高める機会を提供しようとすることを目的としています。 ※学部によっては，全学教育科目ではなく専攻教育科目の単位として認定されます。詳細については，別途掲示します。	後期 集中講義 箱崎地区等	【QREC提供科目】 大学院共通教育との連携科目。 １−２月に事前講義を箱崎で（２回）。３月初にシリコンバレーで１週間現地講義。３月下旬に福岡市内で事後講義。 テキスト等：『シリコンバレー，なぜか変わり続けるのか』上巻，下巻（日本経済新聞社），海部美智著『パラダイス鎖国-忘れられた大国・日本』（アスキー選書），『ウェブ時代５つの定理』，『シリコンバレー精神』等，梅田望夫氏の著作，平強著『エンジニアよ挑戦せよ』（日経ＢＰ）
アントレプレナーシップ・セミナーⅠ	未　　定	2010 年度までの「起業家セミナーⅠ」を改編。アントレプレナーシップを考える前提として，「働く」ことの意義や目的とは何か，いかに自らのキャリアを設計していくか，そのためにはどのような考え方，知識，行動，アプローチが必要なのかを履修学生一人一人が考える契機を提供する。外部講師を招聘し現実に即した事例に基づき招聘講師との直接的な対話及びワークショップ等，体験的な教育方法を取り入れる。	後期前半 （金５・６） 伊都地区 箱崎地区 大橋地区	【QREC提供科目】 田路則子・月岡亮『キャリア・デザイン』（ファースト・プレス）， 大久保幸男『キャリアデザイン入門［１］』（日経文庫，日本経済新聞社）， 大久保幸男『キャリアデザイン入門［２］』（日経文庫，日本経済新聞社），金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』（PHP新書，PHP研究所）
アントレプレナーシップ・セミナーⅡ	未　　定	2011 年度までの「起業家セミナーⅡ」を改編。アントレプレナーシップとは何かを考える契機を提供する。社会の第一線で活躍する外部講師を招聘し様々な困難に直面したとき，どのようなアプローチと行動をとることで，その困難に打ち勝って来たかを学ぶ。	後期後半 （金５・６） 伊都地区 箱崎地区 大橋地区 筑紫地区	【QREC提供科目】 ティナ・シーリグ『20歳のときに知っておきたかったこと』（阪急コミュニケーションズ） ジェセフ・ボイエット/ジミー・ボイエット『経営パワー大全〜最強起業家に学ぶ，戦略と実行のマネジメント』（日本経済新聞社）
アントレプレナーシップ機会認知	五十嵐伸吾	2011 年度の「アントレプレナーシップ機会発見：社会環境の変化とチャンス」を改編。アントレプレナーシップ・プロセスの出発点は「機会（Opportunity)」の存在であり，その「機会」を認識できるか否かは個々人によって異なる。アイデアはその機会活用をする上での道具に過ぎない。本講義では，様々な社会や技術，環境，人口動態などを多様な指標や図表で示し，それに時間軸を加味することで「変化」を読み取り，それをどのような「機会」に活用できるかを検討していく。そのため本講義は知識伝達を目的とするものではなし，正解は存在しない。グループワークを多様して，グループワークの過程を通じて履修者各自が学び，気付きを得る機会を提供する。	後期前半 （水５・６） 伊都地区 箱崎地区 大橋地区 筑紫地区	【QREC提供科目】 ジェーン・フルトン・スリー，IDEO『考えなしの行動』(太田出版)， 星野匡『発想法入門』（日経文庫；日本経済新聞社）， パトリシア・ライアン・マドソン『スタンフォード・インプロバイザー：一歩を踏み出すための実践スキル』（東洋経済）
アントレプレナーシップ・オーガニゼーション	黒木正樹	企業，公的機関，NPO に限らず事業規模を拡大し，かつ，高い効果を達成するためには「組織的」な運用が不可欠となる。しかも，組織の誕生期には経営資源，特に人材は少数しか確保しえないが，組織の成長とともに求められる組織の構成員に求めまれるもの，あるいは構成員のタイプは変化が必要となり，また，組織を運用する方法自体も変更しなければいけない。このような少人数から大きな人数まで，どのようにチーム(組織）を立ち上げ，そのチームを運営していくかを学ぶ。	後期 （土３・４） 箱崎地区	【QREC提供科目】 Stephen P.Rubbins（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社）
アイデア・ラボⅡ	五十嵐伸吾	「アイデア・ラボⅠ」ではアイデア創出法に学ぶ。「アントレプレナーシップ機会発見」では社会環境の変化によってもたらせるチャンス発見を学ぶ。本講義では２つの講義を履修済であることを前提に，この２つを組み合わせ，具体的な現実的課題に対しそれを解決しうるアイデアをいかに発想するかの演習を行う。「アイデア・ラボⅠ」に引き続きグループワークによるアイデア創出を行い，「アイデア・ラボⅠ」よりもさらに高度なグループ・ダイナミクスのスキル向上を目指す。	後期後半 （水５・６） 伊都地区 箱崎地区 大橋地区 筑紫地区	【QREC提供科目】 ティナ・シーリグ『20歳のときに知っておきたかったこと』（阪急コミュニケーションズ） ジェーン・フルトン・スリー，IDEO『考えなしの行動』(太田出版)， 星野匡『発想法入門』（日経文庫；日本経済新聞社）
ニュービジネス・クリエーション	五十嵐伸吾	アントレプレナーシップ教育を統合する最初の科目。これまでQREC の各科目で学んできた起業機会の認知，その起業機会を活用するためのアイデア創出，潜在市場の分析，ビジネスモデルの検討，事業化のための戦略の立案，実際の組織の立ち上げなどを全体化，統合化を行う。一連の新規事業の立ち上げプロセスにおいて求められる能力やスキルは刻一刻と変化する。本授業では実際のビジネスシードを用いながら，段階的に事業立ち上げプロセスを体験的に学習していく。講義はグループワークを中心に定期的に各グループによるプレゼンテーションを求める。	後期 （土１・２） 箱崎地区	【QREC提供科目】 田路則子・露木恵美子『ハイテク・スタートアップの経営戦略』（東洋経済新報社）， ウィリアム・バイグレイブ/アンドリュー・ザカリキス『アントレプレナーシップ』（日経ＢＰ社）

1－g．言語文化科目
言語文化基礎科目

【 英　　語 】

（1）英語の履修の仕方

英語を選択する場合は，以下の場合に従い必要単位数を満たさなければならない。

A．第１外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第 1 外 国 語 と し て の 単 位 の 取 り 方
文・教・ 法・経	7	１年次に英語Ⅰ(1)，英語ⅡA(1)，英語ⅡB(1)，英語ⅢA(1)を各１単位（計４単位）履修すること。 ２年次では，英語ⅢB(1)を１単位，英語Ⅳ(各1)を２単位（計３単位）履修すること。
理・医・ 歯・薬・ 工・芸工・農	6	１年次に英語Ⅰ(1)，英語ⅡA(1)，英語ⅡB(1)，英語ⅢA(1)を各１単位（計４単位）履修すること。 ２年次では，英語ⅢB(1)を１単位，英語Ⅳ(1)を１単位（計２単位）履修すること。 医学部医学科，生命科学科の学生は，２年次後期に科学英語演習(1)を病院地区， 医学部保健学科の学生は，２年次に医用英会話(1)，医用外国語(1)を病院地区， 工学部機械航空工学科の学生は，２年次後期以降に技術英語(1)を伊都地区， 芸術工学部の学生は，２年次後期以降に学術英語A(1)，学術英語B(1)を大橋地区で履修すること。
２１世紀 プログラム	7	１年次に４単位，２年次に３単位，計７単位を履修すること。

B．第２外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第 2 外 国 語 と し て の 単 位 の 取 り 方
文・教・ 法・経	5	１年次及び２年次に，計５単位を履修すること。ただし，同一科目を重複して履修することはできない。
理・工・ 芸工・農	4	１年次及び２年次に，計４単位を履修すること。ただし，同一科目を重複して履修することはできない。
２１世紀 プログラム	5	１年次に３単位，２年次に２単位，計５単位を履修すること。

C．総合選択履修方式として履修する場合

必要単位数を越えて言語文化基礎科目（英語Ｘを除く）を履修し，単位を修得した場合，総合選択履修方式による修得単位とすることができる。

（2）英語履修上の諸注意

a．時間割表または受講者名簿の掲示によってクラスの指定が行われている科目は，指定クラスで受講すること。

b．学生がクラスを選択できる場合は，別に要領を掲示するので注意すること。ただし，平成２４年度入学生の１年次については，受講クラスはすべて指定する。

c．２１世紀プログラムの学生については，履修方法を別に指示する。（２１世紀プログラム学生の手引きを参照すること。）

（3）再履修について

当該学期において言語文化基礎科目（英語Ⅰ，英語ⅡA，英語ⅡB，英語ⅢA，英語ⅢB，英語Ⅳ）の単位を取得できなかった学生は，第２学期目以降に原則として英語Ｘで再履修（不足単位を補充）すること。

再履修については，各学期の開始にあわせて英語科が面接・受講クラスの指定などを行うので，必要な手続きについての掲示（当該学期開始前に掲示する）を見落とさないようにすること。（毎年，手続きを怠り再履修を次の学期に延期せざるをえない学生がいる。）

言語文化基礎科目の未修得単位を言語文化自由選択科目で補うことはできない。

（４）外国語検定試験による単位の認定

・ 外国語検定試験の結果に基づいて，言語文化研究院の教員による審査を実施して単位を認定します。
・ 対象となる試験は，ＴＯＥＦＬ，ＴＯＥＩＣの２つです。認定の時期は春期と秋期の年２回です。
認定基準，具体的な手続き方法等の詳細については，９１ページを参照してください。

（５）授業概要　※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

英語Ⅰ（第１学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

語学レベルの英語読解能力の養成を目指すとともに，文化，社会，心理など，文章の背後にある情報や知識までも読み取る高レベルの読解能力まで養成するアカデミックな英語リーディング授業ARSC(Academic Reading for Skill and Culture)です。

英語ⅡＡ（第１学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

（少人数クラス）
ライティング（パラグラフ構造の基礎の理解，エッセイの構成の基礎の理解，オーラル・プレゼンテーション）を中心に学習し，英語による論理的な文章の作成法の基礎を学びます。

英語ⅡＢ（第２学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

英語リスニング・リーディング中級および文法の訓練を行います。

英語ⅢＡ（第２学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

（少人数クラス）
エッセイや学術論文の基礎的な作成方法の理解，パブリックスピーキングの実践，批判的思考の基礎の理解，出典の示し方の理解などを学びます。

英語ⅢＢ（第３学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

英語リスニング・リーディング上級および文法の訓練を行います。

英語Ⅳ（第３，４学期開講，週１回，各１単位，伊都地区，箱崎地区，病院地区）

多様な題材を用いたリスニング・リーディング，文学・評論の鑑賞，日英・英日間の翻訳，スピーチ・ディスカッションなどを，選択して学びます。

英語Ｘ（週１回，各１単位，伊都地区，箱崎地区）

上記の英語科目の単位を取得できなかった学生に対して開講します。大人数のクラスではありますが，英語基礎項目の徹底指導を行い，厳しい成績評価を行います。この科目を履修できるのは，原則として単位を取得できなかったクラスで三分の二以上授業に出席した学生です。

英文読解演習Ａ（第１学期開講，週１回，１単位，伊都地区）
英文読解演習Ｂ（第３学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

この科目は２１世紀プログラムの学生を対象としたクラスで，エッセイや時事問題などの高度な英文を講読し，分析的あるいは批判的な読解力を修得することを目的とします。

英文作成演習A（第２学期開講，週１回，１単位，伊都地区）
英文作成演習B（第４学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

この科目は，２１世紀プログラムの学生を対象としたクラスで，パラグラフ・ライティング，エッセイ・ライティングを学習し，英語による論理的な文章作成法を修得することを目的とします。

医 用 英 会 話（第３学期開講，週１回，１単位，病院地区）

保健学科２年生を対象としたクラスです。主として医療現場で役立つ英会話を学習します。受付，薬局，各科の名称，及び病院の案内の仕方から診察室での患者との会話，さらには，薬の名前，体の名称，病名といった医学英語まで幅広く学びます。

医 用 外 国 語（第４学期開講，週１回，１単位，病院地区）

国際的に活躍できる医療人を育成するため，そのコミュニケーションの基礎となる英語を中心とした外国語を学習します。前半では，英語によるプレゼンテーションの手法，特にスライド，ＯＨＰ等の作成法，及びそれを用いた発表について学びます。また，医用英語の基礎となる英語論文の読み方，文献検索，論文の作成方法，投稿の仕方，修正の方法などについて学びます。後半では，各専攻に分かれ，それぞれの専門分野で実際に使われている英語を中心とした外国語を学びます。

科学英語演習（第４学期開講，週１回，１単位，病院地区）

医学部医学科，生命科学科の学生を対象として開講します。医学専門用語を覚え，チームベースドラーニング（TBL）によるチームワークと英語での医学倫理のディスカッションを目的とします。

技 術 英 語（第４学期以降開講，週１回，１単位，伊都地区）

主として機械工学・航空宇宙工学で必要となる技術英語の習得を目的とします。単なる専門用語の羅列ではなく，技術的な文章をどのように読み（数式の読み方も含む），書き，また，どのように話すかを，工学部機械航空工学科教員が指導します。

学 術 英 語 A

（環境設計学科・工業設計学科：第５学期開講，週１回，１単位，大橋地区）

（画像設計学科・音響設計学科・芸術情報設計学科：第４学期開講，週１回，１単位，大橋地区）

芸術工学部生を対象として，学科別に開講します。専門書を読みこなすための基礎力養成を目的として，各専門分野の英文の読解演習を中心に，英語の総合的教育を行います。

学 術 英 語 B（第６学期開講，週１回，１単位，大橋地区）

芸術工学部生を対象として，学科別に開講します。専門分野の英語文献の読解力・表現力を高めることを目的として，学術英語Ａよりも高度な内容の，各専門分野の代表的論文や最新動向の記事などに取り組みます。

【 担当教員（平成２４年度） 】

アーツル，S.	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ, M.	＊浅 田 雅 明	アレリーズ，J.	ｱﾝｽｺﾑ-飯野,J.R.
＊安 藤 裕 介	＊石 井 有希子	稲 葉 美由紀	井 上 奈良彦	＊岩 崎 一 恵
岩 宮 眞一郎	上 田 和 夫	浦 濱 喜 一	ヴルブカ，S.	江 口 巧
大 島 久 雄	＊大 園 弘	太 田 一 昭	大 津 隆 広	尾 方 義 人
小 川 玲 子	＊オノデラ，G.	＊カタラーノ，R.	包 清 博 之	＊鎌 田 裕 文
北 原 辰 巳	北 村 賢 介	クイン，B. T.	グイン，M.	＊久 保 善 宏
ｸﾘｽﾃｨｰﾝ ｸﾗﾓﾄ	黒 河 周 平	＊肥 川 絹 代	＊高 蓉 蓉	小 谷 耕 二
坂 本 博 康	実 積 寿 也	シプリアーニ，G.	志 水 俊 広	白 鳥 祐 介
＊シルバーマン，S.	スーズィ コーナ	鈴 木 隆 子	鈴 木 右 文	須 長 正 治
＊スピア，Ａ.	曽我部 春香	＊園 井 千 音	＊高 尾 浩 二	高 木 英 行
高 橋 勤	＊田 口 純	田 中 俊 也	谷 口 秀 子	＊チェイス，C. R.
＊因 京 子	＊津 田 晶 子	津 守 不二夫	＊デ・リント，D.	デカマス．G.
土 居 義 岳	藤 紀里子	徳 見 道 夫	栃 原 裕	富 松 潔
中 島 祥 好	パーウェルス，R.	＊迫 由起子	蓮 見 二 郎	花 田 俊 也
林 灯	＊ファーマー，S.	フォルマション，A	福 島 綾 子	福 島 重 廣
藤 井 美 男	＊藤 内 響 子	＊ブライセチ，J.	ブラウン，I.	＊ブラウン，K.
古 村 由美子	＊ペインター，A.	ホール，M.	＊ボドナー，A.	松 村 瑞 子
＊馬 渡 悠佳子	＊ミュウ，M.	三 輪 宗 弘	安河内 朗	保 田 幸 子
＊山 口 み ほ	山 下 茂 樹	ユルチス，P.	吉 村 治 郎	レメイン，G.
ローウェスタイン, M.	綿 貫 茂 喜			

＊印は非常勤講師

【 ドイツ語 】

（1）ドイツ語の履修の仕方

ドイツ語を選択する場合は，以下の場合に従い，必要単位数を満たさなければならない。

A．第１外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第１外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	7	ドイツ語Ⅰ(２)，ドイツ語Ⅱ(２)を履修し，加えてドイツ語Ⅲ(各１)，ドイツ語プラクティクムⅠ（１），ドイツ語プラクティクムⅡ（１）のうちから３単位を履修すること。
理・工・芸工・農	6	ドイツ語Ⅰ(２)，ドイツ語Ⅱ(２)を履修し，加えてドイツ語Ⅲ(各１)，ドイツ語プラクティクムⅠ（１），ドイツ語プラクティクムⅡ（１）のうちから２単位を履修すること。

B．第２外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第２外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	5	ドイツ語Ⅰ(２)，ドイツ語Ⅱ(２)を履修し，加えてドイツ語Ⅲ(各１)，ドイツ語プラクティクムⅠ（１），ドイツ語プラクティクムⅡ（１）のうちから１単位を履修すること。
理・医・歯・薬・工・芸工・農	4	ドイツ語Ⅰ(２)，ドイツ語Ⅱ(２)を履修すること。

C．総合選択履修方式として履修する場合

必要単位数を越えて言語文化基礎科目を履修し，単位を修得した場合，総合選択履修方式による修得単位とすることができる。

（2）ドイツ語履修上の諸注意

a．ドイツ語Ⅰ（２）とドイツ語Ⅱ（２）は必ず受講しなければならない。

b．ドイツ語Ⅰ（２）とドイツ語Ⅱ（２）は，週２回の授業が行われる。これらの授業は原則として指定されたクラスで受講すること（指定クラスについては，公用掲示板に発表する)。指定クラス以外のクラスで受講を希望する場合（時間割上やむをえない場合，日本人教員のみのクラスに指定されたが外国人担当クラスでの受講を強く希望する場合など）は，受講希望クラスの担当教員に申し出て了解を得ること。

c．ドイツ語Ⅲならびにドイツ語プラクティクムⅠ，Ⅱのクラスは，各自の興味と学習目標に応じて自由に選択することができる。

（3）再履修の仕方

科　目　名	単位	取得制限単位	再　履　修　の　仕　方
ドイツ語Ⅰ	1	2	１．ドイツ語Ⅰを再履修することが原則。 ２．ドイツ語Ⅲ・ドイツ語プラクティクムⅠまたはⅡを履修してもよい。
ドイツ語Ⅱ	1		１．ドイツ語Ⅱを再履修することが原則。 ２．ドイツ語Ⅲ・ドイツ語プラクティクムⅠまたはⅡを履修してもよい。
ドイツ語Ⅲ	1		１．ドイツ語Ⅲを再履修することが原則。 ２．ドイツ語プラクティクムⅡを履修してもよい。
ﾄﾞｲﾂ語ﾌﾟﾗｸﾃｨｸﾑⅠ	1	1	ドイツ語プラクティクムⅠを再履修することが原則。
ﾄﾞｲﾂ語ﾌﾟﾗｸﾃｨｸﾑⅡ	1	1	ドイツ語プラクティクムⅡを再履修することが原則。

※　放送大学授業科目による再履修の仕方は９４ページを参照してください。

※　再履修に関する注意

言語文化基礎科目の未修得単位を言語文化自由選択科目で補うことはできない。

（4）外国語検定試験による単位の認定

外国語検定試験の結果に基づいて，言語文化研究院の教員による審査を実施して単位を認定します。詳細は，９２ページを参照してください。

（5）授業概要

※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

ドイツ語Ⅰ（第１学期開講，週２回，各１単位，伊都地区）

アルファベートの発音，綴り字の読み方の第一歩から始め，基本的な文法事項及び文型を学びます。ヒアリングや会話の練習を通して，ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」，初歩的な運用能力を身につけることが目標です。また，ドイツ語圏の社会や文化についての学習も行い，その理解を深めます。

ドイツ語Ⅱ（第２学期開講，週２回，各１単位，伊都地区）

ドイツ語Ⅰで培った基礎知識，初歩的な運用能力をもとに，一歩進んだ文法事項及び文型を学びます。ヒアリングや会話の練習を通して，ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」，運用能力を高めることが目標です。ドイツ語圏の社会や文化についての学習も引き続き行います。受講クラスは，原則として第１学期のドイツ語Ⅰと同じメンバーで構成されます。

ドイツ語Ⅲ（第３学期開講，週１回，各１単位，伊都地区）

ドイツ語Ⅰ・ドイツ語Ⅱで修得したドイツ語の基礎的な運用能力をさらに発展させるために，やや高度な文法事項及び文型，ヒアリングや会話をさまざまな方法で学びます。各担当教員がさまざまな授業内容・授業方法のクラスを開講しますので，第２学期中に教室で配布される資料や掲示等を熟読して受講希望クラスを選択し，受講手続きに遺漏のないよう注意してください。

ドイツ語プラクティクムⅠ（第２学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

ドイツ語Ⅰで学習した文法項目を復習しながら，映画や音楽なども利用してドイツ語圏の文化についても学びます。

ドイツ語プラクティクムⅡ（第３学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

１年次に学んだドイツ語の文法をもう一度きちんと整理して再学習したい人のためのクラスです。単なる知識としての文法ではなく、ＰＣを使ったドリルによって各文法項目を確実に身につけることを目標とします。

【　担当教員（平成２４年度）　】

阿部吉雄	岡野　進	カスヤン,A.S.	栗山　暢	嶋田洋一郎
田畑義之	恒川元行	津村正樹	福元圭太	

＊印は非常勤講師

【 フランス語 】

（1）フランス語の履修の仕方

フランス語を選択する場合は，以下の場合に従い必要単位数を満たさなければならない。

A．第１外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第１外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	7	フランス語Ⅰ（２）を履修し，加えてフランス語Ⅱ（各１），フランス語Ⅲ（各１），フランス語プラティクⅠ（１），フランス語プラティクⅡ（１）のうちから５単位を履修すること。
理・工・芸工・農	6	フランス語Ⅰ（２）を履修し，加えてフランス語Ⅱ（各１），フランス語Ⅲ（各１），フランス語プラティクⅠ（１），フランス語プラティクⅡ（１）のうちから４単位を履修すること。

B．第２外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第２外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	5	フランス語Ⅰ（２）を履修し，加えてフランス語Ⅱ（各１），フランス語Ⅲ（各１），フランス語プラティクⅠ（１），フランス語プラティクⅡ（１）のうちから３単位を履修すること。
理・医・歯・薬・工・芸工・農	4	フランス語Ⅰ（２）を履修し，加えてフランス語Ⅱ（各１），フランス語Ⅲ（各１），フランス語プラティクⅠ（１），フランス語プラティクⅡ（１）のうちから２単位を履修すること。

C．総合選択履修方式として履修する場合

必要単位数を越えて言語文化基礎科目を履修し，単位を修得した場合，総合選択履修方式による修得単位とすることができる。

（2）フランス語履修上の諸注意

a．フランス語Ⅰ（２）とフランス語Ⅱの文法クラス（１）は必ず履修しなければならない。

b．フランス語Ⅰは，週２回の授業が行われる。この授業は指定されたクラスで受講しなければならない（指定クラス割については公用掲示板を参照のこと）。

c．フランス語Ⅱは，フランス語Ⅰに引き続いて文法を学習するクラスと，応用力の基礎を学ぶクラスに分かれる。文法クラスは指定されたクラスで受講しなければならないが，応用クラスは，受講生が極端に多くない限り，原則として自由にクラスを選択できる。応用クラスの授業内容については，各教員のシラバスを参照のこと。

d．フランス語Ⅲ，フランス語プラティクは，受講生が極端に多くない限り，原則として自由にクラスを選択できる。授業内容については，各教員のシラバスを参照のこと。

e．最大単位数は，フランス語Ⅰは２単位，フランス語プラティクⅠ・Ⅱは，それぞれ１単位である。それ以外は，最大単位数の制限は特にないので，どのような選択をしようと自由である。

（3）再履修の仕方

科　目　名	単位	取得制限単位	再　履　修　の　仕　方
フランス語Ⅰ	1	2	フランス語Ⅰを再履修することが原則。
フランス語Ⅱ	1		フランス語Ⅱを再履修することが原則。
フランス語Ⅲ	1		フランス語Ⅲを再履修することが原則。
フランス語プラティクⅠ	1	1	人数制限を行うこともある。
フランス語プラティクⅡ	1	1	人数制限を行うこともある。

※　放送大学授業科目による再履修の仕方は９４ページを参照してください。

※　再履修に関する注意

①　以上はあくまでも原則であり，再履修としてどの科目を選択するかは，希望するクラスの担当教員の指示に従うこと。

②　**言語文化基礎科目の未修得単位を言語文化自由選択科目で補うことはできない。**

※※　フランス語の授業に関する質問，要望等は，言語文化研究院の羽賀・阿尾・佐藤典子教員 まで。

（4）外国語検定試験による単位の認定

外国語検定試験の結果に基づいて，言語文化研究院の教員による審査を実施して単位を認定します。詳細は，９２ページを参照してください。

（5）授業概要　※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

フランス語Ⅰ（第１学期開講，週２回，各１単位，伊都地区）

フランス語の音体系を理解し，発音ならびに綴り字の読み方に習熟する。
基本的文法を学習し，平易な文章を理解する。
「読む，書く，話す，聞く」の４技能のうち基本的な能力を養成する中で，基礎的な日常会話に慣れていく。
フランス語及びフランス語圏の社会と文化についての知見を深める。

フランス語Ⅱ（第２学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

① 文法クラスでは「フランス語Ⅰ」の継続として，文法を中心にした授業が行われ，文法体系全体の学習を完了する。フランス語の音声面の習得にも引き続き力点を置きながら，比較的複雑な表現の読む・話す・聞く・書くの４能力の基礎を習得する。
② 応用クラスでは，「フランス語Ⅰ」で学んだ文法の範囲で，読む・話す・聞く・書くの４技能における語彙や表現力の幅を広げる。

フランス語Ⅲ（第３学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

実用的会話能力，比較的高度な作文能力，幅広い読解能力を総合的に修得する。

フランス語プラティクⅠ（第２学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

リスニング，口頭表現の練習を通じて獲得する。言語以外のコミュニケーション（ボディーランゲージ）も含めたコミュニケーション能力育成とフランス及びフランス語圏の文化を理解する。

フランス語プラティクⅡ（第３学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

実践的会話能力，自然な速度でのリスニングなどの練習を通じて高度なコミュニケーション能力を修得する。

【　担当教員（平成２４年度）　】

阿尾安泰	＊木下樹親	佐藤典子	＊辻部亮子	羽賀賢二
＊ボシール，J. C.	＊毛利　潔	＊山下広一	＊リシュー，C.	

＊印は非常勤講師

【 中 国 語 】

（1）中国語の履修の仕方

中国語を選択する場合は，以下の場合に従い必要単位数を満たさなければならない。

A．第１外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第１外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	7	中国語Ⅰ（２），中国語Ⅱ（２）を履修し，加えて中国語Ⅲ（各１），中国語会話（１），中国語ＬＬ（１）のうちから３単位を履修すること。
理・工・芸工・農	6	中国語Ⅰ（２），中国語Ⅱ（２）を履修し，加えて中国語Ⅲ（各１），中国語会話（１），中国語ＬＬ（１）のうちから２単位を履修すること。

B．第２外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第２外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	5	中国語Ⅰ（２），中国語Ⅱ（２）を履修し，加えて中国語Ⅲ（各１），中国語会話（１），中国語ＬＬ（１）のうちから１単位を履修すること。
理・医・歯・薬・工・芸工・農	4	中国語Ⅰ（２），中国語Ⅱ（２）を履修すること。

C．総合選択履修方式として履修する場合

必要単位数を越えて言語文化基礎科目を履修し，単位を修得した場合，総合選択履修方式による修得単位とすることができる。

（2）中国語履修上の諸注意

a．中国語Ⅰ，Ⅱは週２回の授業が行われる。この授業は原則として指定されたクラスで受講しなければならない。

b．中国語Ⅲは原則として指定されたクラスで受講しなければならない。なお，重複履修する場合は異なるテキストのクラスを選択すること。

c．授業時間割等の関係でやむを得ず指定クラス以外のクラスで受講しなければならない場合は速やかに担当教員に申し出て，その了解を得ること。他クラス受講は，担当教員の了承を得た時のみ許可される。

（3）再履修の仕方

科　目　名	単位	取得制限単位	再　履　修　の　仕　方
中　国　語　Ⅰ	1	2	１．中国語Ⅰを再履修することが原則。 ２．中国語Ⅲ，中国語会話，中国語ＬＬを履修してもよい。
中　国　語　Ⅱ	1		１．中国語Ⅱを再履修することが原則。 ２．中国語Ⅲ，中国語会話，中国語ＬＬを履修してもよい。
中　国　語　Ⅲ	1		中国語Ⅲを再履修することが原則。
中　国　語　ＬＬ	1	1	人数制限のため，再履修できない。
中　国　語　会　話	1	1	人数制限のため，再履修できない。

※　放送大学授業科目による再履修の仕方は９４ページを参照してください。

※　再履修に関する注意

①　再履修する場合は，授業担当教員に願い出ること。

②　**言語文化基礎科目の未修得単位を言語文化自由選択科目で補うことはできない。**

（4）外国語検定試験による単位の認定

外国語検定試験の結果に基づいて，言語文化研究院の教員による審査を実施して単位を認定します。詳細は，９２ページを参照してください。

（5）授業概要　※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

中　国　語　Ⅰ（第１学期開講，週２回，各１単位，伊都地区）

この科目の目的は口語中国語の基礎力を身につけることにあります。とくに発音（子音，母音，声調）のマスターに主力をそそぎます。

まず中国語のすべての音節を自分で聞き分けることができ，すべての音節を自分で正確に発音することができる能力を身につけるようにすること，そのための耳と口の徹底的な訓練過程で基礎的な語句や文を学びながら，単文を中心とした口語の基本文法をマスターすることを目的とします。

中　国　語　Ⅱ（第２学期開講，週２回，各１単位，伊都地区）

この科目では，中国語Ⅰのあとをうけ，さらに一歩進んだ中国語の基礎事項を学習し，引続き徹底した発音訓練を行うのはもとより，文法的には複文を含むやや複雑な文法に進みます。口語の基本的な例文を繰り返し学習し，例文のすべてを正確に音声化することで，将来の運用能力養成の基礎を固めます。

中　国　語　Ⅲ（第３学期開講，週１回，各１単位，伊都地区）

この科目は，中国語Ⅰ，Ⅱで学んだ事項をもとにしつつ，さらに進んで中国語の応用力を養成することを目的にします。以下のような点が，具体的な目標となります。

① やや程度の高い書面語中心の文章を教材にして，文法力と語彙力の強化をはかります。
② まとまった口語文の聞き取り練習を通じて，口語力の強化をはかります。
③ 正確な発音，聞き取り，作文などの徹底した訓練を行い，運用力の養成につとめます。

中国語ＬＬ（第２学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

この科目の対象言語は音声言語であり，ネイティブスピーカーによる徹底した発音訓練が行われます。

さらに聞き取り練習や視聴覚教材の利用を通じて，中国語の実際的な運用能力の基礎，特に聞き取る力の基礎を固めることに主な目標をおきます。

中国語会話（第３学期開講，週１回，１単位，伊都地区）

この科目では実践的な会話力の向上をはかります。毎時間「生の中国語」に接することにより中国語に慣れるとともに，さらに進んでやや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力，ことに発信型の中国語能力強化を目的とします。

【　担当教員（平成２４年度）　】

＊秋山　淳	秋吉　收	＊大渕　貴之	＊岡村　真寿美	＊甲斐　雄一
＊黄　冬柏	史　雋	中里見　敬	長谷　千代子	西山　猛
＊羽田　ジェシカ	東　英寿	＊李　大年	李　麗君	

＊印は非常勤講師

【 ロシア語 】

（1）ロシア語の履修の仕方

ロシア語を選択する場合は，以下の場合に従い必要単位数を満たさなければならない。

A．第１外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第１外国語としての単位の取り方
文・教・ 法・経・ ２１世紀 プログラム	7	ロシア語Ⅰ（２），ロシア語Ⅱ（２）を履修し，加えてロシア語Ⅲ（各１）， ロシア語フォーラム（１）のうちから３単位を履修すること。
理・工・ 芸工・農	6	ロシア語Ⅰ（２），ロシア語Ⅱ（２）を履修し，加えてロシア語Ⅲ（各１）， ロシア語フォーラム（１）のうちから２単位を履修すること。

B．第２外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第２外国語としての単位の取り方
文・教・ 法・経・ ２１世紀 プログラム	5	ロシア語Ⅰ（２），ロシア語Ⅱ（２）を履修し，加えてロシア語Ⅲ（各１）， ロシア語フォーラム（１）のうちから１単位を履修すること。
理・医・歯・ 薬・工・ 芸工・農	4	ロシア語Ⅰ（２），ロシア語Ⅱ（２）を履修すること。

C．総合選択履修方式として履修する場合

必要単位数を越えて言語文化基礎科目を履修し，単位を修得した場合，総合選択履修方式による修得単位とすることができる。

（2）ロシア語履修上の注意

a．第１学期目に開講されるロシア語Ⅰ及び第２学期目に開講されるロシア語Ⅱは週２回の授業が行われる。
ロシア語Ⅰ，ロシア語Ⅱは，「月・５－水・５」，「水・５－金・５」の２クラスのうち，どちらかを受講すること。（水・５は両クラスの合同授業となる。）

b．ロシア語の授業で使用するテキスト，辞書，参考書及び成績評価の方法などについては開講時に説明する。

c．授業時間割等の関係で他クラス受講を希望する場合は，担当教員に申し出ること。

（3）再履修の仕方

科　目　名	単位	取得制限単位	再　履　修　の　仕　方
ロシア語Ⅰ	2	2	１．ロシア語Ⅰを再履修することが原則。 ２．ロシア語Ⅱ・Ⅲ・ロシア語フォーラムを履修してもよい。
ロシア語Ⅱ	2	2	１．ロシア語Ⅱを再履修することが原則。 ２．ロシア語Ⅲ・ロシア語フォーラムを履修してもよい。
ロシア語Ⅲ	1		１．ロシア語Ⅲを再履修することが原則。 ２．ロシア語フォーラムを履修してもよい。
ロシア語フォーラム	1		ロシア語フォーラムを再履修することができる。

※　放送大学授業科目による再履修の仕方は９４ページを参照してください。

※　再履修に関する注意

①　再履修する場合は，授業担当教員に願い出ること。

②　**言語文化基礎科目の未修得単位を言語文化自由選択科目で補うことはできない。**

（4）外国語検定試験による単位の認定

外国語検定試験の結果に基づいて，言語文化研究院の教員による審査を実施して単位を認定します。詳細は，９２ページを参照してください。

（5）授業概要　※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

ロ シ ア 語 Ⅰ（第１学期開講，週２回，２単位，伊都地区）

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業です。

ロシア語の文字の読み方・書き方からはじめて，文法の基礎を学びます。また，簡単な会話の表現を勉強し，音声教材を用いた聞き取り，発音練習を繰り返しおこないます。

ロ シ ア 語 Ⅱ（第２学期開講，週２回，２単位，伊都地区）

ロシア語Ⅰに引き続いて基本的な文法を修得するとともに，より本格的な会話表現の聞き取り，発音練習をおこないます。また簡単なテクストの読解にも挑戦します。

ロ シ ア 語 Ⅲ（第３学期開講，週１回，各１単位，伊都地区）

初級文法の学習を終えた学生を対象とした授業です。本格的なテクストの読解，音声教材の聴きとり，会話表現の口頭練習，ロシア語作文などに取り組むことで，ロシア語の総合的な運用能力（「読む」，「聞く」，「話す」，「書く」）を高め，同時により高度な文法事項を修得します。

ロシア語フォーラム（後期開講，週１回，１単位，伊都地区）

ロシア語と不可分の関係にあるロシアの文化についての理解を深めるために，ロシアの歴史，宗教，思想，文学，芸術，音楽，映画など，ロシア文化の持つさまざまな側面を学びます。画像，映像，音声教材を可能な限り多用します。

【　担当教員（平成２４年度）　】

佐　藤　正　則　　＊中　村　美　子

＊印は非常勤講師

【 韓 国 語 】

（1）韓国語の履修の仕方

韓国語を選択する場合は，以下の場合に従い必要単位数を満たさなければならない。

A．第１外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第１外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	7	韓国語Ⅰ（２），韓国語Ⅱ（２）を履修し，加えて韓国語Ⅲ(各１)，韓国語フォーラム(１)のうちから３科目（３単位）を履修すること。
理・工・芸工・農	6	韓国語Ⅰ（２），韓国語Ⅱ（２）を履修し，加えて韓国語Ⅲ(各１)，韓国語フォーラム(１)のうちから２科目（２単位）を履修すること。

B．第２外国語として履修する場合：（　　）は単位数

学　部	必要単位数	第２外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	5	韓国語Ⅰ（２），韓国語Ⅱ（２）を履修し，加えて韓国語Ⅲ(各１)，韓国語フォーラム(１)のうちから１科目（１単位）を履修すること。
理・医・歯・薬・工・芸工・農	4	韓国語Ⅰ（２），韓国語Ⅱ（２）を履修すること。

C．総合選択履修方式として履修する場合

必要単位数を越えて言語文化基礎科目を履修し，単位を修得した場合，総合選択履修方式による修得単位とすることができる。

（2）韓国語履修上の諸注意

a．韓国語Ⅰ・Ⅱともに原則的に指定されたクラスで受講しなければならない。なお，授業時間割等の関係でやむを得ず指定クラス以外のクラスで受講を希望する場合には，速やかに担当教員に申し出て，その了解を得ること。

b．各韓国語科目の授業で使用するテキスト，辞書，参考書，及び成績評価の仕方等は開講時に説明する。

（3）再履修の仕方

科　目　名	単位	取得制限単位	再　履　修　の　仕　方
韓　国　語　Ⅰ	1	2	１．韓国語Ⅰを再履修することが原則。 ２．韓国語Ⅱ・Ⅲ・韓国語フォーラムを履修してもよい。
韓　国　語　Ⅱ	1		１．韓国語Ⅱを再履修することが原則。 ２．韓国語Ⅲ・韓国語フォーラムを履修してもよい。
韓　国　語　Ⅲ	1		１．韓国語Ⅲを再履修することが原則。 ２．韓国語フォーラムを履修してもよい。
韓国語フォーラム	1		韓国語フォーラムを再履修することが原則。

※　放送大学授業科目による再履修の仕方は９４ページを参照してください。

※　再履修に関する注意

①　再履修する場合は，授業担当教員に願い出ること。

②　**言語文化基礎科目の未修得単位を言語文化自由選択科目で補うことはできない。**

（4）外国語検定試験による単位の認定

外国語検定試験の結果に基づいて，言語文化研究院の教員による審査を実施して単位を認定します。詳細は，９２ページを参照してください。

（５）授業概要　※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

韓　国　語　Ⅰ（第１学期開講，週２回，各１単位，伊都地区）

韓国語は日本語とよく似ています。特に文法構造が酷似しています。日本人が韓国語を学ぶとき，他の外国語と違って，全く「語順」に苦しむことはありません。ただし文字（ハングル）には初めて接する人も多いことでしょう。したがって，最初で最後の難関は，文字に対する慣れです。これをクリアーできれば，この科目を履修するだけで，簡単なあいさつ程度の会話ができます。

韓　国　語　Ⅱ（第２学期開講，週２回，各１単位，伊都地区）

この科目では，韓国語Ⅰとの有機的関連性を持たせながら，よりレベルの高い運用能力の獲得をめざします。挨拶語をはじめとして，文型練習や多様な場面の会話文に接することで，徹底的に「話す・聞く」ことに時間を注ぎます。そのためには基礎語彙１０００語と主要な「文法的な形」７０の習熟が第１目標となります。

この科目を履修するだけで，簡単な新聞記事程度は辞典を持って読めるようになるはずです。

韓　国　語　Ⅲ（第３学期開講，週１回，各１単位，伊都地区）

この科目では，多くの「文法的な型」を用いた文型練習をはじめとする会話・ヒアリング，さらには作文に主眼をおき，「徹底的に」トレーニングを行い，発信型韓国語運用能力の向上をめざします。

韓国語フォーラム（後期開講，週１回，１単位，伊都地区）

この科目では，韓国の伝統文化をキーワードに，韓国語における特徴的な表現に重点を置き，「話す・聞く」トレーニングを重ね，韓国語によるコミュニケーション能力の向上をめざす。

【　担当教員（平成２４年度）　】

李　相穆	＊姜　信一	＊姜　希京	＊高　仁淑	＊申　鎬
＊朴　環奈	＊朴　順伊	辻野　裕紀	＊韓　京娥	

＊印は非常勤講師

【 スペイン語 】

（1）スペイン語の履修の仕方

スペイン語を選択する場合は，以下の場合に従い必要単位数を満たさなければならない。

A．第１外国語として履修する場合：（ ）は単位数

学　部	必要単位数	第１外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	7	スペイン語Ⅰ（２），スペイン語Ⅱ（２）を履修し，加えてスペイン語Ⅲ（各１），スペイン語フォーラム（１）の中から３単位を履修すること。
理・工・芸工・農	6	スペイン語Ⅰ（２），スペイン語Ⅱ（２）を履修し，加えてスペイン語Ⅲ（１），スペイン語フォーラム（各１）から２単位を履修すること。

B．第２外国語として履修する場合：（ ）は単位数

学　部	必要単位数	第２外国語としての単位の取り方
文・教・法・経・２１世紀プログラム	5	スペイン語Ⅰ（２），スペイン語Ⅱ（２）を履修し，加えてスペイン語Ⅲ（１），スペイン語フォーラム（１）の中から１単位を履修すること。
理・医・歯・薬・工・芸工・農	4	スペイン語Ⅰ（２），スペイン語Ⅱ（２）を履修すること。

C．総合選択履修方式として履修する場合

必要単位数を越えて言語文化基礎科目を履修し，単位を修得した場合，総合選択履修方式による修得単位とすることができる。

（2）スペイン語履修上の諸注意

a．スペイン語Ⅰは週２回の授業が行われる。この授業は原則として指定されたクラスで受講しなければならない。
b．第１外国語，第２外国語としてのスペイン語Ⅱは文法と会話の授業が週１回ずつ行われるが，両方とも指定されたクラスで受講しなければならない。
c．各科目の内容，テキスト，辞書，参考書及び成績評価等については全学教育科目個別シラバスに記載されている。また，開講時にもあらためて説明がある。
d．授業時間割等の関係でやむを得ず，指定クラス以外のクラスで受講しなければならない場合は速やかに担当教員に申し出てその了解を得ること。他のクラスの受講は担当教員の了承を得たときのみ許可される。

（3）再履修の仕方

科　目　名	単位	取得制限単位	再　履　修　の　仕　方
スペイン語Ⅰ	2	2	１．スペイン語Ⅰを再履修することが原則。 ２．スペイン語Ⅱ・スペイン語Ⅲのうちから２科目（２単位）を履修してもよい。
スペイン語Ⅱ	1	2	１．スペイン語Ⅱを再履修することが原則。 ２．スペイン語Ⅲ・スペイン語フォーラムのうちから２科目（２単位）を履修してもよい。
スペイン語Ⅲ	1		１．スペイン語Ⅲを再履修することが原則。 ２．スペイン語フォーラムを履修してもよい。
スペイン語フォーラム	1		１．スペイン語フォーラムを再履修することが原則。 ２．スペイン語Ⅲを履修してもよい。

※　放送大学授業科目による再履修の仕方は９４ページを参照してください。

※　再履修に関する注意
①　再履修する場合は，授業担当教員に願い出ること。
②　**言語文化基礎科目の未修得単位を言語文化自由選択科目で補うことはできない。**

※※　スペイン語の授業に関する質問，要望等は，yamamura@flc.kyushu-u.ac.jp まで。

（4）外国語検定試験による単位の認定

外国語検定試験の結果に基づいて，言語文化研究院の教員による審査を実施して単位を認定します。詳細は，９２ページを参照してください。

（5）授業概要　※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

スペイン語Ⅰ（第１学期開講，週２回，２単位，伊都地区）

初めてスペイン語を学習する人を対象にその文字・発音，及びその基礎的文法の確実な修得をめざします。一般に，スペイン語の発音は日本人にとって修得しやすいと言われていますが，それを正確に行うには学習者の自覚と積極的な練習が不可欠です。そのために授業では，できる限りスペイン語文を実際に声に出し読む訓練を重ねます。また，文法に関しては，各時間配付するプリント教材を用いて，説明された項目の練習及び理解度の確認を行います。この授業の到達目標は，スペイン語を使って簡単な会話及び自己紹介ができるようになることにあります。

スペイン語Ⅱ（第２学期開講，週２回，各１単位，伊都地区）

この科目はスペイン語Ⅰに引き続き行われるもので，文法を主体に学習するクラスと会話を主体にするクラスとに分かれます。文法クラスでは，いま一歩進んだ文法知識を修得した上で，より高度なスペイン語の読み，書き，話す能力を身につけることを目指します。また，会話クラスでは，スペイン語Ⅰで学習したことを基に，ビデオやテープ等の教材を積極的に活用して，スペイン語運用能力の基礎づくりを行います。

スペイン語Ⅲ（第３学期開講，週１回，各１単位，伊都地区）

スペイン語Ⅰ・Ⅱで修得した基礎的文法知識をもとに，スペイン語の「作文力」「読解力」「会話力」の向上を目指します。「作文力」養成のクラスは，スペイン語Ⅰ・Ⅱで修得した文法の知識を用いた短文作成の練習を重ね，スペイン語による手紙や簡単な報告文が書けるようになることを目的としています。「読解力」養成のクラスは，比較的容易なスペイン語で書かれた文学作品等を教材として用いながら，スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指します。「会話力」養成のクラスは，スペイン語を母語とする教員が担当し，スペイン語Ⅰ・Ⅱで修得した知識をもとに，基礎的なスペイン語運用能力の開発を行います。

スペイン語フォーラム（後期開講，週１回，１単位，伊都地区）

主に視聴覚教材を用いながら，「聞く」「話す」「読む」「書く」といったスペイン語の総合力の養成を目指す科目です。

【　担当教員（平成２４年度）　】

阿　部　俊　大　　＊フジヨシ　ミヨコ　　＊ミニーニョ，J.　　山　村　ひろみ

＊印は非常勤講師

【日 本 語】

（1）日本語の履修の仕方

日本語を選択する場合は，以下の場合に従い必要単位数を満たさなければならない。

A．第１外国語として履修する場合

科 目 名	学 部	第１外国語としての履修方法
日 本 語 （外国人留学生対象）	文・教・法・経	日本語Ⅰ～Ⅶの合計７単位を次のように履修 第１学期 第２学期 第３学期 ２単位 ２単位 ３単位
	理・工・ 芸工・農	日本語Ⅰ～Ⅶの合計６単位を次のように履修 第１学期 第２学期 第３学期 ２単位 ２単位 ２単位

B．第２外国語として履修する場合

科 目 名	学 部	第２外国語としての履修方法
日 本 語 （外国人留学生対象）	文・教・法・経	日本語Ⅰ～Ⅶの合計５単位を次のように履修 第１学期 第２学期 第３学期 ２単位 ２単位 １単位
	理・医・歯・ 薬・工・ 芸工・農	日本語Ⅰ～Ⅶの合計４単位を次のように履修 第１学期 第２学期 ２単位 ２単位

（2）日本語履修上の諸注意

日本語Ⅱ～Ⅳは，２単位を上限とし修得することができる。

履修上の諸注意は必要があれば，公用掲示板に掲示されるので注意すること。

（3）再履修の仕方

再履修の者は，なるべく早い時点で単位を修得すること。

（4）授業概要 ※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

日 本 語 Ⅰ（第１学期開講，週１回，１単位，伊都地区）留学生対象

技能別クラスで，総合基礎を学ぶ。

日 本 語 Ⅱ（第１学期開講，週１回，各１単位，伊都地区）留学生対象

技能別クラスで，聴解を行う。

日 本 語 Ⅲ（第２学期開講，週１回，各１単位，伊都地区）留学生対象

技能別クラスで，作文を学ぶ。

日 本 語 Ⅳ（第２学期開講，週１回，各１単位，伊都地区）留学生対象

技能別クラスで，会話・発表を行う。

日 本 語 Ⅴ（第３学期開講，週１回，１単位，伊都地区）留学生対象

分野別クラスで，社会文化を学ぶ。

日 本 語 Ⅵ（第３学期開講，週１回，１単位，伊都地区）留学生対象

分野別クラスで，社会科学を学ぶ。

日 本 語 Ⅶ（第３学期開講，週１回，１単位，伊都地区）留学生対象

分野別クラスで，自然科学を学ぶ。

【 担当教員（平成２４年度） 】

板 橋 義 三　　郭　　俊 海　　鹿 島 英 一　　小 山　　悟　　斉 藤 信 浩
津 崎 浩 一

１-ｇ．言語文化科目
言語文化自由選択科目

言語文化基礎科目を（原則として）履修し終わった人に対して，より高度な語学力を修得するための実践的，実用的な少人数の授業です。多様な学習目的に対応した授業科目をアラカルト方式で開講しますので，希望に応じて自由に選択することができます。また，初めて新しい外国語を履修する人に対する授業科目として「入門（又は速修）○○語」も用意されています。なお，この言語文化自由選択科目は学部生向けの授業です。定員に余裕がある場合に限り，大学院生，教職員にも開放されます。

授業は，言語文化研究院箱崎分室（箱崎地区旧工学部３号館）及び伊都地区で行われます。

「言語文化自由選択科目」の単位は，総合選択履修方式の単位として認定されますが,認められる単位数に関しては,学部・学科により異なりますので,『全学教育科目履修要項』の「各学部・学科の履修細目」で確認してください。

なお,「言語文化基礎科目」（平成17年度以前入学者：「言語文化科目Ⅰ」）の単位としては認定されません。

（１）履修の仕方

次の①～③の手順で受講申込と履修登録をしてください。

① **言語文化自由選択科目開講案内**を各学部等学生係，伊都地区全学教育教務係，言語文化研究院箱崎分室で学期開始前に配付しますので，受講にあたって参照してください。
言語文化研究院箱崎分室ホームページ（http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~flcbr/）にも掲載しています。

② 単位修得希望の有無にかかわらず，**言語文化研究院箱崎分室で受講申込み**をしてください。
ただし，伊都地区開講の英語科目の受講希望者で，箱崎分室で申込みをすることが困難な場合はEメールでも申込み可能です。 Ｅメールアドレス：flcbr@flc.kyushu-u.ac.jp
※ 英語科目を受講する場合は，クラス分けのためのプレイスメントテストを受けてください。ただし，過去３年以内のTOEIC,TOEFLのスコアをプレイスメントテストの点数として使用することもできます。詳細は開講案内で確認してください。

③ 単位修得を希望する場合は，「学生用Ｗｅｂシステム」で履修登録を行ってください。

（２）授業概要

【 英　　語 】

※ 英語の言語文化自由選択科目はすべて２年生以上を対象としています。
授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

英語会話Ⅰ（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室・伊都地区）

語彙，文法力を向上させることにより，英語による意志疎通をスムーズに行う実践的英語コミュニケーション能力の養成をはかります。

英語会話Ⅱ（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室・伊都地区）

政治・社会・経済・科学等の諸分野における専門的な内容について自由に会話ができるように英語コミュニケーション能力の養成をはかります。

英語プレゼンテーションⅠ（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室・伊都地区）

英語による効果的なプレゼンテーションのあり方を理解し，パブリック・スピーキングの基礎を学びます。一般的な内容についてのスピーチ，ディスカッション，ディベートなどさまざまな場面のスピーキング能力の養成をはかります。

英語プレゼンテーションⅡ（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室・伊都地区）

英語プレゼンテーションⅠの内容に関してさらに高度な訓練を行います。専門的な内容についてのスピーチ，ディスカッション，ディベートなどさまざまな場面のスピーキング能力の養成をはかります。

英語リスニングⅠ（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

英語によるニュースを中心とした教材を用いて，自然な速さの英語が理解できるような，聴解力の養成をめざします。

英語リスニングⅡ（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

政治・社会・経済・科学等の諸分野における専門的な内容についての講義や講演，及びテレビドラマやドキュメンタリーや映画等を教材として用いて，高度な聴解力の養成をめざします。

英語ライティングⅠ（前期開講，週１回，２単位，伊都地区）

英文パラグラフの書き方を踏まえた上で，一般的な内容についての英文エッセイの構成と執筆法を学びます。

英語ライティングⅡ（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室・伊都地区）

論文の構成と執筆法の基礎を学びます。研究論文を執筆するのに必要な論理的思考能力や論理的文章構成能力の養成をめざします。

英語リーディングⅠ（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

英字新聞や英文雑誌などの記事を読みこなす能力の養成をめざします。時事英語を中心に読みますが，人文科学・社会科学・自然科学の諸分野の記事を読むこともあります。

英語リーディングⅡ（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

新聞や雑誌の記事だけでなく単行本も含んだ大量の英文を早く正確に読む能力の養成をめざします。

英語リーディングⅢ（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

専門的な題材についての高度な内容の文献を中心に正確に読解する力の養成をめざします。

英語テスト・テイキング（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室・伊都地区）

ＴＯＥＦＬやＴＯＥＩＣなどの国際的に通用する英語検定試験のスコアを上げるために必要な能力の養成をめざします。同じ学期に複数開講する場合は，一方をＴＯＥＦＬ受験のためのクラス，他方をＴＯＥＩＣ受験のためのクラスに分けることもあります。

【　担当教員（平成２４年度）　】

アームストロング，M.	アレリーズ，J.	アンスコム-飯野，J.R.	稲　葉　美由紀	グイン，Ｍ.
鈴　木　隆　子	＊ターナー，P.	＊津　田　晶　子	ブラウン，Ｉ.	ホール，Ｍ.

＊印は非常勤講師

【 ドイツ語 】

※ 「入門ドイツ語」以外のドイツ語の言語文化自由選択科目は２年生以上を対象としています。
授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

ドイツ語中級Ⅰ（週１回，２単位，箱崎分室）〔平成２５年度開講予定〕

言語文化基礎科目で学んだドイツ語を継承・発展させ，さらに高度なドイツ語の総合的運用能力の涵養をめざします。ドイツ語検定３級に合格する力をつけることを目標とします。

ドイツ語中級Ⅱ（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

言語文化基礎科目及びドイツ語中級Ⅰで学んだドイツ語を継承・発展させ，さらに高度なドイツ語の総合的運用能力の涵養をめざします。ドイツ語検定３級及び２級に合格する力をつけることを目標とします。ドイツ語中級Ⅰを履修していない人も受講できます。

ドイツ語オーラル演習Ⅰ（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

特にドイツ語の聞き取り能力と発話能力の養成をめざして，基礎的な学習を行います。文字情報をとおしてのドイツ語よりも音声機能としてのドイツ語の処理に重点を置きます。

ドイツ語オーラル演習Ⅱ（週１回，２単位，箱崎分室）〔平成２５年度開講予定〕

ドイツ語オーラル演習Ⅰの内容をさらに高め，特にドイツ語の聞き取り能力と発話能力のさらなる向上をめざします。様々なテーマや状況を設定し，文字情報を通してのドイツ語よりも音声機能としてのドイツ語の処理に重点を置きます。

ドイツ語読解演習Ⅰ（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

ドイツ語の文章を正確に読解し，日本語に翻訳するための理論を学び，それを様々な教材を用いて実践します。大学院を受験する際にドイツ語が必要な人に適した授業です。

ドイツ語読解演習Ⅱ（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

ドイツ語読解演習Ⅰの内容をさらに高め，様々なジャンルの文章や高度な文献を読解する能力を養成します。

ドイツ語表現演習Ⅰ（週１回，２単位，箱崎分室）〔平成２５年度開講予定〕

ドイツ語のライティング能力の基礎的な力を養成します。ドイツ語で会話をするときも，実は私たちは即座に独作文をしているのだと考えることもできます。様々な構文や言い回しを修得してドイツ語による表現力を伸ばします。

ドイツ語表現演習Ⅱ（週１回，２単位，箱崎分室）〔平成２５年度開講予定〕

ドイツ語表現演習Ⅰの内容をさらに高め，ドイツ語によるライティング能力を養成します。やや複雑な構文やドイツ語特有の言い回しを修得してドイツ語による表現力をさらに伸ばします。

ドイツ語発音演習（週１回，２単位，箱崎分室）〔平成２５年度開講予定〕

日本人には難しいドイツ語の個々の発音や文レベルでの強弱アクセント，高低アクセントなどを含むドイツ語のリズムを学習し，正確に発音できるように実践的練習を行います。

ドイツ語リスニング演習Ⅰ（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

ドイツ語の文章を聞き取る際に必要なポイントを学びながら，実践的な練習を行い，リスニング能力の向上をめざします。

ドイツ語リスニング演習Ⅱ（週１回，２単位，箱崎分室）〔平成２５年度開講予定〕

ドイツ語リスニング演習Ⅰの内容をさらに高め，文章のスピード，内容，話す人などを多様化し，さまざまなシチュエーションのドイツ語に対応できるリスニング能力を養成します。

入門ドイツ語（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

第３外国語等として，初めてドイツ語を学習する人を対象にした科目です。発音および基本的な文法，やさしい文章を学ぶ初歩から始めますが，授業の密度・進度は，半年でドイツ語検定４級に合格するレベルに目標を置きます。ドイツ語を第１・第２外国語に選択していない全学年を対象としています。

ドイツ語圏の言語と文化（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

ドイツはもとよりスイスやオーストリアなどのドイツ語が話されている地域の文化・歴史・社会などを多方面から学びます。様々なメディアから教材を選択します。

【　担当教員（平成２４年度）　】

岡　野　　進　　カスヤン，A.S.　　田　畑　義　之　　恒　川　元　行　　津　村　正　樹

【 フランス語 】

※「入門フランス語」以外のフランス語の言語文化自由選択科目は２年生以上を対象としています。
授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

入門フランス語（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

入門者を対象とし，短期間でフランス語文法の基礎を修得することをめざします。フランス語再入門（recyclage）としても積極的に活用してください。フランス語を第１・第２外国語に選択していない全学年を対象としています。

フランス語作文コース（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

フランス語の基礎を修得した学生を対象に，フランス語らしいフランス語を綴るためのポイントを手ほどきします。

フランス語読解コース（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

フランス語の基礎を修得した学生を対象に，フランス語をより正確に，より深く味読するためのコツを伝授します。大学院受験に第２外国語が必要な学生に最適です。

フランス語実用会話（前・後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

フランス語をひととおり学んだ学生を対象に，実践的会話能力のさらなる向上をめざします。フランス人講師が担当します。

【 担当教員（平成２４年度） 】
佐 藤 典 子　　羽 賀 賢 二　　＊リシュー，C.

＊印は非常勤講師

【 中 国 語 】

※「入門中国語Ⅰ，Ⅱ」以外の中国語の言語文化自由選択科目は２年生以上を対象としています。
授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

入門中国語Ⅰ（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

中国語を学んだことがない人を対象とします。内容は中国語Ⅰに準じます。中国語を第１・第２外国語に選択していない全学年を対象としています。

入門中国語Ⅱ（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

入門中国語Ⅰに続く科目です。内容は中国語Ⅱに準じます。中国語を第１・第２外国語に選択していない全学年が対象です。

中国語口語Ⅰ（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

中国語のやや高度な会話能力の修得を目的とします。

中国語口語Ⅱ（週１回，２単位，箱崎分室）〔平成２５年度開講予定〕

中国語口語Ⅰの基礎の上に，さらなる会話能力の向上をめざします。

中国語聞き取りⅠ（週１回，２単位，箱崎分室）〔平成２５年度開講予定〕

中国語のやや高度な聞き取り能力の修得を目的とします。内容は原則として言語文化基礎科目の中国語ＬＬの次の段階にあたります。

中国語聞き取りⅡ（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

中国語聞き取りⅠの基礎の上に，聞き取り能力を発展させることをめざします。

【 担当教員（平成２４年度） 】
中里見　敬　李　麗 君

【 ロシア語 】

※「入門ロシア語Ⅰ，Ⅱ」はロシア語を第１・第２外国語に選択していない全学年を対象としています。
集中講義の実施日程等は決定次第，掲示でお知らせします。

入門ロシア語Ⅰ（前期開講，集中講義，２単位，箱崎分室）

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業です。
ロシア語の文字の読み方・書き方からはじめて，文法の基礎を学びます。また，簡単な会話の表現を勉強し，音声教材を用いた聞き取り，発音練習をおこないます。

入門ロシア語Ⅱ（前期開講，集中講義，２単位，箱崎分室）

入門ロシア語Ⅰに引き続いて基本的な文法と会話表現を学びます。

【 担当教員（平成２４年度） 】
佐 藤 正 則

【 韓 国 語 】

※「入門韓国語」以外の韓国語の言語文化自由選択科目は２年生以上を対象としています。
授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

入門韓国語（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

入門者を対象にして，短期間で韓国語の基礎をマスターすることをめざして開講された科目です。正確な発音と基本的な文法を学びながら，発信型外国語能力の獲得ができるように工夫します。韓国語を第１・第２外国語に選択していない全学年を対象としています。

韓国の言語と文化（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

福岡とは一衣帯水の地にある朝鮮半島に関して，言語の基本から歴史・文化・生活習慣に至るまで平易に解説します。この科目では，韓国語の総合的運用能力の向上をめざす学生諸君の積極的な参加を希望します。２年生以上を対象としています。

【 担当教員（平成２４年度） 】
李 相 穆 松 原 孝 俊

【スペイン語】

※「入門スペイン語」以外のスペイン語の言語文化自由選択科目は２年生以上を対象としています。
授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

入門スペイン語（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

スペイン語の初心者を対象にした科目です。スペイン語の文字，発音から始めて文法の基礎をひととおり学習します。スペイン語を第１・第２外国語に選択していない全学年を対象としています。

総合スペイン語演習（週１回，２単位，箱崎分室）〔平成２５年度開講予定〕

スペイン語の総合能力（聞く・話す・読む・書く能力）をスペイン語圏で製作された最新の教材（DVD等）を用いて養成していきます。

表現スペイン語（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

スペイン語の文法知識をひととおり身につけた人を対象にした作文クラスです。特に，日本人がスペイン語を使用する際に間違えやすい項目に焦点をあて，それらを正しく使いこなせるよう和文西訳／西文和訳の練習を行っていきます。

時事スペイン語（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

スペイン語圏で発行された新聞・雑誌の精読を通して，スペイン語圏の現状及び日本とスペイン語圏の関係，さらには国際社会の動向がスペイン語圏においてどのように捉えられているかを考察していきます。

スペイン語圏の言語と文化（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

スペイン語の総合能力（聞く・話す・読む・書く能力）のうち，特に「聞く」「読む」力の向上とスペイン語圏の社会・文化的多様性を理解することを目的とします。

【　担当教員（平成２４年度）　】

阿　部　俊　大　　＊土　屋　　亮　　＊フジヨシ　ミヨコ　　山　村　ひろみ

＊印は非常勤講師

【インドネシア語】

※全学年を対象としています。 授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

入門インドネシア語Ⅰ（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

インドネシア語を初めて学習する人を対象にした科目です。インドネシア語はインドネシア共和国の共通語として多くの人々に話されており，マレーシアで話されているマレーシア語と，シンガポールとブルネイで話されているマレー語とも非常によく似た言語ですので，それらの隣国でも通じます。表記は，アルファベットで，しかもローマ字読みすればだいたい通じるので発音も構造も比較的簡単です。

文字の発音から始め，初歩的な文法や文章を使ってインドネシア語の日常会話や旅行の時役に立つ会話の修得を目標とします。授業は，口頭の練習問題を中心に進めます。

入門インドネシア語Ⅱ（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

入門インドネシア語Ⅰに引き続き，さらに一歩進んだインドネシア語の基本的な文法や構文とインドネシア人に出会ったらすぐに使える生きたインドネシア語の修得を目標とします。基本的な構文を覚えて，学んだ語彙を使って，様々な場面の会話を作って練習し，よりスムーズにインドネシア語でのコミュニケーションをはかるようにめざします。また，会話の背景にあるインドネシアの文化や生活習慣にも随時触れていきたいと思います。

【　担当教員（平成２４年度）　】

＊遠藤 ファビオラ

＊印は非常勤講師

【イタリア語】

※全学年を対象としています。 授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

入門イタリア語Ⅰ（前期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

イタリア語を初めて学習する人を対象とします。文字，発音，文法の基礎を学習しながら，実用的なイタリア語の修得を目的とします。

発音と表記，定冠詞と不定冠詞，名詞と形容詞の変化，“essere”と“avere”動詞を使った色々な表現，動詞（不規則動詞も含めて）の現在形，関係代名詞，副詞など。

入門イタリア語Ⅱ（後期開講，週１回，２単位，箱崎分室）

前期における学習内容の理解を深めながら，中級レベルまでのイタリア語文法（過去形や進行形など）を学習します。単なる文章の暗記ではなく，文法の基礎知識を応用し，作文や会話を可能にすることが目的です。

【　担当教員（平成２４年度）　】

＊マローネ，Ｌ．

＊印は非常勤講師

【オランダ語】

※全学年を対象としています。集中講義の実施日程等は決定次第，掲示でお知らせします。

速修オランダ語Ⅰ（前期開講，集中講義，２単位，箱崎分室）

オランダ語を初めて学習する人を対象にした科目です。オランダ語はオランダやベルギーなどで話されており，英語やドイツ語によく似た言語です。初歩的な文法や簡単な文章の習得を目標とし，対話形式の練習を中心に授業を進めます。日本ではあれだけ多くの人が英語やドイツ語を学習しているのに，オランダ語のできる人はごくわずかしかいません。皆さんもオランダ語を学んでみませんか？

速修オランダ語Ⅱ（週1回，２単位，箱崎分室）〔平成26年度開講予定〕

「速修オランダ語Ⅰ」に引き続き，基礎的な文法や平易な文章の習得を目標とし，対話練習を通して，日常的なコミュニケーション能力の向上をめざします。「速修オランダ語Ⅰ」を履修した人か同程度の学力のある人を対象にします。

【　担当教員（平成２４年度）　】
田　畑　義　之

【エスペラント】

※全学年を対象としています。集中講義の実施日程等は決定次第，掲示でお知らせします。

速修エスペラントⅠ（前期開講，集中講義，２単位，箱崎分室）

エスペラントを初めて学習する人を対象にした科目です。エスペラントは1887年にポーランドの眼科医ザメンホフ博士によって作られた人工国際語です。人工語なので不規則変化や例外がなく，非常に習得しやすい言語です。ヨーロッパ言語の構造に興味がある人，今まで学習した外国語がものにならなかったが，何か日本語以外の言語が話せるようになりたい人，英語とアメリカへの一極集中に不満な人にお勧めです。

速修エスペラントⅡ（週1回，２単位，箱崎分室）〔平成26年度開講予定〕

「速修エスペラントⅠ」を履修した人か同程度の学力のある人を対象にします。「速修エスペラントⅠ」に引き続き，さらに進んだ文法学習，会話練習の他にリスニングの訓練や，読解演習を予定しています。ザメンホフの生涯，エスペラント原作文学，言語帝国主義等についても随時触れていきます。

【　担当教員（平成２４年度）　】
田　畑　義　之

1－g．言語文化科目
言語文化古典語科目

総合選択履修方式の対象科目として言語文化古典語科目を選択履修することができます。
授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

【ギリシア語】

古典ギリシア語Ⅰ（前期開講，週１回，１単位，伊都地区）

ヨーロッパ思想・文化の源流を語った言葉に挑戦してみませんか。古典ギリシア語を学び知ることは，ヨーロッパ思想・文化の源流（古代ギリシアの哲学や文学や歴史書，そして，新約聖書など）という豊かな世界の扉を開きその世界に直接触れるための鍵を手に入れることと言えるでしょう。また，古典ギリシア語は言語的に西洋の言葉に大きな影響を及ぼしており，そのことを通して，私たちに馴染みのある言葉の中にも古典ギリシア語に由来する言葉があります。例えば，ドラマ，リズム，ハーモニー，オーケストラ，エンジェル，フィロソフィー，エコノミーなど多数あります。古典ギリシア語を知っていることは，それらの言葉や言葉一般のより深い理解につながることでしょう。

古典ギリシア語Ⅰでは，古典ギリシア文字に慣れ，基本的な古典ギリシア文を読むことができるようになることを目標とします。

古典ギリシア語Ⅱ（後期開講，週１回，１単位，伊都地区）

古典ギリシア語Ⅱでは，古典ギリシア文字に慣れること，古典ギリシア文を読むことができるようになることに加え，更に，古典ギリシア語文法の全体を掴むことを目標とします。

【　担当教員（平成２４年度）　】
＊村　田　剛　一

＊印は非常勤講師

【ラテン語】

ラテン語Ⅰ（前・後期開講，週１回，１単位，伊都地区）

西洋で「古典」というとき，古代ギリシア・ローマの古典を指します。西洋では古典の学習がかつて教育の中心をしめ，現代に至るまで西洋文化の一つの重要な伝統となっています。また，ラテン語はフランス語，スペイン語，イタリア語などいわゆるロマンス語の元になった言語でもあります。

授業では，教科書の練習問題や教材用ラテン語を通じて，古典作品にも触れつつ，ラテン語の基礎を勉強します。単語の様々な変化活用が学習の中心になりますので，最初はとまどうかもしれませんが，ラテン語はかなり規則的です。ラテン語Ⅰの学習範囲は，名詞・形容詞の主要変化と動詞の直接法（各時制能動受動）の活用です。

ラテン語Ⅱ（前・後期開講，週１回，１単位，伊都地区）

ラテン語Ⅰの学習範囲既習者が，ラテン語原典を読むために更に必要となる事項を学習します。学部進学後，原典を読む演習に参加したり，研究上ラテン語文献を解読できるようになることが目標です。

ラテン語は１８世紀くらいまで学術上の国際語でしたし，西洋ではそれほど遠くない時期まで博士論文をラテン語で書くことになっていました。そのため，さまざまな分野でラテン語による重要な文献があります。

文法事項のほかにも，長文に慣れておくことが必要ですので，古典（ウェルギリウス『アエネーイス』など）を平易に書き改めた教材用ラテン語を用いてできる限りたくさん読む練習をします。

【　担当教員（平成２４年度）　】
＊國　越　道　貴

＊印は非常勤講師

1－g．言語文化科目
外国語検定試験による単位認定について

【英　語】

英語の検定試験の成績を言語文化基礎科目の単位として認定します。

（1）認定対象の検定試験

TOEFL（Test of English as a Foreign Language）

TOEIC（Test of English for International Communication）

※ TOEFL-ITP テスト(Institutional Testing Program)及び TOEIC-IP テスト（Institutional Program）は，九州大学を通して受験したものを対象とします。

（2）検定試験成績の有効期限

検定試験成績の取得時期が，申請締切日より遡って２年以内のものに限ります。

（3）申請手続きと認定方法

申請の詳細については，別途掲示でお知らせします。

認定方法については，提出された「単位認定申請書」（全学教育課全学教育教務係で配付）と「認定試験の認定証（成績証明書)」により書類審査が実施されます。

（4）申請時期および認定学期

年に２回（春期と秋期）申請を受け付けし，それぞれ前期と後期の単位として認定します。

〔春期〕　申 請 時 期：　在学生（２年生以上）･･･１月末～３月初旬 ／ 新入生（１年生）･･･４月初旬
　　単位認定学期：　前期

〔秋期〕　申 請 時 期：　８月～９月中旬　　※申請期間は掲示でお知らせします。
　　単位認定学期：　後期

（5）認定科目・単位数等

① 既修得単位の認定，海外研修による単位の認定及び以前に英語の検定試験による単位の認定等がなされた場合，その認定単位の合計が４単位に達した者については，検定試験による単位の認定は行いません。

② 単位の認定を希望する科目を既に修得している場合，その科目の認定は行いません。

③ 申請は在学期間中２回まで可能ですが，一度認定された単位の変更・取消はできません。

【認定科目・単位数一覧表】

（※平成１７年度以前入学者の取扱はこの一覧と異なりますので，全学教育教務係に問い合わせください。）

認定対象検定試験			認定科目（単位数）	平成１９年度以降入学者の評価	平成１８年度入学者の評価
TOEFL（ITPを含む）		TOEIC（IPを含む）			
Paper（PBT）	Internet （iBT）				
520 ～ 549 点	68 ～ 78 点	645 ～ 729 点	英語ⅡB（１）	R（80点）	優（80点）
550 ～ 569 点	79 ～ 87 点	730 ～ 789 点	英語ⅡB（１）	R（90点）	優（90点）
570 ～ 599 点	88 ～ 99 点	790 ～ 874 点	英語ⅡB（１）	R（90点）	優（90点）
			英語ⅢB（１）	R（80点）	優（80点）
			※ いずれか１科目（１単位）のみの申請も可		
600 点以上	100 点以上	875 点以上	英語ⅡB（１）	R （90点）	優（90点）
			英語ⅢB（１）	R （90点）	優（90点）
			※ いずれか１科目（１単位）のみの申請も可		

・ 平成１９年度以降入学者（GPA制度適用学生）については，評語は「R」（ＧＰＡ算出対象外）としてのみ認定されます。

（平成２４年４月現在）

【初修外国語】（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・ロシア語・スペイン語）

更なる学修意欲の向上を図るため，初修外国語における外国語検定試験の一定以上の成績を評価し，言語文化基礎科目の単位として認定します。

（1）認定対象の検定試験

その内容が十分な実績と社会的評価を持つものとして，言語文化研究院の教員が外国語ごとに選定し，予め対象として定めた外国語検定試験について認定します。

試験の詳細は，「（5）認定科目・単位数等」の一覧表を参照してください。

（2）検定試験成績の有効期限

検定試験成績の取得時期が，申請締切日より遡って２年以内のものに限ります。

（3）申請手続きと認定方法

申請の詳細については，別途掲示でお知らせします。

認定方法については，提出された「単位認定申請書」（全学教育課全学教育教務係で配付）と「認定試験の認定証（成績証明書）」による書類審査及び面接審査を実施し認定します。

（4）申請時期および認定学期

年に２回申請を受け付けし，それぞれ前期と後期の単位として認定します。

〔第１期〕　申 請 時 期：　７月下旬～８月上旬　　※申請期間は掲示でお知らせします。
　　単位認定学期：　前期
〔第２期〕　申 請 時 期：　卒業予定者　１月上旬　／　卒業予定者以外　１月下旬～２月上旬
　　単位認定学期：　後期

（5）認定科目・単位数等

① 各外国語で認定する単位数は，既修得単位の認定，海外研修による単位の認定及び放送大学授業科目（外国語）による認定単位数を含めて，４単位を上限とします。

② 修得単位数が２単位までと定められている科目については，その制限を超えて単位認定は行わないものとします。

【例】「ドイツ語Ⅰ」をすでに１単位修得済みでドイツ語検定試験４級の成績を取得した場合は，本学の「ドイツ語Ⅰ」の修得制限単位は２単位までであるため，１単位しか単位認定されません。

③ 過去に単位認定された時に使用した成績を，再度，単位認定の申請に使用することはできません。

④ 受験した外国語検定試験の成績発表が単位認定申請期間終了後になる場合は，その次の申請期間に申請してください。その場合は，外国語検定試験を受験した学期の単位ではなく，申請があった学期の単位として認定します。

⑤ 認定する科目の評価は，書類審査及び面接審査により決定されますが，平成１９年度以降入学者（ＧＰＡ制度適用学生）については，評語は「Ｒ」（ＧＰＡ算出対象外）として認定されます。また，平成１８年度以前入学者については，「優」，「良」，「可」のいずれかの評語で認定されます。

【対象となる外国語検定試験及び認定科目・単位数一覧（１／２）】（平成２４年４月現在）

外国語名	外国語検定試験	検　定 レベル	認 定 科 目 （　）内は1科目の単位数	認定上限 単位数
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験（独検）	４級	ドイツ語Ⅰ(1)	2
		３級	ドイツ語Ⅱ(1)	2
	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（OESD）	A1	ドイツ語Ⅱ(1)	2
		A2	ドイツ語Ⅲ(1)	2
フランス語	フランス語教育振興協会検定試験（仏検）	４級	フランス語Ⅰ(1)	1～2
		３級	フランス語Ⅱ(1)	2
		準２級	フランス語Ⅲ(1)	2
	フランス国民教育省フランス語資格試験	DELF A1	いずれかつ：フランス語Ⅱ(1)	2
			いずれかつ：フランス語Ⅲ(1)	1
		DELF A2	フランス語Ⅲ(1)	2
中国語	日本中国語検定協会中国語検定試験	準４級	中国語Ⅰ(1)	2
		４級	中国語Ⅱ(1)	2

【対象となる外国語検定試験及び認定科目・単位数一覧（２／２）】

外国語名	外国語検定試験	検　定 レベル	認 定 科 目 （ ）内は1科目の単位数	認定上限 単位数
韓国語	ハングル能力検定協会ハングル能力検定試験	５級	韓国語Ⅰ(1)	2
		４級	韓国語Ⅱ(1)	2
		３級	韓国語Ⅲ(1)	2
	韓国教育課程評価院韓国語能力試験	初級	韓国語Ⅱ(1)	2
		中級	韓国語Ⅲ(1)	2
		高級	韓国語Ⅲ(1)	2
ロシア語	東京ロシア語学院ロシア語能力検定試験	４級	ロシア語Ⅱ(2)	2
		３級	ロシア語Ⅲ(1)	2
	ロシア連邦教育科学省認定ロシア語検定試験	入門	ロシア語Ⅱ(2)	2
		基礎	ロシア語Ⅲ(1)	2
スペイン語	日本スペイン協会スペイン語技能検定	５級	スペイン語Ⅱ(1)	2
		４級	スペイン語Ⅲ(1)	2
	スペイン文部省外国語としてのスペイン語検定試験（DELE）	Ａ１	スペイン語Ⅱ(1)	2
		Ａ２	スペイン語Ⅲ(1)	2

・ 「○○語Ⅱ」を認定できる検定レベルでは「○○語Ⅰ」を，「○○語Ⅲ」を認定できる検定レベルでは「○○語Ⅰ」，「○○語Ⅱ」の単位認定の申請をすることもできます。ただし，一つの検定レベルで認定上限単位数より多く申請することはできません。

〔例１〕ドイツ語技能検定試験３級を取得している場合，「ドイツ語Ⅰ」と「ドイツ語Ⅱ」から合計して２単位まで申請できます。

〔例２〕オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（OESD）のＡ２を取得している場合，「ドイツ語Ⅰ」，「ドイツ語Ⅱ」，「ドイツ語Ⅲ」から合計して２単位まで申請ができます。

・ 認定上限単位が「１～２」単位とある場合は，２単位の単位認定を申請しても面接審査の結果により１単位のみの認定になる場合があります。

※　外国語検定試験の申込方法，申込・試験・成績発表のそれぞれの時期は各自で確認してください。

１-ｇ．言語文化科目
放送大学授業科目による初修外国語の再履修について

全学教育が主に伊都キャンパスで開講されているため，**２年次以降の主として専攻教育を履修する学生**については，初修外国語（ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語，ロシア語，スペイン語）の再履修が専攻教育科目の時間割の都合上難しくなるケースがあります。このため伊都キャンパスでの初修外国語の再履修が難しい場合に限り一部の科目について放送大学で開講される授業科目を履修することにより再履修することができます。

この再履修制度を利用するためには，大学が指定する手続きを行う必要がありますので，注意してください。

ただし，放送大学からの成績報告の時期が卒業予定者の卒業判定時期に間に合わないため，卒業予定の最終学期については，この制度による再履修はできません。

（１）申込みについて

放送大学授業科目については，本学と放送大学との単位互換協定に基づき放送大学の特別聴講学生として履修します。よって，別途お知らせする所定の手続きを経た場合にのみ履修が認められます。申込みの詳細は掲示でお知らせしますので，見落としのないように注意してください。

申込み時期は，前期（放送大学の第１学期）は１月下旬，後期（放送大学の第２学期）は７月中旬です。

なお，授業料については，予算の枠内で九州大学が負担します。また，入学料は必要ありません。

（２）履修の仕方

履修は，１学期１５回の放送授業および印刷教材によって行い，学期中１回の通信指導提出，学期末の単位認定試験に合格することにより単位を修得します。

放送授業については，各キャンパス（伊都，箱崎，病院，大橋）の図書館に設置された放送教材（ＤＶＤ・ＣＤ），テレビ・ラジオ放送，放送大学ホームページからのインターネット配信などを利用して視聴できます。

単位認定試験については，各学期末に本学の定期試験や授業に差し支えない曜日時限に，伊都キャンパスで実施されます。

（３）単位認定の方法

放送大学からの成績報告に基づき，本学の言語文化研究院の教員が書類審査等を実施し，予め定められた科目として単位を認定します。

（４）放送大学での再履修対象科目

外国語名	放送大学授業科目名（単位数）	本学での認定科目名(単位数)	認定単位数
ドイツ語	ドイツ語入門Ⅰ（２） ドイツ語入門Ⅱ（２）	ドイツ語Ⅰ（１） ドイツ語Ⅱ（１）	１～２ １～２
フランス語	フランス語入門Ⅰ（２） フランス語入門Ⅱ（２）	フランス語Ⅰ（１） フランス語Ⅱ（１）	１～２ １～２
中国語	中国語入門Ⅰ（２） 中国語入門Ⅱ（２）	中国語Ⅰ（１） 中国語Ⅱ（１）	１～２ １～２
韓国語	韓国語入門Ⅰ（２） 韓国語入門Ⅱ（２）	韓国語Ⅰ（１） 韓国語Ⅱ（１）	１～２ １～２
ロシア語	※平成２１年度より放送大学のロシア語は開講されないため，再履修する場合には，各学期開始前までに言語文化研究院のロシア語担当教員に相談してください。		
スペイン語	スペイン語入門Ⅰ（２） スペイン語入門Ⅱ（２）	スペイン語Ⅰ（２） スペイン語Ⅱ（１）	２ １～２

※ 修得単位数が２単位までと定められている科目については，その制限を超えて単位認定は行わないものとします。

【例】「ドイツ語Ⅰ」をすでに１単位修得済みで放送大学の「ドイツ語入門Ⅰ（２）」を修得した場合には，本学の「ドイツ語Ⅰ」の修得制限単位は２単位までであるため，１単位しか単位認定されません。

1-h．健康・スポーツ科学科目

健康・スポーツ科学科目は，身体運動やスポーツを媒介に，生活の基本である健康・体力に関する正しい知識と，健康づくりの具体的方法に関する知識や実践能力を獲得し，生活習慣やストレス病，急増する心の問題に柔軟に対応して社会生活をおくっていくための能力を身につける科目です。講義と実習の有機的な連携を図りながら，４（６）年一貫教育の観点から開講されています。「健康・スポーツ科学演習」は全学部で必修科目です。この演習では健康・体力づくりの実践的な方法論を学習し，また健康の意味や意義，運動やスポーツが心理的・身体的健康に及ぼす効果などについて学びます。

１年次後期以降，身体運動科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅲ・Ⅳは３年次以上対象），健康・スポーツ科学講義Ⅰ・Ⅱが開講されます。すべてが選択科目です。講義では，スポーツや身体運動に関して，生理学，心理学，社会学的な観点から多様なテーマが取り上げられます。身体運動やスポーツについての最新の情報を，より専門的に学ぶことができます。実習では，運動の継続化・生活化のために様々な身体運動やスポーツが教材として取り上げられ，実践的な指導が行われます。

※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

健康・スポーツ科学演習　【２単位】（前期開講，伊都地区）

健康・スポーツ科学演習は，スポーツや身体運動が健康に及ぼす効果を，身体的，心理的，社会的な観点から理解し，健康で充実したキャンパスライフを送ることのできる能力を身につけることを目的とします。具体的には，現代社会において健康問題の焦点となっている有酸素性運動の意義と実践方法，ならびに体力づくりのためのトレーニングの原理と実践方法の理解，キャンパス移転に伴い急増することが懸念されているストレスに適切に対処することのできる能力の獲得，対人関係を円滑なものにしていくためのコミュニケーション・スキルの修得，豊かなキャンパスライフを実現するためのスポーツ実践能力の獲得を主な内容とします。

○保健コース　【２単位】（前期開講，伊都地区）

病気やけが，障害などの理由により，通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生は，保健コースを受講してください。保健コースの授業内容は，受講学生の健康状態などを勘案しながら決定します。

【　担当教員（平成２４年度）　】

＊井　雅代	＊井藤英俊	大柿哲朗	＊乙木幸道	熊谷秋三
＊桑原(桧垣)淳子	斉藤篤司	＊佐藤広徳	杉山佳生	＊梁矢菜美
高柳茂美	西村秀樹	林　直亨	＊林　葉子	＊東　和樹
＊藤木賢二	＊堀田　亮	＊増田　隆	村木里志	＊森部昌広
＊山津満代	山本教人			

＊印は非常勤講師

身体運動科学実習Ⅰ　【１単位】（後期開講，伊都地区）

健康増進，運動継続，スポーツの体験的理解等に資する実践的な内容から構成されます。今日のいわゆる「生活習慣病」は，運動不足が原因のひとつであるといわれています。また，近年マスコミなどで取り上げられている青少年の心の問題は，他人との交流の欠如がその原因のひとつになっているともいわれています。こうしたことを背景に，今日，スポーツや身体運動に関する人々の関心は，かつてないほどの高まりをみせています。本実習では，スポーツを含めた多様な形態の身体運動を通じて，健康の自己管理の意義と実際，対人的コミュニケーション・スキル，メンタルヘルスの意味や意義などについて学びます。

※なお，本科目は，１年次における単位修得の有無にかかわらず，２年次でも履修し，単位を修得することが出来ます。

身体運動科学実習Ⅱ　【１単位】（前期開講，伊都地区）

運動処方の実践，競技力向上，スポーツの文化的享受等を主旨とします。身体運動やスポーツが，心身の健康づくりやその維持に有効であることは，広く認められています。しかしながら，それらを定期的に継続して実施していくことはなかなか困難なことでもあります。本実習では，身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義について理解し，「身体運動の生活化」を図ることを目的に，多様な形態の身体運動やスポーツを実施します。

身体運動科学実習Ⅲ　【１単位】（伊都地区）（箱崎地区）

生涯にわたってスポーツを実践していくための基礎的能力や態度を養成することが本実習の目的です。技能の高度化をめざすことを通じて，健康づくりや生涯スポーツへの動機づけとその継続的実践を推進していくための方法を学習することになります。３年生以上が対象です。

身体運動科学実習Ⅳ　【１単位】（伊都地区）（箱崎地区）

生涯にわたってスポーツを実践していくための基礎的能力や態度を養成するとともに，さらには生涯学習社会においてスポーツの学習が有する意味，意義などについて理解を深めます。また，人々の健康づくりや生涯スポーツへの動機づけとその継続的実施を推進していくためのノウハウについても学びます。３年生以上が対象です。

健康・スポーツ科学講義Ⅰ　【２単位】（後期開講，伊都地区）

科学技術の進歩は，我々の生活を便利にし，豊かにしました。その一方で，新たな弊害ももたらしています。そのあらわれのひとつが，現代生活の食生活，運動不足，ストレスに起因する生活習慣病です。本講義では，生活習慣病の背景，誘因および症状についての理解を深め，さらに健康の維持増進の手段としての運動の科学的基礎とその応用について解説します。これによって，現在および生涯にわたる健康の維持・増進，生活習慣病の予防のために何が重要か，どのように実践していくかを考える材料を提供します。

健康・スポーツ科学講義Ⅱ　【２単位】（前期開講，伊都地区）

健康，身体運動，スポーツに関わる専門的内容についての講義です。本講義では，スポーツや身体運動に関して，生理学，生化学，心理学，社会学的な観点から多様なテーマが取り上げられます。トレーニングの方法と効果，競技パフォーマンスに及ぼす心理的要因，運動によるメンタルヘルスの向上，身体運動の社会・文化的意味などについて，それぞれの専門分野から深く学ぶことができます。

【　担当教員（平成２４年度）　】

＊井　雅代	＊井上　透	大柿哲朗	＊乙木幸道	熊谷秋三	
＊桑原(桧垣)淳子	斉藤篤司	＊佐藤広徳	杉山佳生	高柳茂美	
＊中尾武平	西村秀樹	林　直亨	＊林　葉子	＊東　和樹	
＊藤木賢二	＊増田　隆	＊森部昌広	＊山津満代	山本教人	

＊印は非常勤講師

【健康・スポーツ科学科目】（曜日・時限順）

身体運動科学実習Ⅰは後期開講

授業科目名		担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）地区	備考（テキスト）
身体運動科学実習Ⅰ	ソフトボール・卓球	西村秀樹	季節に応じて，前半にソフトボール，後半に卓球をおこないます。ソフトボールは，打撃・守備の個々の技術を磨くこと，連係プレーを達成することが非常に楽しさを与えてくれます。卓球は，小さな空間で球のコース・強弱・回転をコントロールしていくところに醍醐味があります。また，安全への配慮，マナー，協調性，リーダーシップ，コミュニケーション，チームワークなどの社会的スキルを身につけることや，生涯にわたって健康な生活をおくるためのコンディショニングを把握することも重要です。さあ，体を動かしに来てください。	後期（月２）伊都地区	運動にふさわしい服装・シューズ
	コミュニケーション・シャトル	山本教人	バドミントンは，「生涯スポーツ」として幅広い年齢の人々に愛好されているスポーツのひとつです。本実習では，バドミントンの特性，ルール等について理解を深め，基本的な技術を習得したうえで，ダブルスのゲームが組織・展開できる力を身につけることをねらいとします。このために，ラケットの正しい握り方，ラケットによるシャトル・コントロール，様々なストロークなど，基本的な練習を反復して行います。さあ，「シャトル」を通じて友達の輪を広げましょう。		
	ボディワーク	高柳茂美	ボディワークとは，からだを「全体性」の立場から捉え，人間の全体的な統合をはかり，からだがもっている本来の機能を果たせるようにする身体技法の総称であり，心身の緊張の緩和，人間本来の自然治癒力の回復，身体の内部感覚・五感・筋感覚などの身体意識や自己意識への気づきの促進，心身の調和などを目指したものである。本授業では，筋・骨格系のゆがみを整える体操とマッサージ，リラクゼーション，ボディ・トーク，ボディ・アウェアネス等を学習することによって，心身をリラックスさせ，自己の心理状態・身体感覚への気づきを促すことを目的とする。		
	テニス	森部昌広	硬式テニスのダブルスのゲームを楽しめるレベルを目指して授業を進めて行きます。受講生全体を経験者を含む６－７のグループに分けて，均等に未経験者や経験の浅い人を振り分けます。そして，経験者をリーダーとして「自分達で工夫して上達するために必要な練習プログラムを組んで」毎回の授業に臨んでもらいます。全１５回の授業の前半で基礎的な技術やルールを覚え，後半ではゲーム（ダブルス）を主としてテニスに親しんでもらいます。初心者，経験の浅い方でも安心して上達できる授業です。		必ず体操服（テニスウエア・ジャージ・Tシャツ等）に着替えて参加してください。私服は厳禁です。
	ソフトボール・卓球	西村秀樹	季節に応じて，前半にソフトボール，後半に卓球をおこないます。ソフトボールは，打撃・守備の個々の技術を磨くこと，連係プレーを達成することが非常に楽しさを与えてくれます。卓球は，小さな空間で球のコース・強弱・回転をコントロールしていくところに醍醐味があります。また，安全への配慮，マナー，協調性，リーダーシップ，コミュニケーション，チームワークなどの社会的スキルを身につけることや，生涯にわたって健康な生活をおくるためのコンディショニングを把握することも重要です。さあ，体を動かしに来てください。	後期（月３）伊都地区	運動にふさわしい服装・シューズ
	ソフトバレー	山本教人	バレーボールは，「観るスポーツ」として日本人に最も好まれているスポーツのひとつです。バレーボールは，レシーブやブロックから，トス，アタックへと至る攻防の切り替えが，ネットで仕切られた自陣内で行われるところにひとつの特徴があります。本授業では，柔らかくて大きなボール，誰でもブロックに飛べる低いネットを用いて，バレーボールの魅力を存分に味わうことを目的にします。具体的には，三段攻撃の基本から，クイック攻撃，サインプレーなどについて学び，実践できるようになることを目指します。		
	ボディワーク	高柳茂美	ボディワークとは，からだを「全体性」の立場から捉え，人間の全体的な統合をはかり，からだがもっている本来の機能を果たせるようにする身体技法の総称であり，心身の緊張の緩和，人間本来の自然治癒力の回復，身体の内部感覚・五感・筋感覚などの身体意識や自己意識への気づきの促進，心身の調和などを目指したものである。本授業では，筋・骨格系のゆがみを整える体操とマッサージ，リラクセーション，ボディ・トーク，ボディ・アウェアネス等を学習することによって，心身をリラックスさせ，自己の心理状態・身体感覚への気づきを促すことを目的とする。		

授業科目名		担当教員	授　業　概　要	開講学期 （曜日時限） 地　区	備　考 （テキスト）
身体運動科学実習Ⅰ	バドミントン	西村秀樹	バドミントンは，競技としてだけでなく，健康増進・維持や仲間との親睦を深めるレクリエーションとしても，それぞれに楽しめるスポーツです。できるだけ基礎技術をつかんで，生涯にわたって続けていけるようにすることが大事です。サーブ，ヘアピン，クロスネット，スマッシュ，ドライブ，ドロップナなどの反復練習をするとともに，ゲームの実践において，戦略を考えていきます。マナー，協調性，チームワークなどの社会的スキルを身につけていくことも目標です。身体を動かしにきてください。	後　期 （月４） 伊都地区	運動にふさわしい服装・シューズ
	ソフトボール	山本教人	ソフトボールは，研究室や地域の行事などで取りあげられる機会が多いスポーツです。本授業では，ソフトボールの基本である，捕球，投球，打球の技術を基本から反復して練習し，試合が行えるようになることを目的にします。また，安全に対する配慮，チーム構成の仕方など，実際のゲーム運営に関する知識を身につけることも目的とします。		
	ボディワーク	高柳茂美	ボディワークとは，からだを「全体性」の立場から捉え，人間の全体的な統合をはかり，からだがもっている本来の機能を果たせるようにする身体技法の総称であり，心身の緊張の緩和，人間本来の自然治癒力の回復，身体の内部感覚・五感・筋感覚などの身体意識や自己意識への気づきの促進，心身の調和などを目指したものである。本授業では，筋・骨格系のゆがみを整える体操とマッサージ，リラクセーション，ボディ・トーク，ボディ・アウェアネス等を学習することによって，心身をリラックスさせ，自己の心理状態・身体感覚への気づきを促すことを目的とする。		
	バドミントン－羽根突きからの脱出ー	林　直亨	バドミントンには「羽根突き」のイメージがあるためか，体力がなくとも気軽にできそうなスポーツと思われがちです。しかし，実際にゲームをしてみれば分かりますが，かなりハードなスポーツです。本授業は，羽根突きレベルから始めますが，最後にはスマッシュで得点を競うレベルまで上達することを目標にします。基本的にはダブルスでの試合を予定しています。また，自分たちで安全に楽しくゲームを進行できるようになることを目標にして，ゲームを主体とした授業を行います。	後　期 （火１） 伊都地区	受講可能人数には上限があります。運動するのに適した服装に着替えて出席してください。
	卓球-こころもからだもリフレッシュ	増田　隆	卓球は初心者でも比較的容易にゲームが楽しめる一方で，基本的スキルの習得とともにどんどん面白さが増していくスポーツです。したがって，老若男女，上手い下手を問わず生涯にわたって楽しむことができるスポーツといえます。本授業は，卓球の基礎的技術，ルールを習得しながらシングルス，ダブルスのゲームを楽しむ内容とします。また，積極的に授業に関わることを通して，受講者のメンタルヘルスやコミュニケーション能力の向上を図ることも目的の一つとしています。		
	バドミントン－羽根突きからの脱出ー	林　直亨	バドミントンには「羽根突き」のイメージがあるためか，体力がなくとも気軽にできそうなスポーツと思われがちです。しかし，実際にゲームをしてみれば分かりますが，かなりハードなスポーツです。本授業は，羽根突きレベルから始めますが，最後にはスマッシュで得点を競うレベルまで上達することを目標にします。基本的にはダブルスでの試合を予定しています。また，自分たちで安全に楽しくゲームを進行できるようになることを目標にして，ゲームを主体とした授業を行います。	後　期 （火２） 伊都地区	受講可能人数には上限があります。運動するのに適した服装に着替えて出席してください。
	卓球-こころもからだもリフレッシュ	増田　隆	卓球は初心者でも比較的容易にゲームが楽しめる一方で，基本的スキルの習得とともにどんどん面白さが増していくスポーツです。したがって，老若男女，上手い下手を問わず生涯にわたって楽しむことができるスポーツといえます。本授業は，卓球の基礎的技術，ルールを習得しながらシングルス，ダブルスのゲームを楽しむ内容とします。また，積極的に授業に関わることを通して，受講者のメンタルヘルスやコミュニケーション能力の向上を図ることも目的の一つとしています。		

授業科目名		担当教員	授　業　概　要	開講学期 （曜日時限） 地　区	備　考 （テキスト）
身体運動科学実習Ⅰ	テニス：飾りじゃないのよラケットは	斉藤篤司	本授業では「テニスって何？」から「テニスって楽しい！」まで，テニス人口の増大をめざし，テニスコートでの快汗を体感することを目的とする。授業は「ラケットにボールが当たった！」という喜びから「ボールを打つって楽しい！」という快感を知り，ついでに「試合ができた！」という感動が得られることを期待する。したがって，この授業の成果は何人が自分のラケットを購入し，テニスシューズを履いてくるようになるかで評価される。未経験者および初心者を対象とした授業内容である。	後　期 （火２） 伊都地区	
	からだにやさしいヨガとリラクゼーション	桑原淳子	本実習では，初心者を対象に，無理のないヨガのポーズ（体位）や連続した動きを中心に行います。ヨガのポーズと呼吸をあわせて行うことで，からだ（心身）の統一をはかり，安定した穏やかな気持ちを体感します。そして，からだの緊張をほぐし（疲れやこりの解消，ゆがみの調整，自律神経の調整など），しなやかなからだづくりをめざします。また，マッサージやリラクゼーション等を通して，自分の心身をより快適な状態へと向ける意識や態度を養うようにしていきます。		動きやすい服装，ブランケット等の防寒具の用意
	ゴルフ：企業で生き抜くツール	斉藤篤司	周囲にはたくさんの施設がありながら，大学を卒業するまでほとんど接することのない不思議なスポーツゴルフ。そして，バブル崩壊後，スポーツの世界に復帰したゴルフ。その結果，他のスポーツ同様，見るゴルフとするゴルフに分かれた感がある。しかし，なぜ見て面白いのか，やって面白いのかはボールを打ってみないとわからない。その辺のなぜをゴルフの基礎に触れつつ，一打の緊張感とナイスショットの快感から体感していく。	後　期 （火３） 伊都地区	
	チカラをつけよう！トレーニング	林　直亨	主に筋力トレーニングの実習を通じて，安全なトレーニング法について理解し，一人でも安全に適切なトレーニングを行うために必要な知識を身につけることを目的とします。毎時間，筋力トレーニングの実技と，トレーニングに関連する内容について１０分程度の講義とを行います。トレーニング期間の前後において，筋力や形態の変化も測定します。例年の結果では，男女とも初心者ではベンチプレス挙上重量が最低で１割，平均で２割増加しています。ムキムキにはなりませんが，トレーニングによる筋力の向上を実感してもらいます。		受講可能人数には上限があります。運動するのに適した服装に着替えて出席してください。
	からだにやさしいヨガとリラクゼーション	桑原淳子	本実習では，初心者を対象に，無理のないヨガのポーズ（体位）や連続した動きを中心に行います。ヨガのポーズと呼吸をあわせて行うことで，からだ（心身）の統一をはかり，安定した穏やかな気持ちを体感します。そして，からだの緊張をほぐし（疲れやこりの解消，ゆがみの調整，自律神経の調整など），しなやかなからだづくりをめざします。また，マッサージやリラクゼーション等を通して，自分の心身をより快適な状態へと向ける意識や態度を養うようにしていきます。		動きやすい服装，ブランケット等の防寒具の用意
	卓球	大柿哲朗	卓球は，老若男女を問わず楽しめる最も手軽なスポーツのひとつです。その一方で，極めて高度な技術や戦術を要するスポーツでもあります。本コースでは，卓球の初心者から中級者を対象に，基礎技術および応用技術を身につけ，生涯にわたって卓球を楽しめる技術やルール，マナーの習得および体力の向上を図ることを目的とします。また受講者の人間関係の向上やコミュニケーション・スキルの向上を図ることも，本コースの目的です。卓球が上手くなりたい人だけではなく，友達が少ない人や仲間づくりをしたい人，運動不足の人も歓迎します。	後　期 （木２） 伊都地区	実技のできる服装，室内履きの運動靴で参加してください。
	テニス	熊谷秋三	日頃から運動不足を感じ，少しハードな運動をやってみたいというテニスの初心者および経験者を対象に，ゲームを楽しみながら，体力の増進をも取り入れた授業内容を展開する。テニスの基礎技術および練習方法の修得，テニスに必要な体力の獲得，ゲームの楽しみ方を主な授業内容とする。毎時間，基礎練習の後に，原則的にゲームを行って行く予定である。		

授業科目名		担当教員	授　業　概　要	開講学期 （曜日時限） 地　区	備　考 （テキスト）
身体運動科学実習Ⅰ	サッカー	中尾武平	基礎技術から実践技術の習得へと発展する。基礎技術は，ボールを運ぶ・蹴る・止める・リフティングなどの修得，実践技術は，グループ戦術の理解（２対１，２対２…）およびゲームとなる。可能な限りリーグ戦およびトーナメント戦を実施する。また，女子も楽しめるよう配慮する。積極的なコミュニケーションを通して，互いに協力して練習やゲームを進めていくなかで，チームワークの重要性，リーダーシップ，スポーツマンシップの必要性を修得する。	後　期 （木２） 伊都地区	屋外・屋内において，極力，サッカーのできる服装で受講すること（スパイク可）。
	バスケットボール	林　葉子	スポーツは皆が楽しめることが一番です。バスケットボールの面白さは攻撃にあります。授業の中で部活動のような練習を繰り返しても効率的に技術が向上できませんが，初心者であってもシュートチャンスを増やし，シュート率を高めることにより楽しむことができます。安全にゲームが行える範囲でルールの順守には目を瞑り，特別ルール(女子の得点は２倍など)や課題(全員が３Ｐシュートを打つなど)といった授業ならではのゲームの中で，チームメイトや場合によっては敵のシュート成功も喜びあえるような展開をします。		
	卓球	大柿哲朗	卓球は，老若男女を問わず楽しめる最も手軽なスポーツのひとつです。その一方で，極めて高度な技術や戦術を要するスポーツでもあります。本コースでは，卓球の初心者から中級者を対象に，基礎技術および応用技術を身につけ，生涯にわたって卓球を楽しめる技術やルール，マナーの習得および体力の向上を図ることを目的とします。また受講者の人間関係の向上やコミュニケーション・スキルの向上を図ることも，本コースの目的です。卓球が上手くなりたい人だけではなく，友達が少ない人や仲間づくりをしたい人，運動不足の人も歓迎します。	後　期 （木３） 伊都地区	実技のできる服装，室内履きの運動靴で参加してください。
	バレーボール	熊谷秋三	少しハードな運動をやってみたいというバレーボールの初心者・経験者を対象に，ゲームを楽しみながら，体力の増進をも取り入れた授業内容を展開する。バレーボールの基礎技術および練習方法の修得，バレーボールに必要な体力の獲得，ゲームの楽しみ方を主な授業内容とする。毎時間，基礎練習の後に，原則的にゲームを行って行く予定である。		
	ヨガ・ピラティス	井　雅代	ピラティスとは，東洋のヨガの要素に西洋のトレーニング要素を組み合わせたドイツ人ジョセフ・ピラティスが考案した心身の両方を強化する，注目のエクササイズ法です。身体の芯（core），深層の筋肉を強化していくことで，姿勢のゆがみや身に着いた悪い癖を正していくことでき，肩こり・腰痛などの解消や身体のバランスを整えていきます。また，新たな身体感覚への気づきやエクササイズをする上で求められる心身のコントロールは，自分自身と向き合うヨガの哲学とも通じるものです。本学習では，ピラティスメソッドを取り入れたヨガの基本的なポーズや呼吸法を学習することにより，心身のリラクゼーション感覚を体得し，それを日常の中で生かせるよう心身のコントロール能力を身につけることを目的とします。		シューズは必要ありませんが，必ずトレーニングウエアでの参加をすること。
	バドミントン	大柿哲朗	バドミントンは，老若男女を問わず楽しめる最も手軽なスポーツのひとつです。その一方，競技では極めて高度な技術や戦術を要する激しいスポーツでもあります。本コースでは，バドミントンの初心者から中級者を対象に，基礎技術および応用技術を身につけ，生涯にわたってバドミントンを楽しめる技術やルール，マナーの習得および体力の向上を図ることを目的とします。また受講者の人間関係の向上やコミュニケーション・スキルの向上を図ることも，本コースの目的です。バドミントンが上手くなりたい人だけではなく，友達が少ない人や仲間づくりをしたい人，運動不足の人も歓迎します。	後　期 （木４） 伊都地区	実技のできる服装，室内履きの運動靴で参加してください。
	サッカー	熊谷秋三	少しハードな運動をやってみたいというサッカーの初心者・経験者を対象に，ゲームを楽しみながら，体力の増進をも取り入れた授業内容を展開する。サッカーの基礎技術および練習方法の修得，サッカーに必要な体力の獲得，ゲームの楽しみ方を主な授業内容とする。毎時間，基礎練習の後に，原則的にゲームを行って行く予定である。		

授業科目名		担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）地区	備考（テキスト）
身体運動科学実習Ⅰ	ソフトボール&屋内球技	杉山佳生	本授業では，前半は主にソフトボールを，後半は，卓球，ソフトバレーなどの屋内球技を行います。これらのスポーツ種目における基礎的および応用的技術の学習やゲームの実践を通して，身体運動・スポーツ活動が持つさまざまな健康的意義あるいは生涯発達的意義に対する理解を深めていくことを目標とします。特に，コミュニケーションスキルや対人関係スキルの向上といった社会心理的側面への効果に注目して，運動活動を実施していきます。	後期（金3）伊都地区	
	バドミントン	乙木幸道	バドミントンの基本的な技術（ハイクリア，ドライブ，ヘアピン，スマッシュ）を身につけるとともに，その特性とダブルスゲームのルールを理解してもらいたい。また，ダブルスゲームのパートナーは毎回変わるため，この時のパートナーの経験（競技レベル）や性別（ミックスダブルス）などに応じて随時その戦術をパートナーとコミュニケーションを図りながら考えてもらいたい。		飲料物（ジュースなど）はフロアに持ち込まない（体育館内の廊下に置いておくこと）スポーツウエアとフロアシューズ着用厳守 。
	ウエイトトレーニング	藤木賢二	最近はスポーツクラブ等の施設に通う人も多く，身近になってきたウエイトトレーニング。「痩せて健康になりたい」「体を引き締めたい」「筋肉をつけてカッコよくなりたい」など，目的は様々です。適切な方法で行えば確実に成果が出ますが，短期間で劇的に変化することはありません。そこで，本授業では，ウエイトトレーニングの効果的で安全な方法を理解し実践できるようになることで，健康増進，体力向上から競技力向上まで，それぞれの目的や体力レベルに合ったトレーニングの，生涯にわたる継続を最大の目標とします。		
	バドミントン&軽スポーツ	杉山佳生	本授業では，主としてバドミントンの基礎的および応用的技術の学習やシングルス・ダブルスゲームの実践を通して，身体運動・スポーツ活動が持つさまざまな健康的意義や生涯発達的意義に対する理解を深めていくことを目標とします。特に，コミュニケーションスキルや対人関係スキルの向上といった社会心理的側面への効果に注目して，運動活動を実施していきます。また，心理社会的スキルの一層の向上を目指して，卓球，ソフトバレー，ソフトローンボウルズ等の軽スポーツを実施することもあります。	後期（金4）伊都地区	
	ニュースポーツ	乙木幸道	手軽にできるスポーツとして親しまれているニュースポーツ（フライングディスク，バードゴルフなど）を実施し，自分の運動経験や既成のスポーツ種目にとらわれることなく，今までにあまり経験したことのない新しいスポーツ種目にチャレンジしながら，自分の運動経験の幅を広げ，新しいスポーツへの接し方を探ることを目的としています。		屋外と屋内用シューズおよびスポーツウエアーの準備
	集中授業スキー	斉藤篤司	スキーはあらゆる年代，技術段階に応じて楽しめるスポーツです。リフトやゴンドラが山の上まで運んでくれ，後は位置エネルギーを放出しながら，自分の足だけでは経験できないスピードと動きを味わうことができます。また，日常とは完全に離れた環境での実習は他の授業にはない，こころとからだの解放を促します。九州にいてはなかなか知ることのできない快感を提供します。ぜひ，自分の生涯スポーツの１つとして選択してみてはいかがでしょう。	後期（集中講義）	

身体運動科学実習Ⅱは前期開講

授業科目名		担当教員	授業概要	開講学期（曜日時限）地区	備考（テキスト）
身体運動科学実習Ⅱ	ソフトボール	西村秀樹	ソフトボールは，地域の行事や，大学の研究室などでよくおこなわれる人気スポーツであり，「生涯スポーツ」としてとても期待されうるものです。基本である捕球，投球，打撃技術，連携プレーを練習するとともに，試合を楽しみます。また，このプロセスにおいて，安全への配慮，マナー，協調性，リーダーシップ，コミュニケーション，チームワークなどの社会的スキルを身につけることや，生涯にわたって健康な生活を送るためのコンディショニングを把握することも重要です。体を動かしに来てください。　　コミュニケーション・シャトル	前期（月３）伊都地区	運動にふさわしい服装・シューズ
	コミュニケーション・シャトル	山本教人	バドミントンは，「生涯スポーツ」として幅広い年齢の人々に愛好されているスポーツのひとつです。本実習では，バドミントンの特性，ルール等について理解を深め，基本的な技術を習得したうえで，ダブルスのゲームが組織・展開できる力を身につけることをねらいとします。このために，ラケットの正しい握り方，ラケットによるシャトル・コントロール，様々なストロークなど，基本的な練習を反復して行います。さあ，「シャトル」を通じて友達の輪を広げましょう。		
	レッツ プレイ テーブルテニス	山津満代	本実技で取り扱うのは，我が国で老若男女に人気の高い卓球である。日本での競技人口は年々増加傾向にあり，生涯スポーツとして小学生からシニアまで幅広い年齢層が楽しめるという利点を有している。そこで，本授業では，卓球の競技特性を理解し，生涯スポーツとして楽しみながらプレイできるようになるための基本技術の習得を目指す。基本技術をより向上させながら，応用的，実戦的な内容へ授業を展開する。ゲームを進めながらルールや審判法を学習する。		
	テニス	森部昌広	硬式テニスのダブルスのゲームを楽しめるレベルを目指して授業を進めて行きます。受講生全体を経験者を含む６－７のグループに分けて，均等に未経験者や経験の浅い人を振り分けます。そして，経験者をリーダーとして「自分達で工夫して上達するために必要な練習プログラムを組んで」毎回の授業に臨んでもらいます。全１５回の授業の前半で基礎的な技術やルールを覚え，後半ではゲーム（ダブルス）を主としてテニスに親しんでもらいます。初心者，経験の浅い方でも安心して上達できる授業です。		必ず体操服（テニスウエア・ジャージ・Tシャツ等）に着替えて参加してください。私服は厳禁です。
	テニス	熊谷秋三	日頃から運動不足を感じ，少しハードな運動をやってみたいというテニスの初心者および経験者を対象に，ゲームを楽しみながら，体力の増進をも取り入れた授業内容を展開する。テニスの基礎技術および練習方法の修得，テニスに必要な体力の獲得，ゲームの楽しみ方を主な授業内容とする。毎時間，基礎練習の後に，原則的にゲームを行って行く予定である。	前期（水２）伊都地区	
	ソフトボール	東　和樹	身体運動科学実習（ソフトボール）の授業を通じ，心身共に健康を目指す演習とする。集団行動を基本としコミュニケーション能力を高める。授業内容は試合形式を基本とするが，様々なキャッチボール・ノック・バッティングを行い，スキルレベルアップを目指し試合そのもののレベルを上げる。成績評価に関しては出席を基本とする。４回目を休めば単位は出しません。授業態度（意欲等）や試合の結果で評価します。経験のない学生でも又女性でも構いません。		
	ソフトバレーボール	佐藤広徳	ソフトバレーボールは，ボールが柔らかいことから突き指の心配がなく，初心者でも手軽に実施することができます。競技特性としては，運動の基本である走・跳・投の３つの動作のすべてを兼ね備えており，加えて手でボールを打つことや，スパイク・ブロックなどのように空中で動作を行うといった他の競技には見られない特徴も有しています。本授業ではスパイクが打てるようになること，すなわち，空中で動作を行うという高度な運動動作の習得を目標の一つとします。また，毎回ゲームを取り入れコミュニケーション能力の向上も目指します。		

授業科目名		担当教員	授　業　概　要	開講学期 （曜日時限） 地　区	備　考 （テキスト）
身体運動科学実習Ⅱ	バドミントン：羽根つきからの卒業	斉藤篤司	バドミントンは初心者から上級者まで,それぞれの技術段階に応じて試合が楽しめる独特なスポーツです。したがって,ラケットでシャトルを打ち合うと何となくバドミントンをしているような気がしてきます。しかし，本授業では羽根つきから脱却し，スポーツとしてのバドミントンを求めていきます。授業は，１にフットワーク，２に素振り，３でようやくシャトルを打つ，というようなハードな内容を目指しつつ，４にハイレベルな試合を楽しむ，ことを目標に行われます。	前　期 （木１） 伊都地区	
	中国武術	井上　透	この授業は中国武術の実習を通して，独特な身体操作を考えながら動く事で，実現する楽しさを実感して貰う事が目的です。中国武術の根本的な原理は「陰陽」です。動作だけでなく，内面のイメージを動作に反映させてゆく作業によって，内外一致と知行合一を目指してゆきます。まずは武術に必要な身体を練り，技術を学びながら功夫（クンフー）を練ります。基本功から長拳へと進み，武器術の基礎として棍術を学習し，中国武術のあらゆる流派を学ぶ為の基礎を作る事が狙いです。また，太極拳や気功も実習しながら，心身の健康を図ってゆきます。		中国武術は文化習慣的に靴を履いた状態での技術体系ですので，体育館シューズの着用をお願い致します。筋肉や靭帯を伸展させる運動が多いので，無理のない範囲で取り組んで下さい。
	卓球	大柿哲朗	卓球は，老若男女を問わず楽しめる最も手軽なスポーツのひとつです。その一方で，極めて高度な技術や戦術を要するスポーツでもあります。本コースでは，卓球の初心者から中級者を対象に，基礎技術および応用技術を身につけ，生涯にわたって卓球を楽しめる技術やルール，マナーの習得および体力の向上を図ることを目的とします。また受講者の人間関係の向上やコミュニケーション・スキルの向上を図ることも，本コースの目的です。卓球が上手くなりたい人だけではなく，友達が少ない人や仲間づくりをしたい人，運動不足の人も歓迎します。	前　期 （金４） 伊都地区	実技のできる服装，室内履きの運動靴で参加してください。
	テニス	熊谷秋三	日頃から運動不足を感じ，少しハードな運動をやってみたいというテニスの初心者および経験者を対象に，ゲームを楽しみながら，体力の増進をも取り入れた授業内容を展開する。テニスの基礎技術および練習方法の修得，テニスに必要な体力の獲得，ゲームの楽しみ方を主な授業内容とする。毎時間，基礎練習の後に，原則的にゲームを行って行く予定である。		
	ヨガ・ピラティス	井　雅代	ピラティスとは，東洋のヨガの要素に西洋のトレーニング要素を組み合わせたドイツ人ジョセフ・ピラティスが考案した心身の両方を強化する，注目のエクササイズ法です。身体の芯（core），深層の筋肉を強化していくことで，姿勢のゆがみや身に着いた悪い癖を正していくことでき，肩こり・腰痛などの解消や身体のバランスを整えていきます。また，新たな身体感覚への気づきやエクササイズをする上で求められる心身のコントロールは，自分自身と向き合うヨガの哲学とも通じるものです。本学習では，ピラティスメソッドを取り入れたヨガの基本的なポーズや呼吸法を学習することにより，心身のリラクゼーション感覚を体得し，それを日常の中で生かせるよう心身のコントロール能力を身につけることを目的とします。	前　期 （金４） 伊都地区	シューズは必要ありませんが，必ずトレーニングウエアでの参加をすること。
	バスケットボール	林　葉子	スポーツは皆が楽しめることが一番です。バスケットボールの面白さは攻撃にあります。授業の中で部活動のような練習を繰り返しても効率的に技術が向上できませんが，初心者であってもシュートチャンスを増やし，シュート率を高めることにより楽しむことができます。安全にゲームが行える範囲でルールの順守には目を瞑り，特別ルール(女子の得点は２倍など)や課題(全員が３Ｐシュートを打つなど)といった授業ならではのゲームの中で，チームメイトや場合によっては敵のシュート成功も喜びあえるような展開をします。		

2．文系基礎科目

※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

現代社会／現代史　【2単位】

文系の学問の発展は一定の歴史的な背景のもとで進むことを踏まえ，専攻課程を学ぶための基礎となる近現代の歴史と社会に関する基本的知識の修得を目的とする。また，現代社会を歴史的に理解することを通して，国際化時代に生きる市民にふさわしい豊かな歴史的教養の涵養を目指す。

担当教員	授　業　概　要	開講学期（曜日時限）	備　考（テキスト）
吉田昌彦	ＩＴ技術の進歩・グローバル化の進展のなか，新自由主義にもとづき実体経済に遊離した投機マネーが世界経済に甚大な影響を及ぼしている。また，ユーロやＴＰＰ問題に見られるように経済の一体化，さらには社会保障制度の機能不全・労働規制の緩和など近代において形成されてきた国民国家の枠組みを突き崩す動きが顕著になっている。本講義においては，国民国家の枠組みの形成過程を述べるとともに，現在，いかにそれらが崩壊し始めているか，を概説する。	前期（月１）	高校における社会科履修科目のバラツキに配慮して高校の授業内容に触れることがある。 テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
杉山あかし	社会科学から見た modern について考えます。日本語に訳すと「現代の」か「近代の」になる言葉ですが，英語では modern の一語です。社会の何がどう変わったとき，もしくは何がどう変わったと考えられるとき，社会科学はこの言葉を使うのでしょうか。もちろん社会科学といっても，法学・政治学・経済学・社会学，それぞれ独自の見方がありますから，様々な形の modern があることになります。それらがどう重なり，具体的に何がどう変わって私たちの今の社会になったのでしょうか。こういったことを考えて行きます。	前期（木４）	
松永典子	現代社会を生きる我々にとって現代社会の課題に向き合うためには，どのような基礎的認識，判断力が必要なのであろうか。本講義では日本と国際社会との関わりを通してこの課題をともに考えてみることにしたい。中でも，日本と東南アジア諸国との間に横たわる歴史問題や国際文化交流については認識されていないことのほうが多いのではないだろうか。この点も含め，国際文化交流の中で国際間の文化関係を象徴する「留学」及び「留学生」を軸に現代社会の課題について考察していく。	前期（水２） 前期（金２）	
清水靖久	この授業では，現代社会を歴史的に考えることによって，現代を捉えることをめざす。そもそも現代とは何だろうか，いつからだろうか。一つの重要な区切りが第二次世界大戦後の諸改革にあったことは明らかだろう。そのころ日本で制定された憲法，冷戦，日米安保，５５年体制，高度経済成長，原子力などを取上げながら，今日に至る歩みを考える。1945 年からの大戦後の民主化と不戦化だけでなく，1989 年からの冷戦後のグローバル化，時には 1853 年からの開国後の文明化と富強化を画期として，現代への変化を論じる。	前期（金２）	対象学部学生の半数まで収容可能な中教室を用いるので，受講制限が必要になるかもしれないが，そのさいは偶然的要素によらず，初回の小レポートの提出によって制限する。 テキストではないが，池上彰『そうだったのか！日本現代史』（集英社文庫）

担当教員	授　　業　　概　　要	開講学期 （曜日時限）	備　　考 （テキスト）
オーガスティン, M	この授業は現代日本の歴史を探求するものである。現代日本の政治・社会・文化に対する理解を深める為には，第二次世界大戦の敗北を転換期として，戦後間もなく実施された一連の改革に基づく新体制の形成とそれに抵抗して生じた様々な紛争を共に検討する必要がある。特に日米安保と五五年体制という二つの対外・国内体制の成立と維持に焦点を当てる事によって，現代日本が平和と民主主義に基づく経済大国に上昇した過程が明らかになる。	後期（水４）	
清 水 靖 久	この授業では，現代社会を歴史的に考えることによって，現代を捉えることをめざす。そもそも現代とは何だろうか，いつからだろうか。一つの重要な区切りが第二次世界大戦後の諸改革にあったことは明らかだろう。そのころ日本で制定された憲法，冷戦，日米安保，５５年体制，高度経済成長，原子力などを取上げながら，今日に至る歩みを考える。1945年からの大戦後の民主化と不戦化だけでなく，1989年からの冷戦後のグローバル化，時には1853年からの開国後の文明化と富強化を画期として，現代への変化を論じる。	後期（水４）	テキストは未定

人 文 学 入 門　【2単位】

※　文学部の学生は，この科目を履修できません。

文学部の哲学，歴史学，文学，人間科学の４コースからそれぞれ１名の教員が出講し，人文学とは何かについて講義を行なう。人文学は，多種多様な面から人間の在り方の全体を捉える知の営みとして，様々な学問の基礎をなしている。本講義では，こうした幅広い知に触れることを目的とする。

【　担当教員（平成２４年度）　】
岩 田 圭 一　　濱 田 耕 策　　鵜 飼 信 光　　關　　一 敏

教 育 学 入 門　【2単位】

※　教育学部の学生は，この科目を履修できません。

現在，子どもをめぐって，また教育をめぐって，さまざまな問題が語られ，その対応が模索されている。本講義は，教育学部の教育学，心理学の教員４名により，それぞれの専門領域の方法や理論，分析視角から，教育の現状や課題などについて論じる。

【　担当教員（平成２４年度）　】
山 口 裕 幸　　久 米　　弘　　新 谷 恭 明　　古 賀　　聡

政 治 の 世 界　【2単位】

※　法学部の学生は，この科目を履修できません。

本講義では，政治学という枠組みからグローバル化と地域主義の関係を考察することを目的としています。東アジア共同体や東アジア地域主義の議論について，拙速にその良し悪しを判断するのではなく，どのような立場の人々がどのような議論を展開しているのかをとくに国際関係論・国際政治学の立場から検討します。地域主義という議論の理論的前提，その形成過程，さらに国際社会における地域主義の規範的意義づけ等を探りながら，地域主義の意義と限界を明らかにしていきたいと思います。

【　担当教員（平成２４年度）　】
大　賀　　哲

法　の　世　界　【2単位】

※　法学部の学生は，この科目を履修できません。

文系のみなさんの多くにとって，「法」は避けて通れないものです。卒業後のキャリアの中でも，法の枠組みにそって活動する（行政法，商法など）わけですし，私生活でも法はさまざまな場面でみなさんを支えています（民法，社会法など）。また，裁判による場合は勿論（民事訴訟法，刑事訴訟法など），裁判外でも，さまざまな場面で法律家の協力を必要とすることも出てくるでしょう。これに対して，残念ながら日本の高等学校までの法教育は極めて不十分で，憲法の教育に偏っています。他方，「法学」というのは体系的な学問であって，その一部を知っていたのでは，役に立たないばかりでなく，有害であることさえあります。医学において，全身のことを知らずに局所だけに注目して治療を行うのは，有害となり得ることにも似ているでしょう。そこで本講義では，法学の特徴をお話しし，法学の観点から「世界史」や「日本史」を扱った上で，法学のさまざまな分野の概説を行います。法の非専門家として法にかかわる際，どのようなことに気をつければ良いのか，一緒に考えて行きましょう。

【　担当教員（平成２４年度）　】
五十君麻里子

経 済 学 入 門　【2単位】

※　経済学部の学生は，この科目を履修できません。

本講義では，2008 年９月のリーマン・ブラザーズの経営破綻を契機として発生した 2008 年グローバル金融危機とその後について考察する。2008 年金融危機が意味していたものは何か，何が問題であったのか，そこからの教訓は何かを考える。世界的な金融・経済危機から２年余り，危機は収束に向かうかに思われた。しかし，危機は終わっていない。「ソブリン・クライシス」と呼ばれる欧州財政危機の発生である。このソブリンの危機の背景，特徴，今後の展開の可能性についても議論する。

私たちが生きる今という時代の経済・政治・社会の動向に多くの関心を持ち，熱意のある学生諸氏の受講を希望する。

教科書は使用しない。講義で使用する資料等（ＰＤＦファイル）は，担当教員の個人ＨＰにおいて公開する。

【　担当教員（平成２４年度）　】
磯　谷　明　徳

３．理系基礎科目

（共通基礎科目）

※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

【 数　　学 】

微分積分学・同演習Ａ　【１.５単位】
微分積分学・同演習Ｂ　【１.５単位】

微分積分学は，理工系のすべての学生にとって基礎的教養といえる科目であり，高等学校で学んだ極限概念と微分積分を，講義と演習を通じてさらに詳しく学びます。１変数関数の微分積分学を体系的に考察し，その応用として簡単な微分方程式についても学びます。さらに，２変数関数を主に取り扱いながら，多変数関数の微分法とその関連事項についても学びます。

微分積分学・同演習Ａを担当した教員が引き続いて微分積分学・同演習Ｂを担当することを原則とします。ＡとＢの科目内容の境界がクラスによって多少異なることがあります。

１．この講義で新しく学ぶ事柄についての説明，１変数関数の微分から多変数関数の偏微分へ（偏微分記号の定義）
２．関数とその連続性
３．微分の定義，高階導関数の計算とテーラー展開
４．定積分の定義と微分積分学の基本定理
５．積分の計算とその応用（有理・無理関数の積分，広義積分）
６．変数分離形微分方程式の解法
７．多変数関数の連続性と微分（偏微分，全微分，接平面）
８．多変数合成関数の微分法
９．多変数テーラー展開，極値問題
10．陰関数定理とその応用（陰関数の微分，条件付き極値問題）

微　分　積　分　学　【２単位】

この科目では，高等学校では取り扱わなかった逆三角関数の微積分とそれを用いた不定積分の計算，テーラー展開等を学びます。具体的計算に重点を置きながら，１変数および２変数関数の微分積分学の基本事項を選択的に学びます。

１．極限とその性質（数列の極限，等比級数，関数の極限）
２．微分の定義と計算（接線，和・積の微分，合成関数の微分，初等関数の微分，平均値の定理）
３．高階導関数（テーラー展開，関数の極限）
４．積分法（微分積分学の基本定理，部分積分，置換積分，有理・無理関数の積分）
５．２変数関数の偏微分（偏微分，合成関数の微分）
６．２変数テーラー展開，極値
７．２重積分と累次積分

線形代数・同演習Ａ　【１.５単位】
線形代数・同演習Ｂ　【１.５単位】

線形代数は数学の各分野において基本的である事柄を多く含み，理工系に進む者にとって欠くことができない数学的教養のひとつです。この科目では講義と演習を平行させて，下記の内容を学びます。

１．３次元空間，平面の方程式，複素平面
２．連立一次方程式と行列の演算
３．行列の基本変形と行列の階数
４．ベクトルの一次独立性と一次従属性
５．逆行列
６．行列式の定義と基本的性質
７．線形部分空間の次元と基底

８．線形写像の像の核
９．固有値と固有ベクトル
10．行列の対角化
11．一般ベクトル空間と内積
12．正規直交基底
13．実対象行列の対角化

線　形　代　数　【２単位】

この科目では数ベクトルと行列に関する基本的な性質を学びます。データは数ベクトルの形をしていることが多く，大量のデータの処理が必要な現代ではこれらは基本的な考えのひとつです。数値計算や線形計画法などにも広く応用されています。この科目では行列と行列式を中心として，下記の内容を選択的に学びます。

１．３次元空間，平面の方程式，複素平面
２．連立一次方程式と行列の演算
３．行列の基本変形と行列の階数
４．逆行列
５．行列式の計算方法
６．固有値と固有ベクトル
７．行列の対角化
８．数ベクトル空間と部分空間
９．数ベクトル空間の内積

数　理　統　計　学　【２単位】

この科目では，確率の基本的な諸概念から出発して，ランダムな現象を捉える確率分布モデルのいくつかを紹介しその性質を学びます。その上で，データから母集団分布の特性について推論を行う統計的推測の基本的な考え方と，統計的推定，検定について学びます。さらに，データの構造や特徴を把握し情報を有効に抽出し分析するための手法として，分散分析及び回帰分析の基本を学びます。内容は下記項目から取捨選択します。

１．確率とその基本的な性質
２．離散型確率変数（二項分布，ポアソン分布）
３．連続型確率変数（一様分布，指数分布，正規分布の基本的な性質）
４．現象のモデル化（母集団分布，母平均，母分散，母標準偏差）
５．統計的推定（標本平均，標本分散，点推定，区間推定）
６．統計的仮説検定（平均の検定，分散の検定）
７．分散分析（一元配置を中心とした分散分析の基本）
８．回帰分析（相関係数，線形モデル，最小二乗法）

【　担当教員（平成２４年度）　】

井口　修一	岩瀬　則夫	植田　好道	太田　昇一	大津　幸男
大西　俊郎	小野　廣隆	梶原　健司	勝田　篤	神山　直之
＊川上　裕	木村　正人	幸崎　秀樹	権　寧魯	今野　拓也
坂田　年男	笹渕　祥一	＊佐藤　好久	白井　朋之	角　俊雄
高瀬　正仁	高田　敏恵	＊高橋　正郎	田上　大助	竹田　雄一郎
＊田中　晴喜	趙　康治	辻井　正人	手老　篤史	新居　俊作
西井　龍映	二宮　嘉行	野村　隆昭	服部　新	＊濱田　英隆
原　隆	樋上　和弘	百武　弘登	平岡　裕章	深井　康成
福本　康秀	前園　宜彦	増田　俊彦	増田　弘毅	松井　卓
松本　浩一	丸山　修	水町　徹	溝口　佳寛	＊三苫　至
＊本山　真理	森下　昌紀	吉田　寛	吉田　正章	綿谷　安男

＊印は非常勤講師

【 物 理 学 】

力学基礎・同演習　【３単位】
力学基礎・同演習Ａ【１.５単位】
力学基礎・同演習Ｂ【１.５単位】

※　力学基礎・同演習Ａ，Ｂ（各1.5単位）は，工学部　地球環境工学科，エネルギー科学科及び機械航空工学科対象の科目です。その他の学部学科の学生は力学基礎・同演習（３単位）を履修してください。

専攻教育の授業内容との連携及び個別入試の受験科目選択の状況等に配慮して，次の２つの種類のクラスを設けます。

（イ）．個別入試で受験科目として物理を選択した者を対象とするクラス
（ロ）．（イ）以外を対象とするクラス

（イ）．個別入試で受験科目として物理を選択した者を対象とするクラス

運動の記述，運動方程式を解くこと，エネルギー・運動量・角運動量の保存法則などの物理的概念を身に付けさせることを目標に，質点，質点系，及び剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。

１．ニュートンの運動方程式とその解法，いろいろな力が働く場合についての運動
２．保存力，保存力場，力学的エネルギー
３．運動量，運動量保存の法則等
４．運動の相対性，慣性系，非慣性系
５．万有引力
６．２質点，質点系，重心運動
７．角運動量，角運動量保存則
８．剛体のつりあい

（ロ）．（イ）以外を対象とするクラス

同様の内容を１次元を中心に展開し，基本的事項を学んだ上で，剛体の固定軸周りの運動，惑星の運動に関する基本的事項を学ぶ。

電　磁　気　学　【２単位】

専攻教育の授業内容との連携及び個別入試の受験科目選択の状況等に配慮して，次の２つの種類のクラスを設けます。

（イ）．個別入試で受験科目として物理を選択した者を対象とするクラス
（ロ）．（イ）以外を対象とするクラス

（イ）．個別入試で受験科目として物理を選択した者を対象とするクラス

場という考え方を中心に，電気，磁気現象および電気回路の基礎的事項を学ぶ。

１．静電界，クーロンの法則，ガウスの法則，静電場のエネルギー
２．誘電体，誘電分極
３．定常電流，オームの法則
４．磁石と磁性体，磁気分極，磁気モーメント
５．電流と磁場，ビオ・サバールの法則，アンペールの法則
６．電磁誘導とマクスウエル方程式
７．準定常電流と交流回路
８．電磁波

（ロ）．（イ）以外を対象とするクラス

基本的に（イ）と同じ内容を，３，７，５，４，１，２，６の順で進める。進捗状況によって８も含める。

【 担当教員（平成２４年度） 】

浅井光輝	安達千波矢	荒巻森一朗	池田伸夫	＊伊佐士郎	
伊藤一秀	井上卓見	井上昌睦	内野喜一郎	大野正夫	
岡部弘高	梶田幸秀	烏谷隆	河合伸	河江達也	
＊河辺幸子	河辺哲次	雉本信哉	木村康之	＊黒木昌一	
近藤孝広	坂口英継	相良建至	篠﨑文重	清水良文	
杉原裕司	清家規	副島雄児	高橋昭彦	＊武末尚久	
武田信一	竹之内和樹	田中太氏	堤井君元	＊寺田貢	
鴇田昌之	富田健太郎	成清修	野村清英	野呂哲夫	
橋本正章	羽田亨	浜本貴一	浜屋宏平	林徹夫	
町田真美	松井淳	水野清義	＊三谷尚	光田暁弘	
室園昌彦	茂木孝一	山形幸彦	山本剛	吉武剛	
吉森明	和田裕文	渡辺幸信			

＊印は非常勤講師

【 化　　学 】

無 機 物 質 化 学　【２単位】

科学および科学技術の急速な進歩に伴い，あらゆる分野での活動に物質に対する認識の重要性がますます高まっています。日常生活においても，用いる物質の性質や環境問題など化学に関係する事象を理解する必要性が増加しています。そのために，物質（化合物）の成り立ちや性質を理解する基本的原理や考え方を教授する“化学”を教養科目として学びます。

無機物質化学では，まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解，次に原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び，化学結合と相当する代表的な無機化合物の性質との関係を修得します。さらに，現代社会を支える，あるいは２１世紀に重要となると考えられる無機化合物を紹介し，構造や物性について概観します。この科目を修得後，有機物質化学を履修できるように計画されています。
[到達目標：無機化合物の構造や性質を，定性的ではあるが電子状態を基礎に理解できるようになる]

１．原子および元素の存在度
２．原子の電子構造と周期律
３．イオン結合とイオン結晶
４．量子化学に基づく共有結合の理解
５．分子の電子構造と結合エネルギー
６．分子の電子構造と分子の形
７．水素結合，分子間力
８．金属結合と金属の特性
９．トピックス

有 機 物 質 化 学　【２単位】

この科目では，有機化合物の構造と反応性について系統的に理解するための基礎知識の修得を目的とします。はじめに身の回りの有機化合物の特徴について概観した後，有機化合物の官能基別の分類法と基本的な化合物命名法について説明します。次に，異性体の分類法や表示法の概要と，分子構造を立体的に考えることの重要性について見ていきます。そして，いくつかの代表的な反応について，電子移動の方向とその起こりやすさがどのような要因に基づいているのかを考え，反応の基本的な原理を理解します。最後に，それぞれの官能基に特徴的な反応と合成法について代表的な例を見ていきます。
[到達目標：有機化合物の構造と反応性を化学の基本原理に基づき理解する基礎を修得します]

１．有機化合物の特徴
２．有機化合物の分類と命名法
３．有機立体化学
４．反応機構の考え方
５．官能基別化合物の合成と反応
　　アルカン・アルケン・アルキン，芳香族炭化水素，ハロゲン化合物，
　　カルボン酸とその誘導体，窒素化合物など

【　担当教員（平成２４年度）　】

石田玉青	石原達己	伊田進太郎	伊藤芳雄	榎本尚也
大橋和彦	岡上吉広	小江誠司	酒井　健	佐藤　治
下田満哉	下東康幸	新名主輝男	末永正彦	高橋和宏
中井英隆	野瀬　健			

【 生 物 学 】

細 胞 生 物 学 【2単位】

生物に共通した特徴を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を与えるために，以下のような項目の解説を行う。

１．細胞の微細構造とその機能（生体膜，細胞内小器官，細胞骨格など）
２．細胞を構成する生体分子（タンパク質・核酸・脂質・糖）
３．細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸，光合成，物質輸送，運動）
４．細胞による遺伝情報の発現と伝達（セントラルドグマ，細胞分裂・細胞周期）
５．細胞による情報処理（細胞間の情報伝達，細胞内情報伝達系）
６．細胞の多様性（細胞分化と形態形成）

集 団 生 物 学 【2単位】

生物総体・集団としての特徴である多様性についての基本的な理解を与えるために，以下のような項目の解説を行う。

１．地球上の多様な生物の概観
２．種・遺伝子プール・遺伝的多様性
３．固体の行動と生物の適応
４．種間の相互作用・生物集団の動態・生態系
５．生物の進化
６．生物多様性とその保全

【　担当教員（平成２４年度）　】

荒田博行	荒谷邦雄	巌佐　庸	岩見真吾	上野高敏
江口和洋	岡本正宏	粕谷英一	片倉喜範	紙谷聡志
楠見淳子	熊丸敏博	小早川義尚	杉島節夫	髙木正見
田代康介	舘　卓司	舘田英典	中山二郎	伴野　豊
藤田雅俊	安井　秀	安尾しのぶ	矢原徹一	山下茂樹
割石博之				

＊印は非常勤講師

【 実　　験 】

自然科学総合実験 【2単位】

理系学生として共通基盤となる諸科学の基礎的知識を実験を通して体得させ，理系共通の必須の素養を涵養し，広い視野を持った学生として育成する。

・地球・環境の観察と理解
・物質の理解
・生命の理解

物理分野

この物理系の実験科目では２人１組で実験を行います。３種目あり，それぞれ地球をとりまく自然界における物理現象の測定を通じて物理法則を学ぶと共に，実験で用いる装置の基本的操作や実験の精度（最確値や誤差の計算及び有効数字の決定法など）や実験報告書の作成法などについても学びます。この実験を通じて地球を取り巻く自然界で生じている物理現象に関して考察します。

[到達目標：実験を通じて物理現象を理解すると共に自然科学総合実験の報告書の作成法を修得する。自然界における物理現象の観察，考察する態度を身につける。]

１．ボルダの振子の周期の測定から地球の重力加速度を求める。
２．ヤング率の測定を通じて物質の固さを求める。
３．放射温度計を用いてタングステンフィラメントの温度測定と電気抵抗の温度変化を知る。

化学分野

この科目は個人実験です。独力で化学実験を実体験することを通じて，化学反応を理解するとともに実験で用いる器具の基本的な使用法，化学実験の基本操作，報告書の作成法について学びます。また，自然科学総合実験を通じて，自然界で起こっている化合物の溶解と沈殿に関して考察します。実験は，陽イオンの定性分離分析です。沈殿生成の条件の違いに基づいて金属イオンを３つのグループに分け，それぞれのグループの中で沈殿反応や錯形成反応を利用して金属イオンを確認します。また，アルカリ，アルカリ土類金属イオンについては，炎色反応を行うとともに原子スペクトルを測定することで，炎色反応（原子発光）の基礎原理を学びます。

[到達目標：実験を通じて，難溶性塩の沈殿･溶解反応の原理，元素の検出法を理解するとともに，自然科学実験の報告書の作成法を修得する。自然界における化学現象を観察，考察する態度を身につける]

１．定性分析の概要の説明，炎色反応および原子スペクトル測定
２．塩酸からの難溶性塩化物および酸性溶液からの難溶性硫化物の分離と確認
３．アルカリ性溶液からの難溶性硫化物・水酸化物の分離と確認
４．未知試料溶液中の陽イオンの同定

地学分野

地球は，隕石を起源物質として形成され，現在はコア，マントル，地殻，海洋，大気，という成層構造を形成しています。この様な成層構造が地球の進化過程で形成された基本的な原理を実験を通して理解します。地球の起源物質である，隕石及び岩石（マントルと地殻を構成する岩石）をルーペを用いて観察し，太陽系星雲中で形成された隕石および，地球の進化過程で形成された岩石の構成鉱物及び組織（構成鉱物の空間分布パターン）の違いを理解しそれを科学的に記述する方法を学びます。また，浮力の原理を用いて不定形の岩石サンプルの密度の測定を行ない，地表付近での，大陸と海洋の成り立ちについて考察します。これらの実験によって，地球惑星の形成と進化過程における，物質の密度の重要性を認識します。

[到達目標：地球の起源物質と地球の構成している岩石について，形態，化学組成，密度といった側面から理解する。地球の進化と構成における密度と浮力の重要性とアイソスタシーの原理を理解する。]

１．隕石，岩石試料，及びそれらを構成している鉱物の裸眼及びルーペによる観察と不定形岩石試料の密度決定

生物分野

生物科学分野の実験では，生物を構成する基本単位である細胞の形態と機能・細胞が集まってできあがる多細胞生物の組織の構成・細胞分裂の過程を，実際の生物試料を材料として顕微鏡を使った観察・計測によって理解することを目的とします。また，遺伝子の実体であるＤＮＡの２重らせん構造の解明と遺伝子発現・複製のメカニズム（セントラルドグマ）の解明，それらの知識を基礎とした遺伝子操作技術などの進展が，私たちの実生活や生命観・人間観に大きな影響を与えています。さらに，近年の生物学は様々な生物のゲノム情報を元にして新たな発展を遂げつつあります。そこで，こうしたＤＮＡを中心とした生命科学技術の一端を理解するために，生物材料からＤＮＡ分子を抽出し，特定の遺伝子の一部をＰＣＲ（Polymerase Chain Reaction）法によって増幅させて検出する実験を体験してもらいます。

［到達目標：観察・実験によって，生物の基本構成単位である細胞と遺伝子の実体であるＤＮＡについて理解を深める。その過程で，顕微鏡を使った観察・計測，生物試料の取扱，分子生物学実験などを実際に体験することによって，生物科学における実験的手法の基本を身につける。］

１．顕微鏡の使用方法，動物組織切片の観察
２．生きた植物細胞の観察
３．細胞分裂過程の観察
４．ＤＮＡの抽出とＰＣＲによるＤＮＡ断片の増幅

【　担当教員（平成２４年度）　】

物理分野

＊伊佐士郎	大野正夫	鎌滝晋礼	＊河辺幸子	佐合紀親
武田信一	寺西　高	＊西田昭彦	＊西谷龍介	藤原智子
山岡　均	光田暁弘	柳澤実穂	吉岡瑞樹	

化学分野

麻生真理子	安中雅彦	石田玉青	宇都宮　聡	大石　徹
大橋弘範	岡上吉広	狩野有宏	北　逸郎	久下　理
五島健太	末永正彦	関谷　博	竹原　公	谷　元洋
寺嵜　亨	冨板　崇	新留康郎	野村和生	原田賢介
藤ヶ谷剛彦	藤野泰寛	山田秀人		

地学分野

伊藤久徳	岡崎隆司	鹿島　薫	加藤　工	金嶋　聡
河野英昭	北島富美雄	清川昌一	久保友明	坂井　卓
佐野弘好	関谷　実	竹中博士	寅丸敦志	中島健介
中田正夫	奈良岡　浩	廣岡俊彦	宮本知治	

生物分野

市川敏夫	伊藤　功	井上眞理	射場　厚	今福泰浩
内海泰弘	有働　洋	大橋英治	奥本寛治	川口栄男
菊池政道	楠見健介	楠見淳子	熊丸敏博	古賀誠人
齋藤和幸	猿渡悦子	武宮淳史	舘　卓司	手島康介
土井道生	中條信成	仁田坂英二	長谷川益己	広津崇亮
藤原　学	細谷忠嗣	松田　修	水上令子	山下茂樹
山脇兆史	湯淺高志	李　在萬		

＊印は非常勤講師

（個別基礎科目）

※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

【 数　　学 】

微 分 積 分 続 論　【2単位】

この科目では，微分積分学・同演習Ａ，Ｂ（及び線形代数・同演習Ａ，Ｂ）に続く内容として，多変数関数の重積分とその応用，線積分，面積分，グリーンの定理，ガウスの定理などの基本事項を選択的に学びます。

１．多重積分の定義と性質
２．多重積分の変数変換
３．多重積分の応用（体積，曲面積）
４．線積分，グリーンの定理，ガウスの定理

基 礎 数 学 演 習 Ⅰ　【1単位】

この科目では，将来，数学の高度な知識と深い理解を必要とする学生を対象にして，線形代数・微分積分の演習を通して，数学の基礎力をつけることを目指します。線形代数，微分積分の科目とは独立した演習科目ですが，内容はそれらに配慮しながら進められます。下記各項目より取捨選択した演習問題を，学生が適宜，黒板の前で解答するほか，小テストとして解答することもあります。

集合と論理，数列・級数の収束，関数の連続，
微分法及びその応用（テーラー展開，極値等），行列に関する基本事項，行列式の基本事項，各種行列式の計算

基 礎 数 学 演 習 Ⅱ　【1単位】

この科目では，将来，数学の高度な知識と深い理解を必要とする学生を対象にして，線形代数・微分積分の演習を通して，数学の基礎力をつけることを目指します。線形代数，微分積分の科目とは独立した演習科目ですが，内容はそれらに配慮しながら進められます。下記各項目より取捨選択した演習問題を，学生が適宜，黒板の前で解答するほか，小テストとして解答することもあります。

積分法とその応用，関数列とその極限
線形性（線形空間，線形写像）の具体例による理解，
行列の標準化（固有値と固有ベクトル，固有空間，行列の対角化等）

基 礎 数 学 演 習 Ⅲ　【1単位】

この科目では，将来，数学のより高度な知識とより深い理解を必要とする学生を対象にして，線形代数・微分積分の演習を通して，数学の基礎力をつけることを目指します。線形代数，微分積分の科目とは独立した演習科目ですが，内容はそれらに配慮しながら進められます。下記各項目より取捨選択した演習問題を，学生が適宜，黒板の前で解答するほか，小テストとして解答することもあります。

重積分とその応用（面積，体積の計算，変数変換，グリーンの定理等），
線形代数と微積分の融合（写像の微分，合成写像の微分，条件付き極値問題の解法等）

【　担当教員（平成24年度）　】

大津幸男	大西俊郎	隠居良行	勝田篤	神本丈
川崎英文	川島秀一	今野拓也	高瀬正仁	田上大助
谷口説男	趙康治	中村徹	新居俊作	樋上和弘
廣島文生	藤田敏之	増田俊彦	松井卓	吉田正章

【 物 理 学 】

熱と波動論基礎　【2単位】

演習を交えながら，前半で，熱現象，後半で振動・波動現象を学ぶ。

1．温度，熱力学第０法則，絶対温度
2．熱と熱力学第１法則，熱容量，比熱
3．熱力学第２法則とエントロピー，可逆過程，不可逆過程
4．気体分子運動論
5．単振動，減衰振動，強制振動，連成振動
6．波動方程式
7．波の干渉，回折，回折格子，平面波，球面波

現代物理学入門　【2単位】

１９世紀終わりから２０世紀にかけ，それまでのニュートン力学とマクスウエルの電磁気学，即ち古典物理学では理解できない現象がつぎつぎに発見され，物理学の新しい概念が生まれた。この科目では以下を学び，その概念の理解を目的とする。

1．特殊相対性理論，ローレンツ変換，時間と空間，質量とエネルギー
2．量子力学，量子仮説，波動性・粒子性，シュレーディンガー方程式
3．統計力学，統計集団と基本仮定，マクスウエルーボルツマン分布，電子とフェルミ統計，エントロピー
　自由エネルギー

【　担当教員（平成２４年度）　】

大瀧倫卓	加藤喜峰	河合　伸	木村　元	後藤雅宏	
笹岡孝司	鴇田昌之	橋本典明	松村　晶	水野大介	
山田　淳	渡部行男				

【 化　　学 】

基礎化学結合論　【2単位】

化学の基本概念の１つである量子化学的なものの見方・考え方の定量的理解（数学を用いる）を目的とします。すべての物質の化学的性質は，その物質の構成単位である微視的な粒子（原子・分子）の性質によって決まるという観点から講義します。
［到達目標：量子の世界（つまり微視的粒子の世界）を支配する法則の概要とその化学への応用を学び，物質の構造や化学反応性など化学の基礎となる問題を定量的に理解する方法論の基礎を修得します。］

1．物質を構成する粒子
2．量子の世界の基本法則
3．原子の電子構造と元素の周期律
4．化学結合の理論
5．分子の形

基礎化学熱力学　【2単位】

物質の状態とその変化を理解するのに，単独の原子･分子を取り扱う量子化学と並んで，アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す熱力学的性質を用いることが可能です。この講義では熱力学の基本法則に基づき，化学反応や分子の集合状態の変化などの現象を自由エネルギー変化の観点から捉え，変化の方向や平衡状態がどのように決まるかを学びます。下記の内容を専門分野に応じた演習を交えながら講義します。
［到達目標：化学的現象を熱力学的に捉える方法論を修得する。］

1．内部エネルギー変化（熱力学第１法則）
2．エントロピー変化（熱力学第２法則）
3．自発的変化の方向と平衡状態・自由エネルギー
4．物質量の変化に伴うエネルギー変化
5．化学平衡の条件

【　担当教員（平成２４年度）　】

秋山　良	阿部正明	安中雅彦	大場正昭	岡本晃一
佐々木茂男	関谷　博	田中敬二	寺嵜　亨	中野晴之
野村和生	原田賢介	山中美智男		

【 地　　学 】

地球科学概論　【2単位】

地球の構成と構造および地球環境をつくっている地球のシステムに関する基礎知識を習得し，グローバルで総合的な地球科学の考え方を理解することを目的としている。以下の７章で構成されている。
1．地球環境を構成する水・大気・温度
2．プレートテクトニクス
3．地球・地殻の構成と組成
4．岩石の風化と土壌の形成
5．地球の熱収支と大気の大循環
6．海洋の構成と大循環
7．気候システムとその変動

【 担当教員（平成２４年度）】

小山内　康人	狩野彰宏	桑原義博

【 生 物 学 】

分子生物学　【2単位】

遺伝子・ＤＮＡを中心とした分子生物学の基礎を解説し，その応用としての遺伝子工学・バイオテクノロジーの基本的理解を与えるために，以下のような項目について解説する。
1．遺伝子の概念とその実体
2．遺伝子の構造と機能（ＤＮＡ・ＲＮＡの構造，ＤＮＡ複製・転写・ＲＮＡプロセッシング・翻訳など）
3．生物個体の遺伝子の総体，ゲノム
4．遺伝子発見の調節（転写・翻訳調節，翻訳後の調節など）
5．遺伝子操作の基礎（制限酵素，プラスミド，遺伝子クローニング，遺伝子の組み換えと導入など）
6．遺伝子操作の利用（遺伝子組み換え作物・動物，遺伝子診断・治療など）

【 担当教員（平成２４年度）】

青木智佐	飯田　弘	石原　健	川畑俊一郎	日下部宜宏
小柴琢己	酒井謙二	辰巳隆一	釣本敏樹	古屋成人
山口明彦	吉野貞藏			

【 図　　学 】

図　　学　【2単位】

Ｈ２Ａロケットや本四連絡橋・東京スカイツリーから伝統的な木造建築物や庭園に至るまで，これら三次元の対象物は，いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられています。将来，このような対象物の設計に関わるであろう諸君にとって，三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力，逆に描かれた図形から対象物を三次元的に解析し理解する能力は，当然身につけておくべき基礎能力です。図学を学ぶ目的は，講義と演習を通じて，これらの能力を身につけることにあります。

学期の前半は，図形の表現・解析の基礎である投影の概念と正投影法の規則を，点や直線・平面・立体を例に修得します。後半では，立体の切断や相貫・展開など前半の応用に加え，正投影法以外の投影法（軸測投影・斜投影・標高投影・透視投影・陰影）の中から，各学科に必要と考えられる投影法を併せて修得します。

基　礎　製　図　【2単位】

図学を履修した諸君は，機械装置やその部品，土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを，二次元平面上の図形として表現できることでしょう。しかし，これらを実際につくるには，この図形に対象物のサイズや配置，用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し，設計者と製作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作成する必要があります。

基礎製図では，図面を理解し作成するために必要な基礎知識を，講義と実習を通じて修得します。

すなわち，工業系設計・製図が重要な学科については，図面に関する国際的な取決め事項（ＩＳＯ・ＪＩＳ製図関連規格）や図面に特有の慣用的表現法・作図技法などを中心とした講義項目，また環境系設計・製図に重みを置く学科では，コンセプト・イメージスクラップ・エスキース・外部空間の構成や建築物の構成要素・植栽・造園に関わる講義項目が準備されています。

これらの講義内容をより確実に身につけるため，文字・線の練習，ねじや継手など機械要素部品の写図・スケッチ及び製図，建築図面や造園図面のコピー，イメージスクラップの作成，外部空間の改造提案に関するプレゼンテーション用図書・模型の作成・製作と発表，実在する建築物の実測と製図など多くの実習課題の中から，各学科の最適課題について主に製図器械を用いて製図実習を行います。

空 間 表 現 実 習　【2単位】

図面を読むことは，建物や都市空間に関わるものにとっては，必ずやらなければならないことです。図面を読み，建築物の内部空間，外観，都市空間などを具体的に把握することが必要です。

建築系空間表現実習では，図面をもとに建築外観透視図と建築模型を作製します。またその過程で建築空間の立体的な表現法を修得します。

環境系空間表現実習では，基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り，またその表現技法について学びます。

工業系空間表現実習では，透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で，インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養います。

【　担当教員（平成２４年度）　】

朝 廣 和 夫	＊家 原 英 生	石 坂 公 一	出 光 一 哉	井 上 朝 雄
＊内 田 貴 久	梅 﨑 洋 二	大 月 彩 香	岸　　泰 子	髙 曽　　徹
志 賀　　勉	新 開 明 二	杉 村 丈 一	竹之内 和 樹	田 上 健 一
＊豊 田 宏 二	樋 口 明 彦	平 井 康 之	藤　　智 亮	山 口　　悟
＊山 澤 宣 勝				

＊印は非常勤講師

４．情報処理科目

※授業の詳細をシラバス（http://syllabus.kyushu-u.ac.jp）で確認して授業に臨んでください。

情 報 処 理 演 習 Ⅰ　【１単位】

この科目では，パソコンの実用的な利用法とプログラミング言語Ｃを利用したプログラミングの初歩を学びます。パソコンの実用的な利用法では，電子メール，ワープロ，表計算などのアプリケーションに関して，実践的な使い方を中心に実習を交えて学習します。一方，プログラミングの基礎としては，プログラムの本質であるアルゴリズムの基本的概念を理解することをめざします。与えられた問題を分析し，それを解くための手順を見つけ，これをプログラミング言語で表現する方法について学習します。

１．パソコンの実用的な利用法
　（１）電子メールの利用方法
　（２）日本語ワープロの利用方法
　（３）表計算ソフトの利用方法
　（４）プレゼンテーションソフトの利用方法
　（５）Ｗｅｂブラウザの利用方法
　（６）ホームページの作成
　（７）情報倫理・セキュリティ

２．プログラミング言語Ｃによるプログラミング入門
　（１）プログラムとは何か
　（２）変数とデータの入出力
　（３）算術式の計算
　（４）条件判定
　（５）繰り返し
　（６）配列
　（７）ファイル操作と応用

情 報 処 理 演 習 Ⅱ　【１単位】

この科目では，パソコンの実際的な利用法とプログラミング言語Schemeを利用したプログラミングの初歩を学びます。実際的な利用法としては，パソコンでの電子メールやＷｅｂ，日本語ワードプロセッサの利用法を学び，道具としてのパソコンの利用法を身につけます。一方，プログラミングの基礎としては，プログラムの本質であるアルゴリズムの基本的概念を理解することをめざします。与えられた問題を分析し，それを解くための手順，すなわち，アルゴリズムを見つけ，これをプログラミング言語で表現する方法について学習します。

１．パソコンの実際的な利用法
　（１）電子メール，Ｗｅｂの利用法
　（２）著作権等と情報倫理
　（３）日本語ワープロによる文書作成
２．プログラミング言語Schemeによるプログラミング入門
　（１）プログラミングの設計法
　（２）基本的な計算
　（３）データオブジェクト
　（４）計算と制御の構造
　（５）繰り返しと再帰
　（６）関数抽象算術式の計算

情 報 処 理 演 習 Ⅲ　【１単位】

この科目では，パソコンの実際的な利用法とプログラミング言語Ｃを利用したプログラミングの初歩を学びます。実際的な利用法としては，パソコンでの電子メールやＷｅｂ，日本語ワードプロセッサの利用法を学び，道具としてのパソコンの利用法を身につけます。一方，プログラミングの基礎としては，プログラムの本質であるアルゴリズムの基本的概念を理解することをめざします。与えられた問題を分析し，それを解くための手順，すなわち，アルゴリズムを見つけ，これをプログラミング言語で表現する方法について学習します。

１．パソコンの実際的な利用法
（１）電子メール，Ｗｅｂの利用法
（２）著作権等と情報倫理
（３）日本語ワープロによる文書作成
２．プログラミング言語Ｃによるプログラミング入門
（１）算術式の計算
（２）データの表現と入出力
（３）条件判定
（４）繰り返し
（５）配列
（６）手続きと関数

情 報 処 理 演 習 Ⅳ　【１単位】

この科目では，プログラミング言語Fortranを利用したプログラミングを学びます。数値計算処理に焦点をあて，プログラムの本質であるアルゴリズムの基本的概念を理解することをめざします。与えられた問題を分析し，それを解くための手順，すなわち，アルゴリズムを見つけ，これをプログラミング言語で表現する方法について学習します。

プログラミング言語Fortranによるプログラミング入門のテーマ
（１）数値積分
（２）ニュートン法による方程式の解法
（３）行列
（４）微分方程式

情 報 処 理 演 習 Ⅴ　【１単位】

この科目では，パソコンの実用的な利用法とプログラミング言語Ｃを利用したプログラミングの初歩を学びます。パソコンの実用的な利用法では，電子メール，ワープロ，表計算などのアプリケーションに関して，実践的な使い方を中心に実習を交えて学習します。一方，プログラミングの基礎としては，プログラムの本質であるアルゴリズムの基本的概念を理解することをめざします。与えられた問題を分析し，それを解くための手順を見つけ，これをプログラミング言語で表現する方法について学習します。

１．パソコンの実用的な利用法
（１）電子メールの利用方法
（２）日本語ワープロの利用方法
（３）表計算ソフトの利用方法
（４）プレゼンテーションソフトの利用方法
（５）Ｗｅｂブラウザの利用方法
（６）ホームページの作成
（７）情報倫理・セキュリティ
２．プログラミング言語Ｃによるプログラミング入門
（１）プログラムとは何か
（２）変数とデータの入出力
（３）算術式の計算
（４）条件判定
（５）繰り返し
（６）配列
（７）ファイル操作と応用

【　担当教員（平成２４年度）　】

朝 廣 和 夫	＊猪 飼 秀 隆	＊石 田 俊 一	井 上 光 平	井 口 修 一
大 喜 雅 文	大 月 彩 香	小 野 直 樹	片 山 喜 規	川喜田 雅則
＊合 田 和 正	越 村 三 幸	＊酒 見 康 廣	正 代 隆 義	手 老 篤 史
中 島 裕 典	長 原 一	能 野 謙 介	原 健 二	坂 内 英 夫
廣 瀬 信 之	フォン ヤオカイ	藤 岡 薫	藤 村 直 美	松 清 修 一
松 田 浩 一	峯 恒 憲	＊安 武 芳 紘	吉 村 正 義	＊若 菜 啓 孝
若 宮 幸 平				

＊印は非常勤講師

Ⅱ.学習をより深めるために－学習プログラム等の紹介－

九州大学では，学生皆さんの日頃の学習の幅が広まり異なる学問分野どうしの関連が強まるように，各学部のカリキュラムに加えて，次のような学習プログラムが設けられています。異なる分野にふれ，理解して，より優れた力を身につけるためにも挑戦してみてください。

チャレンジ２１

チャレンジ２１とは，自分の専門分野の学修に加えて，関連する周辺領域の学問分野や異なる学問分野の学修，留学による海外の大学での学修等を通し，意欲的で自主的な学修活動にチャレンジする学生の学修を奨励するため学修プログラムです。**チャレンジ２１**には**「学際コース」**と**「国際コース」**の２つのコースがあります。

（1）「学際コース」

卒業までの間に自分の所属する学部の卒業要件を満たしながら，それに加えて所属学部以外の学部が提供する学修コースを履修し，自分の専門分野に加えてもう一つの専門性の修得を目指すコースです。「**人文学**」，「**教育学**」，「**法学**」，「**経済学**」，「**理学**」，「**芸術工学**」の６領域があり，それぞれ体系的に構成された科目群が準備されています。

（2）「国際コース」

九州大学が提供する交換留学制度や短期語学研修プログラムを活用し，海外の大学での学習経験を踏まえて，帰国後は九州大学留学生センターが提供する留学生のための科目を留学生とともに履修したり，留学中の修得科目を２１世紀プログラムが提供する科目として認定を受けることなどにより，国際感覚を高めたことが認定される学修コースです。

これらのコースの修了が認定されれば，卒業時に自分の所属する学部の学位記に加え，本学が独自に認定する『**チャレンジ２１修了証**』が九州大学総長から授与されます。

チャレンジ２１への参加申請は，２年もしくは３年の前期終了後に申請書を提出することが必要となります。

申請時には次の全てを満たすことが必要です。

①全学教育科目を各学部の卒業要件として指定している単位数より８単位以上多く修得していること。

②成績が優秀（ＧＰＡ　2.8 程度を目安とします）であること。

③学際コースのうち，「人文学」「教育学」「法学」「経済学」の領域を希望する場合は，各領域指定の文系基礎科目を修得していること。（「理学」「芸術工学」の場合は，基礎科目の履修義務はありません。）

また，申請条件や修了認定条件，申請書類，申請先，申請期間等の詳細については，下記Ｗｅｂページを参照してください。（例年１０月頃下記Ｗｅｂページに掲載）

http://rche.kyushu-u.ac.jp/c21/

〔問い合わせ先〕（伊都地区）学務部全学教育課

西部地区五大学連携開講授業科目（単位互換科目及び共同開講科目）

福岡西部地区に位置する九州大学，西南学院大学，中村学園大学，福岡大学，福岡歯科大学は，連携協定を締結し，連携開講授業科目（単位互換科目及び共同開講科目）を設けています。これは，本学の学部学生が西南学院大学，中村学園大学，福岡大学，福岡歯科大学が提供する科目及び五大学が共同で開講する科目を履修することができ，その大学や授業担当教員の成績評価を踏まえ，本学の単位として認定される制度です。本学にはない他大学の特色ある科目等を履修することができ，単位を修得した場合は，全学教育科目の総合科目の単位として認定されます。

対象となる科目及び履修登録方法は，３月下旬に公用掲示板での掲示により案内します。

〔問い合わせ先〕（伊都地区）学務部学務企画課

夏季集中講義 in 早稲田大学

学生交流の一環として，早稲田大学が提供する集中講義を本学の学生が受講することができます。早稲田大学の授業を受けるだけでなく，他大学の教員や学生と知り合い，幅広い人脈や活動の場をもつなど，本人の心がけ次第で有意義な機会となることでしょう。

早稲田大学のキャンパスでの受講となり，交通費や滞在費は各自負担となりますが，授業料は必要ありません。（ただし，一部科目において実習料がかかります。）単位を修得した場合は，全学教育科目の総合科目の単位として認定されます。

対象となる科目及び履修登録方法は，６月上旬に公用掲示板での掲示により案内します。

〔問い合わせ先〕（伊都地区）学務部全学教育課

ＪＴＷ（Japan in Today's World）
ＡＴＷ（Asia in Today's World）
ＡｓＴＷ（ASEAN in Today's World）

ＪＴＷは留学生センターが海外から交換留学生としてＪＴＷプログラムで学ぶ留学生を主に対象とし，日本の文化や社会について幅広く学ぶ科目です。

ＡＴＷは留学生センターが外国人短期留学コースの一環として夏季集中で実施する九州大学サマーコースで開講する科目です。

ＡｓＴＷは留学生センターがアセアン加盟国に所在する大学において春季集中で実施する短期海外留学コースで開講する科目です。

ＪＴＷ，ＡＴＷ，ＡｓＴＷはいずれも全学教育科目の総合科目としての履修が可能です。授業はすべて英語で行われ，ディスカッションやレポート作成もすべて英語で行う必要があります。

開講科目の概要は『全学教育科目 高年次履修のための手引き』などを参照し，履修条件及び受講登録方法は掲示で確認してください。

〔問い合わせ先〕ＪＴＷは（箱崎地区）国際部留学生課，ＡＴＷとＡｓＴＷは（箱崎地区）国際部国際交流推進室

九州大学/ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター（ＱＲＥＣ）提供科目

ＱＲＥＣでは次の５つのタイプの人材の育成を目指しています。

・自ら機会を発見・創造して，目標と道筋を構想する能力がある人材
・新たな価値創造に対して積極的に挑戦する人材
・個人として自立意識を持つ人材
・社会や世界を幅広く俯瞰できる知識と能力を持つ人材
・知識を社会で活かす意欲と具体的価値を創造する能力がある人材

このような人材育成のため，ＱＲＥＣでは，基礎編８科目，応用編７科目を開講して学年をおって履修する，体系的かつ段階的に構成された日本初の統合的なアントレナーシップ教育プログラムを設けています。その各々の授業では，学部を問わず，また学部１年生から大学院生まで履修可能ですので，様々な分野や経験の異なる学生と接することになるでしょう。

ＱＲＥＣ提供科目を履修し，単位を修得した場合は，科目により全学教育科目の総合科目または高年次教養科目の単位になります。開講科目及び履修登録方法は，掲示あるいはＱＲＥＣホームページ（http://www.qrec.kyushu-u.ac.jp）を参照してください。

なお，ＱＲＥＣ科目群のうち，指定の科目及び科目数を履修した場合，希望者に対してＱＲＥＣの「修了証明書」が発行されます。

〔問い合わせ先〕（箱崎地区）九州大学/ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター（ＱＲＥＣ）

EU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）

卒業要件の必要単位を満たしながら，EU（欧州連合）についての体系的な学習，研究の機会を提供するEU研究修了証書プログラムです。EU-DPsの目的は，EU-DPsとして開放されている科目を計画的に取得することによって，EUの制度，機能，歴史などの基本的知識を習得すること，特定の分野・課題の研究を通じて，EUについての学問的な理解を深めることです。

学部レベルと大学院(修士課程)レベルを対象にした２つのプログラムで構成され，それぞれの修了要件を満たした学生には，「EU研究修了証書（学部もしくは修士課程）」が授与されます。

学部生対象EU-DPとして開放されている授業は，「入門科目」と「４モジュール（M１：経済，M2:法と政治，M3: 歴史・文化・社会，M4: 科学技術・環境と衛生)」に分類されています。

なお，EU-DPsでは，単位互換協定により，西南学院大学及び福岡女子大学の対象科目を履修することができます。

EU-DPの対象となる科目，修了に必要な単位数，履修登録方法は，EUIJ九州の日本語版ホームページの「教育プログラム」のページを参照してください。(http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html)

〔問い合わせ先〕（箱崎地区）EUIJ九州，（伊都地区）学務部学務企画課

ネットアカデミー２（外国語学習の支援）

Net Academy２は 大学院言語文化研究院が情報統括本部の技術協力のもとに管理・運営する，コンピュータネットワークを利用した英語学習システムです。どのような教材か，実際に確かめて，大いに利用してください。詳細は以下のホームページを参照してください。

言語文化研究院ホームページ（http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/）→「学生の皆様」→「外国語学習」

利用は学外からも可能で，語彙（「道場」）はドコモとａｕの携帯からも可能です。学内では各キャンパスの情報教室でも利用でき，無線ＬＡＮ経由の利用も可能です。

また，言語文化研究院では情報相談室(伊都地区センター１号館４階)で英語自習用CD-ROM教材貸与を行っています。

交換留学

九州大学が海外の大学と締結した学生交流の覚書に基づき，１年以内の期間で締結先大学に留学する制度。留学中は在学の扱いとなり，九州大学に授業料を納めていることにより，留学生大学では授業料を徴収されません。留学先大学で取得した単位は，帰国後，所属学部に申請して認められれば九大での単位として取り扱うことができます。また，給付型の奨学金や渡航費補助等もあります。

交換留学制度の詳細，交換留学できる大学などは，国際部発行の『留学のすすめ』や国際部ホームページを参照してください。

〔問い合わせ先〕（箱崎地区）国際部留学生課

日韓海峡圏カレッジ

日韓海峡圏カレッジとは，日韓及び東アジアに対する理解を深めて次世代リーダーとなる人材を育成するための文部科学省採択プログラムであり，①コミュニケーション能力や多文化理解力を向上させる「英語・韓国語マスタークラス」と②長期休暇を利用して釜山大学校とキャンパスを共有し，両校学生が共に学ぶ「キャンパス福岡，キャンパス釜山」で構成されます。「キャンパス福岡，キャンパス釜山」では，特別講義のほか，インターンシップ体験やディスカッション，文化体験などを行います。

詳細は韓国研究センター日韓海峡圏カレッジのホームページ（http://rcks.isc.kyushu-u.ac.jp/kaikyo/）を参照してください。

〔問い合わせ先〕（箱崎地区）韓国研究センター 日韓海峡圏カレッジオフィス

Ⅲ．履修についてのＱ＆Ａ

全学教育教務係の窓口に多くある質問ですので，参考にしてください。（平成２４年１月現在の情報）

全学教育科目の履修・試験・成績に関する情報は，公用掲示板の掲示などによりお知らせしています。掲示を見ても不明な場合や履修方法，再履修などの問い合わせは，遠慮無く，伊都地区の全学教育教務係の窓口でご相談ください。

Ｑ１　全学教育の時間割はいつ，どこでもらえますか？

Ａ１　伊都地区開講の全学教育科目の時間割は，１年生へは入学手続書類とあわせて送付しています。２年生へは前期開始前に全学教育教務係で配付します。その配付時期は掲示でお知らせします。

なお，後期開始前には配付していません。この時間割は前期分と後期分が印刷されていて，１年間使用します。再交付できませんので紛失しないようにしてください。

Ｑ２　集中講義の実施時期や履修登録について知りたいのですが，どのようにすればいいですか？

Ａ２　全学教育科目の集中講義の実施日程・履修登録方法等は公用掲示板の掲示でお知らせします。科目によっては学期開始時に実施日が未決定であったり，学期開始後に新たに科目の開講が決まったりする場合がありますので，実施内容が決定次第お知らせします。掲示の記載に従い，履修申請を行ってください。

Ｑ３　総合選択履修方式とは何ですか？

Ａ３　総合選択履修方式の制度については，平成２４年度入学者においては『平成２４年度全学教育科目履修要項』２０ページを参照してください。また，この方式の対象となる全学教育科目については『全学教育科目履修要項』の「各学部・学科の履修細目」を参照してください。

Ｑ４　理系学部の学生ですが，総合選択履修方式として理系コア科目の「数学Ⅰ」，「物理学Ⅰ」，「化学Ⅰ」，「地球科学Ⅰ」を履修することはできますか？

Ａ４　履修することはできません。総合選択履修方式として理系コア科目を履修する場合においても,『全学教育科目履修要項』の「各学部・学科の履修細目」に掲載の所属学部・学科が指定する理系コア科目から履修してください。

Ｑ５　総合科目と少人数セミナーを合わせて６単位修得していて，そのうち２単位を文系・理系コア科目で不足する２単位に充てて，残りの４単位を総合選択履修方式の単位にしたいのですが，何か手続きは必要ですか？

Ａ５　特に手続きは必要ありません。

Ｑ６　第２外国語が４単位必要ですが，ドイツ語２単位とフランス語２単位で合計４単位とするような，履修はできますか？

Ａ６　複数の言語をあわせて必要単位数を満たすような履修はできません。

Ｑ７　既に単位を取った科目でも担当教員や内容が異なれば，履修できますか？

Ａ７　単位修得済みの科目は再度履修することはできません。たとえば「少人数セミナー」が単位修得済みの場合は，副題が異なっていても再度，履修することはできません。

なお，初修外国語には同名称の科目を２つ以上履修する科目（例えば「ドイツ語Ⅰ」のように週２回あり，それぞれ１科目とする科目）がありますので，その履修方法については『全学教育科目履修の手引き』の「言語文化科目基礎科目」の各言語のページを参照してください。

また，「身体運動科学実習Ⅰ」は１年次に単位を修得済みであっても２年次以降に履修することができます。

Ｑ８　Webで履修登録した科目で受講制限により受講許可されなかった科目がありますが，自動的に履修削除されるのですか？

Ａ８　履修最終確認期間（第６週目）までに必ず各自で履修取消をしてください。そのままにしておくと「Ｆ（不合格）」の評価になり，ＧＰＡの値に反映されます。

Ｑ９　パソコンで履修登録をしましたが，先生から履修登録ができていないので確認するように言われましたが，どうしたらいいですか？

Ａ９　学生用Ｗｅｂシステム（もしくは学生用ポータルシステム）で履修登録内容を確認してください。学生用Ｗｅｂシステムで登録したつもりでも，申請ボタンを押してないために登録できてなかったり，担当教員や曜日・時限を間違って登録していたりすることがあります。間違って登録した場合は，履修最終確認期間（第６週目）までに修正してください。

Ｑ１０　最終確認期間が終わった後に履修登録を忘れた，または登録を間違っていたことに気がついたのですが，全学教育教務係で登録や変更はできますか？

Ａ１０　最終確認期間終了後に履修登録の追加・変更をすることはできません。履修登録ができていない科目は単位が認められなくなりますので，期間内に必ず確認し，間違いがないようにしてください。

Ｑ１１　学期末に成績確認をした時に履修登録期間に削除したはずの科目が登録されたままとなっていることに気がついたのですが，その科目の履修登録を削除はできますか？

Ａ１１　履修中止申請期間（第７週目）以降は，その科目の履修者として確定していますので，履修登録を削除することはできません。また，受講実態がないため，評価は「Ｆ（不合格）」となり，ＧＰＡの値に反映されます。履修確認・修正期間（第４週目）及び履修最終確認期間（第６週目）に履修するつもりがない科目まで登録していないかを確認するようにしてください。

Ｑ１２　部活の試合出場のため全学教育の授業・試験を欠席しなければなりませんが，公欠になりますか？

Ａ１２　課外活動を理由として公欠や定期試験の追試験の申請は認められません。

Ｑ１３　病気（けが）で全学教育の授業を欠席しなければならなくなりましたが，どうすればよいですか？

Ａ１３　インフルエンザ等の感染症による欠席は公欠の対象になります。公欠の申請については『全学教育科目履修要項』の「公認欠席の取扱いについて」を参照してください。

感染症以外の病気やけがでの欠席は公欠の対象にはなりません。

入院等により長期にわたり欠席をしなければならない場合は全学教育教務係へ連絡してください。

Ｑ１４　授業を担当されている先生の連絡先を教えてください。

Ａ１４　シラバスの「学習相談」欄や九州大学ホームページの「研究者情報」ページを参照してください。学外講師への質問・相談等はシラバスの「学習相談」欄に示されていない場合は授業の際に尋ねるようにしてください。

Ｑ１５　共通コア科目の成績が「Ｒ」または「Ｆ」でしたが，どういう意味ですか？

Ａ１５　共通コア科目の成績について「Ｒ」は合格，「Ｆ」は不合格です。共通コア科目の成績が「Ｆ」の場合は，掲示で示された期間に共通コア科目の成績表を受領し，次学期の再履修方法を必ず確認してください。

Ｑ１６　全学教育科目の再履修方法がよくわかりません。どうしたらよいですか？

Ａ１６　学期開始前に公用掲示板に掲示される再履修の注意事項を確認してください。再履修の方法で不明な点があれば事前に伊都地区の全学教育教務係の窓口で相談してください。なお，再履修する場合は以下の手順で行ってください。

(1) 学生用Ｗｅｂシステムの「成績確認」と，『全学教育科目履修要項』の「各学部・学科の履修細目」を参照して，修得すべき科目と不足する単位数を正しく把握してください。

(2) 修得すべき科目の開講曜日・時限を時間割で確認してください。

(3) 授業担当教員に授業の初回に聴講届を提出して再履修である旨を伝え，受講許可を得られた場合は，履修登録期間（第２週目）に学生用Ｗｅｂシステムで履修登録してください。

※１ 共通コア科目，初修外国語の再履修方法については，再履修についての注意事項が別途ありますので，公用掲示板の掲示及び『全学教育科目履修の手引き』の各科目のページを確認してください。

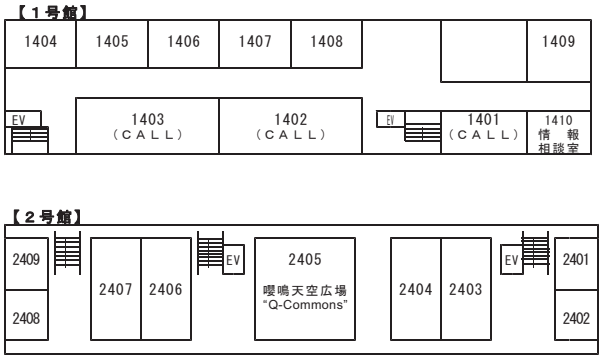
※２ 「英語Ⅰ，ⅡＡ，ⅡＢ，ⅢＡ，ⅢＢ，Ⅳ」の再履修は「英語Ｘ」を履修してください。「英語Ｘ」を受講するためには学期開始前の指定された日時・場所で申込みをしなければなりません。受講申込の詳細は掲示でお知らせします。

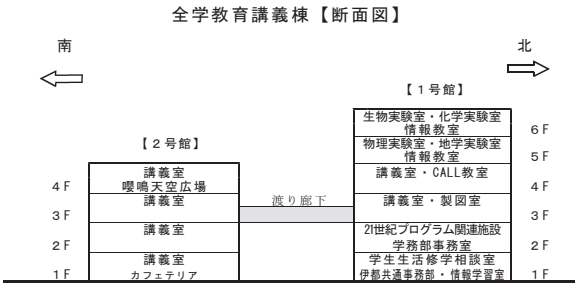
Ｑ１７　「微分積分学・同演習Ａ」を再履修したいのですが後期に開講されていないので，かわりに「微分積分学」を履修すれば単位を取ることはできますか？

Ａ１７　「微分積分学・同演習Ａ」に限らず，再履修は同じ名称の科目を履修してください（ただし，言語文化基礎科目の一部を除く。）。したがって，「微分積分学・同演習Ａ」の再履修のかわりとして，「微分積分学」を履修することはできません。再履修する科目が開講されている学期を『全学教育科目履修要項』の「全学教育科目の開講学期」のページや時間割で確認して履修計画を立ててください。

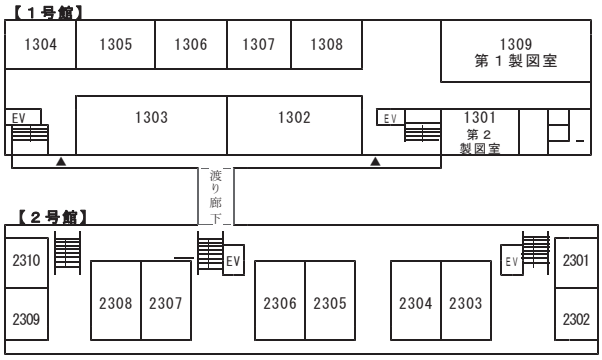
伊都地区センターゾーン（全学教育関連）教室等配置図

【４階】

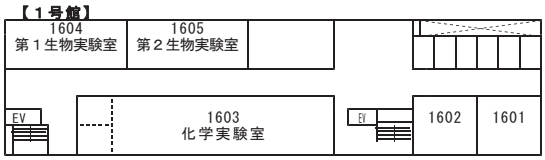




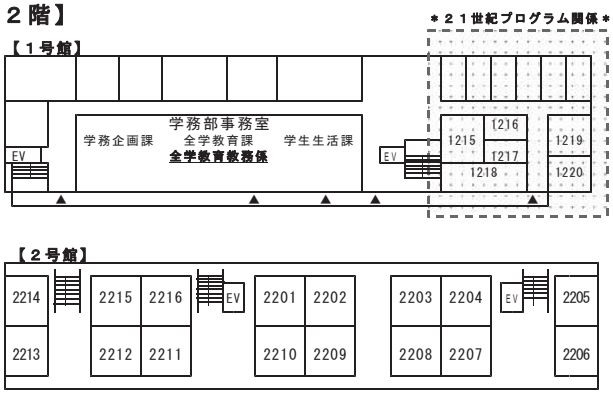
【３階】



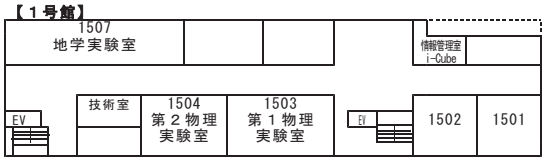
【６階】



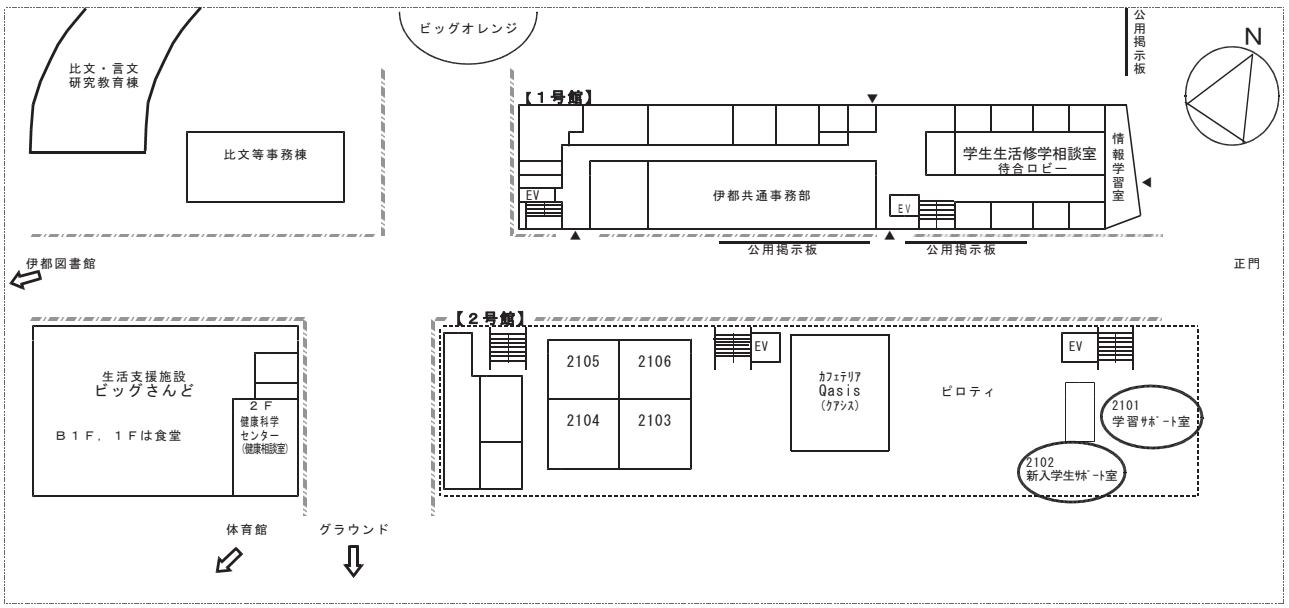
【２階】



【５階】



【１階】



全学教育関連の重要な情報は
伊都地区センターゾーンの「公用掲示板」に掲示されます。
必ず毎日確認するようにしてください。

《 全学教育関連のＷｅｂページ 》

◆ 全学教育ホームページ
http://rche.kyushu-u.ac.jp/

◆ 電子掲示板〔休講・補講など〕
携帯電話　http://zkinfo.gened.kyushu-u.ac.jp/m/
パソコン　http://zkinfo.gened.kyushu-u.ac.jp/

◆ シラバス
http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/

◆ 学務情報システム（学生用Ｗｅｂシステム）〔履修登録・成績確認〕
http://www.kyushu-u.ac.jp/student/education/rishu.php

学　部	学　科	クラス	学生番号	氏　　名

平成２４年度 全学教育科目 履修の手引き
作成：九州大学学務部全学教育課